

令和4年度
大和市男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和5年3月
大和市

目次

I. 調査の概要.....	1
II. 調査結果の概要.....	5
III. 回答者の属性(フェイスシートから).....	13
IV. 調査結果.....	23
1. 男女平等に関する意識について.....	24
(1)各分野の平等感について(問1).....	24
(2)「男は仕事、女は家庭」という考えについて(問2).....	39
(3)子どもの育て方について(問3).....	41
(4)男女が平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて(問4).....	43
2. 家庭生活について.....	44
(1)家事・育児・介護の役割について(問5).....	44
(2)子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なこと(問6).....	50
3. 就労意識について.....	52
(1)育児や介護の休暇・休業制度の認知と利用状況(問7-1).....	52
(2)育児や介護の休暇・休業制度を利用しなかった理由(問7-2).....	60
(3)現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由(就労経験あり)(問8-1).....	62
(4)現在、仕事をしていない人の希望する就労形態(就労経験あり)(問8-2).....	64
(5)現在、働いていない人の就労の動機(就労経験なし)(問9).....	66
(6)女性が社会で働くことについての考え方(問10).....	67
(7)男性が社会で働くことについての考え方(問11).....	69
(8)職場において男女で平等でないこと(問12).....	71
(9)女性が働き続けるために必要な取り組み・支援(問13).....	73
4. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について.....	74
(1)仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現(問14-1).....	74
(2)ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なこと(問14-2).....	76
(3)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のバランス(問15-1、2).....	79
(4)一日のうち、家事・育児・介護にかかる時間(問16).....	83
(5)男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なことについて(問17).....	92
(6)新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生活や行動の変化(問18).....	95

(7)感染症拡大によるテレワークのワーク・ライフ・バランスについての意義(問19)	97
5. 学校教育について	98
(1)学校教育の場で男女平等意識の推進を図るために重要なこと(問 20)	98
6. 社会参画について	99
(1)女性がもっと就いた方がよいと思う役職や公職(問 21)	99
(2)女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと(問22)	101
7. 男女の人権について	103
(1)女性の人権が侵害されていると思う度合い(問 23)	103
(2)配偶者やパートナーなどとの精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の経験(問24-1)	106
(3)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談(問24-2)	110
(4)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の相談先(問24-3)	111
(5)配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること(問25)	113
8. 性の多様性(LGBT 等)について	115
(1)自身や身近な方で、自分の身体・心の性または性的指向の悩みの有無(問26)	115
(2)性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題(問27)	116
(3)性的マイノリティの方が生活しやすい社会にするための取組(問28)	118
9. 防災について	120
(1)防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために必要なことについて(問 29)	120
(2)災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて(問 30)	122
10. 男女共同参画施策について	123
(1)男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度について(問 31)	123
(2)男女共同参画社会の実現のためにできることについて(問 32)	128
◆男女共同参画についての意見・要望	129
V. 巻末資料1調査票	131
VI. 巻末資料2自由意見等	145

I. 調査の概要

(1)調査の目的

本調査は、社会環境の変化や課題を踏まえた上で、市民の男女共同参画についての意識や実態等を把握し、(仮称)第4次やまと男女共同参画プランの策定に伴う基礎資料を得ることを目的とする。

(2)調査の内容

- ①男女平等に関する意識について
- ②家庭生活について
- ③就労意識について
- ④仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について
- ⑤学校教育について
- ⑥社会参画について
- ⑦男女の人権について
- ⑧性の多様性(LGBT等)について
- ⑨防災について
- ⑩男女共同参画施策について

(3)調査の方法

- ①調査地域:大和市
- ②調査対象:大和市に居住する満16歳以上の男女
- ③標本数:3,000人
- ④抽出方法:住民基本台帳による無作為抽出
- ⑤調査方法:郵送配布、郵送回収(礼状兼督促状1回送付)
- ⑥調査期間:令和4年11月4日(金)～11月25日(金)

(4)回収結果

- ①配布数:3,000票(男性1,500票、女性1,500票)
- ②回収数:934票
- ③無効票:0票
- ④有効回収数:934票(男性382票、女性522票、性別未回答など30票)
- ⑤有効回収率:31.1%

(5)報告書の見方

- ① 回答は各質問の有効回答者数(n)を基礎とした百分率で表示してある。
- ② グラフ内の()の数値は有効回答者数を示す。
- ③ 百分率は小数第二位を四捨五入してあるため、比率の合計が100%にならない場合がある。
- ④ 複数回答の場合には、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- ⑤ 複数回答のグラフは、「全体」の割合の高い順に選択肢を並べ替えている。(ただし、「その他」と「不明・未記入」は最後尾に記載)
- ⑥ 全体には属性無回答を含むため、男女別等の属性別計の数と一致しない場合がある。
- ⑦ クロス集計分析において、サンプル数が30件未満のものについては、コメントの対象としない。
- ⑧ 本文や図表中の選択肢表記では、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑨ 本文中、「」は選択肢、“ ”は複数の選択肢の統合、『 』は設問の中で複数の項目で問われている場合のサブ質問項目を表す。

- ⑩ 統計の数値を考察するにあたり、次の表現を用いている。

(数値例)	(表現)
80.1～80.9%	⇒ 約8割
81.0～82.4%	⇒ 8割強
82.5～87.4%	⇒ 8割台半ば
87.5～88.9%	⇒ 9割近く
89.0～89.9%	⇒ 9割弱

- ⑪ クロス集計表中のセルの網掛けは選択肢の中で、第1位の項目、太字は全体の数値と比べて10ポイント以上高い数値の項目を特記している。
- ⑫ 調査票の意見欄(その他の主な意見等)は、主な意見を要約して表記している。
- ⑬ 「調査結果」の前回調査とは、平成29年11月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」(有効回答数:1,160票、うち男性481票、女性653票、性別未回答26票)の結果を指す。
- ⑭ 「調査結果」の全国調査とは、内閣府が令和元年9月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」(有効回答数:2,645票、うち男性1,238票、女性1,407票)の結果を指す。
(母集団:全国18歳以上の日本国籍を有する者、調査方法:調査員による個別面接聴取法)
- ⑮ 「調査結果」内の「SA」「MA」「NA」「FA」は以下を指す。

SA:単一回答(ひとつに○)

NA:数値回答

MA:複数回答(いくつでも○)

FA:自由回答

(6)標本誤差

本調査は、調査対象となる母集団(大和市に居住する満16歳以上の男女人口¹⁾)から一部の標本(サンプル)を抽出し、標本の比率等から母集団の比率等を推測する「標本調査」である。

このため、調査によって得られた値は、母集団に対して標本誤差を生じる場合がある。

無作為抽出によって得られた標本の標本誤差は次式(a)で得られ、誤差は回答者数(n)と回答比率によって異なる。

(信頼度を95%とした場合)

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}} \quad \dots(a)$$

※N:母集団数、n:回答者数、p:回答の比率(%)

本調査において信頼度を95%とした場合の標本誤差は下表のとおり。

例えば、ある設問の回答者数が934人で、その設問中のAという選択肢を選択した人の割合が30%である場合、標本誤差早見表における基数934の回答比率30%の誤差は「±2.93」であるため、母集団におけるAを選択する割合は、95%の確からしさで「30±2.93」つまり「27.07%～32.93%」の間にあると推測できる。

<標本誤差早見表>

	回答比率(P)				
基数(n) (回答者数)	90%または 10%	80%または 20%	70%または 30%	60%または 20%	50%
934	±1.92	±2.56	±2.93	±3.13	±3.20
600	±2.40	±3.20	±3.66	±3.91	±4.00
500	±2.63	±3.50	±4.01	±4.29	±4.38
400	±2.94	±3.92	±4.49	±4.80	±4.90
300	±3.39	±4.54	±5.18	±5.54	±5.65
200	±4.16	±5.54	±6.35	±6.79	±6.93
100	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.84
50	±8.31	±11.09	±12.70	±13.58	±13.86

※母集団数:212,461人、信頼度95%の場合

¹⁾2022年11月1日現在212,461人(大和市の年齢別人口(住民基本台帳人口)より満16歳以上の人口)

II. 調査結果の概要

1. 男女平等に関する意識について

(1) 各分野の平等感について(問1)

- 「全体として考えると」では平等と感じる割合は2割強で、内閣府の全国調査の水準とも同程度。前回調査からは、全国が今回(2019年度)21.2%、前回(2016年度)21.1%、本市が今回(2022年度)21.2%、前回(2017年度)21.9%と、全国は0.1ポイント上回り、本市では0.7ポイント下回っている。
- 分野別には『教育の場』で平等と感じている割合が高く、5割半ばを占める。
- その他の分野では“男性の優遇”(「男性の方が優遇～」+「どちらかといえば男性が～」以下同様)を感じている割合の方が高い結果となり、平等を感じている割合は1割台半ば～3割台半ば。
- なお「しきたりや習慣」では、“男性の優遇”を感じている割合が7割強と他項目よりも高い傾向。
- 分野別の値は前回調査と同様の傾向、各数値も前回とほぼ同様の傾向がみられる。

[家庭生活]	“男性の優遇”、「平等である」を感じているがともに3割台半ば。前回とほぼ同様の傾向。
[職場]	“男性の優遇”が約5割、「平等である」は2割台半ば。前回と比べ「平等である」が増加。
[教育の場]	“男性の優遇”が2割近く、「平等である」は5割台半ば。前回と比べ“男性の優遇”が増加。
[社会参加の場]	“男性の優遇”が4割台半ば、「平等である」は3割強。前回とほぼ同様の傾向。
[法律・制度上]	“男性の優遇”が4割台半ば、「平等である」は3割台半ば。前回と比べ“男性の優遇”が増加。性別では、男性で「平等である」と感じる割合が4割台半ばと高く、女性で“男性の優遇”を感じる割合が5割台半ばと差異がみられる。
[しきたりや習慣など]	“男性の優遇”が7割強、「平等である」は1割台半ば。前回とほぼ同様の傾向。
[全体として考えると]	“男性の優遇”が6割台半ば、「平等である」は約2割。前回と比べ“男性の優遇”がやや増加。

(2) 「男は仕事、女は家庭」という考えについて(問2)

- 「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」とする意見が8割強で、前回から10ポイント以上増加。

(3) 子どもの育て方について(問3)

- 「「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい」とする意見が5割台半ば。

(4) 男女が平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて(問4)

- いずれの項目も4割強～5割台半ば。「家族間の固定観念の意識改革が必要」の割合は、女性の方が高い。

2. 家庭生活について

(1) 家事・育児・介護の役割について(問5)

- 『家事』は「男女が協力し合っている」とする意見が最も多く8割強で、「女性が主に担う」は1割台半ば。
- 『育児』は「男女が協力し合っている」意見が最も多く8割台半ばで、「女性が主に担う」は1割弱。
- 『介護』は「男女が協力し合っている」意見が最も多く6割近くで、「有料のサービスを利用する」が3割弱。

(2) 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なこと(問6)

- 「長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要」の割合が最も多く、次いで「子育て世帯に対する経済的支援が必要」、「育児に対する社会の理解と協力が必要」、「長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要」が続く、いずれも5割以上。

3. 就労意識について

(1) 育児や介護の休暇・休業制度の認知と利用状況(問7-1)

- 『育児休業』では「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が4割台半ば。「制度を知っている(利用した)」割合は1割未満。
- 『子の看護休暇』では、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が男性で4割強、女性で3割台半ば。
- 介護休業では、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多く約4割、「制度を知らない」が3割弱。
- 『介護休暇』では、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が4割近くを占め、男性では4割台半ば、女性では3割台半ば。

(2)育児や介護の休暇・休業制度を利用しなかった理由(問7-2)

- 「制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから」が最も多く過半数を占める。

(3)現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由(就労経験あり)(問8-1)

- 「定年で」が最も多く3割台半ば。
- 性別では差異がみられ、男性では「定年で」を理由とする人が最も多く7割台半ばを占めるが、女性では「子育てに専念したかった」、「仕事と家庭の両立が難しかった」、「結婚・出産などで退職するのが慣習だった」、「定年で」などで2割近くから2割弱と理由が多様。

(4)現在、仕事をしていない人の希望する就労形態(就労経験あり)(問8-2)

- 「働くつもりはない」の割合が最も多く4割強。次いで「パートタイム・アルバイト」が約3割。「働くつもりはない」は、男性の方が女性より高い。

(5)現在、働いていない人の就労の動機(就労経験なし)(問9)

- 「経済的に必要になったら」で4割台半ば。次いで「働きたい仕事に出会えたら」が4割。

(6)女性が社会で働くことについての考え方(問10)

- 「結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい」が最も多く4割強。

(7)男性が社会で働くことについての考え方(問11)

- 「結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい」が最も多く約8割。

【社会で働くことについて】

社会で働くことについて、男性に対する考えと女性に対する考えの違いをみると、男性に対しては「結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい」とする意見が8割以上を占めるのに比べ、女性に対しては4割強に留まる。なお女性に対しては「子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい」とする意見も多く3割近くを占める。

女性に対する考え方では、「結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい」割合と「子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい」が前回と順位が入れ替わっており、「育児は女性が仕事をやめて行うもの」という社会通念が変化を見せている結果となっている。

(8)職場において男女で平等でないこと(問12)

- 「昇進・昇任の速さ」、「結婚や出産時後の職場の対応」、「賃金の金額」、「育児休業・介護休業の取得しやすさ」、「責任ある仕事の分担」が3割台半ば～4割弱で並ぶ。

(9)女性が働き続けるために必要な取り組み・支援(問13)

- 「職場の上司・同僚が、仕事と子育て・家事等の両立に理解があることが必要」、「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気を形成することが必要」が7割以上で多く、次いで「フレックスタイムや在宅勤務など、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができることが必要」、「保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充が必要」、「家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要」が5割以上と多い。

4. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

(1)仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現(問14-1)

- ワーク・ライフ・バランスが“実現できている”とする割合は4割を超える。男女ともに、“実現できている”が“実現できていない”を上回る。働く年代の20～50代では“実現できている”男性の割合は5割を超える。
- 「「仕事」を優先している」人はワーク・ライフ・バランスを“実現できていない”、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している」人は“実現できている”割合が高い。
※“実現できている”(「実現できている」+「おおそ実現できている」)、“実現できていない”(「あまり実現できていない」+「実現できていない」)、以下同様

(2)ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なこと(問14-2)

- 「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」が最も多く、次いで「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」、「労働時間の短縮や各種休暇制度の普及、充実」、「産休・育児休業を取得した人の職場復帰のための環境の整備」、「働くことに対する家族や周囲の理解と協力」、「保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充」、「育児や介護のために退職した人を再雇用する」、「家族間で家事・育児・介護の分担をすることに対する社会の評価を高める」が3割台半ば～4割台半ばと並ぶ。
- 男性では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の割合が最も高いのに対して、女性では「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」の割合が最も多くいずれも5割台半ば。
- ワーク・ライフ・バランスを“実現できていない”人は「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の割合が最も多く、“実現できている”人は「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」を重要だと思っている割合が高い。

(3)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のバランス(問15-1、2)

- 『理想のバランス』については、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と「「家庭生活」を優先したい」が2割台半ばで高い。性別では、男性は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も多く3割弱であるが、女性は「「家庭生活」を優先したい」と「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」がともに2割台半ば。
- 『現在のバランス』では、「「家庭生活」を優先している」とする割合が最も多く3割弱。次いで「「仕事」を優先している」が2割強、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が2割弱。性別では、男性は「「仕事」を優先している」が3割弱、女性は「「家庭生活」を優先している」が4割近くでそれぞれ最も多い。

【理想と現実のギャップについて】

男性は理想では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」割合が高いが、現実には「「仕事」を優先している」割合が高く、理想と現実乖離がみられる。また女性は、理想として「「家庭生活」を優先したい」と「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」割合が同様に高いが、現状では「「家庭生活」を優先している」割合が高くなっている。男性では「仕事優先」が理想3.7%に対し現状29.8%で、仕事の優先を余儀なくされ、女性では「家庭生活優先」が理想27.4%に対し現状38.9%となり、家庭生活の優先を余儀なくされている状況にあると考えられる。

現状のバランスと理想のバランスの関係をみると、それぞれの現状は概ね5割以上が理想に一致している傾向がみられるが、「「仕事」を優先している」人は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」、「「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している」人は「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのすべてを優先したい」割合が高くなっている。

(4)一日のうち、家事・育児・介護にかかる時間(問16)

- 平日の家事の平均時間は3.52時間、育児1.61時間、介護0.33時間。性別で差異が大きく、平均時間は女性が男性を上回る。前回調査との比較では男性は平均時間が短くなっているのに対し、女性は平均時間が長くなっている。

(5)男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なことについて(問17)

- 「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーション」の割合が最も多く6割近く。次いで「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が5割強、「男性が家事などを行うことにに対する男性自身の抵抗感をなくす」が4割台半ばと続く。
- ワーク・ライフ・バランスが“実現できていない”人は「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」の割合が最も高い。

(6)新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生活や行動の変化(問18)

- 「家庭生活が少し変わった」が3割台半ば、次いで「変わらない」が3割弱。女性では“家庭生活が変わった”とする割合が高く、男性では“働き方が変わった”とする割合が高い。“就労者”では“働き方が変わった”とする割合が高く、“非就労者”では“家庭生活が変わった”とする割合が高い。
 - ※“家庭生活が変わった”(「家庭生活が大きく変わった」+「家庭生活が少し変わった」)、“働き方が変わった”(「働き方が大きく変わった」+「働き方が少し変わった」)
 - ※“就労者”(経営者、管理職+従業員、事務職、専門職+パート・アルバイト)、“非就労者”(家事専業+学生+無職)

(7)感染症拡大によるテレワークのワーク・ライフ・バランスにとっての意義(問19)

- 「時差勤務等も含めて、実施できる職種であれば定着させた方が良い」が6割台半ば。性別では男女ともに「時差勤務等も含めて、実施できる職種であれば定着させた方が良い」の割合が高く、男性で約7割、女性で6割台半ば。

5. 学校教育について

(1)学校教育の場で男女平等意識の推進を図るために重要なこと(問20)

- 最も多い意見は「互いの性を尊重しあえる教育の充実が必要」で6割を超える。

6. 社会参画について

(1)女性がもっと就いた方がよいと思う役職や公職(問21)

『市議会議員』、『市の審議会等の委員』、『職場の管理職』をあげる割合は5割台半ばから6割強。『PTA会長』や『自治会長』は3割台半ばにとどまり、「わからない」と同程度。

(2)女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと(問22)

- 「女性の役職等就任への意識改革」がもっとも多く4割台半ば。性別にみると、男性では「女性の役職等就任への意識改革」が、女性では「家族の支援や協力」が多い。

7. 男女の人権について

(1)女性の人権が侵害されていると思う度合い(問23)

- 『痴漢行為などの性犯罪』がもっとも多く7割台半ば。性別では、『痴漢行為などの性犯罪』、『夫や恋人からの暴力』、『ストーカー行為』、『職場や学校、地域でのセクシャル・ハラスメント』に次いで、男性では『昇進や給与など職場における男女の待遇の違い』、女性では『買春・売春・援助交際』が多い。

(2)配偶者やパートナーなどとの精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の経験(問24-1A、問24-1B)

- 精神的・身体的暴力を「受けたことはない」が多いが、「受けたことがある」割合が比較的高いのは、『大声でどなる』で2割台半ば。男女の差異としては、『生活費を渡さない、借金を重ねるといった経済的暴力』、『性的な行為の強要』、『誰のおかげで生活できるのだ』などと言うで、女性の「受けたことがある」割合が男性より多い傾向
- 「したことがある」において比較的多いのは、『大声でどなる』と「何を言っても無視し続ける」。性別では、女性より男性で『大声でどなる』の加害経験の割合が高い

(3)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談(問24-2)

- 全体では「相談しなかった」が6割台半ばで、「相談した」が2割近く。性別では、女性の方が男性よりも「相談した」と「相談できなかった」の割合が高い。

(4)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の相談先(問24-3)

- 全体では、「友人・知人」が6割台半ば、「家族」が約5割など身近な人への相談が多く、身近な人への相談が多い。

(5)配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること(問25)

- 「被害者の相談窓口がある」が約7割で最も多く、次いで「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる」、「加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる」を知っている割合が5割以上と高い。性別では、概ね女性の方が知っている割合は高い傾向。前回調査との比較では、“知っている”割合は今回の方が高い傾向。

8. 性の多様性(LGBT等)について

(1)自身や身近な方で、自分の身体・心の性または性的指向の悩みの有無(問26)

- 「ない」が約9割。性別では、女性の方が「家族や知人が悩んでいる(悩んでいた)」の割合が男性より高い。

(2)性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題(問27)

- 「一般社会の偏見や差別的な言動」の割合が最も多く7割弱、次いで「家族や友人に相談できないことによる孤立感や、将来への不安」が6割近く、「性的マイノリティに関する理解や知識が足りないこと」が5割台半ば。

(3)性的マイノリティの方が生活しやすい社会にするための取組(問28)

- 「学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する」が5割台半ば。性別では、「性的マイノリティの人権を守るための啓発活動を推進する」のみ女性より男性の割合が高い。

9. 防災について

(1)防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために必要なことについて(問29)

- 「避難生活施設(指定避難所)の運営の責任者に男女がともに配置され、運営に男女両方の視点が入ることが必要」、「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ることが必要」、「防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要」、「防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要」が過半数を超え多い。性別にみると、上位の項目のうち「防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要」、「防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要」で男性の割合が高い。

(2)災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて(問30)

- 「日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくることが必要」とする意見が多く8割近く。次いで「高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つことが必要」と「子どもを地域で育てるという意識を持つことが必要」と続く。性別にみても、上位3項目の順位は全体と同じ。

10. 男女共同参画施策について

(1)男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度について(問31)

- 認識度が高いのは『ジェンダー』、『LGBT等(性的マイノリティ)』、『男女雇用機会均等法』と『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)』、低いのは『SOGI』、『アウティング』、『アン

コンシャス・バイアス』、『クオータ制』、『リプロダクティブ・ヘルス/ライツ』、『イクボス宣言』、『男女共同参画情報誌『わくわく』、『第3次やまと男女共同参画プラン』。この傾向は男女とも同様。前回と比べると、『ジェンダー』、『LGBT等(性的マイノリティ)』の認識度がそれぞれ32.7ポイント、28.7ポイント上昇。

※認識度(「内容まで知っている」+「名前を聞いたことがある」)

(2)男女共同参画社会の実現のためにできることについて(問32)

- 「性別に関わらず、一人ひとりの生き方を尊重する」が最も多く8割弱、次いで「柔軟な多様な働き方に対しての理解を深める」が6割近く。性別では、上位5項目の順番は全体と同じ。

III. 回答者の属性(フェイスシートから)

(1)性別

F1. あなたの性別は次のどちらですか。身体上・戸籍上の性別に関わらず、ご自身が自認される性別でお答えください。

◎女性が55.9%

<全体・年代別>

回答者934人のうち、男性が40.9%、女性が55.9%で、女性が15.0ポイント上回る。前回も女性の方が男性よりも多く、ほぼ同様の傾向となっている。また、前回調査、前々回調査と比較すると、その他・無回答に微増傾向がみられる

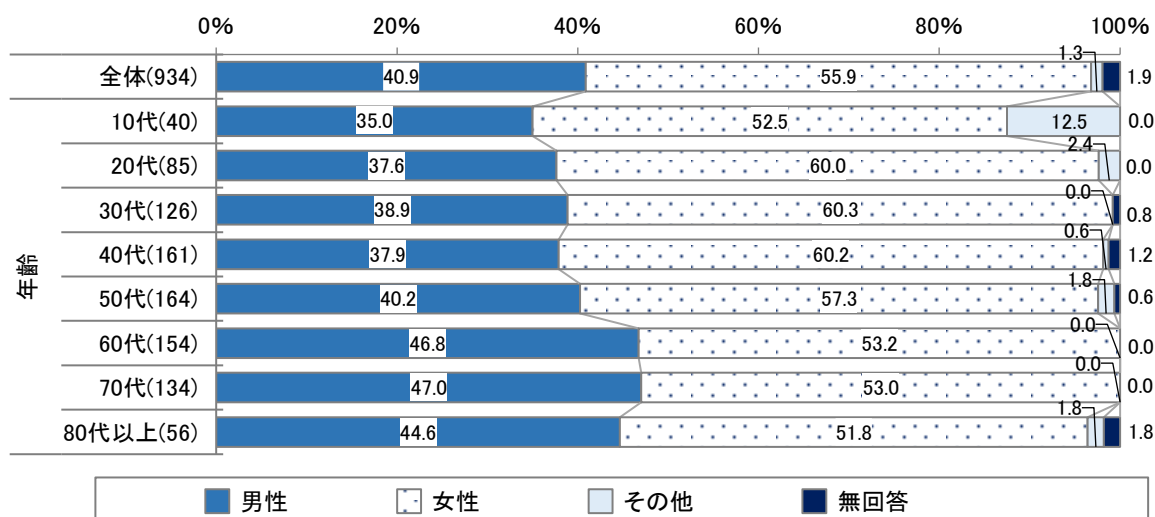
年代別でみると、50代以上は4割以上が男性から回答があり、20代～40代は6割以上が女性から回答があり、10代は1割以上（5名）が「その他」とする回答があった。

■図表 性別

	今回（令和4年度）		前回（平成29年度）		前々回（平成25年度）	
性別	回答者	構成比	回答者	構成比	回答者	構成比
男性	382	40.9%	481	41.5%	434	41.4%
女性	522	55.9%	653	56.3%	605	57.7%
その他・無回答	30	3.2%	26	2.2%	9	0.9%
計	934	100.0%	1160	100.0%	1048	100.0%

※ 今回調査において、「その他・無回答」30名の内訳は、「その他」12名、「無回答」18名

「その他」12名の年代別内訳は、「10代」5名、「20代」2名、「40代」1名、「50代」3名、「80代以上」1名



(2)年代

F2. あなたの年齢について当てはまるもの1つ選んでください。(令和4年11月1日時点)

回答者は50代、40代、60代の順に多い

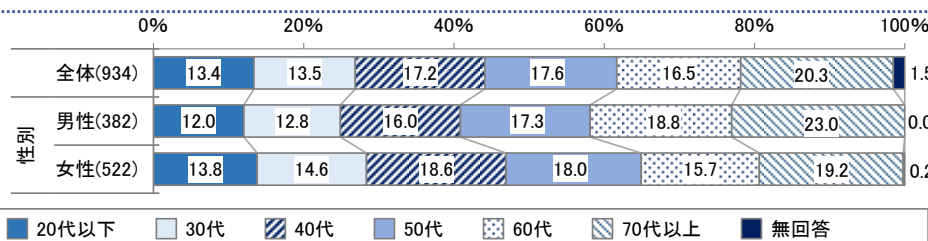
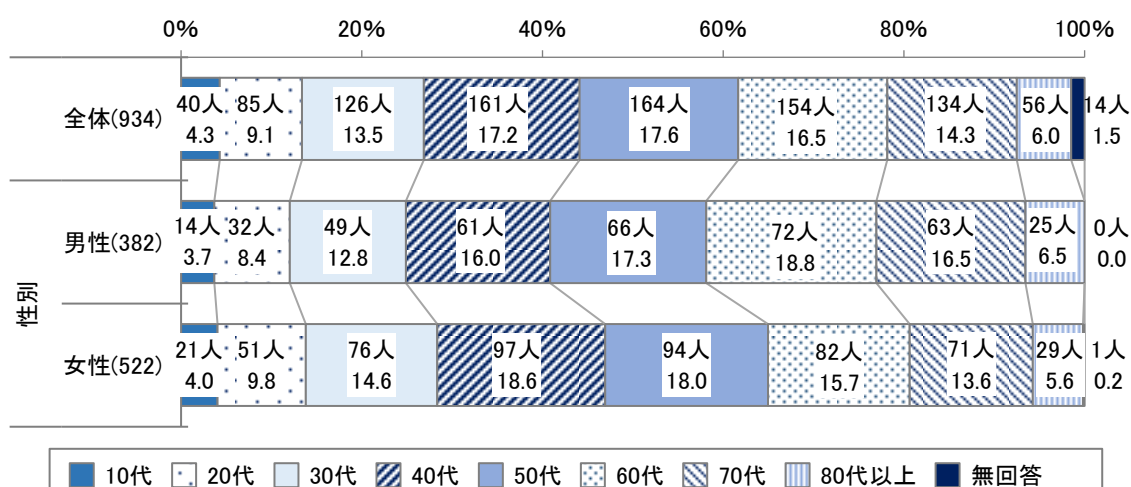
<全体・男女別>

全体では、50代が最も多く17.6%、次いで40代が17.2%、60代が16.5%となっている。

性別にみると、男性は60代、50代、40代、女性は40代、50代、60代の順に多い。

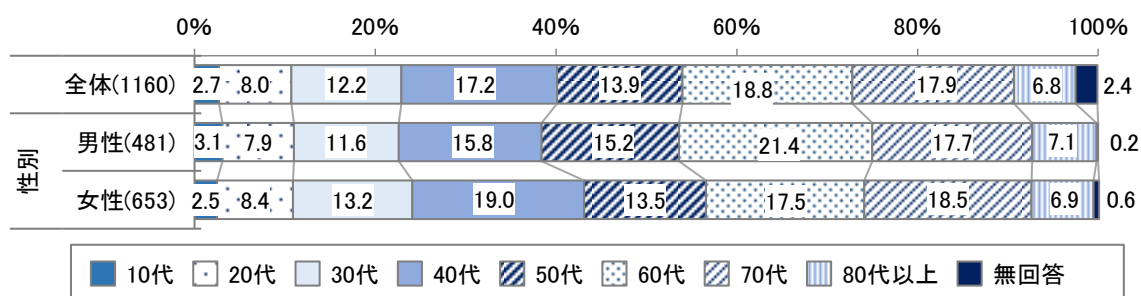
前回調査、前々回調査と比較すると、女性の10代と20代、男性の20代、50代で微増傾向、女性の60代と男性の70代で微減傾向がみられるがほぼ同様の構成と捉えられる。

■図表 年代



※ 男女ともに10代、80代以下は回答者数が少ないため(nが30以下)、以降、属性クロスを行う際は「20代以下」、「70代以上」で統合して分析する。

■図表 年代 <参考> 前回(平成29年度)



(3)職業

F3. あなたの職業について当てはまるものを1つ選んでください。

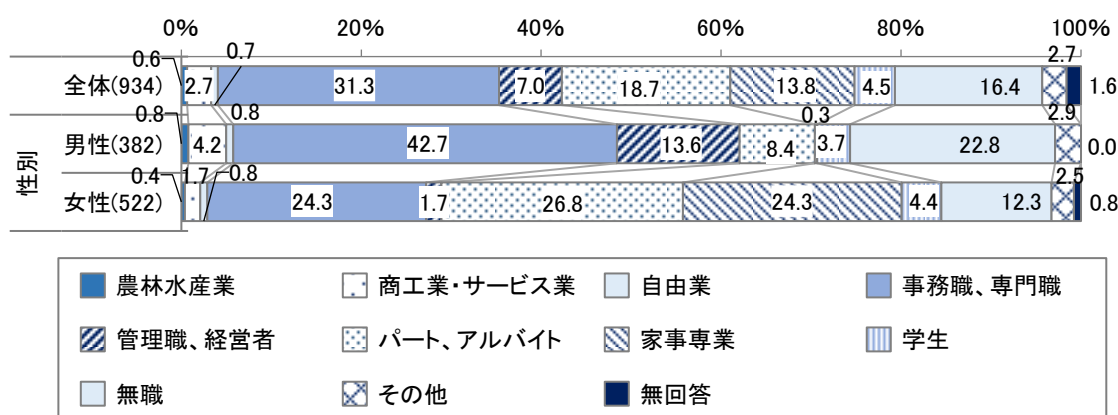
◎就業している人が61.0%

<全体・男女別>

全体では、「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」が最も多く31.3%。次いで「パート、アルバイト、派遣社員」が18.7%、「無職」が16.4%、「家事専業」が13.8%と続く。

性別にみると、男性では「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」の割合が高く（42.7%）、女性では「パート、アルバイト、派遣社員」の割合が高い（26.8%）。

■図表 職業

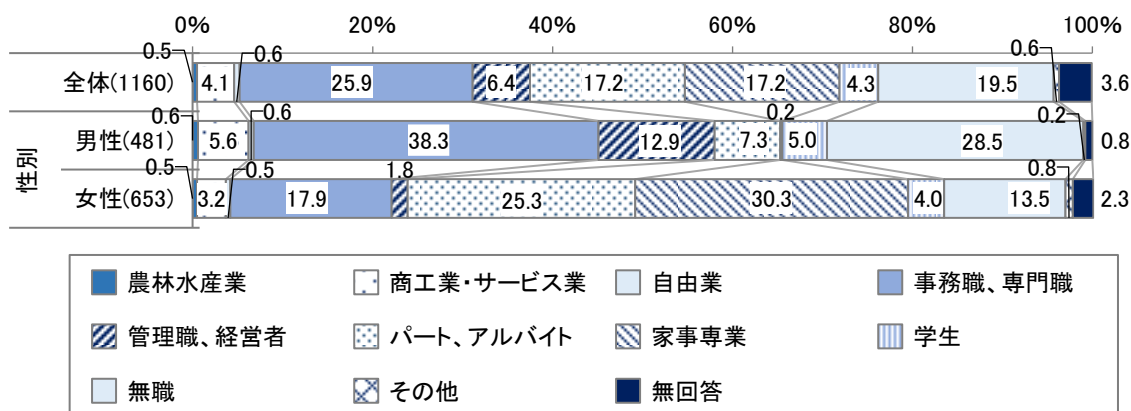


※農林水産業(農林水産業の自営主、家族従業者)、商工業・サービス業(商工業・サービス業の自営主、家族従業者)、事務職、専門職(会社員、公務員、団体職員(従業員、事務職、専門職))、管理職、経営者(会社員、公務員、団体職員(管理職、経営者)) 以下同様

【主なその他回答】

・B型就労支援／個人事業主／不動産貸付など

■図表 <参考>職業 前回(平成29年度)



(4)結婚の状況

F4-1. あなたの現在の状況について当てはまるものを1つ選んでください。

◎回答者の76.2%が既婚(配偶者・パートナーがいる、離別・死別)

<全体・男女別>

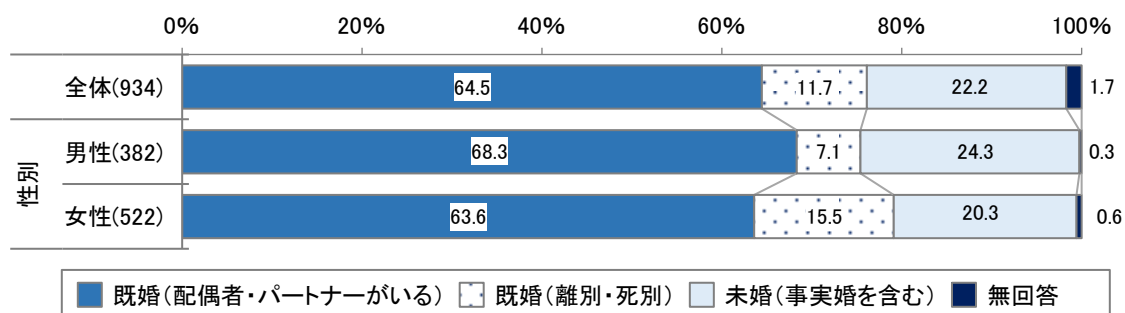
全体では、「既婚（配偶者・パートナーがいる）」が64.5%、「既婚（離別・死別）」が11.7%で、両者を合わせると76.2%が“既婚者”となっている。

性別にみると、いずれも「既婚（配偶者・パートナーがいる）」の割合が最も高いが、女性では「既婚（離別・死別）」の割合が、男性よりも8.4ポイント高くなっている。

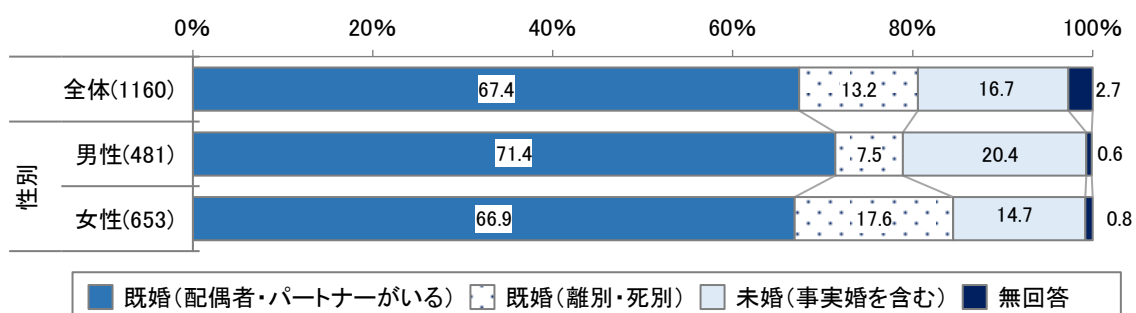
<前回調査と比較>

前回調査と比較すると、“既婚者”の割合が前回調査では80.6%であるのに対し今回調査では76.2%と4.4ポイント減少している。

■図表 結婚の状況



■図表 結婚の状況 前回(平成29年度)



(5)共働きの状況

F4-2. 前問で「1. 既婚(配偶者がいる)」と答えた方に伺います。あなたと配偶者・パートナーの働き方について、当てはまるものを1つ選んでください。※働くとは、常勤やパートタイム等も含みます。

◎全体では、共働きしている世帯は49.8%

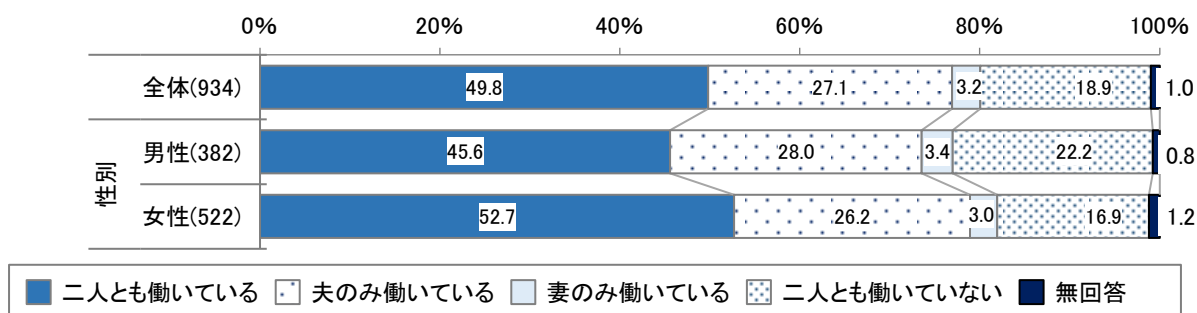
<全体・男女別>

全体では、「二人とも働いている」割合が最も多く49.8%、次いで「夫のみ働いている」が27.1%となっている。男女別にみても、いずれも「二人とも働いている」割合が40%以上と最も多く、大きな傾向の差異はみられない。

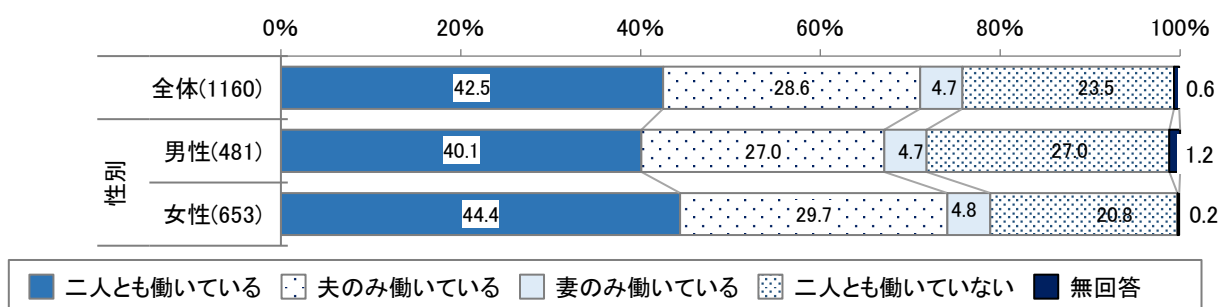
<前回調査と比較>

前回調査と比較すると、「二人とも働いている」割合が前回調査では42.5%であるのに対し今回調査では49.8%と7.3ポイント増加している。

■図表 共働きの状況



■図表 共働きの状況 前回(平成29年度)



【就労人口<20~50代>】

◎20~50代で共働きしている世帯は70.3%

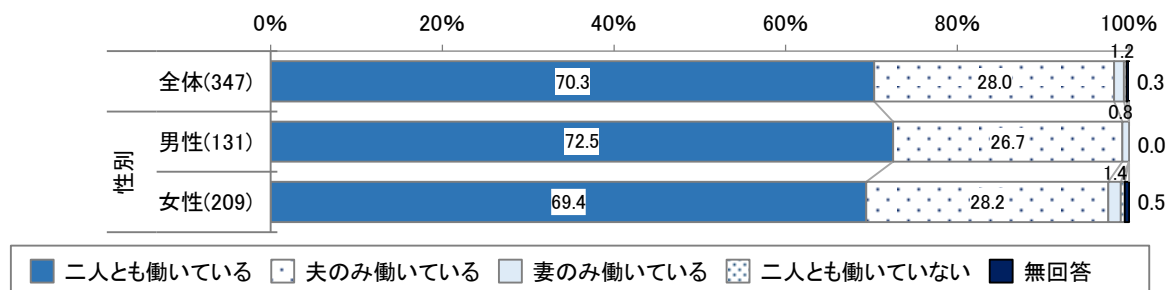
<全体・男女別>

20~50代に限ってみると全体では、「二人とも働いている」割合は70.3%、「夫のみ働いている」割合は28.0%で、共働き割合が夫のみ働いている割合の2倍以上を占める。この傾向は、男女別にみても同様である。

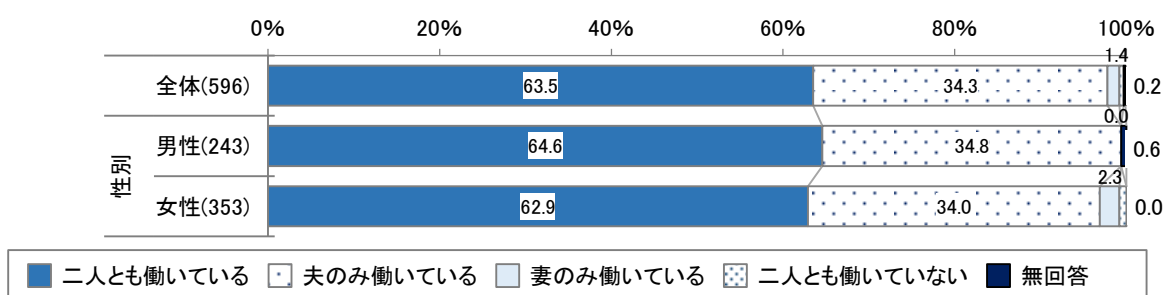
<前回調査と比較>

前回調査と比較すると、「二人とも働いている」割合が前回調査では63.5%であるのに対し今回調査では70.3%と6.8ポイント増加している。

■図表 共働きの状況(20～50代)



■図表 共働きの状況(20～50代) 前回(平成29年度)



(6)主たる生計者

F4-3. F4-1で「1既婚(配偶者・パートナーがいる)」と答えた方に伺います。主たる生計者を1つ選んでください。

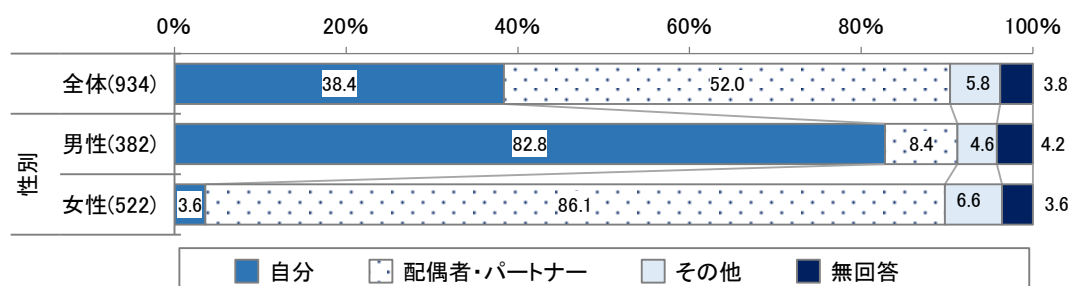
◎全体では、主たる生計者は男性では“自分”が82.8%、女性では“配偶者・パートナー”が86.1%

<全体・男女別>

全体では、主たる生計者は「配偶者・パートナー」の割合が最も多く52.0%。

男女別でみると、主たる生計者の割合は男性では「自分」が82.8%、女性では「配偶者・パートナー」が86.1%とそれぞれ8割以上を占めている。

■図表 主たる生計者



(7)世帯の状況

F5. 現在のあなたの世帯状況について、当てはまるものを1つ選んでください。

◎核家族が約8割を占める

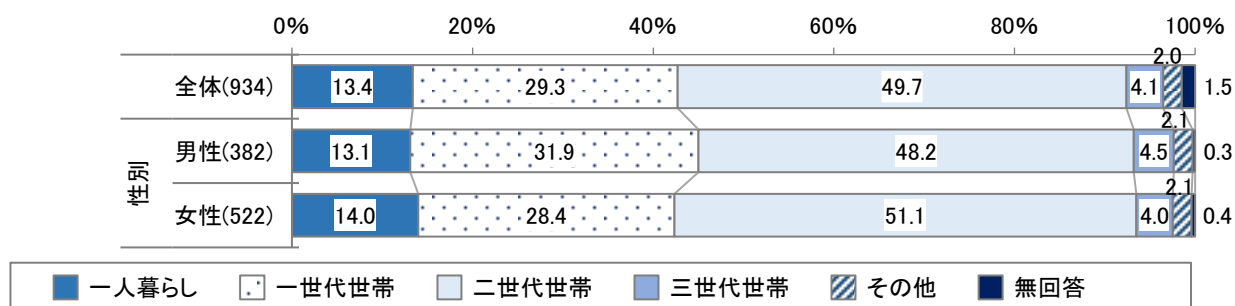
<全体・男女別>

全体では、「二世世代世帯（親と子）」が最も多く49.7%と5割弱を占め、次いで「一世世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」が29.3%となっている。両者を合わせると79.0%となり、核家族が多数を占める状況にある。男女別でも大きな差異はなく、同様に核家族が多くなっている。

<前回調査と比較>

全体を前回と比較しても、「二世世代世帯（親と子）」が約半数で「一世世代世帯」を足すと両者とも80%前後となり、今回と同様の傾向がみられる。

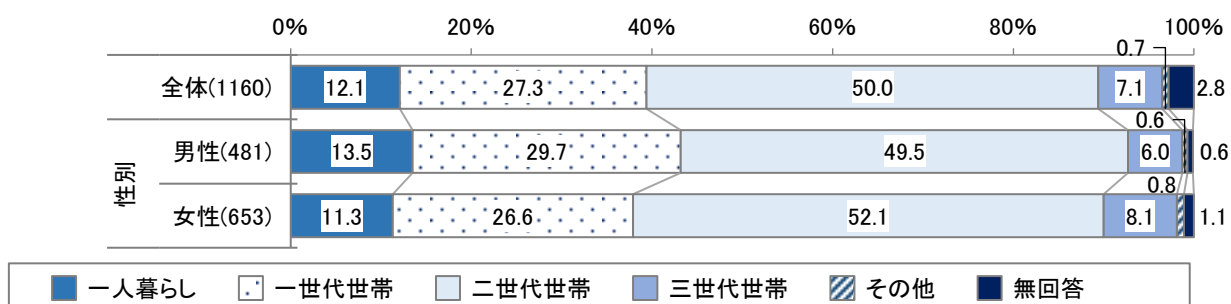
■図表 世帯の状況



【主なその他回答】

・同棲／孫とふたり暮らし／おいと同居など

■図表 世帯の状況 前回(平成29年度)



(8)お子さんの段階(複数回答)

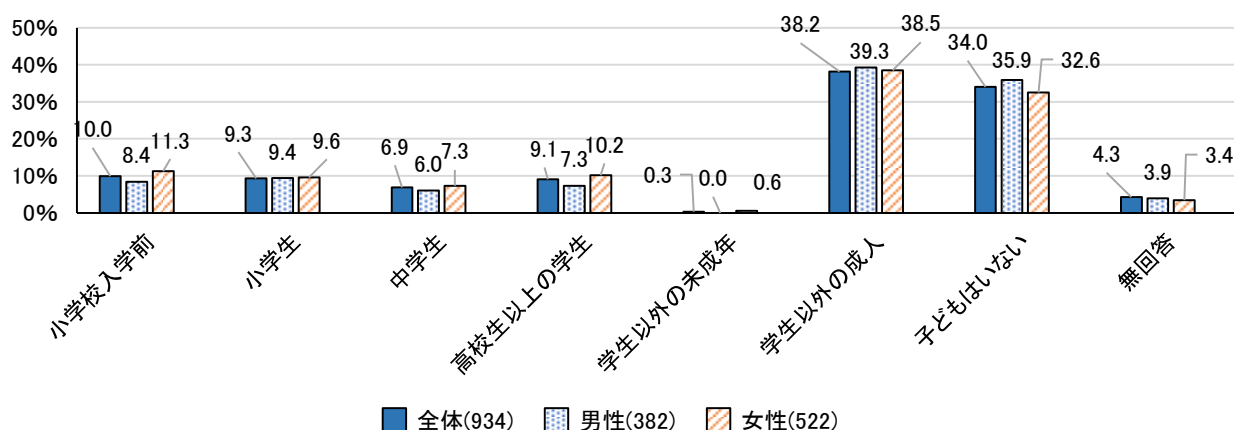
F6. あなたには次のお子さんがいらっしゃいますか。当てはまるものを全て選んでください。

◎“学生以外の成人がいる”は38.2%、一方、“子どもはいない”は34.0%

<全体・男女別>

全体では、「学生以外の成人」が最も多く38.2%、一方「子どもはいない」が34.0%となっている。また「小学校入学前」、「小学生」、「中学生」、「高校生以上の学生」の割合はそれぞれ1割程度となっている。男女別でも大きな差異はない。

■図表 お子さんの段階



(9)介護が必要な家族

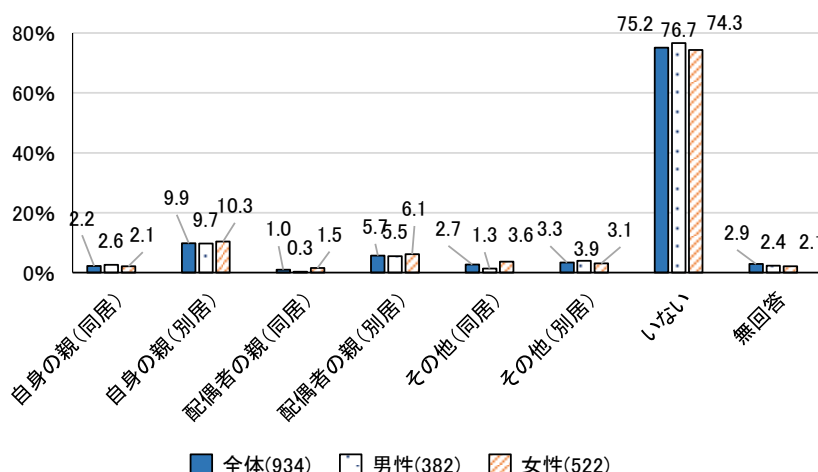
F7. あなたには介護が必要なご家族がいらっしゃいますか。当てはまるものを全て選んでください。

◎世帯に介護が必要な家族が“いない”が75.2%

<全体・男女別>

全体では、「いない」が最も多く75.2%と7割台半ばを占め、次いで「自分の親（別居）」(9.9%)、「配偶者の親（別居）」(5.7%)となっている。一方、自分もしくは配偶者の親との同居は3.2%である。男女別でも大きな差異はない。

■図表 介護が必要な家族



IV. 調査結果

1. 男女平等に関する意識について

(1) 各分野の平等感について(問1)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア)～キ)のそれぞれについて、当てはまるものを1つずつ選んでください。(SA)

◎『教育の場』では「平等である」と感じている割合が最も多く5割台半ばを占めるが、他の分野ではいずれも“男性の優遇”を感じている割合が高く、「平等である」と感じている割合は1割台半ば～3割台半ばに留まる。

<全体>

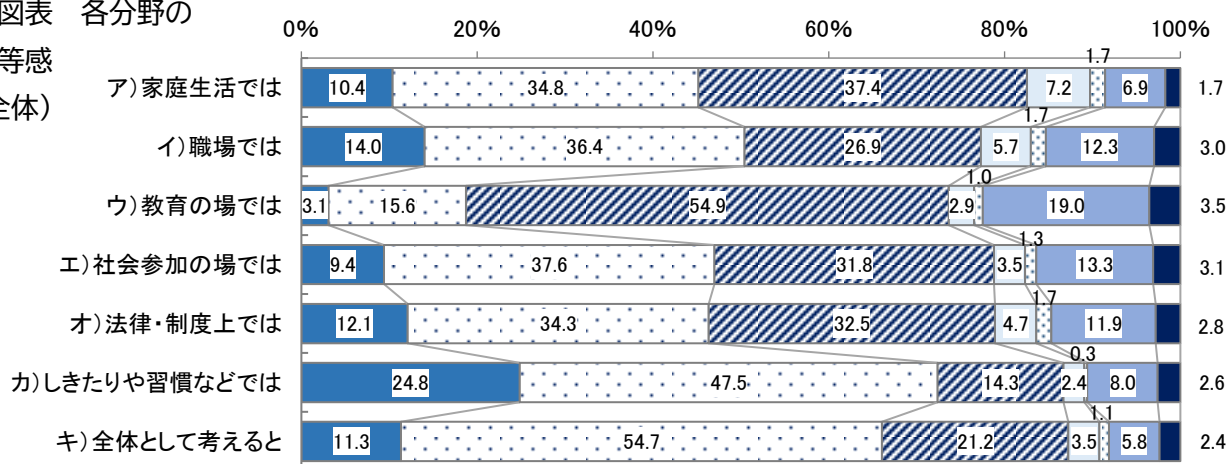
「平等である」と感じている割合は『教育の場』で最も多く54.9%と半数を超える。次いで高いのは『家庭生活』の37.4%、『法律・制度上』の32.5%、『社会参加の場』の31.8%であるが、これらの分野では『教育の場』を除いて、“男性の優遇”(「男性の方が優遇～」+「どちらかといえば男性が～」、以下同様)を感じている割合が45.2～47.0%と「平等である」と感じている割合を上回る。

『職場』は「平等である」と感じる割合が26.9%、“男性の優遇”を感じている割合が50.4%、また、最も「平等である」と感じる割合が低く“男性の優遇”を感じている割合が高いのは『しきたりや習慣など』で、それぞれ14.3%、72.3%となっている。

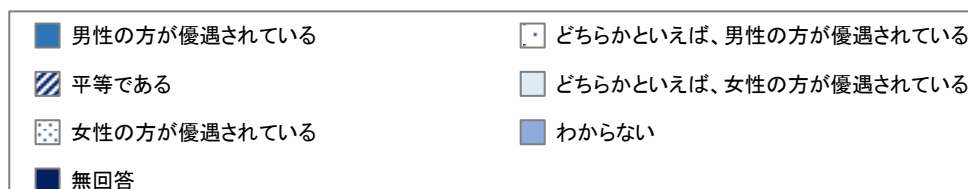
『全体として考えると』では、「平等である」と感じる割合は21.2%、“男性の優遇”を感じている割合は66.0%で、“男性の優遇”を感じている割合が“平等”の3倍を超える値となっている。

なお“女性の優遇”(「女性の方が優遇～」+「どちらかといえば女性が～」、以下同様)を感じている割合は、いずれの分野でも少なく2.7～8.9%となっている。

■図表 各分野の
平等感
(全体)



n=934



問1ア)家庭生活で考えた場合の平等感

- ◎『家庭生活』では、“男性の優遇”，“平等”を感じているがともに3割台半ば。
- ◎性・年代別には、30代以下で男女ともに“平等”と感じる割合が高く、いずれも4割弱～6割弱。
- ◎婚姻の関係別には、既婚に比べると、未婚で“男性の優遇”を感じている割合が低い。
- ◎前回結果と比較すると、回答の傾向は同様に、“男性の優遇”割合は4割台半ば、“平等”割合は3割台半ば。

<性別>

性別で比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は男性で33.8%、女性で54.6%、「平等である」と感じる割合は男性で46.9%、女性で30.1%であり、いずれも差がみられる。

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性は全ての年代で「平等である」と感じる割合が高く、女性は30代以下では「平等である」、40代以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い。

<婚姻の状況別>

婚姻の状況別で比較すると、既婚（配偶者・パートナーがいる）、未婚（事実婚を含む）で「平等である」と感じる割合が高く、既婚（離別・死別）で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い。

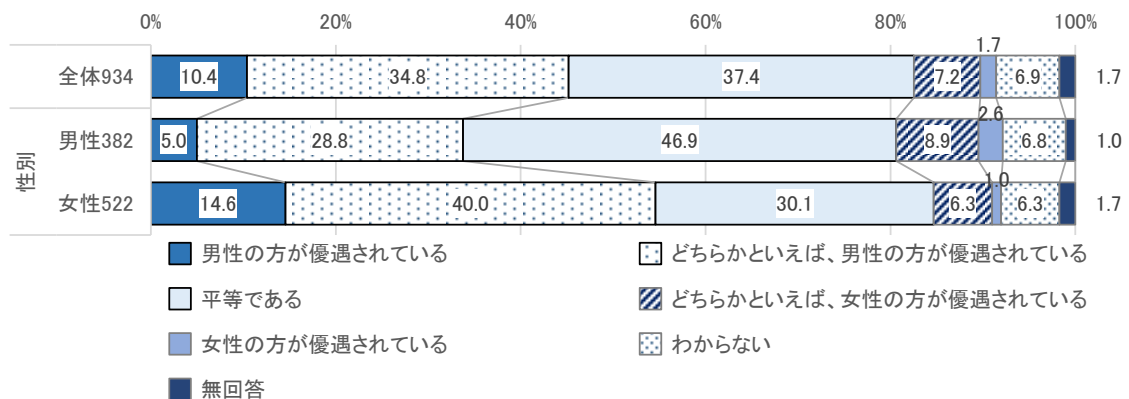
<前回調査結果との比較>

前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で45.2%、前回調査で48.5%、「平等である」と感じている割合は、今回調査で37.4%、前回調査で34.2%となっており、ほぼ同様の傾向がみられる。

<全国調査結果との比較>

全国と比較すると、「平等である」と感じている割合は、全国調査で45.5%、今回調査で37.4%となっており、全国に比べると大和市の『家庭生活』における「平等である」と感じている割合はやや低い。

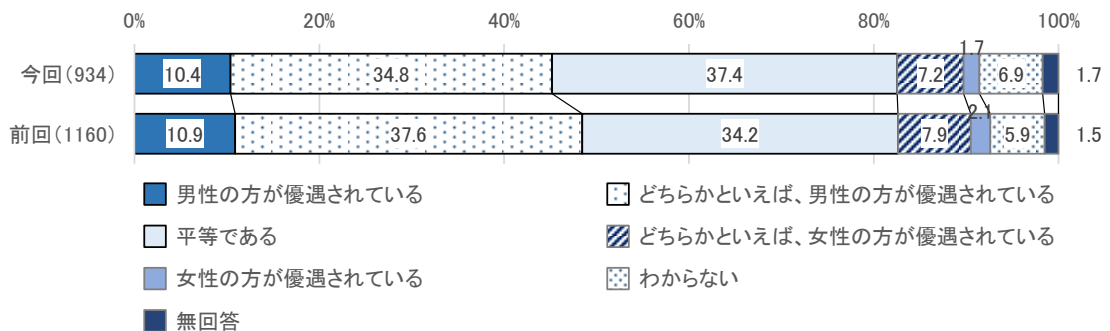
■図表 家庭生活で考えた場合の平等感(性別)



■図表 家庭生活で考えた場合の平等感(性・年代別／婚姻の状況／働き方／主たる生計者／世帯状況)

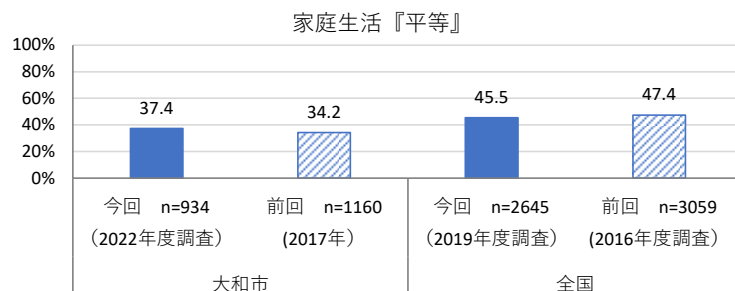
		合計	問1ア) 家庭生活では						
			男性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、男性の 方が優遇され ている	平等である	どちらかとい えば、女性の 方が優遇され ている	女性の方が 優遇されてい る	わからない	無回答
全体		934	10.4	34.8	37.4	7.2	1.7	6.9	1.7
性・年代別	男性20代以下	46	0.0	26.1	52.2	10.9	2.2	8.7	0.0
	30代	49	4.1	14.3	59.2	6.1	6.1	10.2	0.0
	40代	61	0.0	29.5	41.0	11.5	6.6	9.8	1.6
	50代	66	4.5	33.3	48.5	7.6	1.5	4.5	0.0
	60代	72	9.7	26.4	43.1	11.1	0.0	9.7	0.0
	70代以上	88	8.0	36.4	43.2	6.8	1.1	1.1	3.4
	女性20代以下	72	8.3	27.8	44.4	5.6	2.8	9.7	1.4
	30代	76	13.2	32.9	39.5	6.6	2.6	3.9	1.3
	40代	97	20.6	38.1	35.1	3.1	1.0	2.1	0.0
	50代	94	14.9	36.2	29.8	7.4	0.0	10.6	1.1
	60代	82	15.9	59.8	9.8	6.1	0.0	8.5	0.0
	70代以上	100	13.0	44.0	25.0	8.0	0.0	4.0	6.0
婚姻の状況	既婚(配偶者がいる)	602	12.1	36.7	38.7	7.1	1.3	3.2	0.8
	既婚(離別・死別)	109	10.1	34.9	28.4	10.1	0.9	10.1	5.5
	未婚(事実婚を含む)	207	6.3	29.0	38.6	6.3	2.9	15.9	1.0
働き方	二人とも働いている	300	13.7	35.3	42.0	5.7	1.7	1.3	0.3
	夫か妻のみ働いている	182	9.3	36.3	37.4	8.2	1.6	6.6	0.5
	二人とも働いていない	114	12.3	42.1	33.3	7.9	0.0	2.6	1.8
主たる 生計者	自分	231	6.9	30.7	44.6	10.8	2.6	3.5	0.9
	配偶者・パートナー	313	17.6	40.3	33.2	4.5	0.6	3.2	0.6
世帯状況	単身世帯	125	7.2	32.0	24.0	11.2	1.6	18.4	5.6
	一世代世帯	274	11.7	38.7	35.8	9.5	1.1	2.2	1.1
	二世代世帯	464	10.6	32.8	40.9	5.8	2.2	6.9	0.9
	三世代世帯	38	15.8	36.8	44.7	0.0	0.0	2.6	0.0

■図表 家庭生活で考えた場合の平等感 前回(平成29年度)



■図表 家庭生活で考えた場合の平等感(全国比較)

大和市: 問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア) 家庭生活では(SA)
 全国: では、あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか: 家庭生活(SA)



※大和市調査では「家庭生活では」、全国調査では「家庭生活」

※全国調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている/どちらかといえば男性の方が優遇されている/平等/どちらかといえば女性の方が優遇されている/女性の方が非常に優遇されている」であり、そのうちの「平等」と大和市の今回調査の「平等である」の回答割合を比較している。

※構成比に無回答を含む。なお全国調査は聞き取り調査のため無回答となる回答はない。

問1イ)職場で考えた場合の平等感

- ◎『職場』では、“男性の優遇”を感じている割合が男女ともに5割前後だが、女性の方が男性より高い。
- ◎性・年代別には、男性30代、女性20代以下で「平等である」と感じる割合が特に高く、いずれも4割台半ば。
- ◎職業別には、“被雇用者”で「平等である」と感じている割合が高い。
- ◎前回結果と比較すると、「平等である」と感じている割合が増加。

※、“被雇用者”--従業員、事務職、専門職、パート、アルバイト

<性別>

性別で比較すると、「平等である」と感じる割合は男性で30.6%、女性で24.3%と女性で低い。また“男性の優遇”を感じている割合は男性で47.1%、女性で53.8%であり、女性の方が男性よりも高い。

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性30代以下、女性20代以下で「平等である」と感じる割合が高く、男性40代以上、女性30代以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い。特に、男性30代、女性20代以下の「平等である」と感じる割合が高い。

<職業別>

職業別で比較すると、従業員、事務職、専門職、パートアルバイト、学生では「平等である」と感じる割合が特に高く、経営者、管理職では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い。家事専業、無職では「わからない」の割合が比較的高い。

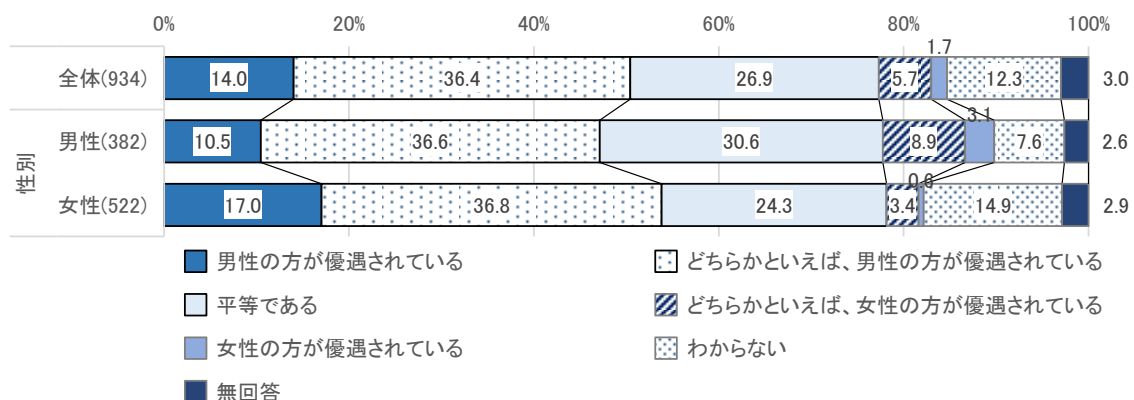
<前回調査結果との比較>

前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で50.4%、前回調査で55.6%、「平等である」と感じている割合は、今回調査で26.9%、前回調査で20.8%となっており、「平等である」と感じている割合が増加している。

<全国調査結果との比較>

全国と比較すると、「平等である」と感じている割合は、全国調査で30.7%、今回調査で26.9%となっており、全国に比べると大和市の『職場』における「平等である」と感じている割合はやや低い。

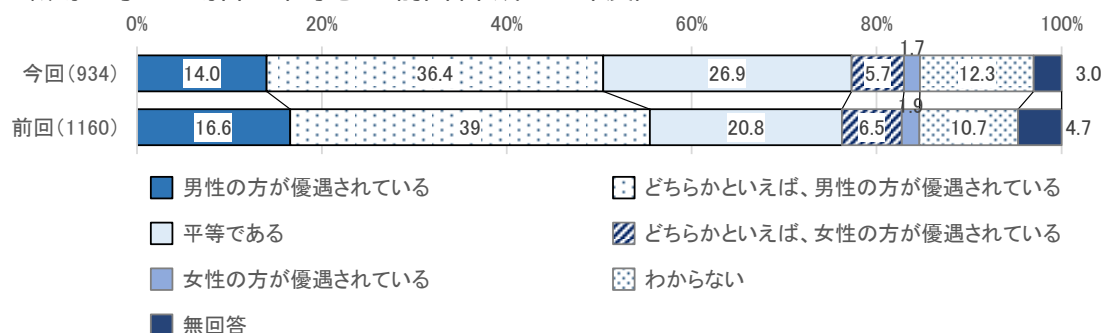
■図表 職場で考えた場合の平等感(性別)



■図表 職場で考えた場合の平等感(性・年代別／職業／婚姻の状況／働き方)

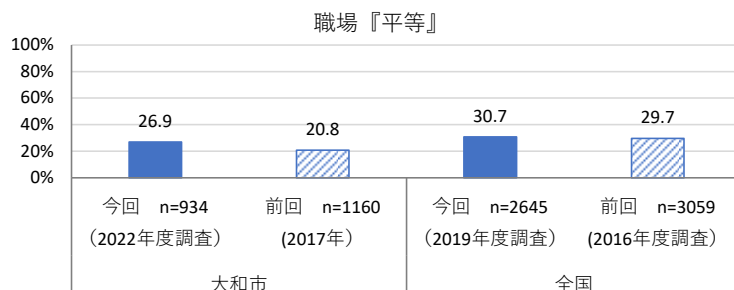
		問1イ)職場では							
		合計	男性の方が 優遇されてい る	どちらかとい えば、男性の 方が優遇され ている	平等である	どちらかとい えば、女性の 方が優遇され ている	女性の方が 優遇されてい る	わからない	無回答
全体		934	14.0	36.4	26.9	5.7	1.7	12.3	3.0
性・年代別	男性20代以下	46	10.9	28.3	32.6	10.9	4.3	13.0	0.0
	30代	49	4.1	28.6	46.9	8.2	10.2	2.0	0.0
	40代	61	3.3	39.3	31.1	14.8	4.9	6.6	0.0
	50代	66	9.1	37.9	36.4	13.6	3.0	0.0	0.0
	60代	72	18.1	34.7	29.2	9.7	0.0	8.3	0.0
	70代以上	88	13.6	44.3	17.0	0.0	0.0	13.6	11.4
	女性20代以下	72	13.9	25.0	44.4	1.4	2.8	11.1	1.4
	30代	76	18.4	32.9	25.0	5.3	1.3	17.1	0.0
	40代	97	13.4	41.2	33.0	2.1	0.0	9.3	1.0
	50代	94	21.3	36.2	26.6	4.3	0.0	11.7	0.0
	60代	82	22.0	41.5	12.2	3.7	0.0	17.1	3.7
	70代以上	100	13.0	41.0	9.0	4.0	0.0	23.0	10.0
職業	経営者、管理職、 従業員、事務職、専門職	103	12.6	46.6	27.2	8.7	1.9	2.9	0.0
	パート、アルバイト	292	13.4	34.2	37.3	8.6	3.8	2.7	0.0
	家事専業	175	9.1	36.6	38.9	5.1	0.0	9.1	1.1
	学生	129	23.3	38.8	4.7	2.3	0.0	27.1	3.9
	無職	42	7.1	23.8	40.5	0.0	0.0	28.6	0.0
	無職	153	17.0	37.9	9.2	2.6	0.7	20.3	12.4
婚姻の状況	既婚(配偶者がいる)	153	17.0	37.9	9.2	2.6	0.7	20.3	12.4
	既婚(離別・死別)	602	14.0	38.7	25.7	6.0	1.5	12.1	2.0
	既婚(離別・死別)	109	13.8	38.5	18.3	5.5	0.9	11.0	11.9
働き方	未婚(事実婚を含む)	207	15.0	29.5	34.8	5.3	2.9	12.1	0.5
	二人とも働いている	300	11.0	36.3	36.7	8.0	2.0	5.7	0.3
	夫か妻のみ働いている	182	16.5	39.6	20.3	5.5	1.6	15.4	1.1
	二人とも働いていない	114	17.5	43.9	6.1	1.8	0.0	24.6	6.1

■図表 職場で考えた場合の平等感 前回(平成 29 年度)



■図表 職場で考えた場合の平等感(全国比較)

大和市:問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。イ)職場では(SA)
 全国:では、あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか:職場(SA)



※大和市調査では「職場では」、全国調査では「職場」

※全国調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている/どちらかといえば男性の方が優遇されている/平等/どちらかといえば女性の方が優遇されている/女性の方が非常に優遇されている」であり、そのうちの「平等」と大和市の今回調査の「平等である」の回答割合を比較している。

※構成比に無回答を含む。なお全国調査は聞き取り調査のため無回答となる回答はない。

問1ウ)教育の場で考えた場合の平等感

- ◎『教育の場』では、男女ともに「平等である」を感じているが5割を超えている。
- ◎性・年代別には、いずれの年代でも「平等である」と感じる割合が高い。
- ◎前回結果と比較すると、「平等である」と感じる割合が減少し、“男性の優遇”を感じている割合が増加。

<性別>

性別で比較すると、「平等である」と感じる割合は男性で57.1%、女性で54.0%と女性の方が低い。また“男性の優遇”を感じている割合は男性で16.0%、女性で20.7%であり、女性の方が男性よりも高い。

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性、女性ともに、いずれの年代でも「平等である」と感じる割合が高く、特に、男性40代以下、女性20代以下の割合が高い。

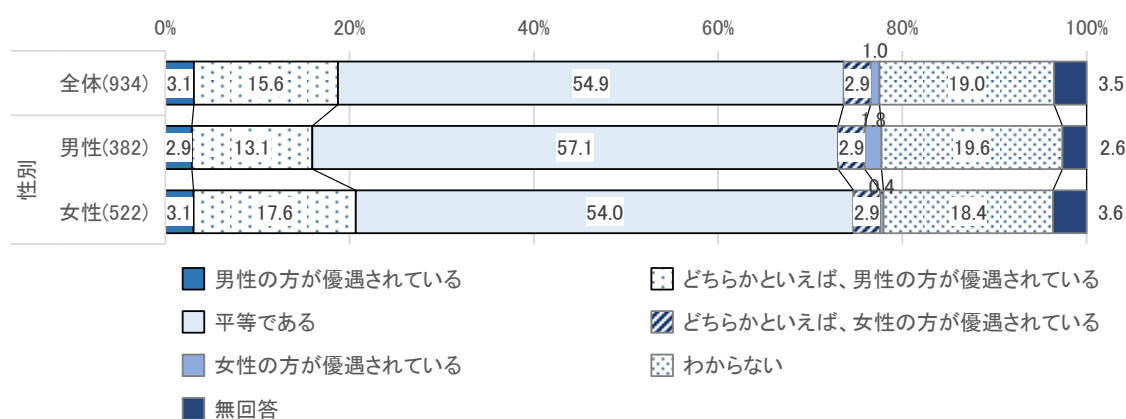
<前回調査結果との比較>

前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で18.7%、前回調査で14.8%、「平等である」と感じている割合は、今回調査で54.9%、前回調査で59.3%となっており、“男性の優遇”を感じている割合が増加している。

<全国調査結果との比較>

全国と比較すると、「平等である」と感じている割合は、全国調査で61.2%、今回調査で54.9%となっており、全国に比べると大和市の『教育の場』における「平等である」と感じている割合は低い。

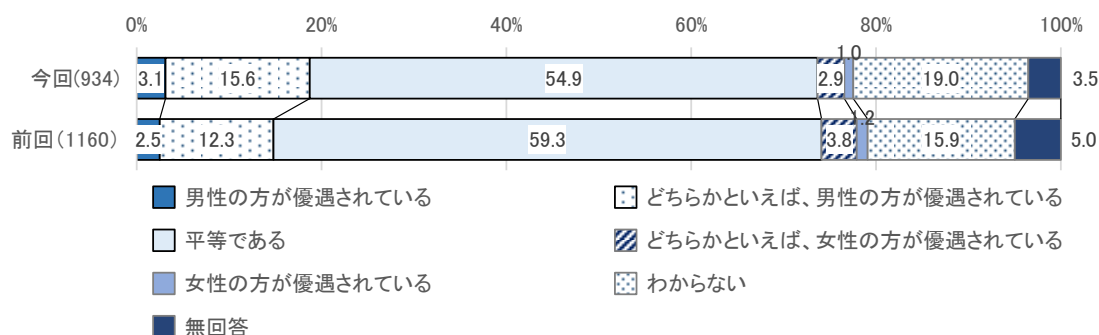
■図表 教育の場で考えた場合の平等感(性別)



■図表 教育の場で考えた場合の平等感(性・年代別)

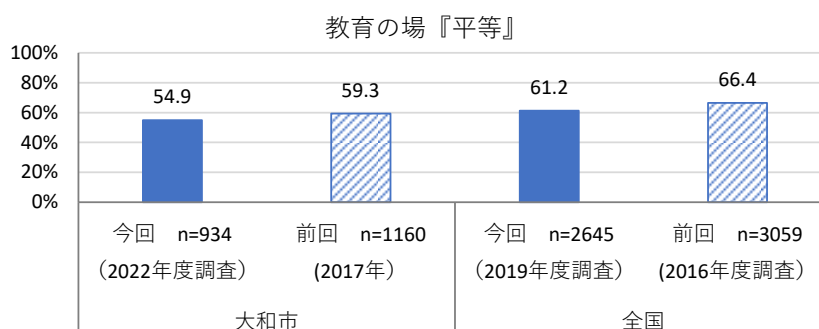
		合計	問1ウ)教育の場では					
			男性の方が 優遇されてい る	どちらかとい えば、男性の 方が優遇され ている	平等である	どちらかとい えば、女性の 方が優遇され ている	女性の方が 優遇されてい る	わからない
								無回答
全体		934	3.1	15.6	54.9	2.9	1.0	19.0
性・年代別	男性20代以下	46	0.0	6.5	65.2	8.7	6.5	13.0
	30代	49	0.0	10.2	71.4	0.0	8.2	2.0
	40代	61	1.6	11.5	65.6	6.6	0.0	14.8
	50代	66	1.5	15.2	60.6	4.5	0.0	18.2
	60代	72	5.6	13.9	47.2	0.0	0.0	33.3
	70代以上	88	5.7	17.0	44.3	0.0	0.0	22.7
	女性20代以下	72	1.4	4.2	70.8	6.9	1.4	13.9
	30代	76	3.9	11.8	50.0	2.6	0.0	28.9
	40代	97	3.1	14.4	62.9	1.0	0.0	17.5
	50代	94	1.1	22.3	53.2	4.3	0.0	18.1
	60代	82	4.9	30.5	42.7	1.2	0.0	15.9
	70代以上	100	4.0	20.0	46.0	2.0	1.0	17.0

■図表 教育の場で考えた場合の平等感 前回(平成29年度)



■図表 教育の場で考えた場合の平等感(全国比較)

大和市:問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ウ)教育の場では(SA)
 全国:では、あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか:学校教育の場(SA)



※大和市調査では「教育の場では」、全国調査では「学校教育の場」

※全国調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている/どちらかといえば男性の方が優遇されている/平等/どちらかといえば女性の方が優遇されている/女性の方が非常に優遇されている」であり、そのうちの「平等」と大和市の今回調査の「平等である」の回答割合を比較している。

※構成比に無回答を含む。なお全国調査は聞き取り調査のため無回答となる回答はない。

問1工)社会参加の場で考えた場合の平等感

◎『社会参加の場』では、“男性の優遇”を感じている女性の割合が5割台半ば。

◎性・年代別には、男性60代以上と女性の全年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い。

◎前回と比較すると、回答の傾向は同様で、“男性の優遇”を感じている割合が4割台半ば。

◎全国調査結果と比較すると、全国に比べて“男性の優遇”を感じている割合が低い。

<性別>

性別で比較すると、「平等である」と感じる割合は男性で40.3%、女性で25.1%と女性で低い。また“男性の優遇”を感じている割合は男性で36.4%、女性で55.9%であり、女性の方が男性よりも20ポイントほど高い状況にある。

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性50代以下で「平等である」と感じる割合が高く、男性60代以上と女性の全年齢層で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い。

<前回調査結果との比較>

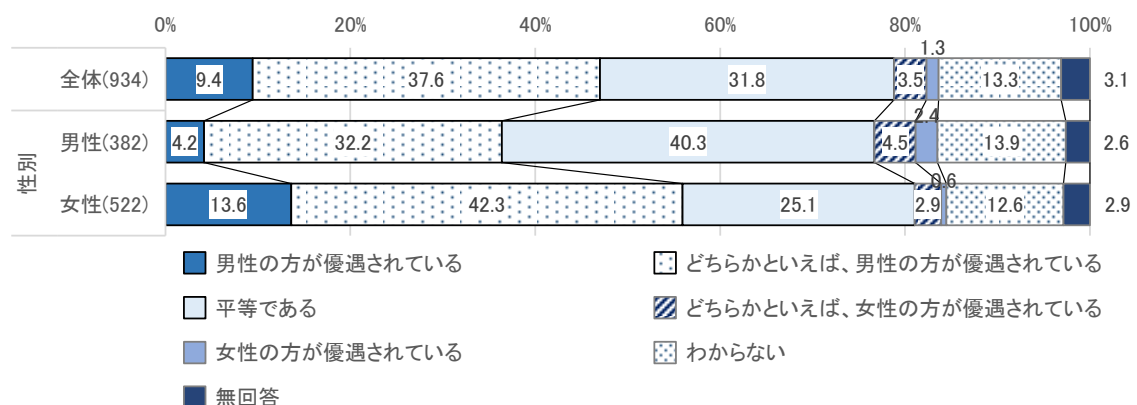
前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で47.0%、前回調査で45.9%、「平等である」と感じている割合は、今回調査で31.8%、前回調査で32.2%となっており、ほぼ同様の傾向がみられる。

<全国調査結果との比較>

全国と比較すると、「平等である」と感じている割合は、全国調査で46.5%、今回調査で31.8%となっており、全国に比べると大和市の『社会参加の場』における「平等である」と感じている割合は低い。

※ただし、大和市調査『社会参加の場では』、全国調査『自治会やPTAなどの地域活動の場』で比較

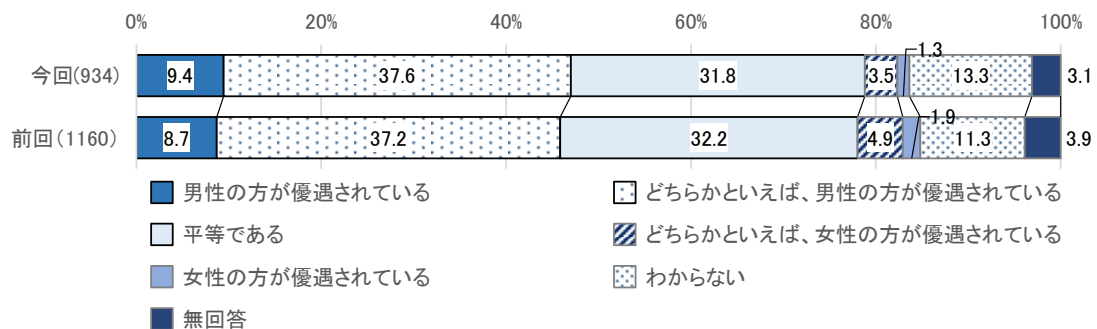
■図表 社会参加の場で考えた場合の平等感(性別)



■図表 社会参加の場で考えた場合の平等感(性・年代別)

		問1エ)社会参加の場では							
		合計	男性の方が 優遇されてい る	どちらかとい えば、男性の 方が優遇され ている	平等である	どちらかとい えば、女性の 方が優遇され ている	女性の方が 優遇されてい る	わからない	無回答
全体		934	9.4	37.6	31.8	3.5	1.3	13.3	3.1
性・年代別	男性20代以下	46	4.3	28.3	41.3	2.2	2.2	21.7	0.0
	30代	49	2.0	24.5	34.7	6.1	10.2	20.4	2.0
	40代	61	3.3	26.2	47.5	6.6	3.3	11.5	1.6
	50代	66	6.1	30.3	56.1	1.5	0.0	4.5	1.5
	60代	72	5.6	34.7	30.6	6.9	0.0	22.2	0.0
	70代以上	88	3.4	42.0	34.1	3.4	1.1	8.0	8.0
	女性20代以下	72	11.1	37.5	27.8	1.4	1.4	19.4	1.4
	30代	76	21.1	32.9	23.7	3.9	1.3	17.1	0.0
	40代	97	16.5	41.2	27.8	2.1	0.0	9.3	3.1
	50代	94	12.8	44.7	22.3	5.3	0.0	14.9	0.0
	60代	82	17.1	43.9	22.0	2.4	0.0	11.0	3.7
	70代以上	100	5.0	50.0	27.0	2.0	1.0	7.0	8.0

■図表 社会参加の場で考えた場合の平等感 前回(平成29年度)

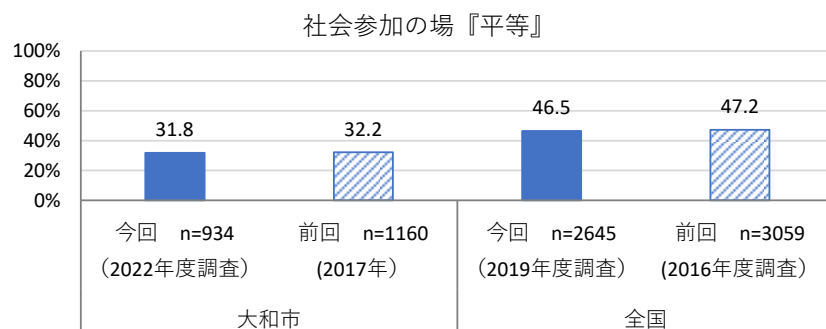


■図表 社会参加の場で考えた場合の平等感(全国比較)

大和市:問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。エ)社会参加の場では(SA)

全国:では、あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか:

自治会やPTAなどの地域活動の場(SA)



※大和市調査では「社会参加の場では」、全国調査では「自治会やPTAなどの地域活動の場」

※全国調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている/どちらかといえば男性の方が優遇されている/平等/どちらかといえば女性の方が優遇されている/女性の方が非常に優遇されている」であり、そのうちの「平等」と大和市の今回調査の「平等である」の回答割合を比較している。

※構成比に無回答を含む。なお全国調査は聞き取り調査のため無回答となる回答はない。

問1オ)法律・制度上で考えた場合の平等感

- ◎『法律・制度上』では、“男性の優遇”を感じている女性の割合が5割台半ば。
- ◎性・年代別には、“男性の優遇”を感じている割合が女性で高く、4割台半ば～7割弱。
- ◎前回結果と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合が増加。

<性別>

性別で比較すると、「平等である」と感じる割合は男性で43.7%、女性で24.7%と女性で低い。また“男性の優遇”を感じている割合は男性で33.0%、女性で56.7%であり、女性の方が男性よりも20ポイントほど高い状況にある。

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性の全年代と、女性70代以上で「平等である」と感じる割合が高く、女性60代以下で“男性の優遇”を感じている割合が高い。

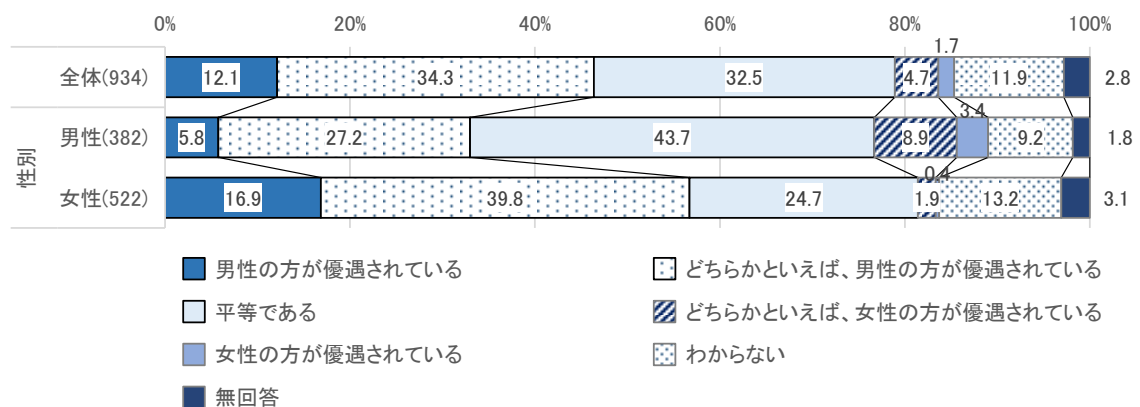
<前回調査結果との比較>

前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で46.4%、前回調査で40.1%、「平等である」と感じている割合は、今回調査で32.5%、前回調査で36.0%となっており、“男性の優遇”を感じている割合が増加している。

<全国調査結果との比較>

全国と比較すると、「平等である」と感じている割合は、全国調査で39.7%、今回調査で32.5%となっており、全国に比べると大和市の『法律・制度上』における「平等である」と感じる割合はやや低い。

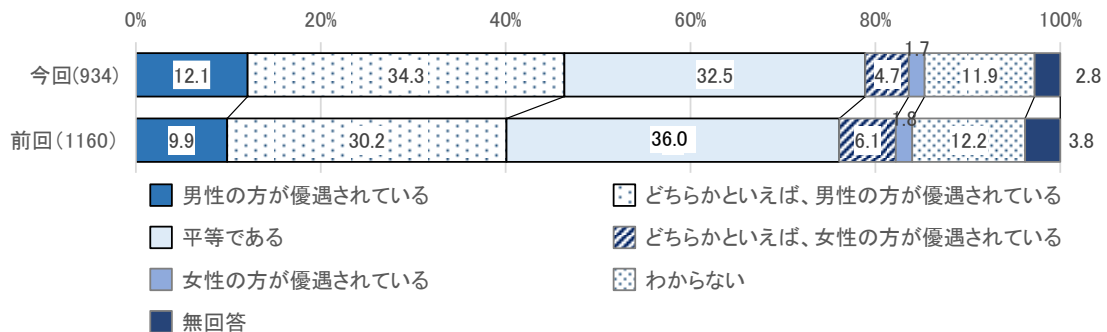
■図表 法律・制度上で考えた場合の平等感(性別)



■図表 法律・制度上で考えた場合の平等感(性・年代別)

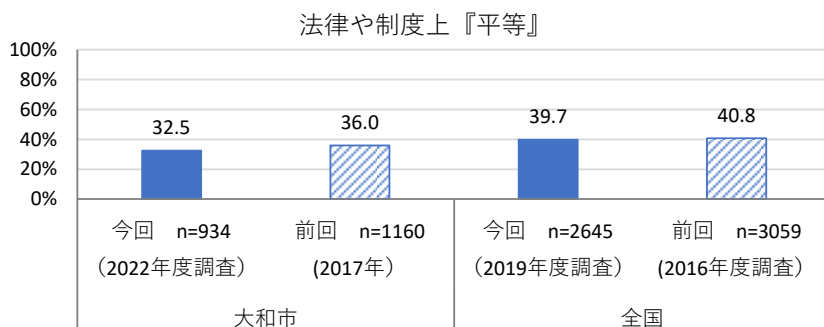
		合計	問1オ) 法律・制度上では					
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
全体		934	12.1	34.3	32.5	4.7	1.7	11.9
性・年代別	男性20代以下	46	8.7	30.4	39.1	10.9	4.3	6.5
	30代	49	2.0	12.2	36.7	22.4	12.2	12.2
	40代	61	6.6	27.9	36.1	11.5	3.3	14.8
	50代	66	4.5	33.3	45.5	10.6	3.0	3.0
	60代	72	8.3	26.4	52.8	5.6	0.0	6.9
	70代以上	88	4.5	29.5	46.6	0.0	1.1	11.4
	女性20代以下	72	12.5	34.7	27.8	0.0	0.0	22.2
	30代	76	19.7	36.8	25.0	2.6	0.0	14.5
	40代	97	25.8	36.1	23.7	2.1	1.0	9.3
	50代	94	16.0	44.7	18.1	4.3	1.1	13.8
	60代	82	17.1	52.4	17.1	1.2	0.0	9.8
	70代以上	100	10.0	34.0	36.0	1.0	0.0	12.0

■図表 法律・制度上で考えた場合の平等感 前回(平成29年度)



■図表 法律・制度上で考えた場合の平等感(全国比較)

大和市: 問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。オ) 法律・制度上では(SA)
 全国: では、あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか: 法律や制度上(SA)



※大和市調査では「法律・制度上では」、全国調査では「法律・制度上」

※全国調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている/どちらかといえば男性の方が優遇されている/平等/どちらかといえば女性の方が優遇されている/女性の方が非常に優遇されている」であり、そのうちの「平等」と大和市の今回調査の「平等である」の回答割合を比較している。

※構成比に無回答を含む。なお全国調査は聞き取り調査のため無回答となる回答はない。

問1カ)しきたりや習慣などで考えた場合の平等感

- ◎『しきたりや習慣』では、“男性の優遇”を感じている女性の割合が7割台半ば。
- ◎性・年代別には、いずれの年代でも“男性の優遇”を感じる割合が高い。
- ◎前回結果と比較すると、回答の傾向は同様で、“男性の優遇”割合は7割強で、“平等”割合は1割台半ば。

<性別>

性別で比較すると、「平等である」と感じる割合は男性で18.1%、女性で11.9%と女性の方が低い。また“男性の優遇”を感じている割合は男性で67.8%、女性で76.7%であり、女性の方が男性よりも10ポイントほど高い。

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性、女性ともに、いずれの年代でも“男性の優遇”を感じる割合が高く、特に、女性40代～60代でその割合が高い。

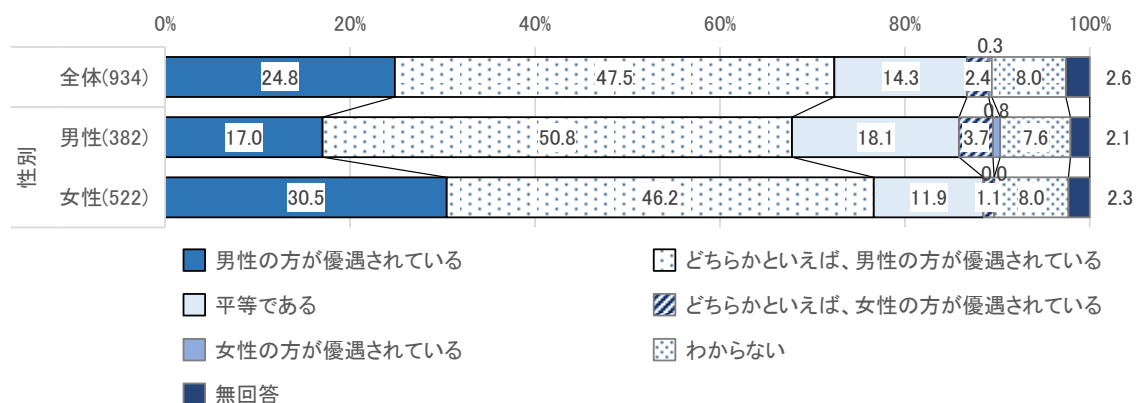
<前回調査結果との比較>

前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で72.3%、前回調査で71.7%、「平等である」と感じる割合は、今回調査で14.3%、前回調査で12.3%となっており、ほぼ同様の傾向がみられる。

<全国調査結果との比較>

全国と比較すると、「平等である」と感じる割合は、全国調査で22.6%、今回調査で14.3%となっており、全国に比べると大和市の『しきたりや習慣』における「平等である」と感じる割合はやや低い。

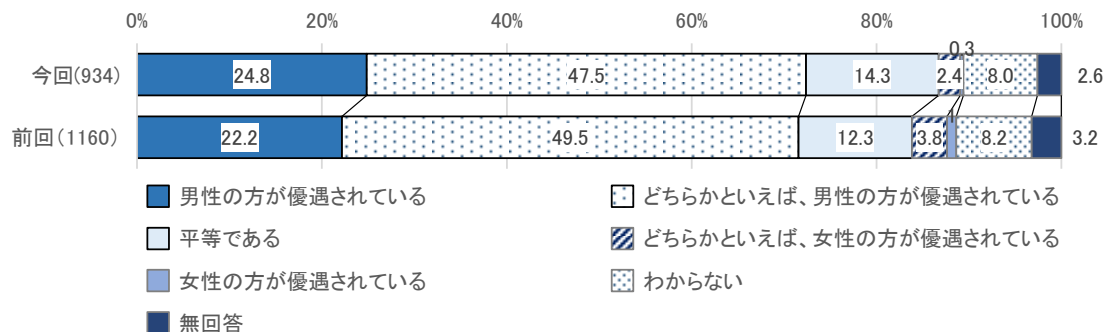
■図表 しきたりや習慣などで考えた場合の平等感(性別)



■図表 しきたりや習慣などで考えた場合の平等感(性・年代別)

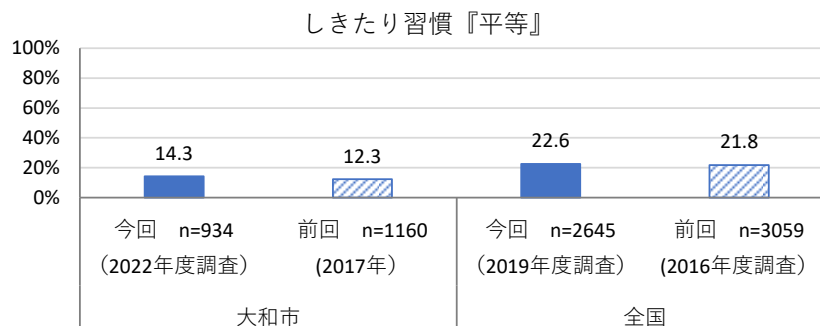
		合計	問1カ)しきたりや習慣などでは						
			男性の方が 優遇されてい る	どちらかとい えば、男性の 方が優遇され ている	平等である	どちらかとい えば、女性の 方が優遇され ている	女性の方が 優遇されてい る	わからない	無回答
全体		934	24.8	47.5	14.3	2.4	0.3	8.0	2.6
性・年代別	男性20代以下	46	13.0	50.0	21.7	2.2	2.2	10.9	0.0
	30代	49	16.3	42.9	24.5	2.0	2.0	10.2	2.0
	40代	61	19.7	47.5	16.4	6.6	1.6	8.2	0.0
	50代	66	15.2	53.0	21.2	10.6	0.0	0.0	0.0
	60代	72	22.2	55.6	9.7	0.0	0.0	11.1	1.4
	70代以上	88	14.8	52.3	18.2	1.1	0.0	6.8	6.8
	女性20代以下	72	13.9	61.1	9.7	0.0	0.0	13.9	1.4
	30代	76	28.9	44.7	13.2	1.3	0.0	11.8	0.0
	40代	97	41.2	42.3	11.3	0.0	0.0	3.1	2.1
	50代	94	36.2	39.4	8.5	2.1	0.0	12.8	1.1
	60代	82	39.0	45.1	7.3	1.2	0.0	4.9	2.4
	70代以上	100	21.0	48.0	20.0	2.0	0.0	3.0	6.0

■図表 しきたりや習慣などで考えた場合の平等感 前回(平成29年度)



■図表 しきたりや習慣などで考えた場合の平等感(全国比較)

大和市:問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。カ)しきたりや習慣などでは(SA)
 全国:では、あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか:社会通念・慣習・しきたりなど(SA)



※大和市調査では「しきたりや習慣などでは」、全国調査では「社会通念・慣習・しきたりなど」

※全国調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている/どちらかといえば男性の方が優遇されている/平等/どちらかといえば女性の方が優遇されている/女性の方が非常に優遇されている」であり、そのうちの「平等」と大和市の今回調査の「平等である」の回答割合を比較している。

※構成比に無回答を含む。なお全国調査は聞き取り調査のため無回答となる回答はない。

問1キ)全体として考えた場合の平等感

- ◎『全体として考えた場合の平等感』では、“男性の優遇”を感じている女性の割合が高く7割台半ば。
- ◎性・年代別には、男性に比べて女性は「男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い。
- ◎前回結果と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合がやや高くなっている。

<性別>

性別で比較すると、「平等である」と感じる割合は男性で27.0%、女性で17.2%と女性の方が低い。また“男性の優遇”を感じている割合は男性で57.9%、女性で72.6%であり、女性の方が男性よりも15ポイントほど高い。

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性、女性ともに、いずれの年代でも「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」と感じる割合が高く、男性に比べて女性は「男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い。

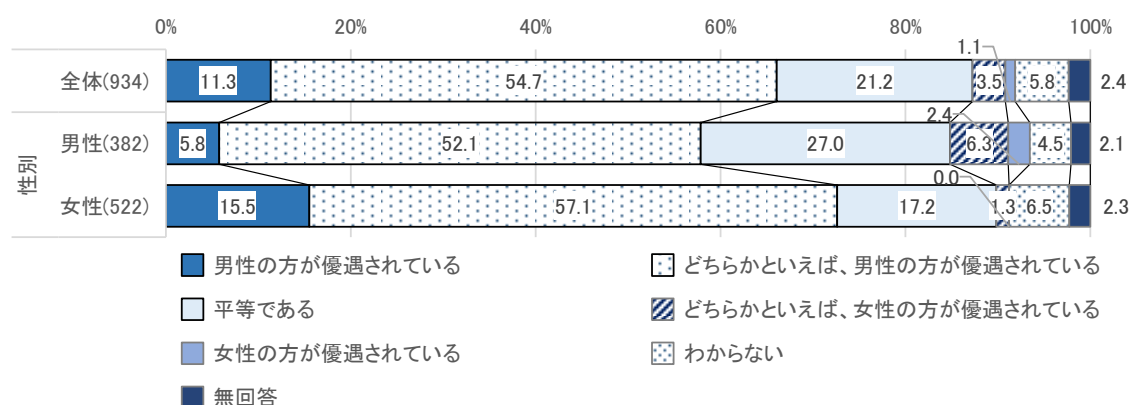
<前回調査結果との比較>

前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で66.0%、前回調査で61.8%、「平等である」と感じる割合は、今回調査で21.2%、前回調査で21.9%となっており、“男性の優遇”を感じている割合がやや高くなっている。

<全国調査結果との比較>

全国と比較すると、「平等である」と感じる割合は、全国調査で21.2%、今回調査で21.2%となっており、全国と同じ水準である。

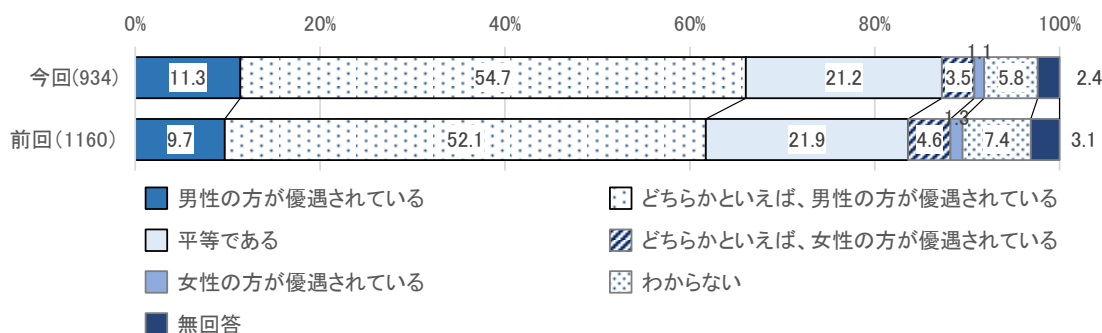
■図表 全体として考えた場合の平等感(性別)



■図表 全体として考えた場合の平等感(性・年代別)

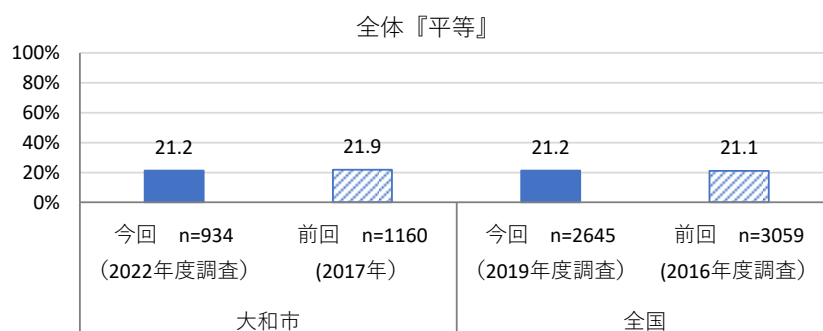
		問1キ)全体として考えると						
		合計	男性の方が優遇されている	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
全体		934	11.3	54.7	21.2	3.5	1.1	5.8
性・年代別	男性20代以下	46	2.2	47.8	30.4	10.9	2.2	6.5
	30代	49	0.0	38.8	32.7	14.3	8.2	4.1
	40代	61	3.3	44.3	32.8	11.5	3.3	4.9
	50代	66	6.1	56.1	28.8	6.1	1.5	0.0
	60代	72	11.1	61.1	19.4	1.4	0.0	4.2
	70代以上	88	8.0	56.8	22.7	0.0	1.1	5.7
	女性20代以下	72	18.1	52.8	19.4	0.0	0.0	8.3
	30代	76	11.8	55.3	23.7	0.0	0.0	9.2
	40代	97	22.7	52.6	16.5	0.0	0.0	5.2
	50代	94	16.0	59.6	12.8	2.1	0.0	9.6
	60代	82	18.3	61.0	13.4	1.2	0.0	3.7
	70代以上	100	7.0	60.0	19.0	4.0	0.0	4.0

■図表 全体として考えた場合の平等感 前回(平成29年度)



■図表 全体として考えた場合の平等感(全国比較)

大和市:問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。キ)全体として考えると(SA)
 全国:では、あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか:全体(SA)



※全国調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている/どちらかといえば男性の方が優遇されている/平等/どちらかといえば女性の方が優遇されている/女性の方が非常に優遇されている」であり、そのうちの「平等」と大和市の今回調査の「平等である」の回答割合を比較している。

※構成比に無回答を含む。なお全国調査は聞き取り調査のため無回答となる回答はない。

(2)「男は仕事、女は家庭」という考えについて(問2)

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考えについて、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)

- ◎「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」とする意見が最も多く8割強。この考えは女性で多く、男性を約9ポイント上回る。
- ◎性・年代別では、「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」とする割合は、男性では若年ほど高い傾向、女性ではいずれの年代でも8割以上と高い。
- ◎前回結果との比較では、「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」とする割合が10ポイント以上増加。

<全体・性別>

全体でみると、「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」とする意見が最も多く81.7%を占める。「男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ」は8.6%、「男は仕事、女は家庭」が望ましい」が8.2%で同等、「女は仕事、男は家庭」が望ましい」は0.2%に留まる。

性別にみると、「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」と答えた割合は、男性76.7%、女性85.6%で女性が8.9ポイント高い。また、男性では「男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ」が11.3%、「男は仕事、女は家庭」が望ましい」が10.7%と、いずれも1割強から約1割を占めている。これらの項目は、女性ではそれぞれ7.1%、5.9%と男性に比べて低い。

<性・年代別>

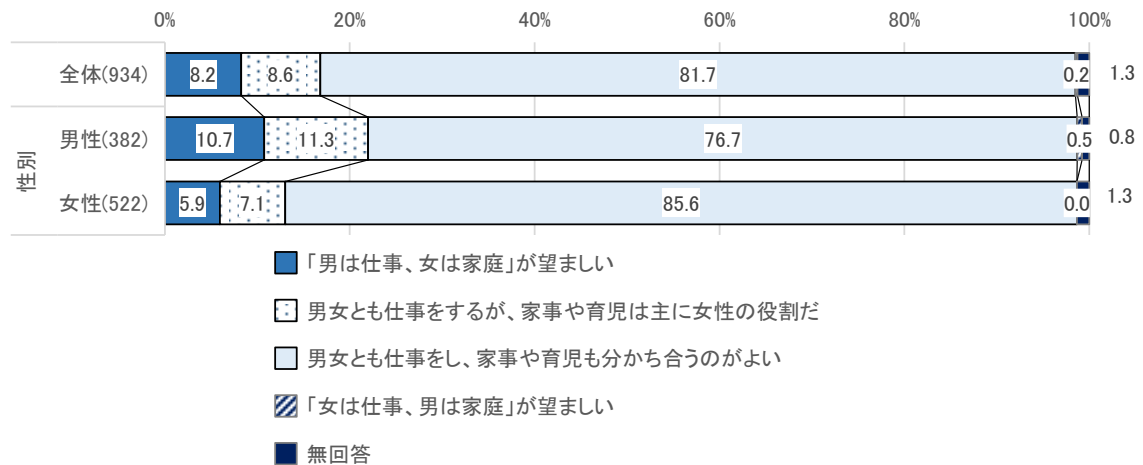
性・年代別でみると、いずれの性・年代でも「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」と答えた割合が最も高いが、男性では概ね年代が上がるに従ってその割合が低くなる傾向がみられ、30代以下では80%以上、40代、50、60代では70%台、70代以上では60%台となっている。また「男は仕事、女は家庭」が望ましい」とする割合は、男性では70代以上で15.9%と最も多く、次いで50代12.1%、60代11.1%となっている。「男女ともに仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ」とする意見も、男性では概ね年代が上がるに従ってその割合が高くなっている。

女性では「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」とする割合が、いずれの年代でも8割を超え、20代以下では94.4%と特に高くなっている。「男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ」とする割合も、50代で10.6%など一定の割合がみられる。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、「男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい」とする割合は、今回調査が81.7%、前回調査は70.4%であり、今回が前回は11.3ポイント上回る。

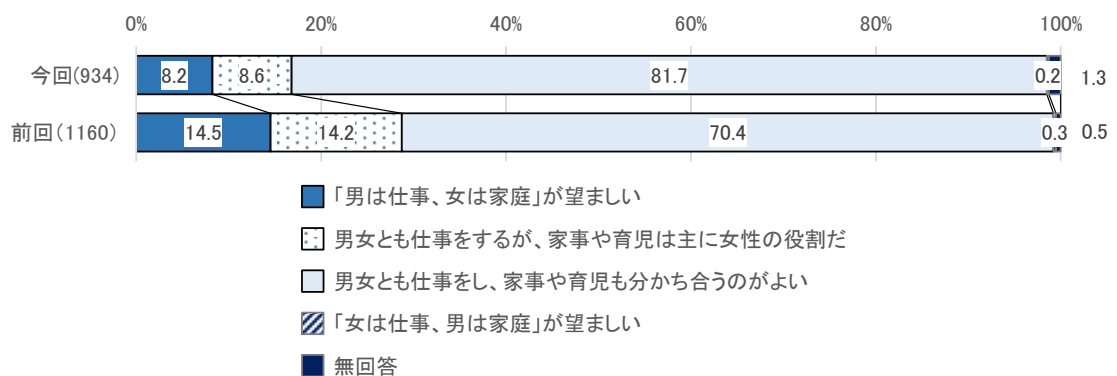
■図表 「男は仕事、女は家庭」という考え方について(全体・性別)



■図表 「男は仕事、女は家庭」という考え方について(性・年代別)

		問2「男は仕事、女は家庭」という考えについて					
		合計	「男は仕事、女は家庭」が望ましい	男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ	男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい	「女は仕事、男は家庭」が望ましい	無回答
全体		934	8.2	8.6	81.7	0.2	1.3
性・年代別	男性20代以下	46	8.7	2.2	87.0	2.2	0.0
	30代	49	4.1	6.1	85.7	0.0	4.1
	40代	61	8.2	13.1	78.7	0.0	0.0
	50代	66	12.1	13.6	74.2	0.0	0.0
	60代	72	11.1	11.1	77.8	0.0	0.0
	70代以上	88	15.9	15.9	65.9	1.1	1.1
	女性20代以下	72	2.8	2.8	94.4	0.0	0.0
	30代	76	6.6	3.9	88.2	0.0	1.3
	40代	97	4.1	9.3	85.6	0.0	1.0
	50代	94	6.4	10.6	83.0	0.0	0.0
60代	82	4.9	8.5	85.4	0.0	1.2	
70代以上	100	10.0	6.0	80.0	0.0	4.0	

■図表 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 前回(平成29年度)



(3)子どもの育て方について(問3)

問3. 子どもの育て方について、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)

◎「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい」とする意見が最も多く5割台半ば。いずれの性・年代でも概ね当該意見が最も多い傾向をしめしているが、「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい」も女性で3割強～4割台半ば。

<全体・性別>

全体でみると、「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい」の割合が最も多く57.3%。ほか「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい」が32.2%、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が7.0%となっている。

性別では、「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい」の割合は男性62.8%、女性54.8%で男性の割合が高く、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」の割合も男性で高く、「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい」の割合は女性で高い傾向がみられる。

<性・年代別>

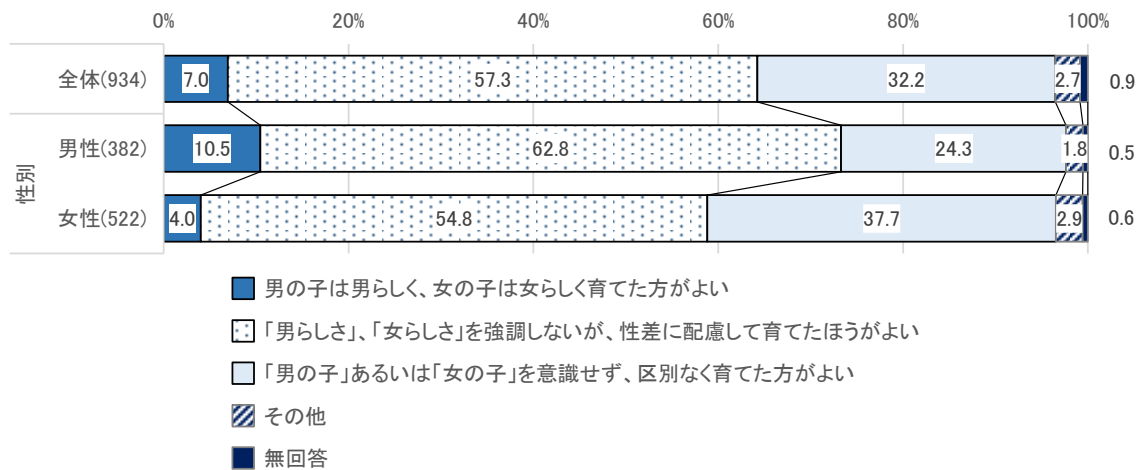
性・年代別でみると、概ねいずれの性・年代でも「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい」と答えた割合が最も高いが、女性の60代では「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい」が最も多くなっている。この割合は女性20代以下も特に高くなっている。男性の40代、50代で「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい」の割合が特に高くなっている。

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」は女性ではいずれの年齢層も1割未満であるのに対して、男性では40代、60代、70代以上で1割を超えており、やや高い傾向を示している。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい」とする割合は、今回調査が57.3%、前回調査は57.6%であり、ほぼ同じ傾向を示しているが、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」では今回が前回は9.1ポイント下回り、「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい」では今回が前回は7.1ポイント上回っている。

■図表 子どもの育て方について(全体・性別)



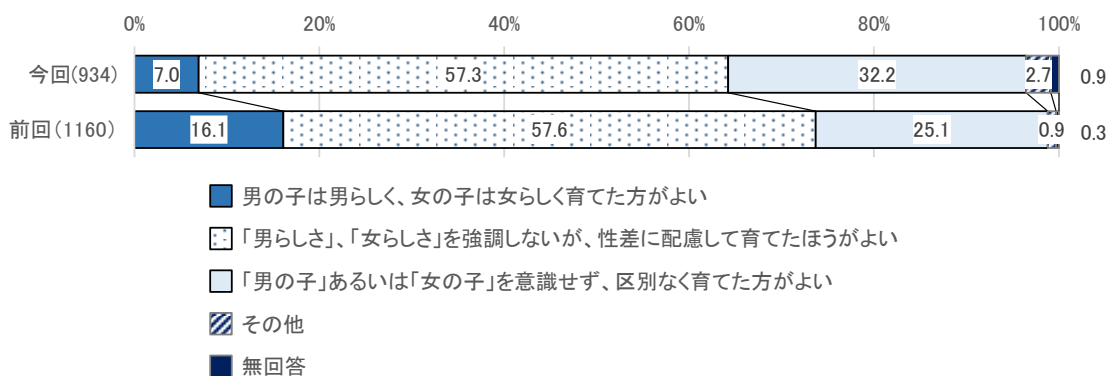
【主なその他回答】

・子どもを、ひとりの人としてみる意識を持ち、個々人の配慮で育てた方がよい／性差に配慮し強制しないなど

■図表 子どもの育て方について(性・年代別)

		問3 子どもの育て方について				
		合計	男の子は男らしく、 女の子は女らしく育 てた方がよい	「男らしさ」、「女らし さ」を強調しないが、 性差に配慮して育て たほうがよい	「男の子」あるいは 「女の子」を意識せ ず、区別なく育てた 方がよい	その他
全体		934	7.0	57.3	32.2	2.7
性・年代別	男性20代以下	46	6.5	56.5	32.6	4.3
	30代	49	4.1	65.3	28.6	2.0
	40代	61	13.1	70.5	14.8	1.6
	50代	66	9.1	68.2	19.7	1.5
	60代	72	11.1	62.5	25.0	1.4
	70代以上	88	14.8	55.7	27.3	1.1
	女性20代以下	72	1.4	51.4	43.1	4.2
	30代	76	0.0	60.5	38.2	1.3
	40代	97	1.0	58.8	32.0	6.2
	50代	94	7.4	56.4	35.1	1.1
	60代	82	4.9	43.9	46.3	4.9
	70代以上	100	8.0	56.0	35.0	0.0

■図表 子どもの育て方について 前回(平成29年度)



(4)男女が平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて(問4)
問4. 男女がともに平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて、あなたの考え方に近いものを、全て選んでください。(MA)

◎全体では、いずれの項目も4割強～5割台半ばで顕著な差異はみられない。
◎「家族間の固定観念の意識改革が必要」の割合は、女性が男性を13.5ポイント上回る。

<全体・性別>

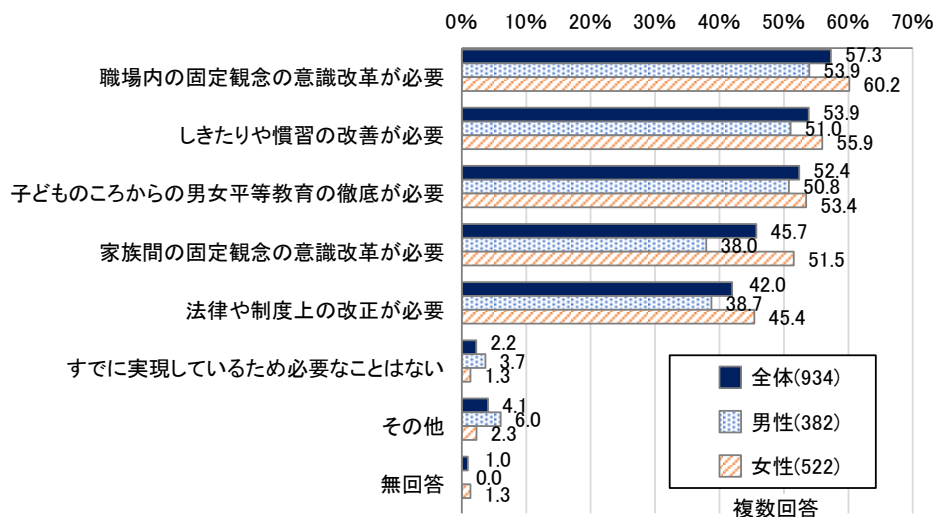
全体でみると、「職場内の固定観念の意識改革が必要」とする割合が57.3%、「しきたりや慣習の改善が必要」が53.9%、「子どものころからの男女平等教育の徹底が必要」が52.4%で、次いで「家族間の固定観念の意識改革が必要」が45.7%、「法律や制度上の改正が必要」が42.0%といずれの項目も4割強～5割台半ばと大きな差異はない状況にある。

性別にみても上位の3項目は変わらず、その割合も男女間で大きな差異はみられないが、「家族間の固定観念の意識改革が必要」では、男性38.0%に対し女性51.5%と開きがあり、女性が13.5ポイント高くなっている。

<年代別>

年代別でみると、20代以下、30代、40代、60代で「職場内の固定観念の意識改革が必要」とする割合が最も高いが、50代では「しきたりや慣習の改善が必要」が、70代以上では「子どものころからの男女平等教育の徹底が必要」が最も多くなっている。

■図表 男女が平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なこと(全体・性別)



【主なその他回答】

・各々が意見を存分に言えるができる関係性／「平等」という意識をなくすこと必要なのは相手を思いやる気持ちなど

■図表 男女が平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なこと(年代別)

		合計	問4 男女がともに平等な関係を築き、生き生きと暮らす社会を実現するために必要なこと							
			職場内の固定 観念の意識改 革が必要	家族間の固定 観念の意識改 革が必要	法律や制度上 の改正が必要	しきたりや慣習 の改善が必要	子どものころか らの男女平等 教育の徹底が 必要	すでに実現し ているため必 要なことはない	その他	無回答
全体		934	57.3	45.7	42.0	53.9	52.4	2.2	4.1	1.0
年代	20代以下	125	57.6	43.2	46.4	51.2	48.0	3.2	4.8	0.0
	30代	126	57.9	46.0	47.6	57.1	51.6	3.2	5.6	0.0
	40代	161	57.1	49.1	44.1	53.4	54.7	1.9	6.2	1.2
	50代	164	55.5	39.6	46.3	60.4	48.2	1.8	1.8	0.6
	60代	154	66.2	51.3	42.9	62.3	57.8	1.3	3.9	0.6
	70代以上	190	53.2	46.8	30.5	42.1	54.2	2.6	2.1	1.6

2. 家庭生活について

(1) 家事・育児・介護の役割について(問5)

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(SA)

問ア) 家事の役割

- ◎『家事』では「男女が協力し合っている」とする意見が最も多く8割強で、「女性が主に担う」は1割台半ば。
- ◎性・年代別にみても「男女が協力し合っている」意見が最も多いが、男女ともに60代以上でそれ以下の年代よりも「女性が主に担う」とする意見が多い傾向。
- ◎前回比較でも全体としては「男女が協力し合っている」とする意見が最も多く、「女性が主に担う」割合が減少。

<全体・性別>

全体でみると、家事は「男女が協力し合っている」割合が最も多く82.2%、次いで「女性が主に担う」が13.6%、「男性が主に担う」と「有料のサービスを利用する」はともに1%前後と極めて少ない。性別にみると、「女性が主に担う」で男性の方が女性より5.4ポイント高くなっている。

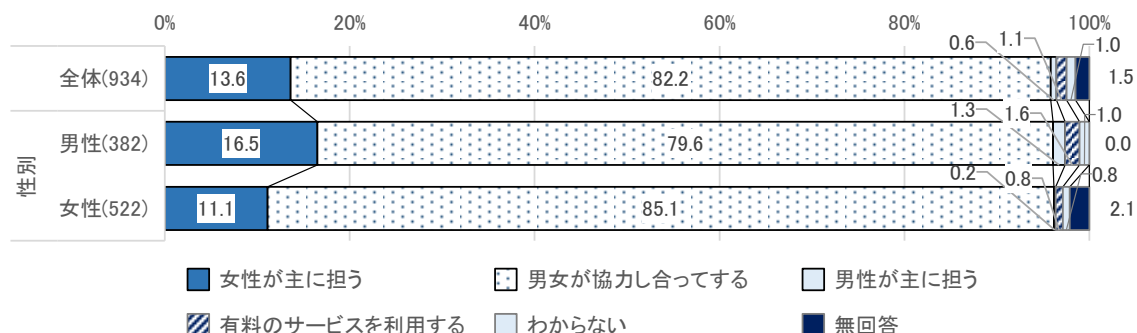
<性・年代別>

性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「男女が協力し合っている」とする割合が最も多く73.9～91.5%となっているが、男女とも60代以上では「女性が主に担う」の割合が若い年代よりも高い傾向がみられる。「男性が主に担う」および「有料のサービスを利用する」割合はいずれの性・年代でも0～数%と極めて少ない状況にある。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、いずれも「男女が協力し合っている」割合が最も多くて今回調査82.2%、前回調査76.2%、次いで「女性が主に担う」割合は、今回13.6%、前回20.4%となっており、「女性が主に担う」割合が減少している。

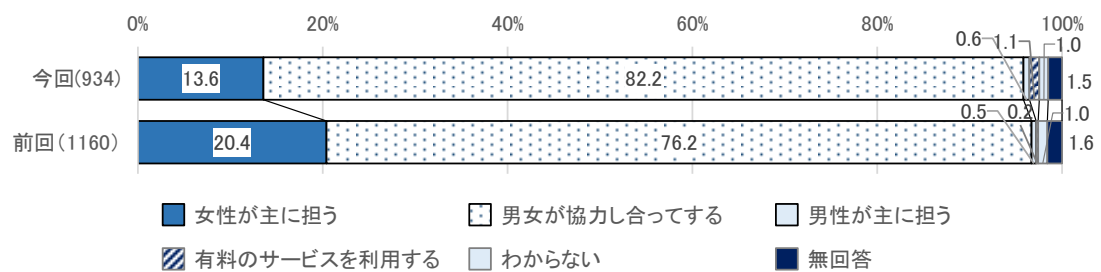
■図表 家事の役割(全体・性別)



■図表 家事の役割(性・年代別)

		問5ア) 家事						
		合計	女性が主に担う	男女が協力し合っている	男性が主に担う	有料のサービスを利用する	わからない	無回答
全体		934	13.6	82.2	0.6	1.1	1.0	1.5
性・年代別	男性20代以下	46	4.3	84.8	4.3	2.2	4.3	0.0
	30代	49	10.2	83.7	2.0	4.1	0.0	0.0
	40代	61	13.1	83.6	0.0	1.6	1.6	0.0
	50代	66	18.2	78.8	1.5	1.5	0.0	0.0
	60代	72	22.2	77.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	70代以上	88	22.7	73.9	1.1	1.1	1.1	0.0
	女性20代以下	72	5.6	88.9	1.4	2.8	0.0	1.4
	30代	76	11.8	85.5	0.0	1.3	0.0	1.3
	40代	97	10.3	87.6	0.0	1.0	0.0	1.0
	50代	94	6.4	91.5	0.0	0.0	0.0	2.1
	60代	82	13.4	80.5	0.0	0.0	2.4	3.7
	70代以上	100	18.0	77.0	0.0	0.0	2.0	3.0

■図表 家事の役割 前回(平成29年度)



問5イ)育児の役割

- ◎『育児』では「男女が協力し合っている」意見が最も多く8割台半ばで、「女性が主に担う」は1割弱。性別で見ると、「女性が主に担う」とする割合は男性が女性を約6ポイント上回る。
- ◎性・年代別にみても「男女が協力し合っている」意見が最も多いが、「女性が主に担う」とする割合は、20代以下を除いて概ねどの年代でも男性が女性を上回る。
- ◎前回比較では、「女性が主に担う」とする割合が低下している。

<全体・性別>

全体で見ると、「男女が協力し合っている」割合が最も多く84.8%。次いで「女性が主に担う」が9.5%。「男性が主に担う」と「有料のサービスを利用する」はともに1%未満と極めて少ない。

性別にみても男女ともに「男女が協力し合っている」割合が最も高いが、男性は女性より「男女が協力し合っている」割合は4.3ポイント低く「女性が主に担う」割合が5.7ポイント高くなっている。

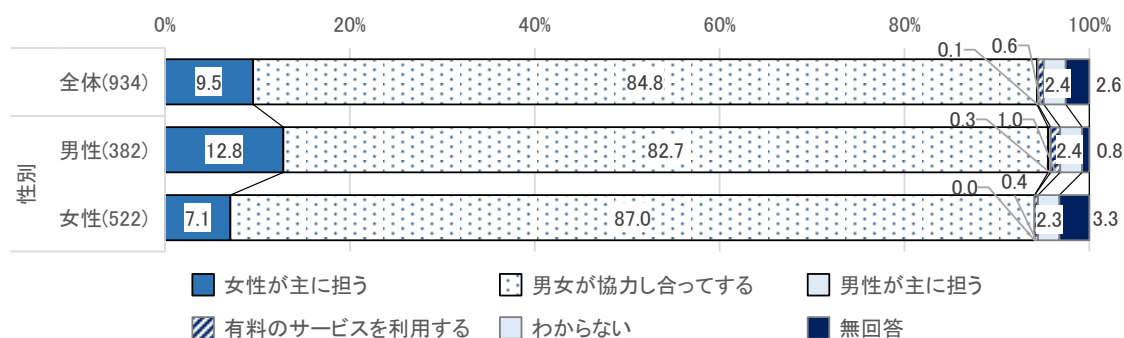
<性・年代別>

性・年代別で見ると、男女ともいずれの年代でも「男女が協力し合っている」割合が最も多くなっているが、20代以下を除いて、概ね女性よりも男性で「女性が担う」とする割合が高い傾向がみられる。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、「男女が協力し合っている」割合が、今回調査84.8%、前回調査77.5%でいずれも高く、次いで「女性が主に担う」が今回調査9.5%、前回調査15.9%であり、6.4ポイント低くなっている。

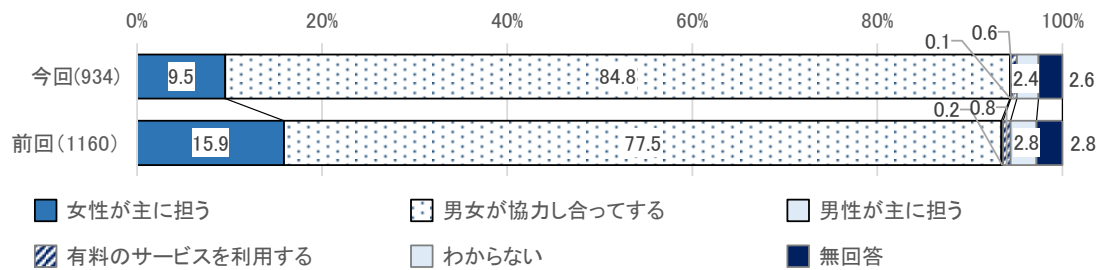
■図表 育事の役割(全体・性別)



■図表 育事の役割(性・年代別)

		問5イ) 育児						
		合計	女性が主に担う	男女が協力し合っている	男性が主に担う	有料のサービスを利用する	わからない	無回答
全体		934	9.5	84.8	0.1	0.6	2.4	2.6
性・年代別	男性20代以下	46	6.5	82.6	0.0	4.3	6.5	0.0
	30代	49	10.2	85.7	0.0	4.1	0.0	0.0
	40代	61	9.8	90.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	66	15.2	77.3	0.0	0.0	7.6	0.0
	60代	72	13.9	86.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	70代以上	88	17.0	77.3	1.1	0.0	1.1	3.4
	女性20代以下	72	8.3	86.1	0.0	1.4	2.8	1.4
	30代	76	7.9	89.5	0.0	0.0	1.3	1.3
	40代	97	7.2	88.7	0.0	0.0	3.1	1.0
	50代	94	7.4	87.2	0.0	0.0	3.2	2.1
	60代	82	6.1	85.4	0.0	0.0	2.4	6.1
	70代以上	100	6.0	85.0	0.0	1.0	1.0	7.0

■図表 育事の役割 前回(平成29年度)



問5ウ)介護の役割

- ◎『介護』では「男女が協力し合っている」意見が最も多く6割近くで、「有料のサービスを利用する」が3割弱。
- ◎いずれの性・年代でも「男女が協力し合っている」意見が最も多い。
- ◎前回と比較すると、「有料のサービスを利用する」とする割合が増加。

<全体・性別>

全体でみると、「男女が協力し合っている」割合が最も多く57.9%。次いで「有料のサービスを利用する」が29.6%。「女性が主に担う」は2.5%で「男性が主に担う」は1.3%である。

性別にみると、男女ともに「男女が協力し合っている」割合が最も多く、次いで「有料のサービスを利用する」が続くが、「有料のサービスを利用する」の割合は男性28.0%、女性30.8%と女性で2.8ポイント高くなっている。

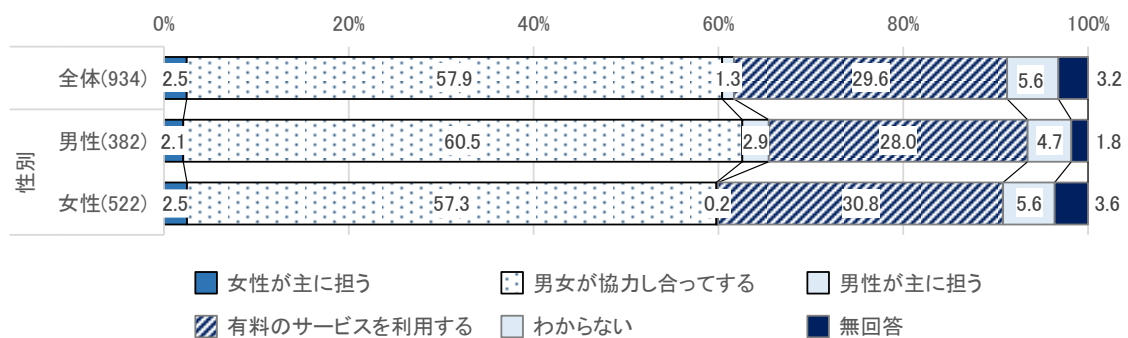
<性・年代別>

性・年代別でみると、いずれも「男女が協力し合っている」割合が46.1~69.4%と最も高いが、男性30代で、「有料のサービスを利用する」が他の年齢層に比べて特に高くなっている。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、いずれも「男女が協力し合っている」の割合が高く今回と前回で値に大きな差異はないが（今回57.9%、前回57.7%）、「有料のサービスを利用する」と答えた割合は、今回調査29.6%、前回調査25.3%と、前回より4.3ポイント増加している。

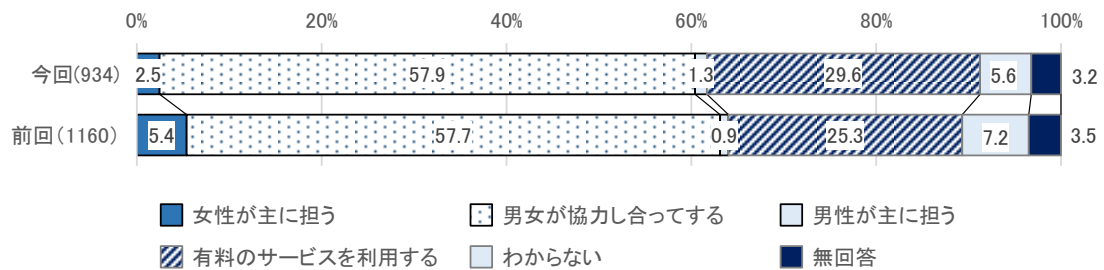
■図表 介護の役割(全体・性別)



■図表 介護の役割(性・年代別)

		合計	問5ウ)介護					
			女性が主に担う	男女が協力し合っている	男性が主に担う	有料のサービスを利用する	わからない	無回答
全体		934	2.5	57.9	1.3	29.6	5.6	3.2
性・年代別	男性20代以下	46	4.3	50.0	4.3	32.6	8.7	0.0
	30代	49	2.0	51.0	0.0	42.9	4.1	0.0
	40代	61	0.0	62.3	4.9	24.6	4.9	3.3
	50代	66	1.5	59.1	3.0	30.3	6.1	0.0
	60代	72	2.8	69.4	1.4	22.2	2.8	1.4
	70代以上	88	2.3	63.6	3.4	22.7	3.4	4.5
	女性20代以下	72	0.0	52.8	1.4	37.5	4.2	4.2
	30代	76	3.9	46.1	0.0	38.2	10.5	1.3
	40代	97	4.1	63.9	0.0	28.9	2.1	1.0
	50代	94	2.1	55.3	0.0	37.2	3.2	2.1
	60代	82	1.2	56.1	0.0	28.0	8.5	6.1
	70代以上	100	3.0	66.0	0.0	18.0	6.0	7.0

■図表 介護の役割 前回(平成29年度)



(2)子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なこと(問6)

問6. 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

◎「長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要」の割合が最も多く、次いで「子育て世帯に対する経済的支援が必要」、「育児に対する社会の理解と協力が必要」、「長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要」が続き、いずれも5割以上。

<全体・性別>

全体でみると、「長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要」の割合が最も多く65.5%。次いで「子育て世帯に対する経済的支援が必要」で57.4%、「育児に対する社会の理解と協力が必要」が53.7%、「長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要」が51.5%、「防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要」が48.0%、「児童クラブなど放課後児童が過ごせる場所の整備が必要」が45.1%「保育施設の拡充が必要」が42.6%、と続く。

性別にみると、女性では「長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要」の割合が最も高いが、男性では「子育て世帯に対する経済的支援」の割合が最も高く、女性の値を14.4ポイント上回る。また、女性で割合が高いのは、「育児に対する社会の理解と協力が必要」が54.6%、「長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要」が53.3%「防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要」で52.5%となっている。

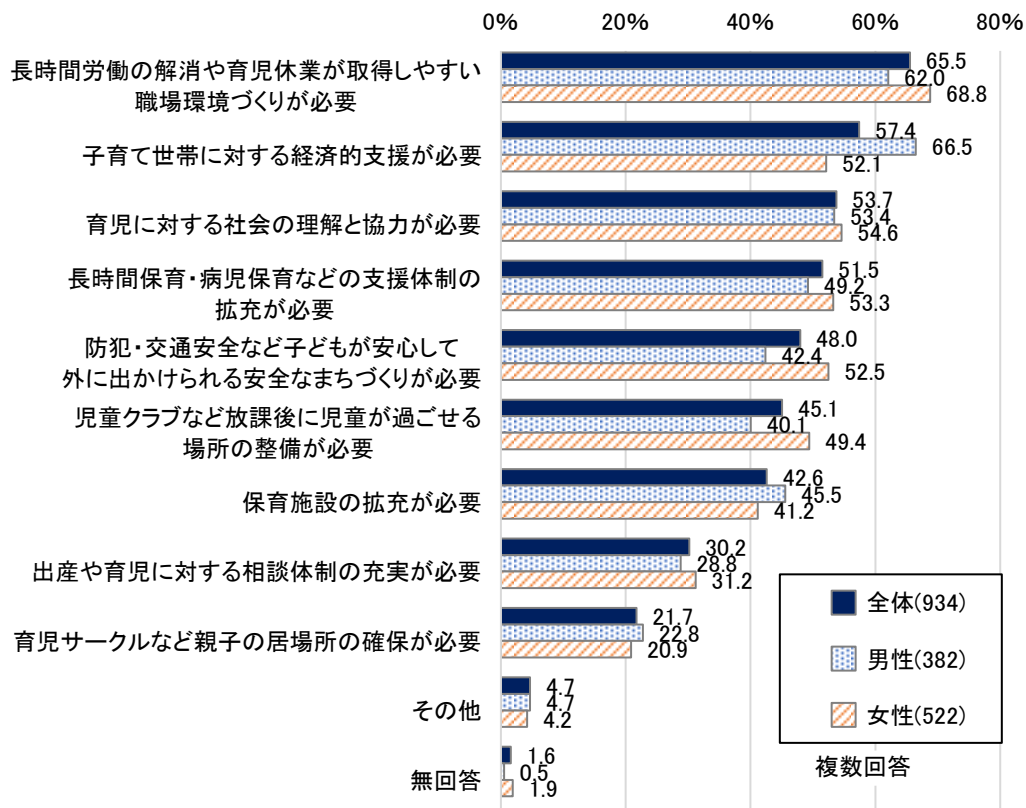
<性・年代別>

性・年代別でみると、男女ともに30代以下と男性50代、70代以上で「子育て世帯に対する経済的支援」の割合が最も多く、男性40代、60代と女性の40代以上で、「長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要」が最も高い。

全体と比較すると、男性20代以下で「子育て世帯に対する経済的支援」、「長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要」の割合が特に高く、男性30代では「子育て世帯に対する経済的支援」、男性60代では「長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要」、「保育施設の拡充が必要」、「児童クラブなど放課後児童が過ごせる場所の整備が必要」の割合が特に高い。

また、女性20代以下で「子育て世帯に対する経済的支援」、「育児に対する社会の理解と協力が必要」、「出産や育児に対する相談体制の充実が必要」の割合が、女性30代では「子育て世帯に対する経済的支援」、「防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要」、女性60代では「長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要」、「児童クラブなど放課後児童が過ごせる場所の整備が必要」、「育児に対する社会の理解と協力が必要」、「出産や育児に対する相談体制の充実が必要」、「防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要」の割合が特に高い。

■図表 子どもを産み、育てやすくする環境を作るために必要なこと(全体・性別)



【主なその他回答】

・若い人の年収を上げる／職場の理解はマスト／学校になじめない子ども達の受け入れ場所の体制や充実など

■図表 子どもを産み、育てやすくする環境を作るために必要なこと(性・年代別)

		問6 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なこと											
		合計	子育て世帯に対する経済的支援が必要	長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要	保育施設の拡充が必要	育児サークルなど親子の居場所の確保が必要	児童クラブなど放課後に児童が過ごせる場所の整備が必要	育児に対する社会の理解と協力が必要	出産や育児に対する相談体制の充実が必要	長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要	防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要	その他	無回答
全体		934	57.4	51.5	42.6	21.7	45.1	53.7	30.2	65.5	48.0	4.7	1.6
性・年代別	男性20代以下	46	80.4	39.1	43.5	17.4	19.6	63.0	30.4	78.3	32.6	8.7	0.0
	30代	49	83.7	46.9	42.9	24.5	34.7	61.2	36.7	69.4	44.9	4.1	0.0
	40代	61	62.3	52.5	36.1	13.1	39.3	42.6	16.4	63.9	44.3	9.8	0.0
	50代	66	56.1	48.5	40.9	21.2	33.3	50.0	18.2	47.0	42.4	1.5	0.0
	60代	72	59.7	62.5	62.5	30.6	55.6	48.6	36.1	66.7	43.1	4.2	1.4
	70代以上	88	65.9	43.2	44.3	26.1	46.6	58.0	34.1	55.7	44.3	2.3	1.1
	女性20代以下	72	81.9	55.6	47.2	13.9	38.9	65.3	40.3	73.6	48.6	0.0	2.8
	30代	76	77.6	53.9	48.7	21.1	53.9	60.5	30.3	69.7	60.5	9.2	1.3
	40代	97	50.5	53.6	42.3	21.6	51.5	58.8	27.8	69.1	48.5	5.2	0.0
	50代	94	31.9	54.3	33.0	21.3	44.7	45.7	29.8	67.0	48.9	3.2	1.1
	60代	82	37.8	65.9	41.5	31.7	58.5	64.6	41.5	70.7	64.6	7.3	3.7
	70代以上	100	44.0	40.0	37.0	16.0	49.0	38.0	22.0	65.0	47.0	1.0	3.0

3. 就労意識について

(1) 育児や介護の休暇・休業制度の認知と利用状況(問7-1)

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。ア)～エ)について当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。(SA)

問7ア)育児休業の認知と利用状況

- ◎『育児休業』では「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多く4割台半ば。「制度を知っている(利用した)」割合は1割未満。
- ◎職業別で、「学生」で「制度を知らない」の割合が特に高い。
- ◎お子さんの段階別で、「制度を知っている(利用していない)必要だった」割合が最も高いのは「中学生」。

<全体・性別>

全体でみると、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多く43.7%。次いで「制度を知っている(利用していない)必要だった」が21.3%、「制度を知らない」が16.3%であり、「制度を知っている(利用した)」割合が最も低く7.9%となっている。

性別にみると、男女ともに「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多くて45%前後となっているが、男性では女性よりも「制度を知っている(利用していない)必要だった」と「制度を知らない」の割合が、それぞれ4.6ポイント、0.6ポイント高くなっている。ほか「制度を知っている(利用した)」と回答した割合は、女性11.3%に対し男性3.4%で、7.9ポイントの差がみられる。

<年代別>

年代別でみると、いずれの年代でも「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多くなっているほか、40代では「制度を知っている(利用した)」、70代では「制度を知らない」の割合が特に高くなっている。

<職業別>

職業別でみると、いずれの職業でも「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多くなっているほか、学生では「制度を知らない」の割合が特に高くなっている。

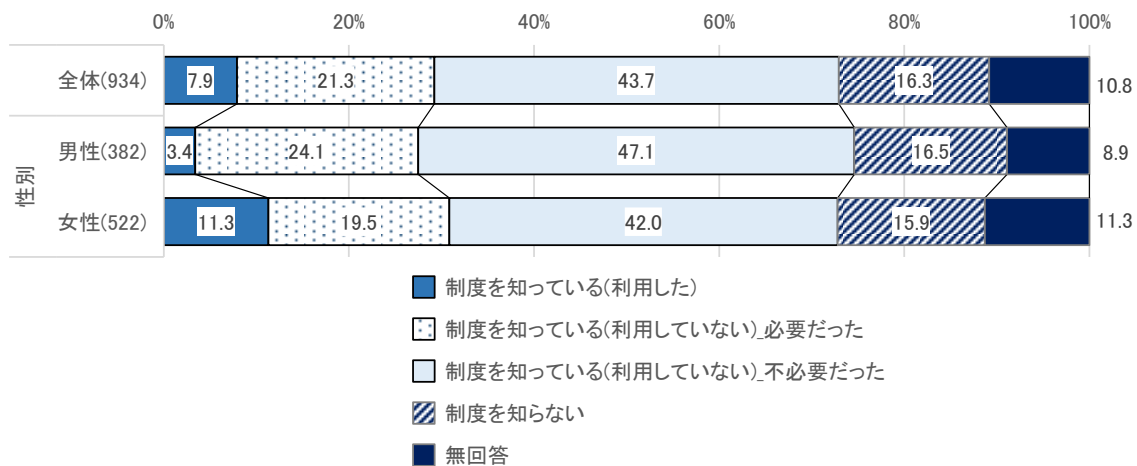
<お子さんの段階別(MA)>

お子さんの段階別でみると、小学校入学前を除いて「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多くなっており、小学校入学前では「制度を知っている(利用した)」割合が最も多くなっている。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が今回調査では43.7%、前回調査では44.9%とほぼ同じ結果となっている。

■図表 育児休業の認知と利用状況(全体・性別)

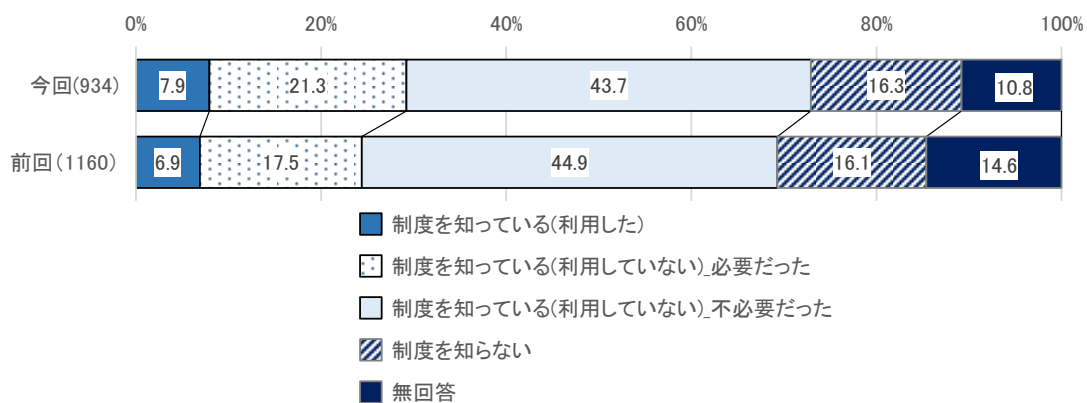


■図表 育児休業の認知と利用状況(年代別／職業別／お子さんの段階別(MA))

		問7-1ア 育児休業(育児のために一定期間休業できる制度)				
		合計	制度を知っている(利用した)	制度を知っている(利用していない)_必要だった	制度を知っている(利用していない)_不必要だった	制度を知らない
全体		934	7.9	21.3	43.7	16.3
年代	20代以下	125	4.0	13.6	50.4	20.8
	30代	126	16.7	23.8	40.5	11.9
	40代	161	19.3	21.1	44.1	10.6
	50代	164	4.9	27.4	50.0	12.2
	60代	154	1.9	23.4	51.3	14.3
	70代以上	190	2.6	17.9	31.1	26.8
職業	経営者、管理職、	103	8.7	24.3	50.5	10.7
	従業員、事務職、専門職	292	14.4	23.6	44.2	11.0
	パート、アルバイト	175	5.1	19.4	48.0	16.6
	家事専業	129	7.8	20.9	45.0	11.6
	学生	42	0.0	4.8	40.5	38.1
	無職	153	1.3	19.6	38.6	25.5
お子さんの段階	小学校入学前	93	36.6	29.0	30.1	3.2
	小学生	87	24.1	28.7	39.1	4.6
	中学生	64	15.6	39.1	40.6	3.1
	高校生以上の学生	85	12.9	24.7	50.6	9.4
	学生以外	358	3.9	24.9	39.1	18.4
	子どもはいない	318	0.3	13.2	54.4	20.1

※属性「職業」の選択肢のうち学生は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

■図表 育児休業の認知と利用状況 前回(平成29年度)



問7イ)子の看護休暇の認知と利用状況

◎『子の看護休暇』では、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が男性で4割強、女性で3割台半ばを占める。

◎年代別では、40代、70代以上で「制度を知らない」割合が高い。

◎職業別では、「パート、アルバイト」、「学生」、「無職」で「制度を知らない」割合が高い。

◎お子さんの段階別では、「中学生」で「制度を知っている(利用していない)必要だった」割合が高い。

<全体・性別>

全体でみると、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が37.9%。次いで「制度を知らない」が28.4%、「制度を知っている(利用していない)必要だった」が18.0%、「制度を知っている(利用した)」が3.9%となっている。

性別にみても、男女ともに「制度を知っている(利用していない)不必要だった」と「制度を知らない」の割合が高くなっている。

<年代別>

年代別でみると、40代、70代以上で「制度を知らない」の割合が最も高く、その他の年代では「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が最も高くなっている。

<職業別>

職業別でみると、パート、アルバイト、学生、無職で「制度を知らない」割合が最も高く、その他の職業では「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が最も高くなっている。

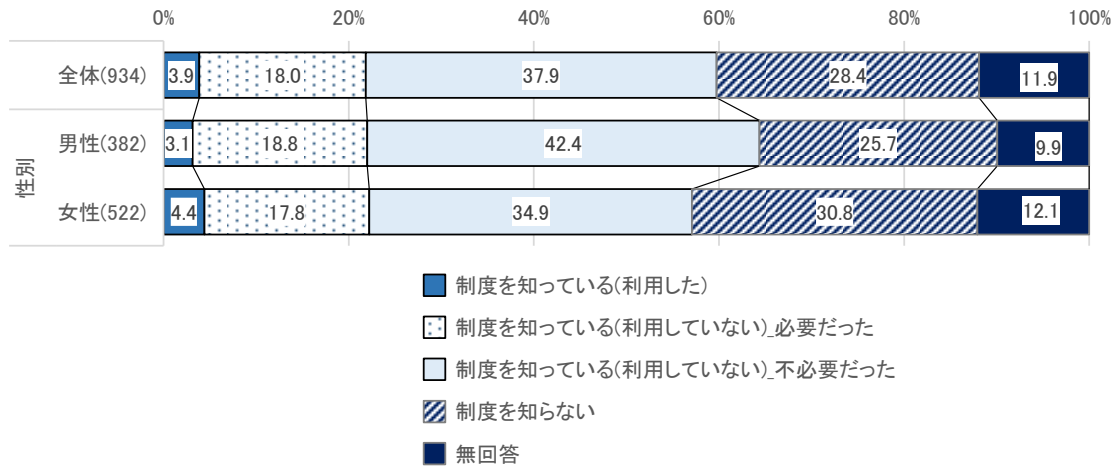
<お子さんの段階別(MA)>

お子さんの段階別でみると、中学生を除いて「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も高くなっており、中学生では「制度を知っている(利用していない)必要だった」割合が最も高くなっている。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が今回調査では37.9%、前回調査では35.0%とほぼ同じ結果となっている。

■図表 子の看護休暇の認知と利用状況(全体・性別)

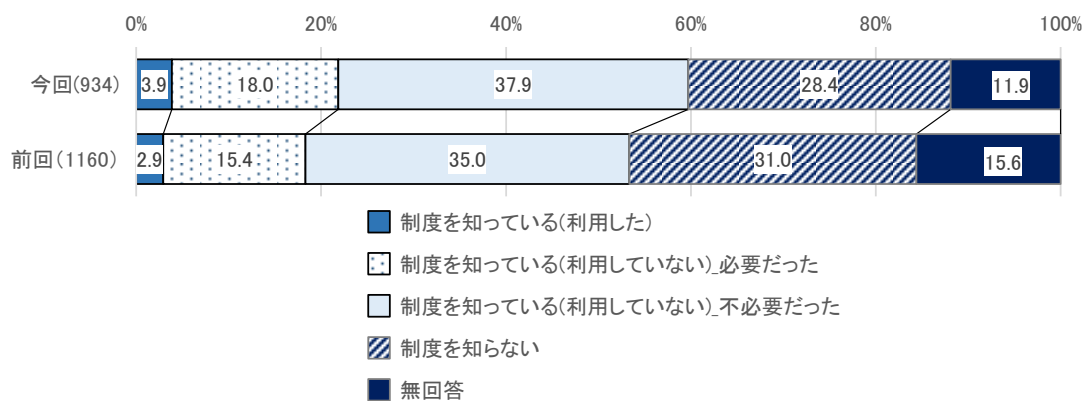


■図表 子の看護休暇の認知と利用状況(年代別／職業別／お子さんの段階別(MA))

		合計	問7-1イ) 子の看護休暇(病気等の子どもの看護のための年5日程度の)				
			制度を知っている(利用した)	制度を知っている(利用していない)必要だった	制度を知っている(利用していない)不必要だった	制度を知らない	無回答
全体		934	3.9	18.0	37.9	28.4	11.9
年代	20代以下	125	1.6	10.4	44.8	30.4	12.8
	30代	126	7.1	16.7	42.9	26.2	7.1
	40代	161	9.9	18.0	31.7	34.8	5.6
	50代	164	3.0	26.2	42.7	22.6	5.5
	60代	154	0.0	23.4	44.2	24.0	8.4
	70代以上	190	2.1	12.6	27.4	33.2	24.7
職業	経営者、管理職、	103	4.9	22.3	48.5	18.4	5.8
	従業員、事務職、専門職	292	7.9	20.9	43.2	20.2	7.9
	パート、アルバイト	175	1.7	18.3	34.3	34.3	11.4
	家事専業	129	1.6	15.5	36.4	31.8	14.7
	学生	42	0.0	4.8	31.0	47.6	16.7
	無職	153	1.3	14.4	32.7	34.0	17.6
お子さんの段階)	小学校入学前	93	17.2	18.3	34.4	24.7	5.4
	小学生	87	18.4	14.9	33.3	29.9	3.4
	中学生	64	4.7	34.4	26.6	32.8	1.6
	高校生以上の学生	85	5.9	24.7	34.1	32.9	2.4
	学生以外	358	1.4	22.1	33.5	28.2	14.8
	子どもはいない	318	0.3	10.7	47.8	29.2	11.9

※属性「職業」の選択肢のうち学生は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

■図表 子の看護休暇の認知と利用状況 前回(平成29年度)



問7ウ)介護休業の認知と利用状況

- ◎介護休業では、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多く約4割、「制度を知らない」が3割弱。
- ◎年代別では、70代以上で「制度を知らない」割合が高い。
- ◎職業別では家事専業、学生、無職では「制度を知らない」割合が高い。

<全体・性別>

全体でみると、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」の割合が最も多くて40.9%。次に「制度を知らない」が29.9%、「制度を知っている(利用していない)必要だった」が、16.8%。「制度を知っている(利用した)」は0.9%となっている。

性別にみても、男女ともに「制度を知っている(利用していない)不必要だった」の割合が全体と同様に最も高いが、男性44.2%、女性39.1%と男性の方が5.1ポイント高くなっている。

<年代別>

年代別でみると、70代以上を除いていずれの年代も「制度を知っている(利用していない)不必要だった」の割合が最も高い。70代以上は「制度を知らない」が最も高い。

<職業別>

職業別でみると、経営者、管理職や従業員、事務職、専門職、パート、アルバイトでは「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多く、特に経営者、管理職では54.4%と半数を超えている。家事専業、学生、無職では「制度を知らない」割合が最も高い。

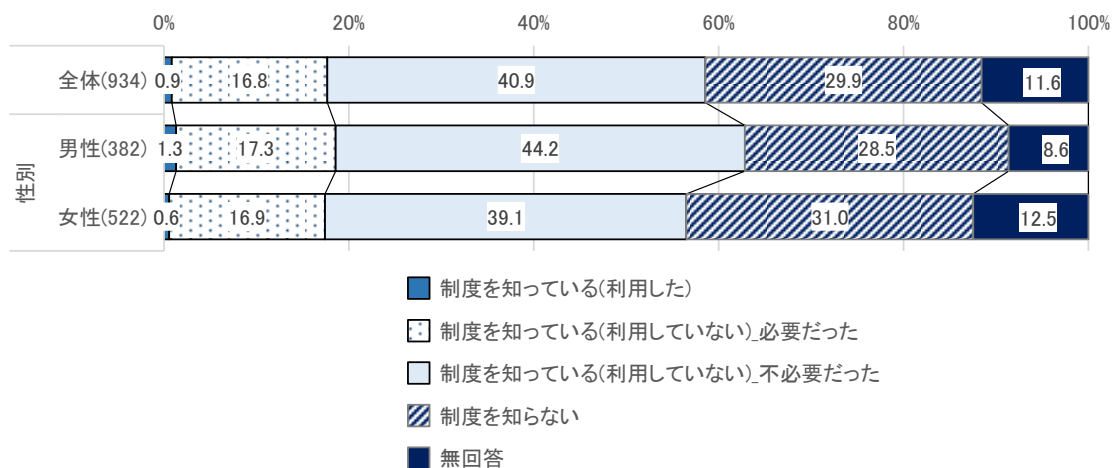
<介護が必要な家族の有無別(MA)>

介護が必要な家族の有無別でみると、自身の親(別居)、配偶者の親(別居)では「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が最も高かったが、「制度を知っている(利用していない)必要だった」の割合も高くなっている。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、いずれも「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多くて今回調査40.9%、前回調査39.1%、次いで「制度を知らない」割合は、今回29.9%、前回30.2%となっており、同様の傾向がみられる。

■図表 介護休業の認知と利用状況(全体・性別)

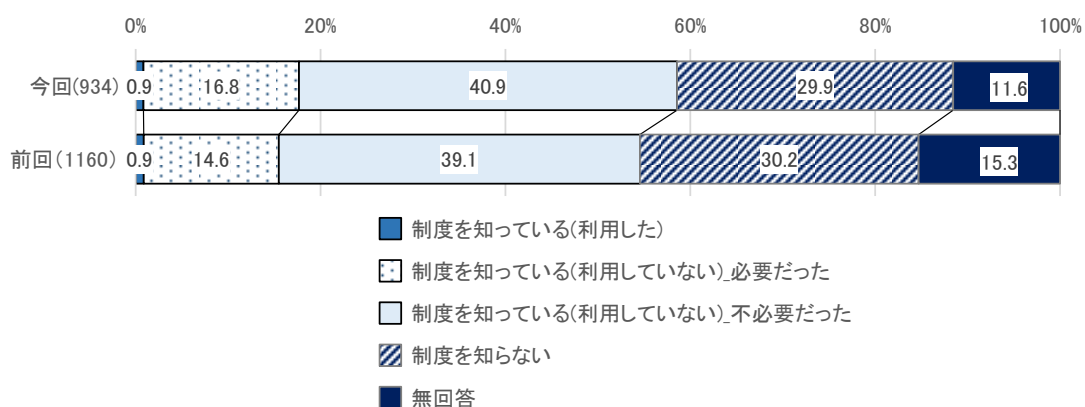


■図表 介護休業の認知と利用状況(年代別／職業別／介護が必要なご家族の有無別(MA))

			問7-1ウ) 介護休業(介護のために一定期間休業できる制度)				
		合計	制度を知っている(利用した)	制度を知っている(利用していない) 必要だった	制度を知っている(利用していない) 不要だった	制度を知らない	無回答
全体		934	0.9	16.8	40.9	29.9	11.6
年代	20代以下	125	0.0	10.4	42.4	35.2	12.0
	30代	126	2.4	11.1	53.2	25.4	7.9
	40代	161	0.0	12.4	50.3	31.1	6.2
	50代	164	1.2	28.7	42.1	23.2	4.9
	60代	154	1.3	25.3	35.1	29.2	9.1
	70代以上	190	0.5	11.6	29.5	35.8	22.6
職業	経営者、管理職、	103	1.9	17.5	54.4	20.4	5.8
	従業員、事務職、専門職	292	1.4	20.2	48.6	22.3	7.5
	パート、アルバイト	175	1.1	17.1	38.9	30.9	12.0
	家事専業	129	0.0	14.7	34.9	37.2	13.2
	学生	42	0.0	2.4	31.0	50.0	16.7
	無職	153	0.0	14.4	32.7	35.3	17.6
介護が必要な家族の有無	自身の親(同居)	21	4.8	47.6	19.0	4.8	23.8
	自身の親(別居)	92	3.3	29.3	39.1	27.2	1.1
	配偶者の親(同居)	9	0.0	11.1	33.3	55.6	0.0
	配偶者の親(別居)	53	1.9	30.2	35.8	26.4	5.7
	その他(同居)	25	4.0	32.0	12.0	32.0	20.0
	その他(別居)	31	3.2	22.6	35.5	32.3	6.5
	いない	702	0.4	13.2	43.6	31.2	11.5

※属性「介護が必要なご家族の有無」の選択肢のうち「配偶者の親(同居)」「その他(同居)」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

■図表 介護休業の認知と利用状況 前回(平成29年度)



問7エ)介護休暇の認知と利用状況

- ◎『介護休暇』では、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が4割近くを占め、男性では4割台半ば、女性では3割台半ば。
- ◎年代別では、ほとんどの年代で「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が最も高い。
- ◎家事専業、学生、無職では「制度を知らない」割合が最も多く、「学生」では半数を超える。

<全体・性別>

全体でみると、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が38.3%、「制度を知らない」が32.1%と3割台で、「制度を知っている(利用していない)必要だった」が16.3%。「制度を知っている(利用した)」は1.2%となっている。

性別にみても、男女における回答の傾向も、全体とほぼ同様の傾向になっているが、「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が、男性42.9%、女性35.6%と男性の方が7.3ポイント高くなっている。

<年代別>

年代別でみると、70代以上を除いて「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が最も多く、30代では特に高くなっている。また、50代で「制度を知っている(利用していない)必要だった」の割合が特に高くなっている。

<職業別>

職業別でみると、経営者、管理職や従業員、事務職、専門職、パート、アルバイトでは「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多く、特に経営者、管理職では52.4%と半数を超えている。家事専業、学生、無職では「制度を知らない」割合が最も多く、学生では52.4%と半数を超えている。

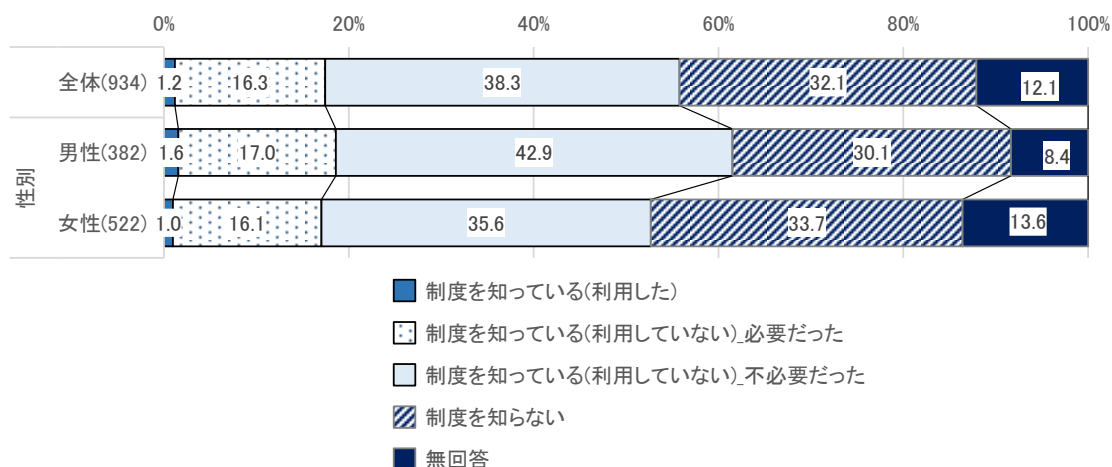
<介護が必要な家族の有無別(MA)>

介護が必要な家族の有無別でみると、自身の親(別居)、配偶者の親(別居)では「制度を知っている(利用していない)不必要だった」が最も高かったが、「制度を知っている(利用していない)必要だった」の割合も特に高くなっている。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、いずれも「制度を知っている(利用していない)不必要だった」割合が最も多く、今回調査38.3%、前回調査36.0%、次いで「制度を知らない」割合は、今回32.1%、前回33.5%となっており、同様の傾向がみられる。

■図表 介護休暇の認知と利用状況(全体・性別)

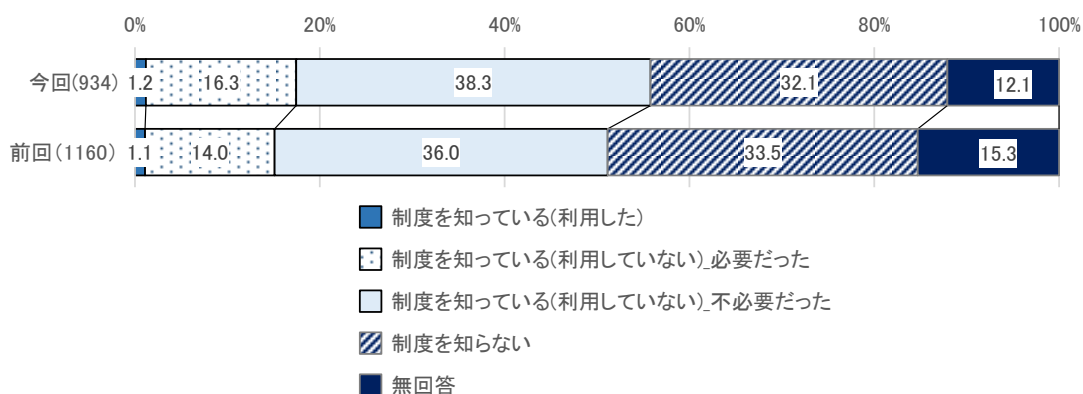


■図表 介護休暇の認知と利用状況(年代別／職業別／介護が必要なご家族の有無別(MA))

		問7-1エ)介護休暇(短期の介護のための年5日程の休暇)				
		合計	制度を知っている(利用した)	制度を知っている(利用していない)_必要だった	制度を知っている(利用していない)_不必要だった	制度を知らない
全体		934	1.2	16.3	38.3	32.1
年代	20代以下	125	0.8	10.4	39.2	37.6
	30代	126	2.4	13.5	49.2	27.0
	40代	161	0.0	12.4	45.3	35.4
	50代	164	1.8	27.4	41.5	24.4
	60代	154	1.3	22.7	35.1	31.8
	70代以上	190	1.1	10.5	26.8	36.8
職業	経営者、管理職、	103	2.9	16.5	52.4	22.3
	従業員、事務職、専門職	292	2.4	19.5	45.5	25.0
	パート、アルバイト	175	0.6	16.6	36.0	34.3
	家事専業	129	0.0	14.7	33.3	36.4
	学生	42	0.0	2.4	28.6	52.4
	無職	153	0.0	14.4	30.1	37.9
介護が必要な家族の有無	自身の親(同居)	21	0.0	47.6	23.8	4.8
	自身の親(別居)	92	2.2	29.3	38.0	28.3
	配偶者の親(同居)	9	0.0	11.1	33.3	55.6
	配偶者の親(別居)	53	1.9	28.3	32.1	32.1
	その他(同居)	25	8.0	20.0	12.0	36.0
	その他(別居)	31	6.5	19.4	32.3	32.3
いない		702	0.6	13.4	40.7	33.5

※属性「介護が必要な家族の有無」の選択肢のうち「配偶者の親(同居)」「その他(同居)」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

■図表 介護休暇の認知と利用状況 前回(平成29年度)



(2)育児や介護の休暇・休業制度を利用しなかった理由(問7-2)

問7-2. 前問で2を1つでも選んだ方にお伺いします。

その主な理由に当てはまるものを全て選んでください。(MA)

◎「制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから」が最も多く過半数を占める。

<全体・性別>

全体でみると、「制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから」の割合が最も多く51.7%、次に割合が高いのは「利用する期間中の収入が保証されていないから」で34.9%、「その他」が23.4%、「利用すると昇進・昇給などに差し支えるから」が11.9%と続く。なお「その他」の主な内訳としては「まだ制度がなかった」「仕事がたまるから」「有休を先に使用」「夫婦共協力しあって」「家族の為に働いているから」等が挙げられている。

性別にみると、男女ともに多い順は同じでも、「制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから」では男性の方が女性より6.8ポイント、「利用する期間中の収入が保証されていないから」では、女性の方が男性より15.7ポイント、「利用すると昇進・昇給などに差し支えるから」では、男性の方が女性より11.9ポイント高くなっている。

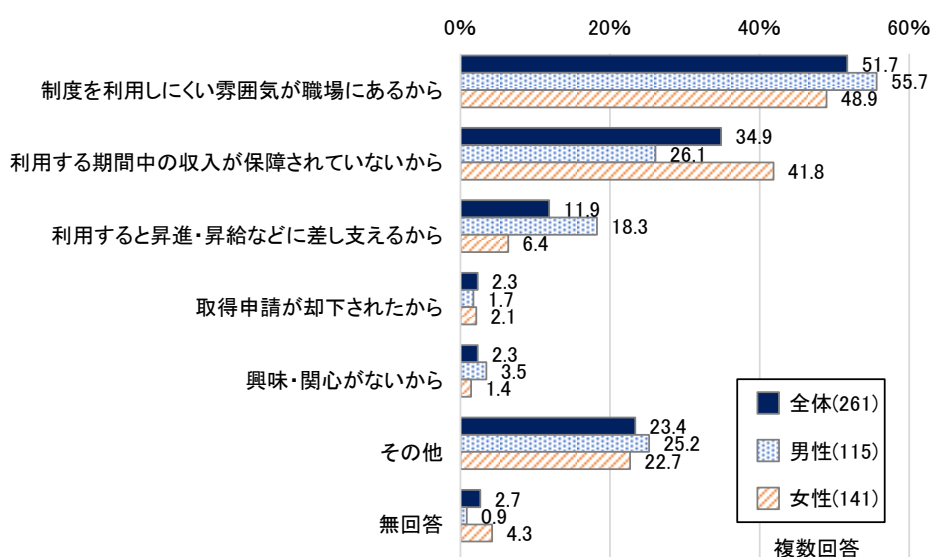
<年代別>

年代別でみると、30代では「利用する期間中の収入が保証されていないから」の割合が最も高く、その他の年齢層では「制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから」の割合が最も高い。50代では「制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから」、「利用する期間中の収入が保証されていないから」の割合が特に高い。

<職業別>

職業別でみると、パート・アルバイトでは「利用する期間中の収入が保証されていないから」の割合が最も多く、その他の職業では「制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから」の割合が最も高い。

■図表 介護休暇の認知と利用状況(全体・性別)



【主なその他回答】

・まだ制度がなかった／仕事がたまるから／有休を先に使用／夫婦共協力しあって／家族の為に働いているからなど

■図表 介護休暇の認知と利用状況(年代別／職業別)

		合計	問7-2「制度を知っていて必要だったのに利用していない」主な理由						
			利用する期間中の収入が保障されていないから	利用すると昇進・昇給などに差し支えるから	制度を利用しにくい雰囲気があるから	取得申請が却下されたから	興味・関心がないから	その他	無回答
全体		261	34.9	11.9	51.7	2.3	2.3	23.4	2.7
年代	20代以下	18	16.7	33.3	38.9	0.0	0.0	27.8	5.6
	30代	36	41.7	5.6	33.3	0.0	2.8	36.1	5.6
	40代	49	34.7	16.3	46.9	2.0	2.0	30.6	2.0
	50代	60	45.0	11.7	65.0	3.3	5.0	5.0	0.0
	60代	52	28.8	7.7	55.8	1.9	0.0	28.8	3.8
	70代以上	43	27.9	9.3	53.5	4.7	2.3	23.3	2.3
職業	経営者、管理職、	33	27.3	18.2	57.6	3.0	0.0	27.3	3.0
	従業員、事務職、専門職	93	28.0	15.1	46.2	1.1	4.3	25.8	3.2
	パート、アルバイト	45	53.3	4.4	48.9	0.0	2.2	17.8	2.2
	家事専業	35	40.0	0.0	60.0	2.9	0.0	22.9	0.0
	学生	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	無職	40	30.0	12.5	60.0	5.0	2.5	20.0	2.5

※属性「年代」の選択肢のうち「20代以下」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

※属性「職業」の選択肢のうち学生は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

(3)現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由(就労経験あり)(問8-1)

問8-1. 以前働いたことがあるが、現在無職の方に伺います。

仕事を辞めた理由について当てはまるものを全て選んでください。(MA)

◎現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由は「定年で」が最も多く3割台半ば。

◎男性では「定年で」を理由とする人が最も多く7割台半ばを占めるが、女性では「子育てに専念したかった」、「仕事と家庭の両立が難しかった」、「結婚・出産などで退職するのが慣習だった」、「定年で」などで2割近くから2割弱と理由が多様。

<全体・性別>

全体でみると、最も多かった理由は「定年で」で、35.7%。次いで「健康上の問題等自身の都合」が15.3%、「子育てに専念したかった」が14.1%と続く。

また、「結婚・出産などで退職するのが慣習だった」、「子育てに専念したかった」、「仕事と家庭の両立が難しかった」の男性の割合は0.0~1.9%と極めて低く、女性特有の理由であると捉えられる。

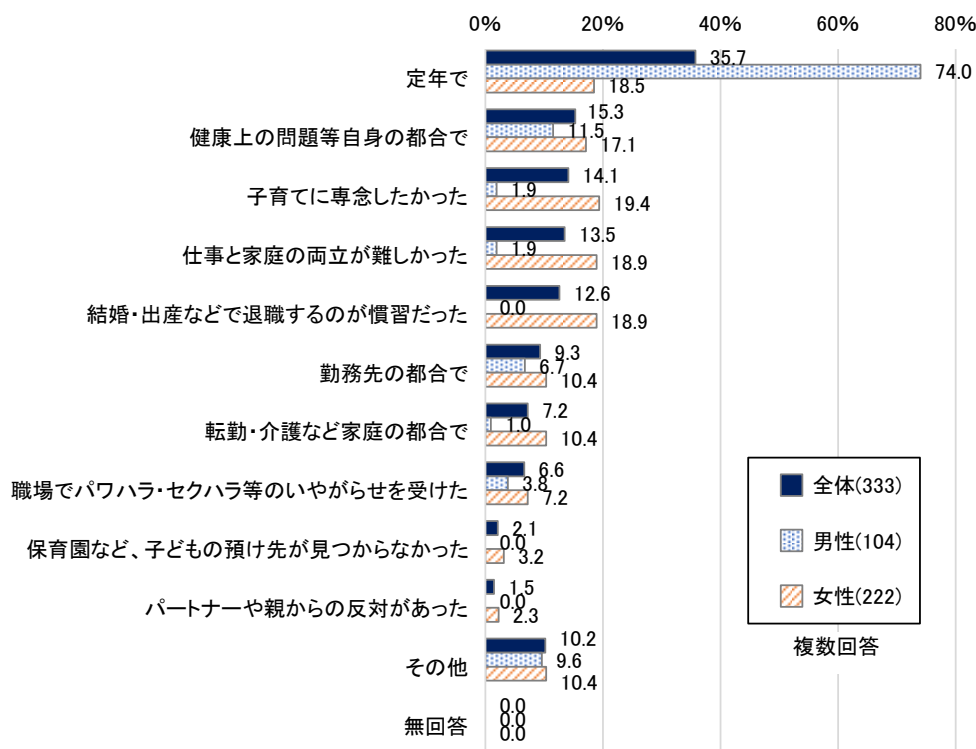
<年代別>

年代別でみると、30代、40代では「子育てに専念したかった」、50代では「仕事と家庭の両立が難しかった」60代、70代以上では「定年で」の割合が最も高い。

<職業別>

職業別でみると、家事専業では「結婚・出産などで退職するのが慣習だった」の割合が最も多く、パート・アルバイト、無職では「定年で」の割合が最も高い。

■図表 現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由(全体・性別)



【主なその他回答】

・昇進を断っていたが、決まったため／職場環境／不妊治療の為／仕事の内容と給料のバランスが悪いなど

■図表 現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由(年代別／職業別)

		合計	問8-1 仕事を辞めた理由											無回答
			定年で	勤務先 の都合 で	健康上 の問題 等自身 の都合 で	子育て に専念 した かった	転勤・ 介護な ど家庭 の都合 で	結婚・ 出産な どで退 職する のが慣 習だっ た	職場で パワハ ラ・セク ハラ等 のいや がらせ を受け た	保育園 など、 子ども の預け 先が見 つから なかつ た	仕事と 家庭の 両立が 難し かつた	パート ナーや 親から の反対 があつ た	その他	
全体		333	35.7	9.3	15.3	14.1	7.2	12.6	6.6	2.1	13.5	1.5	10.2	0.0
年代	20代以下	5	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	30代	31	0.0	12.9	12.9	32.3	6.5	12.9	16.1	9.7	19.4	3.2	29.0	0.0
	40代	30	0.0	3.3	13.3	53.3	13.3	10.0	10.0	6.7	43.3	3.3	6.7	0.0
	50代	35	0.0	11.4	25.7	14.3	22.9	22.9	17.1	0.0	31.4	5.7	5.7	0.0
	60代	71	40.8	14.1	15.5	8.5	7.0	16.9	9.9	0.0	8.5	0.0	5.6	0.0
	70代以上	156	57.1	7.7	12.2	5.8	3.2	8.3	0.0	1.3	5.1	0.6	9.6	0.0
職業	経営者、管理職、	12	50.0	8.3	16.7	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	従業員、事務職、専門職	3	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	パート、アルバイト	37	29.7	5.4	13.5	16.2	8.1	13.5	16.2	5.4	18.9	2.7	5.4	0.0
	家事専業	121	12.4	9.9	16.5	23.1	9.9	27.3	3.3	3.3	23.1	3.3	9.9	0.0
	学生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職	142	57.0	9.2	14.8	5.6	3.5	1.4	5.6	0.7	2.1	0.0	12.0	0.0

※属性「年代」の選択肢のうち「20代以下」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

※属性「職業」の選択肢のうち経営者、管理職従業員、事務職、専門職学生は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

(4)現在、仕事をしていない人の希望する就労形態(就労経験あり)(問8-2)

問8-2. 今後適当な仕事があった場合、どのような働き方をしたいと考えていますか。

当てはまるものを1つ選んでください。(SA)

◎現在、仕事をしていない人の希望する就労形態は「働くつもりはない」の割合が最も多く4割強。次いで「パートタイム・アルバイト」が約3割。「働くつもりはない」は、男性の方が女性より高い。

<全体・性別>

全体でみると、「働くつもりはない」の割合が最も多くて41.7%、次いで「パートタイム・アルバイト」が30.3%と続く。ほか「常勤(フルタイム)」は7.5%、「在宅勤務」が3.9%、その他の項目は「その他」を除き1.5~2.7%となっている。性別にみると、「働くつもりはない」の割合が男性の方が女性より9.4ポイント高い。

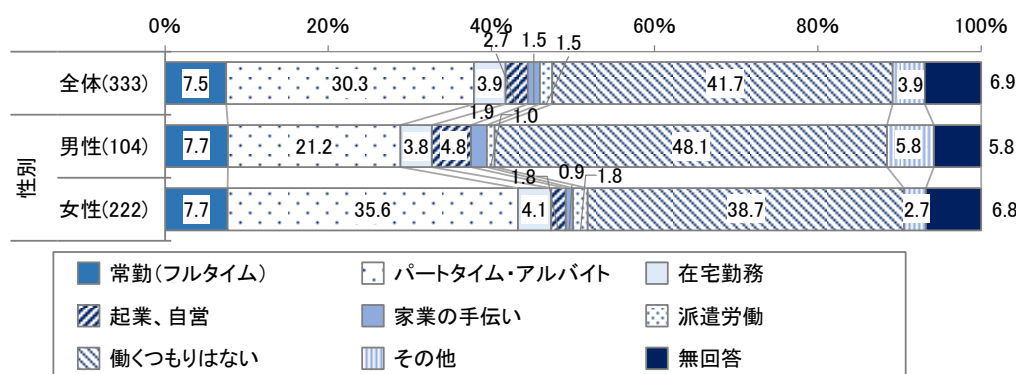
<年代別>

年代別でみると、60代、70代以上で「働くつもりはない」の割合が最も多く、50代以下の年齢層では「パートタイム・アルバイト」の割合が最も高い。40代で「起業・自営」、50代で「常勤(フルタイム)」の割合は特に高い。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、いずれも「働くつもりはない」割合が最も多く、今回調査41.7%、前回調査44.8%、次いで「パートタイム・アルバイト」の割合は、今回30.3%、前回32.7%となっており、同様の傾向がみられる。

■図表 現在、仕事をしていない人の希望する就労形態(全体・性別)



【主なその他回答】

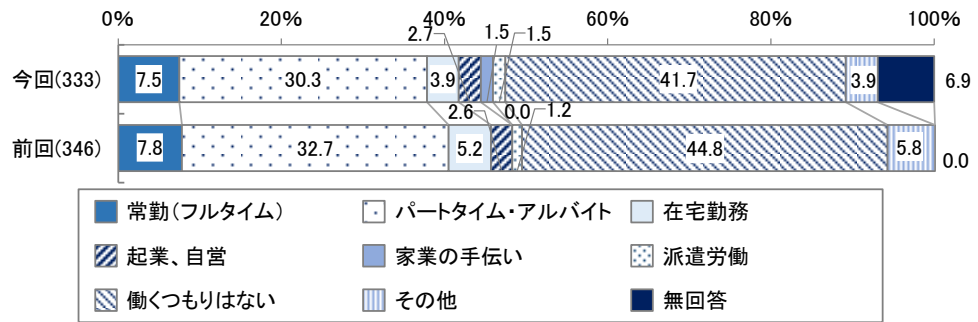
・77才まで仕事をしたので満足／ボランティア／B型就労支援／時短勤務、短期など

■図表 現在、仕事をしていない人の希望する就労形態(年代別)

		合計	問8-2 今後適当な仕事があった場合、どのような働き方をしたいか								
			常勤 (フルタイム)	パート タイム・ アルバイト	在宅 勤務	起業、 自営	家業の 手伝い	派遣労働	働くつもりは ない	その他	無回答
全体		333	7.5	30.3	3.9	2.7	1.5	1.5	41.7	3.9	6.9
年代	20代以下	5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	31	16.1	61.3	0.0	3.2	0.0	6.5	3.2	3.2	6.5
	40代	30	13.3	46.7	10.0	13.3	0.0	0.0	0.0	3.3	13.3
	50代	35	22.9	48.6	8.6	2.9	0.0	2.9	5.7	2.9	5.7
	60代	71	2.8	35.2	7.0	1.4	0.0	0.0	47.9	4.2	1.4
	70代以上	156	2.6	14.7	1.3	1.3	2.6	1.3	64.1	4.5	7.7

※属性「年代」の選択肢のうち「20代以下」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

■図表 現在、仕事をしていない人の希望する就労形態 前回(平成29年度)



(5)現在、働いていない人の就労の動機(就労経験なし)(問9)

問9. 今まで働いたことのない方に伺います。

どのようなきっかけがあれば働いてみたいと思いますか。あなたの考え方に近いものを全て選んでください。(MA)

◎現在、働いていない人の就労の動機で最も多かったのは「経済的に必要になったら」で4割台半ば。次いで「働きたい仕事に出会えたら」が4割。

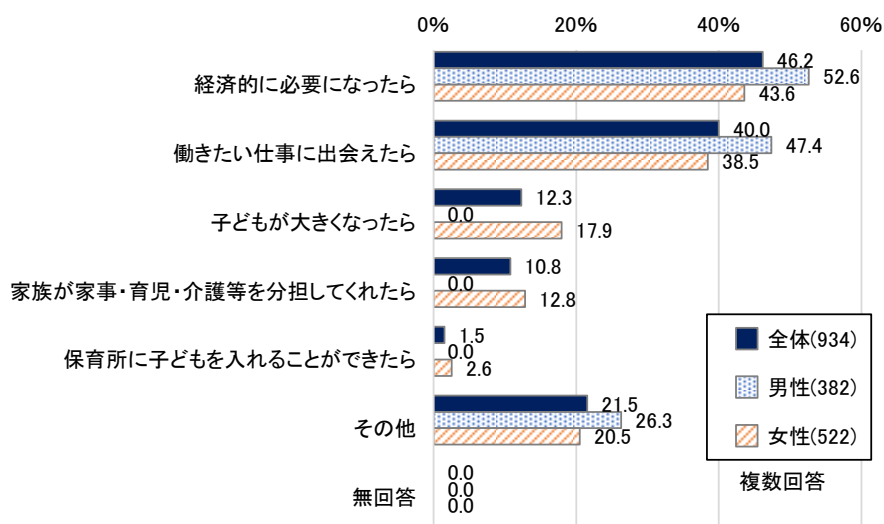
<全体・性別>

全体でみると、「経済的に必要になったら」の割合が最も多く46.2%、「働きたい仕事に出会えたら」40.0%。次いで「その他」が21.5%と続く。

性別にみると、男女ともに最も多いのは「経済的に必要になったら」であるが、「働きたい仕事に出会えたら」の割合も高く、男性47.4%、女性38.5%である。

なお「その他」の主な内訳としては「学校を卒業したら」「年齢的に無理」「体力的に無理」等となっている。

■図表 現在、働いていない人の就労の動機(全体・性別)



【主なその他回答】

・学校を卒業したら／年齢的に無理／体力的に無理など

(6)女性が社会で働くことについての考え方(問10)

問10. 女性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(SA)

- ◎「結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい」が最も多く4割強。
 ◎前回との比較では「結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい」と「子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の上位2項目が入れ替わっている。

<全体・性別>

全体でみると、「結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい」の割合が最も多く41.1%。次いで「子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい」で28.6%が続く。ほか「子どもができるまでは働いたほうが良い」は7.1%、「結婚するまでは働いた方がよい」と「働かずに家事に専念する方がよい」はそれぞれ3.1%、1.3%で5%以下となっている。この順番は男女とも同様である。

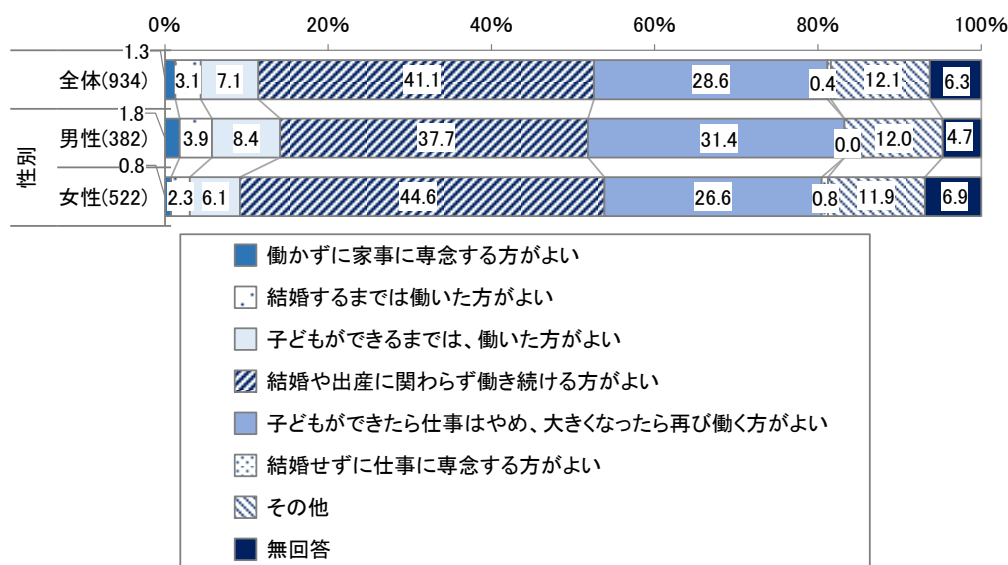
<性・年代別>

性・年代別でみると、男性70代以上を除いていずれの性・年代においても「結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい」の割合が最も高い。男性70代以上では「子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の割合が最も多くなっている。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、「結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい」割合が、今回調査41.1%、前回調査30.9%、次いで「子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい」割合は、今回28.6%、前回37.6%となっており、前回と1位2位が入れ替わっている。

■図表 女性が社会で働くことについての考え方(全体・性別)



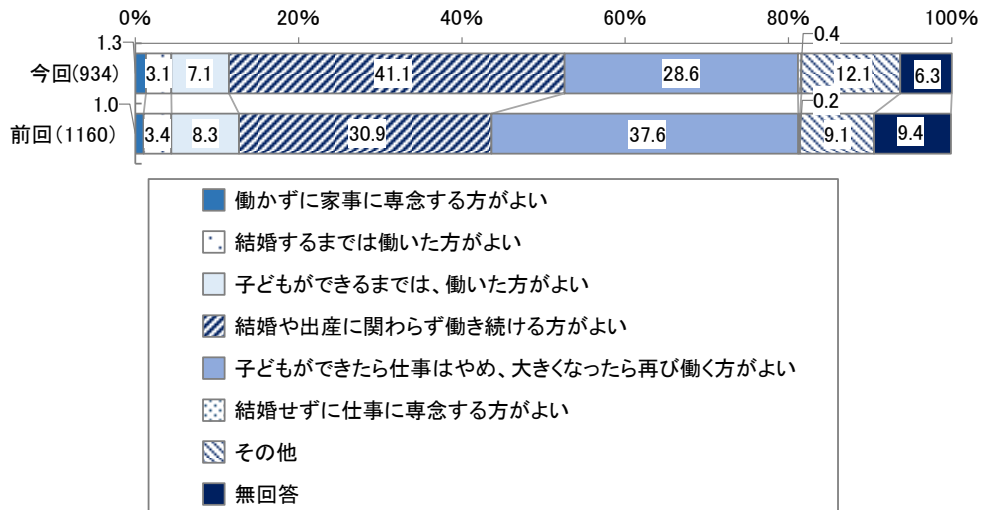
【主なその他回答】

・若いうちに子供を産み子供の自立後に働く／ライフスタイルに沿って柔軟な働き方にシフト／夫の収入によるなど

■図表 女性が社会で働くことについての考え方(性・年代別)

		合計	問10 女性が社会で働くことについて							
			働かずに家事に専念する方がよい	結婚するまでは働いた方がよい	子どもができるまでは、働いた方がよい	結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい	子どもができたなら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい	結婚せずに仕事に専念する方がよい	その他	無回答
全体		934	1.3	3.1	7.1	41.1	28.6	0.4	12.1	6.3
性・年代別	男性20代以下	46	0.0	2.2	13.0	34.8	28.3	0.0	17.4	4.3
	30代	49	0.0	4.1	10.2	32.7	24.5	0.0	26.5	2.0
	40代	61	0.0	1.6	4.9	39.3	29.5	0.0	23.0	1.6
	50代	66	1.5	3.0	6.1	47.0	30.3	0.0	9.1	3.0
	60代	72	1.4	1.4	5.6	43.1	41.7	0.0	4.2	2.8
	70代以上	88	5.7	9.1	11.4	29.5	30.7	0.0	2.3	11.4
	女性20代以下	72	1.4	0.0	8.3	43.1	29.2	1.4	12.5	4.2
	30代	76	0.0	3.9	6.6	46.1	18.4	0.0	21.1	3.9
	40代	97	1.0	0.0	4.1	50.5	21.6	3.1	17.5	2.1
	50代	94	0.0	1.1	4.3	48.9	35.1	0.0	5.3	5.3
	60代	82	0.0	1.2	7.3	46.3	26.8	0.0	13.4	4.9
	70代以上	100	2.0	7.0	6.0	34.0	28.0	0.0	4.0	19.0

■図表 女性が社会で働くことについての考え方 前回(平成29年度)



(7)男性が社会で働くことについての考え方(問11)

問11. 男性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(SA)

◎「結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい」が最も多く約8割。

<全体・性別>

全体でみると、「結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい」の割合が最も多く80.2%であり、「その他」を除いた他の項目では数%と極めて低い値となっている。

性別にみても、回答の傾向は同様である。

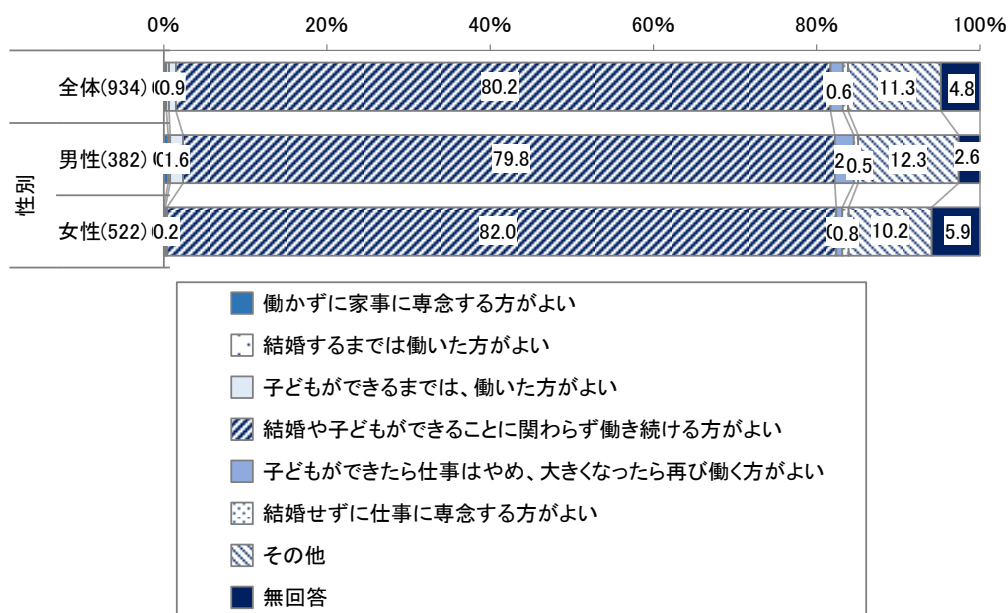
<性・年代別>

性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい」とする割合が最も多く67.4~89.4%となっている。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、いずれも「結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい」割合が最も多くて今回調査80.2%、前回調査82.8%となっており、同様の傾向がみられる。

■図表 男性が社会で働くことについての考え方(全体・性別)



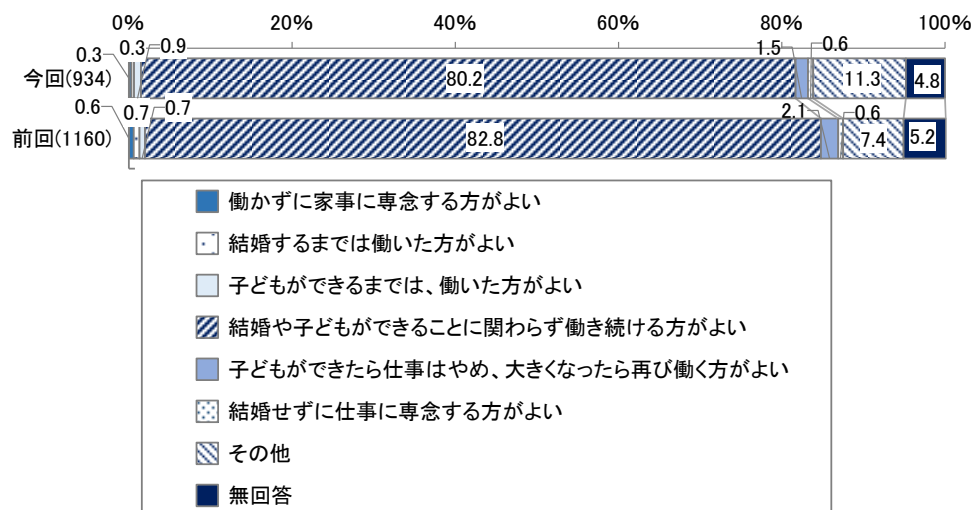
【主なその他回答】

・本人の自由／結婚や子どもと関係なく働くことが望ましい／夫婦で話し合い、各家庭で決めれば良いなど

■図表 男性が社会で働くことについての考え方(性・年代別)

		合計	問11 男性が社会で働くことについて							
			働かずに家事に専念する方がよい	結婚するまでは働いた方がよい	子どもができるまでは、働いた方がよい	結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい	子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい	結婚せずに仕事に専念する方がよい	その他	無回答
全体		934	0.3	0.3	0.9	80.2	1.5	0.6	11.3	4.8
性・年代別	20代以下	46	0.0	2.2	8.7	67.4	4.3	2.2	13.0	2.2
	30代	49	0.0	0.0	0.0	73.5	4.1	0.0	20.4	2.0
	40代	61	0.0	0.0	0.0	73.8	1.6	1.6	21.3	1.6
	50代	66	0.0	0.0	1.5	87.9	1.5	0.0	9.1	0.0
	60代	72	0.0	0.0	0.0	86.1	1.4	0.0	11.1	1.4
	70代以上	88	2.3	0.0	1.1	83.0	2.3	0.0	4.5	6.8
	20代以下	72	0.0	0.0	1.4	77.8	1.4	0.0	16.7	2.8
	30代	76	0.0	0.0	0.0	81.6	0.0	0.0	17.1	1.3
	40代	97	0.0	0.0	0.0	78.4	2.1	3.1	14.4	2.1
	50代	94	0.0	0.0	0.0	89.4	0.0	1.1	5.3	4.3
	60代	82	0.0	1.2	0.0	85.4	0.0	0.0	7.3	6.1
	70代以上	100	0.0	0.0	0.0	79.0	1.0	0.0	3.0	17.0

■図表 男性が社会で働くことについての考え方 前回(平成29年度)



◆社会で働くことにおける男女の違い

社会で働くことについて、男性に対する考えと女性に対する考えの違いをみると、男性に対しては「結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい」とする意見が8割以上を占めるのに比べ、女性に対しては4割強に留まる。なお女性に対しては「子どもができたなら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい」とする意見も多く3割近くを占める。

女性に対する考え方では、「結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい」割合と「子どもができたなら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい」が前回と順位が入れ替わっており、「育児は女性が仕事をやめて行うもの」という社会通念が変化を見せている結果となっている。

(8)職場において男女で平等でないこと(問12)

問12. 職場で男女平等ではないと思うこととして、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

(MA)

- ◎「昇進・昇任の速さ」、「結婚や出産時後の職場の対応」、「賃金の金額」、「育児休業・介護休業の取得しやすさ」、「責任ある仕事の分担」が3割台半ば～4割弱で並ぶ。
- ◎男性では「責任ある仕事の分担」が最も多く、女性では「昇進・昇任の速さ」と「結婚や出産時後の職場の対応」が最も多い。。

<全体・性別>

全体でみると、「昇進・昇任の速さ」が39.0%、「結婚や出産時後の職場の対応」が37.2%、「賃金の金額」が36.6%、「育児休業・介護休業の取得しやすさ」が34.6%、「責任ある仕事の分担」が32.7%、と3割台半ば～4割弱で並ぶ。

性別にみると、男性では「責任ある仕事の分担」の割合が36.1%で最も多く、「時間外勤務などの労働時間」、「転勤や配属転換」、「指導的地位の就きやすさ」では、女性よりも男性の割合が高くなっている。

<性・年代別>

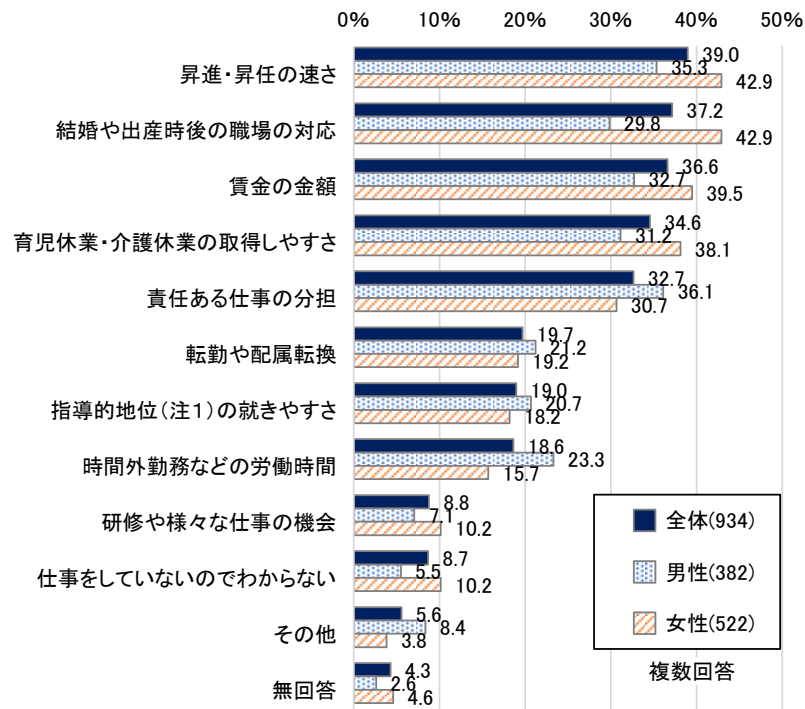
性・年代別でみると、男性40代以下では「育児休業・介護休業の取得しやすさ」の割合が最も多く、男性50代では「昇進・昇任の速さ」、「結婚や出産時後の職場の対応」が、男性60代以上では「賃金の金額」の割合が最も高い。

女性30代以下では「結婚や出産時後の職場の対応」や「育児休業・介護休業の取得しやすさ」の割合が高く、女性40代、50代では「昇進・昇任の速さ」、女性60代以上では「賃金の金額」の割合が最も高い。

<職業別>

職業別でみると、経営者、管理職では「昇進・昇任の速さ」、従業員、事務職、専門職では「育児休業・介護休業の取得しやすさ」、パート・アルバイト、家事専業では「結婚や出産時後の職場の対応」、学生では「仕事をしていないのでわからない」、無職では「賃金の金額」、「昇進・昇任の速さ」の割合がそれぞれ最も多くなっている。

■図表 職場において男女で平等でないこと(全体・性別)



(注1) (1) 議会議員、(2) 法人・団体等における課長相当職以上の者、(3) 専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する者。

【主なその他回答】

・上の役職にいくにつれ男性が多いと感じる／「礼儀・わきまえ」とされる振舞の要求／差があるとは思わないなど

■図表 職場において男女で平等でないこと(性・年代別／職業別)

		問12 職場で男女平等ではないと思うこと												
		合計	賃金の金額	昇進・昇任の速さ	責任ある仕事の分担	研修や様々な仕事の機会	転勤や配属転換	結婚や出産時後の職場の対応	時間外勤務などの労働時間	育児休業・介護休業の取得しやすさ	指導的地位(注1)の就きやすさ	仕事をしていないのでわからない	その他	無回答
全体		934	36.6	39.0	32.7	8.8	19.7	37.2	18.6	34.6	19.0	8.7	5.6	4.3
性・年代別	男性20代以下	46	13.0	19.6	21.7	6.5	6.5	28.3	21.7	37.0	17.4	15.2	10.9	6.5
	30代	49	24.5	30.6	26.5	4.1	26.5	40.8	12.2	42.9	14.3	2.0	8.2	4.1
	40代	61	29.5	23.0	36.1	6.6	16.4	39.3	27.9	44.3	18.0	0.0	14.8	1.6
	50代	66	18.2	31.8	28.8	6.1	22.7	31.8	22.7	28.8	19.7	0.0	10.6	1.5
	60代	72	47.2	45.8	43.1	8.3	27.8	25.0	25.0	27.8	30.6	2.8	5.6	0.0
	70代以上	88	48.9	48.9	48.9	9.1	22.7	20.5	26.1	17.0	20.5	12.5	3.4	3.4
	女性20代以下	72	27.8	44.4	29.2	4.2	18.1	50.0	5.6	50.0	19.4	11.1	6.9	1.4
	30代	76	30.3	44.7	21.1	3.9	19.7	53.9	23.7	56.6	17.1	6.6	2.6	2.6
	40代	97	41.2	47.4	34.0	11.3	18.6	45.4	18.6	43.3	21.6	4.1	5.2	5.2
	50代	94	43.6	51.1	30.9	13.8	24.5	40.4	13.8	28.7	19.1	5.3	4.3	3.2
	60代	82	45.1	34.1	39.0	19.5	19.5	40.2	13.4	34.1	19.5	12.2	1.2	4.9
	70代以上	100	44.0	36.0	29.0	7.0	15.0	32.0	18.0	23.0	13.0	21.0	3.0	9.0
職業	経営者、管理職、	103	36.9	37.9	35.9	7.8	20.4	34.0	21.4	23.3	21.4	1.0	8.7	1.9
	従業員、事務職、専門職	292	31.5	40.4	31.5	8.9	22.3	40.1	21.2	43.2	22.6	0.0	8.9	3.1
	パート、アルバイト	175	37.7	37.1	32.0	8.0	19.4	40.0	17.7	37.1	16.6	0.6	6.9	4.6
	家事専業	129	42.6	42.6	34.1	10.9	17.1	44.2	17.1	34.9	19.4	21.7	0.8	3.9
	学生	42	16.7	21.4	16.7	0.0	9.5	23.8	0.0	31.0	4.8	40.5	4.8	4.8
	無職	153	41.8	41.8	35.9	10.5	22.2	26.8	19.6	25.5	20.3	21.6	1.3	3.9

(9)女性が働き続けるために必要な取り組み・支援(問13)

問13. 女性が働き続けるためには職場や社会、家庭等においてどのような取り組みや支援が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

◎「職場の上司・同僚が、仕事と子育て・家事等の両立に理解があることが必要」、「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気を形成することが必要」が7割以上で多く、次いで「フレックスタイムや在宅勤務など、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができることが必要」、「保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充が必要」、「家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要」が5割以上と多い。

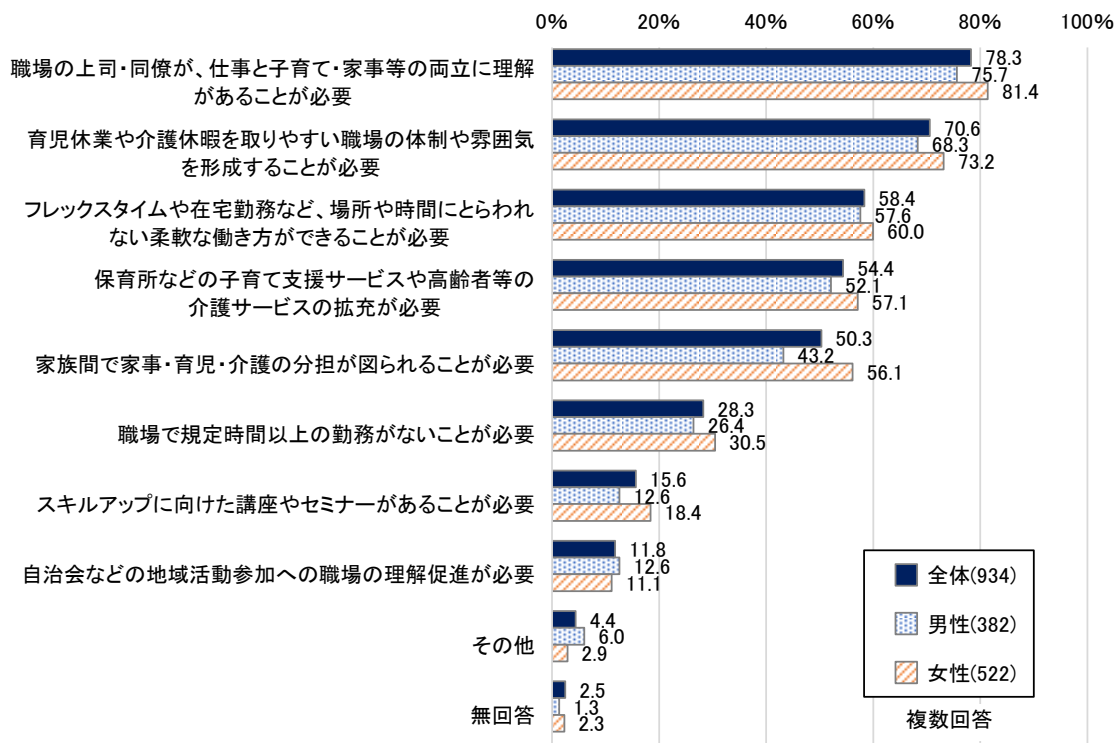
◎性別では、「家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要」で女性が男性を約13ポイント上回る。

<全体・性別>

全体でみると、「職場の上司・同僚が、仕事と子育て・家事等の両立に理解があることが必要」の割合が最も多く78.3%、次いで「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気を形成することが必要」が70.6%、「フレックスタイムや在宅勤務など、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができることが必要」が58.4%、「保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充が必要」が54.4%、「家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要」が50.3%と続く。

性別にみると、ほとんどの項目は同傾向だが、「家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要」では男性43.2%に対し女性56.1%と、12.9ポイントの差がみられる。

■図表 女性が働き続けるために必要な取り組み・支援(全体・性別)



【主なその他回答】

・経済的な余裕が必要／人員の配置を増やす／法制度の確立、整備が不可欠／責任感をもつ事が必要など

4. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

(1)仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現(問14-1)

14-1. あなたは仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現できていると思いますか。

あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)

- ◎ワーク・ライフ・バランスが“実現できている”とする割合は4割を超える。
- ◎男女ともに、“実現できている”が“実現できていない”を上回る。
- ◎働く年代の20～50代では“実現できている”男性の割合は5割を超えている。
- ◎「「仕事」を優先している」人はワーク・ライフ・バランスを“実現できていない”、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している」人は“実現できている”割合が高い。

<全体・性別>

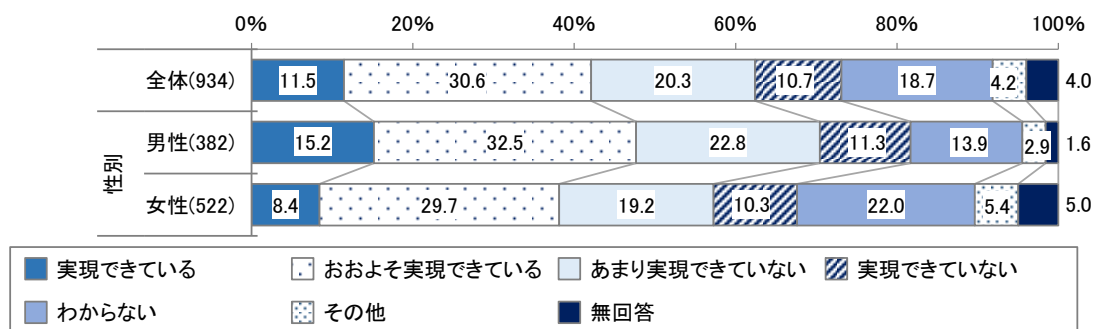
全体でみると、「おおよそ実現できている」の割合が30.6%と最も多く、次いで「あまり実現できていない」20.3%、「わからない」18.7%と続く。“実現できている”（「実現できている」+「おおよそ実現できている」、以下同様）割合は42.1%、“実現できていない”（「あまり実現できていない」+「実現できていない」、以下同様）割合は31.0%で、“実現できている”方が11.1ポイント上回っている。

性別にみると、“実現できている”では、男性47.7%、女性38.1%と男性が女性を上回っている。“実現できていない”でも、男性34.1%、女性29.5%と男性が女性を上回っている。

<現在の生活の現状別>

現在の生活の現状別でみると、「「仕事」を優先している」人はワーク・ライフ・バランスを「あまり実現できていない」が、「家庭生活」を優先している」以外は「おおよそ実現できている」と思っている割合が高い。「家庭生活」を優先している」人は「わからない」の割合が最も高い。「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している」人は“実現できている”（86.1%）割合が、「仕事」を優先している」人は“実現できていない”（54.2%）の割合が他よりも特になくなっている。

■図表 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現(全体・性別)



【主なその他回答】

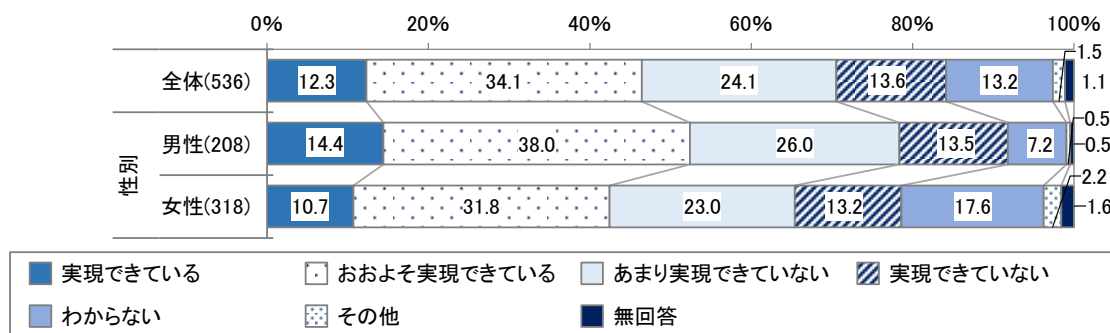
・育休中はできている、育休終了したらできていない／在宅勤務が可能となってからおおよそ実現できているなど

<20～50代のみ・性別>

働く年代の20～50代に限ってみると、“実現できている”割合は46.4%で、“実現できていない”割合37.7%を8.7ポイント上回っている。

また、20～50代を性別にみると、男性では、“実現できている”割合は52.4%と5割を超え、“実現できていない”割合39.5%を12.9ポイント上回り、女性では、“実現できている”割合は42.5%で、“実現できていない”割合36.2%を6.3ポイント上回っている。

■図表 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現(20～50代・性別)



■図表 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現(生活の現状別)

		合計	問14-1 あなたは仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現できていると思うか						
			実現できている	おおよそ実現できている	あまり実現できていない	実現できていない	わからない	その他	無回答
問15-2 あなたの 現状に最も近いもの	全体	934	11.5	30.6	20.3	10.7	18.7	4.2	4.0
	「仕事」を優先している	203	6.9	30.5	34.0	20.2	7.9	0.0	0.5
	「家庭生活」を優先している	275	9.8	19.6	19.6	12.7	28.4	6.9	2.9
	「地域・個人の生活」を優先している	33	12.1	27.3	12.1	15.2	24.2	9.1	0.0
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	184	16.8	46.7	22.3	3.8	8.2	0.5	1.6
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	34	5.9	55.9	23.5	5.9	8.8	0.0	0.0
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	75	12.0	29.3	10.7	5.3	24.0	14.7	4.0
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している	43	32.6	53.5	0.0	2.3	4.7	2.3	4.7
	わからない	56	7.1	14.3	8.9	7.1	57.1	1.8	3.6
	無回答	31	6.5	9.7	3.2	3.2	9.7	9.7	58.1

(2)ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なこと(問14-2)

問14-2. それでは、ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

- ◎「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」が最も多く、次いで「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」、「労働時間の短縮や各種休暇制度の普及、充実」、「産休・育児休業を取得した人の職場復帰のための環境の整備」、「働くことに対する家族や周囲の理解と協力」、「保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充」、「育児や介護のために退職した人を再雇用する」、「家族間で家事・育児・介護の分担をすることに対する社会の評価を高める」が3割台半ば～4割台半ばと並ぶ。
- ◎男性では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の割合が最も高いのに対して、女性では「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」の割合が最も多くいずれも5割台半ば。
- ◎ワーク・ライフ・バランスを“実現できていない”人は「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の割合が最も多く、“実現できている”人は「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」を重要だと思っている割合が高い。

<全体・性別 20～50代のみ・性別>

全体でみると、「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」が52.9%と最も多く、次いで「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」45.8%、「労働時間の短縮や各種休暇制度の普及、充実」40.8%、「産休・育児休業を取得した人の職場復帰のための環境の整備」39.2%、「働くことに対する家族や周囲の理解と協力」39.1%、「保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充」38.9%、「育児や介護のために退職した人を再雇用する」33.4%、「家族間で家事・育児・介護の分担をすることに対する社会の評価を高める」33.2%であり、3割台半ばから4割台半ばで並ぶ。「職業生活を続けていくうえでの相談窓口の整備」は13.9%である。

性別にみると、男性では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の割合が54.2%最も高いのに対して、女性では「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」の割合が最も多く56.9%である。

働く年代の20～50代に限ってみると、「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」、「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の上位2項目は全体と同様だが、次に「保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充」、「職業生活を続けていくうえでの相談窓口の整備」の割合が高い。「育児や介護のために退職した人を再雇用する」の割合は13.6%と低い。男女別にみてもこの傾向はほぼ同じである。

<年代別>

年代別でみると、20代以下と50代以上で「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」、30代で「労働時間の短縮や各種休暇制度の普及、充実」、40代で「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の割合がそれぞれ最も高い。

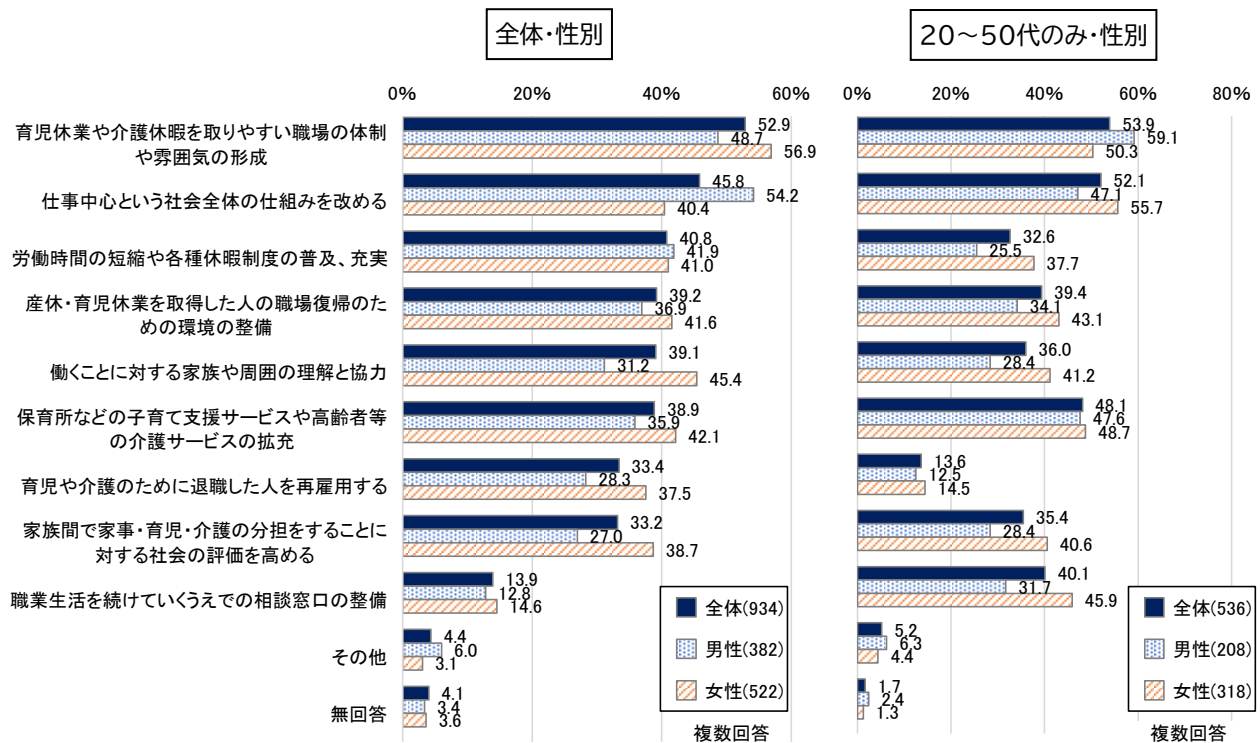
<職業別>

職業別でみると、経営者、管理職、従業員、事務職、専門職で「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」、パート、アルバイト、家事専業、学生、無職では「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」の割合が最も高い。学生ではその割合が特に高くなっている。

<ワーク・ライフ・バランスの現状別>

ワーク・ライフ・バランスの現状別でみると、「あまり実現できていない」、「実現できていない」方は「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の割合が最も多く、それ以外の方は「育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成」を重要だと思っている割合が高い。特に「あまり実現できていない」では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」の割合が全体より10ポイント以上高くなっている。

■図表 ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なこと(全体・性別／20～50代のみ・性別)



・休業時の収入源の確保、育児・介護に当たることへのインセンティブ／人員・人材不足の解消／日本独特のサービス精神を改める事など

■図表 ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なこと(年代別／職業別)

		問14-2 ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思うか											
		合計	仕事中心 という社 会全体の 仕組みを 改める	育児休業 や介護休 暇を取り やすい職 場の体制 や雰囲気 の形成	育児や介 護のため に退職し た人を再 雇用する	産休・育 児休業を 取得した 人の職場 復帰のた めの環境 の整備	保育所な どの子育 て支援サ ービスや 高齢者等 の介護サ ービスの 拡充	労働時間 の短縮や 各種休暇 制度の普 及、充実	職業生活 を続けて いくうえ での相談 窓口の整 備	家族間で 家事・育 児・介護 の分担を することに 対する社 会の評価 を高める	働くこと に対する家 族や周囲 の理解と 協力	その他	無回答
全体		934	45.8	52.9	33.4	39.2	38.9	40.8	13.9	33.2	39.1	4.4	4.1
年代	20代以下	125	52.0	68.0	25.6	50.4	36.0	53.6	14.4	37.6	42.4	2.4	2.4
	30代	126	52.4	54.8	37.3	45.2	41.3	57.1	13.5	40.5	38.9	6.3	2.4
	40代	161	56.5	45.3	29.2	30.4	31.1	46.0	13.7	39.1	41.0	6.2	1.9
	50代	164	46.3	48.8	32.9	36.0	36.0	36.6	12.8	26.2	38.4	4.9	1.2
	60代	154	47.4	55.8	41.6	43.5	50.6	39.0	18.8	35.1	40.9	5.2	0.6
	70代以上	190	29.5	51.6	33.2	36.3	40.0	24.2	11.1	25.8	35.8	2.1	10.0
職業	経営者、管理職、	103	49.5	32.0	18.4	26.2	25.2	34.0	10.7	26.2	37.9	8.7	2.9
	従業員、事務職、専門職	292	63.0	57.2	30.1	40.8	41.8	57.2	15.8	36.0	37.7	4.1	1.0
	パート、アルバイト	175	40.6	56.6	42.3	40.0	38.3	40.6	11.4	40.6	49.7	4.6	1.1
	家事専業	129	27.1	55.8	40.3	39.5	44.2	27.9	10.9	35.7	37.2	3.9	4.7
	学生	42	23.8	69.0	14.3	52.4	31.0	31.0	16.7	33.3	40.5	2.4	7.1
	無職	153	39.2	47.1	34.6	39.2	39.2	28.8	13.7	21.6	32.0	3.3	8.5

■図表 ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なこと(ワーク・ライフ・バランスの現状別)

		問14-2 ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思うか											
		合計	仕事中心という社会全体の仕組みを改める	育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成	育児や介護のために退職した人を再雇用する	産休・育児休業を取得した人の職場復帰のための環境整備	保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充	労働時間の短縮や各種休暇制度の普及、充実	職業生活を続けていくうえでの相談窓口の整備	家族間で家事・育児・介護の分担をすることに対する社会の評価を高める	働くことに対する家族や周囲の理解と協力	その他	無回答
問14-1 あなたは仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現できていると思うか	全体	934	45.8	52.9	33.4	39.2	38.9	40.8	13.9	33.2	39.1	4.4	4.1
	実現できている	107	43.9	57.9	29.9	36.4	35.5	44.9	12.1	31.8	42.1	3.7	0.9
	おおそ実現できている	286	49.0	58.0	36.0	43.7	48.3	43.7	12.6	36.7	42.3	3.5	1.4
	あまり実現できていない	190	61.1	50.0	32.1	35.8	35.8	47.4	14.2	34.2	37.4	4.7	0.5
	実現できていない	100	50.0	47.0	36.0	40.0	31.0	43.0	20.0	33.0	41.0	7.0	1.0
	わからない	175	32.0	53.1	34.3	40.6	35.4	30.9	13.1	30.9	37.7	2.3	4.0
	その他	39	35.9	59.0	30.8	46.2	46.2	38.5	20.5	33.3	38.5	15.4	0.0
	無回答	37	13.5	21.6	21.6	13.5	21.6	16.2	8.1	16.2	16.2	2.7	64.9

(3)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のバランス(問15-1、2)

問15-1. 生活の中での「仕事」「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」のバランスについて伺います。無職の方は、「家庭生活」「地域・個人の生活」の関係についてお答えください。まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つ選んでください。(SA)

問15-2. それでは、あなたの現状に最も近いものをこの中から1つ選んでください。(SA)

理想のバランス

- ◎全体では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と「家庭生活」を優先したい」が2割台半ばで高い。
- ◎性別では、男性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も多く3割弱であるが、女性は「家庭生活」を優先したい」と「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」がともに2割台半ば。

<全体・性別>

全体でみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」とする割合が最も多く26.6%、次いで「家庭生活」を優先したい」が23.0%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が16.4%「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのすべてを優先したい」が15.3%と続く。

性別にみると、男性では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」割合が最も多く29.1%、次いで「家庭生活」を優先したい」が18.1%となっているが、女性では「家庭生活」を優先したい」と「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」がそれぞれ27.4%、25.5%と同程度となっている。なお、「家庭生活」を優先したい」割合は、女性が男性を9.3ポイント上回る。

現在のバランス

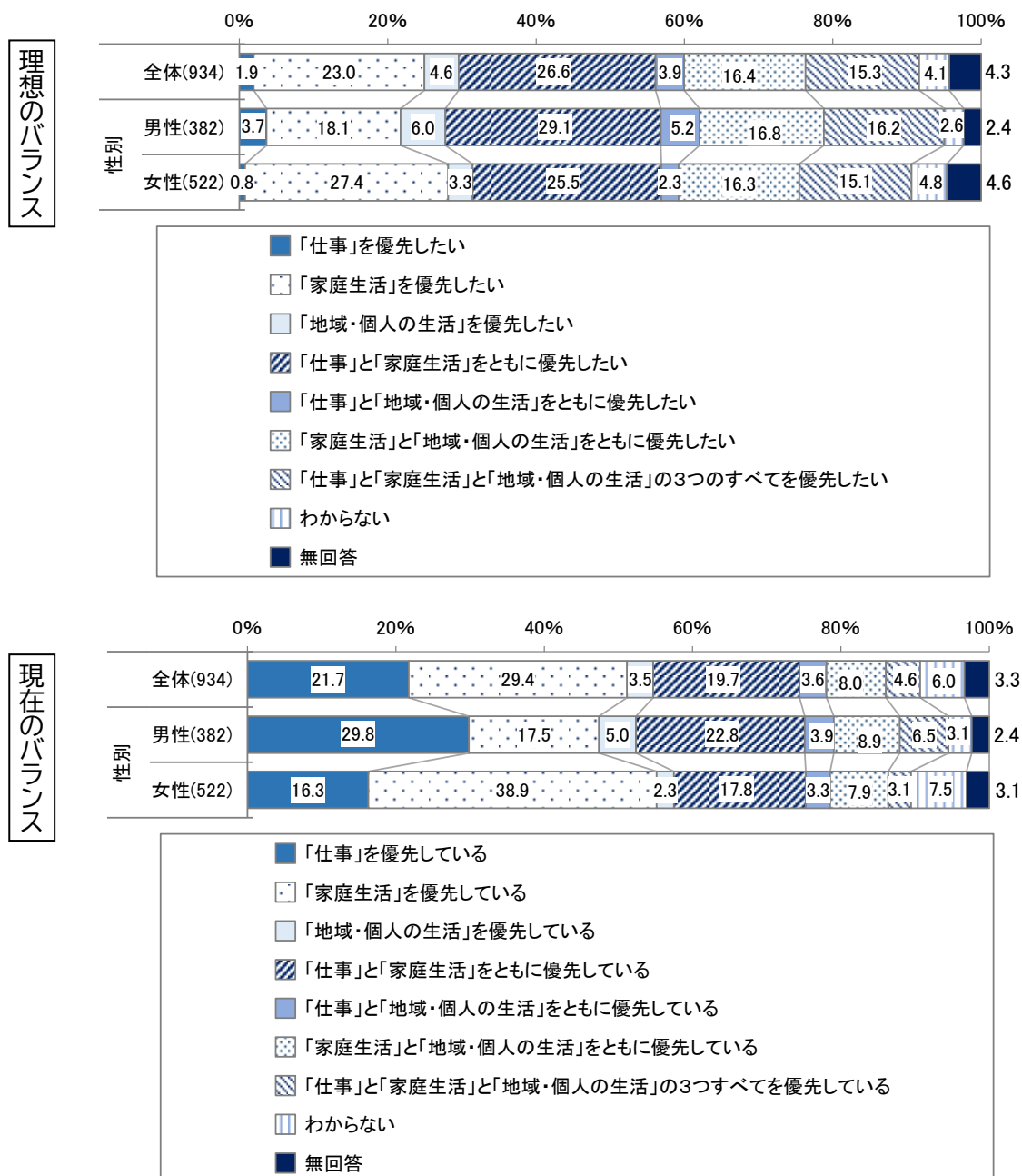
- ◎全体では「家庭生活」を優先している」とする割合が最も多く3割弱。次いで「仕事」を優先している」が2割強、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が2割弱。
- ◎性別では、男性は「仕事」を優先している」が3割弱、女性は「家庭生活」を優先している」が4割近くで、それぞれ最も多い。

<全体・性別>

全体でみると、「家庭生活」を優先している」割合が最も多く29.4%、次いで「仕事」を優先している」が21.7%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が19.7%と続く。

性別にみると、男性では「仕事」を優先している」割合が29.8%で最も多く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が22.8%、女性では「家庭生活」を優先している」が38.9%で最も多く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が17.8%となっている。

■図表 理想のバランス・現在のバランス(全体・性別)

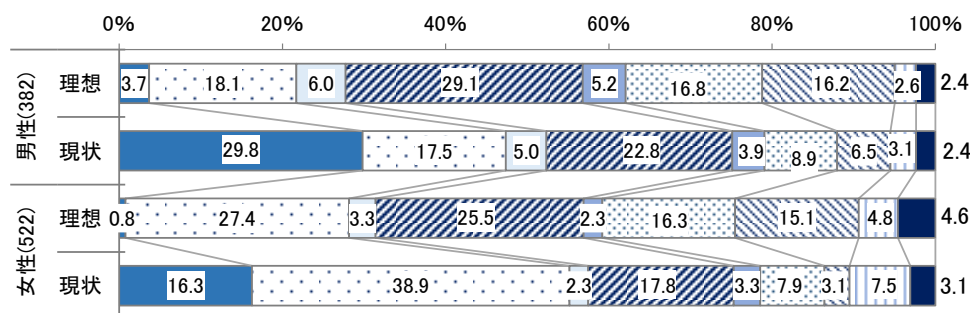


<理想と現実のギャップについて>

男性は理想では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」割合が高いが、現実では「「仕事」を優先している」割合が高く、理想と現実乖離がみられる。また女性は、理想として「「家庭生活」を優先したい」と「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」割合が同様に高いが、現状では「「家庭生活」を優先している」割合が高くなっている。男性では「仕事優先」が理想3.7%に対し現状29.8%で、仕事の優先を余儀なくされ、女性では「家庭生活優先」が理想27.4%に対し現状38.9%となり、家庭生活の優先を余儀なくされている状況にあると考えられる。

現状のバランスと理想のバランスの関係をみると、それぞれの現状は概ね5割以上が理想に一致している傾向がみられるが、「「仕事」を優先している」人は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」、「「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している」人は「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのすべてを優先したい」割合が高くなっている。

■図表 理想と現実のギャップ(性別)



理想のバランス

現在のバランス

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのすべてを優先したい
- わからない
- 無回答

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している
- わからない
- 無回答

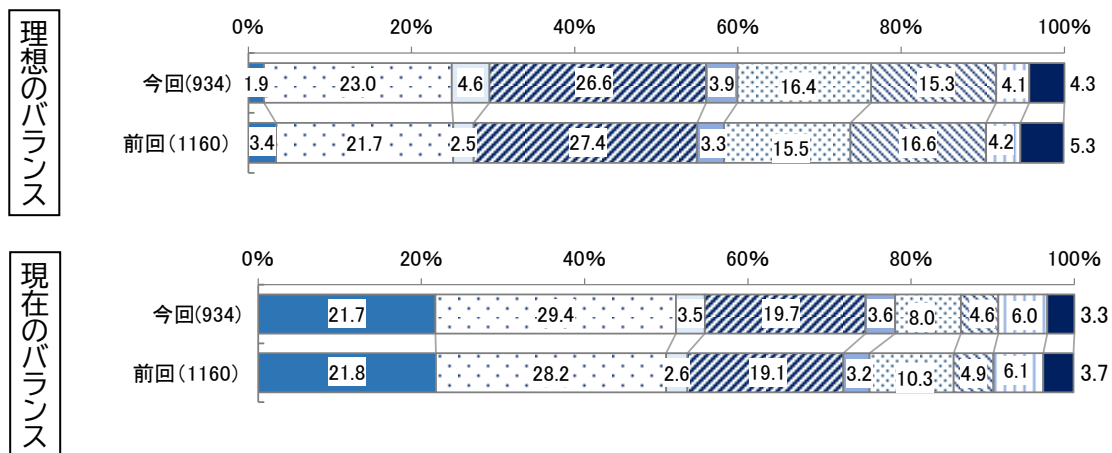
<現状のバランス別 理想のバランス>

		問15-1 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」のバランスについて、希望に最も近いもの								
	合計	問15-2 あなたの現状に最も近いもの								無回答
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのすべてを優先したい	わからない	
全体	934	1.9	23.0	4.6	26.6	3.9	16.4	15.3	4.1	4.3
「仕事」を優先している	203	6.9	15.8	5.4	37.4	6.9	8.4	13.3	3.4	2.5
「家庭生活」を優先している	275	0.7	52.7	2.5	16.7	0.7	17.8	5.8	1.5	1.5
「地域・個人の生活」を優先している	33	0.0	6.1	54.5	3.0	9.1	21.2	3.0	3.0	0.0
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	184	0.5	12.5	0.5	57.6	2.7	4.9	19.0	0.5	1.6
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	34	0.0	2.9	8.8	2.9	26.5	17.6	41.2	0.0	0.0
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	75	0.0	8.0	2.7	2.7	1.3	66.7	12.0	5.3	1.3
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している	43	0.0	2.3	0.0	4.7	2.3	4.7	83.7	0.0	2.3
わからない	56	1.8	8.9	1.8	23.2	1.8	17.9	8.9	33.9	1.8
無回答	31	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	9.7	0.0	6.5	80.6

< 前回調査結果と比較 >

前回調査と比較すると、理想のバランス、現在のバランスともにほぼ同様である。

■ 図表 理想のバランス・現在のバランス 前回(平成29年度)



理想のバランス

現在のバランス

- 「仕事を優先したい」
- 「家庭生活を優先したい」
- 「地域・個人の生活を優先したい」
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先したい
- わからない
- 無回答

- 「仕事を優先している
- 「家庭生活を優先している
- 「地域・個人の生活を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している
- わからない
- 無回答

(4)一日のうち、家事・育児・介護にかかる時間(問16)

問16-1. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。

1時間単位で数字をご記入ください。

問16一日の家事・育児・介護にかかる平均時間

- ◎『一日の家事・育児・介護にかかる平均時間』は平日で家事3.52時間、育児1.61時間、介護0.33時間。
- ◎性別で差異が大きく、平均時間は女性が男性を上回る。
- ◎前回調査との比較では男性は平均時間が短くなっているのに対し、女性は平均時間が長くなっている。

<全体・性別>

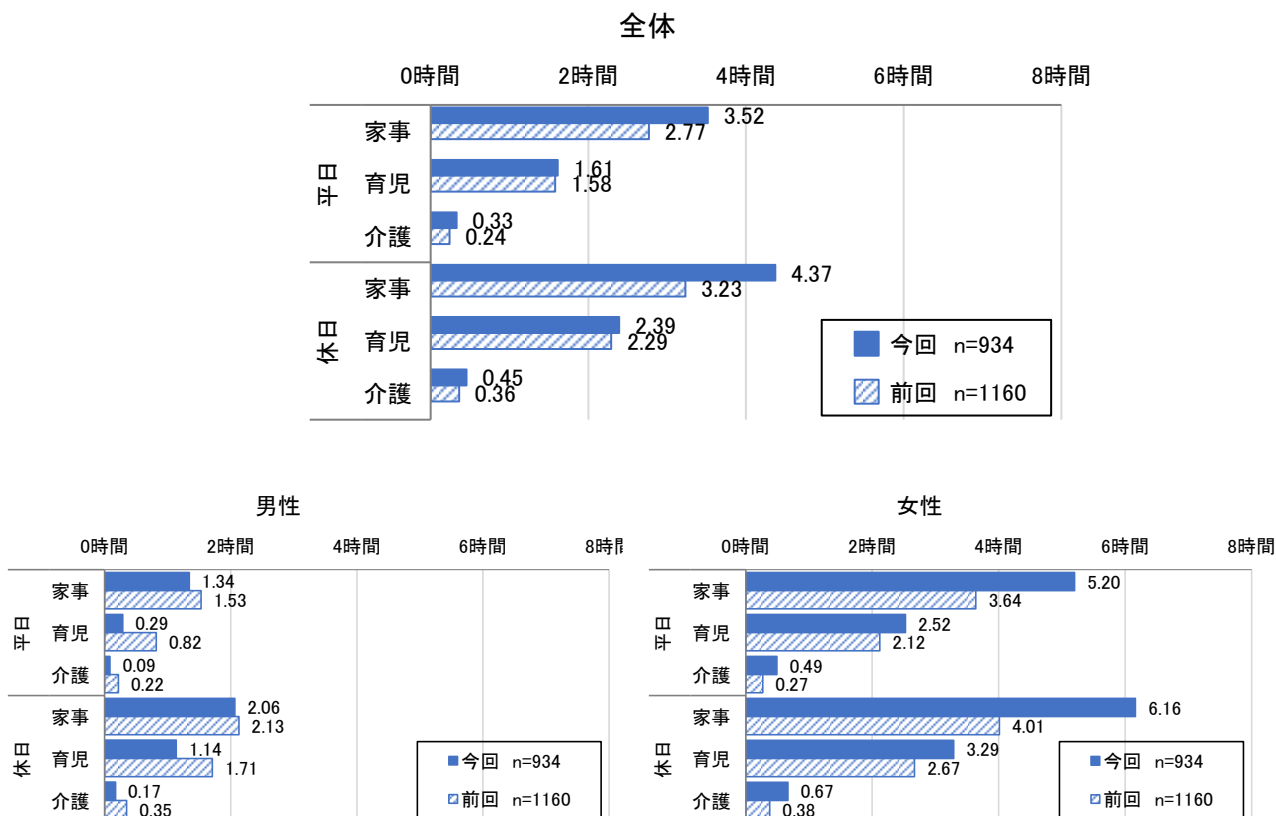
全体でみると、平日では、家事の平均時間3.52時間、育児の平均時間1.61時間、介護の平均時間0.33時間。休日では、家事の平均時間4.37時間、育児の平均時間2.39時間、介護の平均時間0.45時間。平日に比べて休日では家事で0.85時間、育児で0.78時間、介護で0.12時間長い。

性別では、家事・育児・介護にかかっている時間は男性に比べて女性の方が、平日の家事で3.86時間、育児で2.23時間、介護で0.40時間、休日の家事で4.10時間、育児で2.15時間、介護で0.50時間長い。

<前回調査結果と比較>

前回調査と比較すると、男性では平日、休日ともに、家事、育児、介護の平均時間は前回を下回っているのに対し、女性では平日、休日ともに、家事、育児、介護の平均時間は前回を上回っている。

■図表 一日の家事にかかる平均時間(全体・性別) 前回(平成29年度)



問16－1平日の家事にかかる時間

- ◎『平日の家事』の平均時間は、全体で3.52時間。
- ◎性別で差異が大きく、女性が男性を平均時間で3.86時間上回る。
- ◎性・年代別には、50代で最も男女の乖離が大きく、平均時間で女性が男性の約6倍。

<全体・性別>

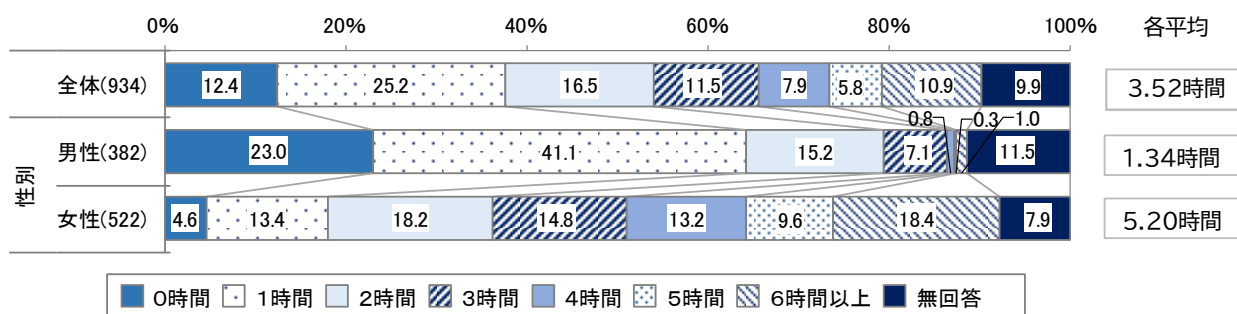
全体でみると、平日の家事時間は1時間が25.2%で、2時間16.5%、0時間12.4%と続き、平均時間は3.52時間。

性別では、男性では1時間が41.1%、0時間が23.0%であり、合わせると6割台半ばが1時間以下となっているが、女性では0時間4.6%、1時間13.4%と男性よりも長い時間の割合が高くなっている。平均時間も男性1.34時間に対し女性5.20時間で、女性の方が3.86時間上回る。

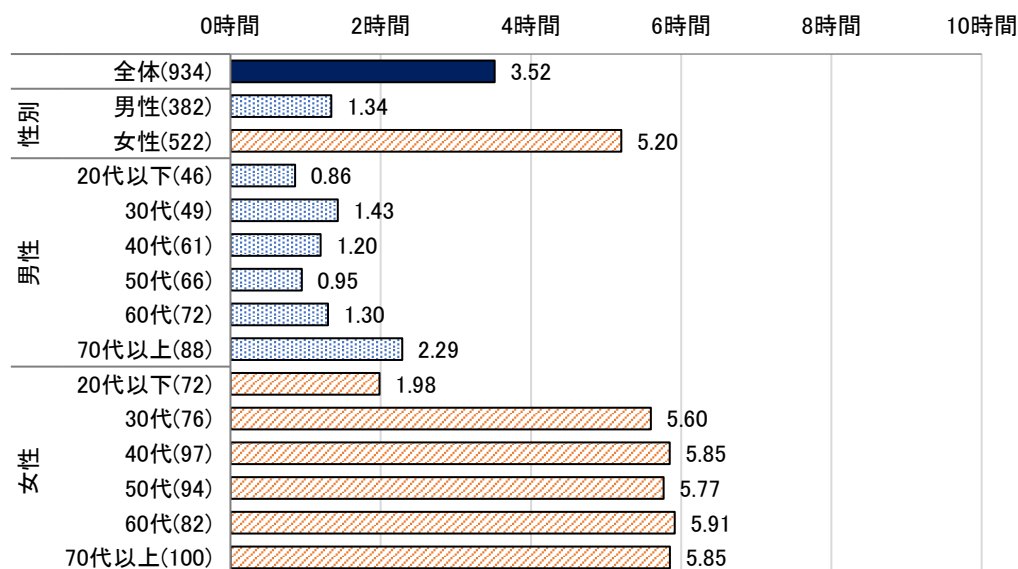
<性・年代別>

性・年代別に平均時間をみると、男性は70代以上で2.29時間であるが、他の年代はいずれも1.5時間を下回る。女性では30代以上でいずれも5時間以上であり、30代以上では女性が男性の平均時間を2.5～約6倍上回る状況にある。

■図表 平日の家事にかかる時間(全体・性別)



■図表 平日の家事にかかる時間(平均時間、性・年代別)



問16－2平日の育児にかかる時間

- ◎『平日の育児』の平均時間は、全体で0時間が過半数で、平均時間は1.61時間。
- ◎性別でも男女ともに0時間が最も多いが、平均時間は女性が2.2時間上回る。
- ◎性・年代別には、女性の30～40代で長く、平均時間の男女差は極めて大きい。

<全体・性別>

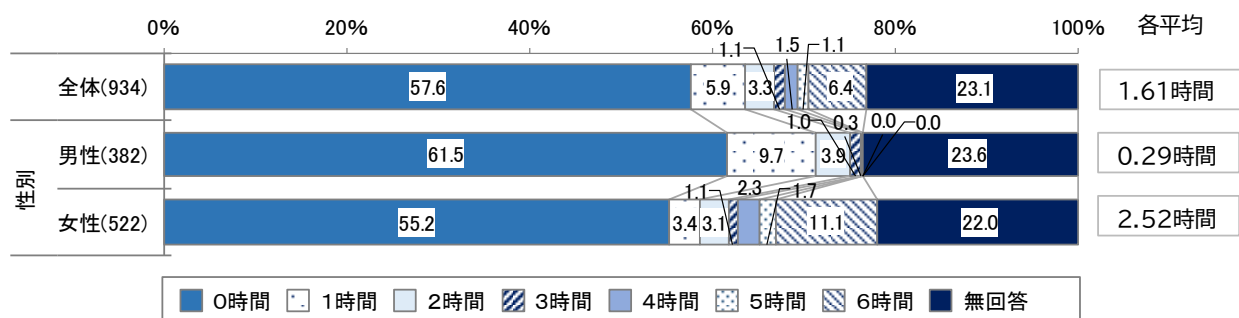
全体でみると、0時間の割合が最も多く過半数であり、平均時間は1.61時間となっている。

性別でも、男女ともに0時間の割合が最も高いが、平均時間は男性0.29時間、女性2.52時間と女性の方が2.23時間長くなっている。

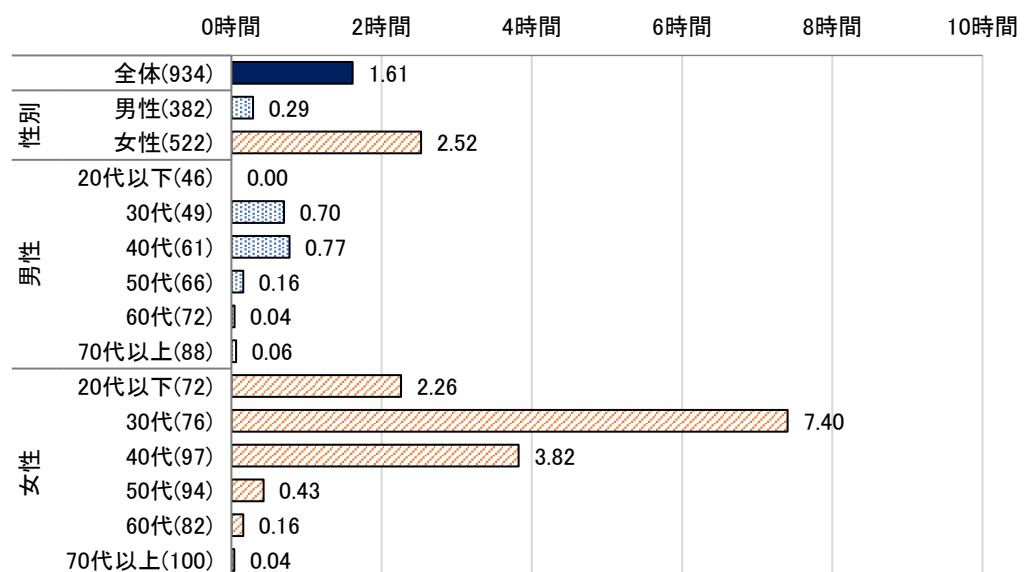
<性・年代別>

性・年代別に平均時間をみると、女性の30代、40代で、それぞれ7.40時間、3.82時間と突出して長い。他方、男性はいずれの年代も1時間未満となっており、男女の差が極めて大きい。

■図表 平日の育児にかかる時間(全体・性別)



■図表 平日の育児にかかる時間(平均時間、性・年代別)



問16－3平日の介護にかかる時間

◎『平日の介護』の平均時間は、全体で0時間が7割台半ばを占め、平均時間は0.33時間。性別にみても0時間が多く同様の傾向。

◎性・年代別でも、女性60代以外はいずれの年代も1時間未満。

<全体・性別>

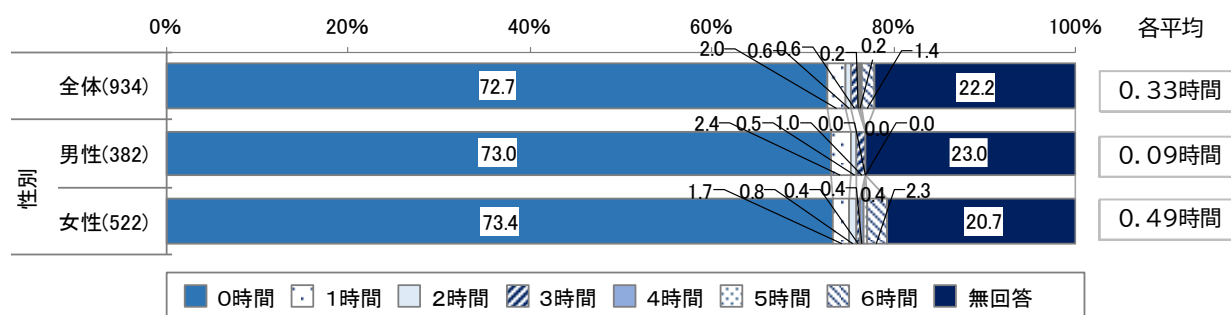
全体でみると、0時間の割合が最も多く72.7%、平均時間は0.33時間である。

性別でも、男女ともに0時間の割合が最も多く、平均時間は男性0.09時間、女性0.49時間である。

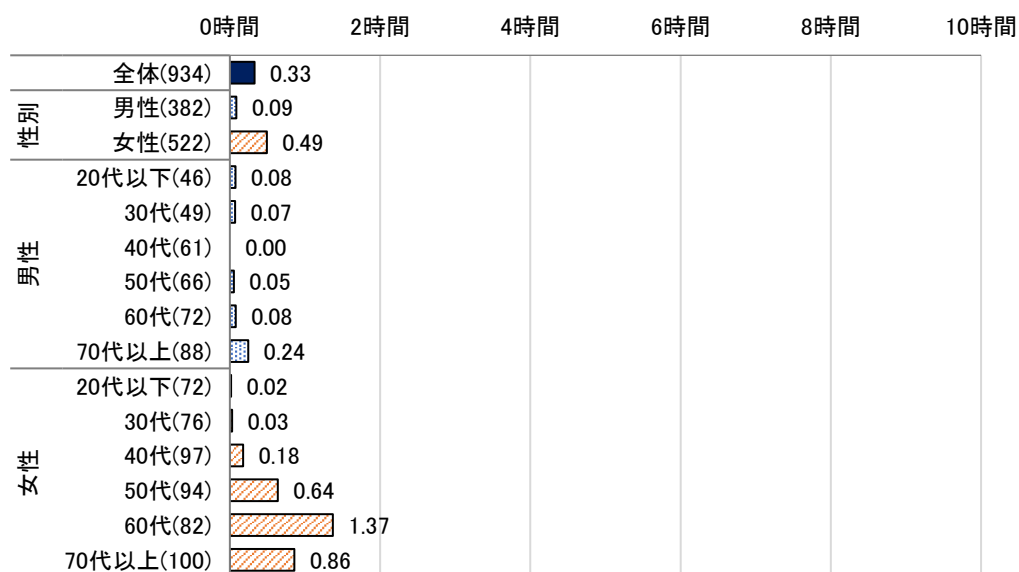
<性・年代別>

性・年代別でみると、平均時間は女性60代で1時間を超えているほかは、いずれの年代も1時間未満と短い。

■図表 平日の介護にかかる時間(全体・性別)



■図表 平日の介護にかかる時間(平均時間、性・年代別)



問16－4休日の家事にかかる時間

- ◎『休日の家事』の平均時間は、全体で4.37時間と平日より長い。
- ◎平日と同様に、性別で差異が大きく、女性が男性を平均時間で4.10時間上回る。
- ◎性・年代別には、いずれの年代でも男女の乖離が大きく、平均時間で女性が男性の3倍弱。

<全体・性別>

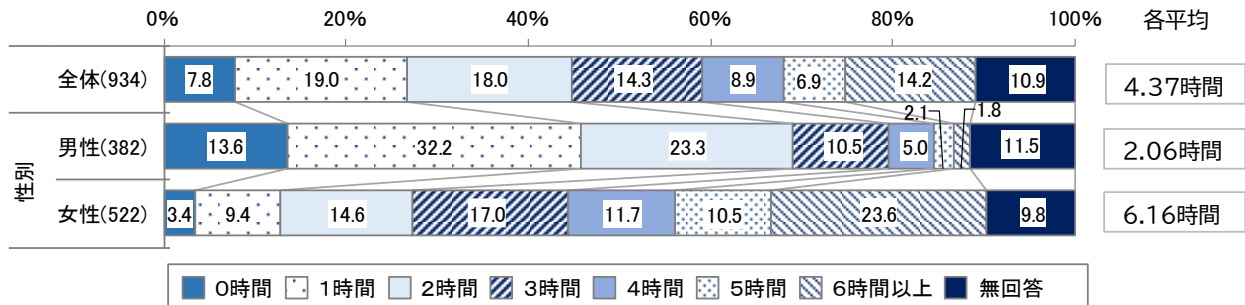
全体でみると、休日の家事時間は1時間と2時間がそれぞれ19.0%、18.0%でほぼ並び、平均時間は4.37時間と、平日よりも0.85時間長くなっている。

性別では、男性では0時間が13.6%、1時間が32.2%、2時間が23.3%であり、平日よりも0時間と1時間の割合が減り、2時間の割合が増えている。平均時間も休日は2.06時間で平日より0.72時間長い。他方、女性では、各時間の構成比は平日とほぼ同様。平均時間は6.16時間と男性同様に増加しているが、平日と比べるとその差は0.96時間。なお休日の家事の平均時間も、女性の方が男性より4.10時間長くなっている。

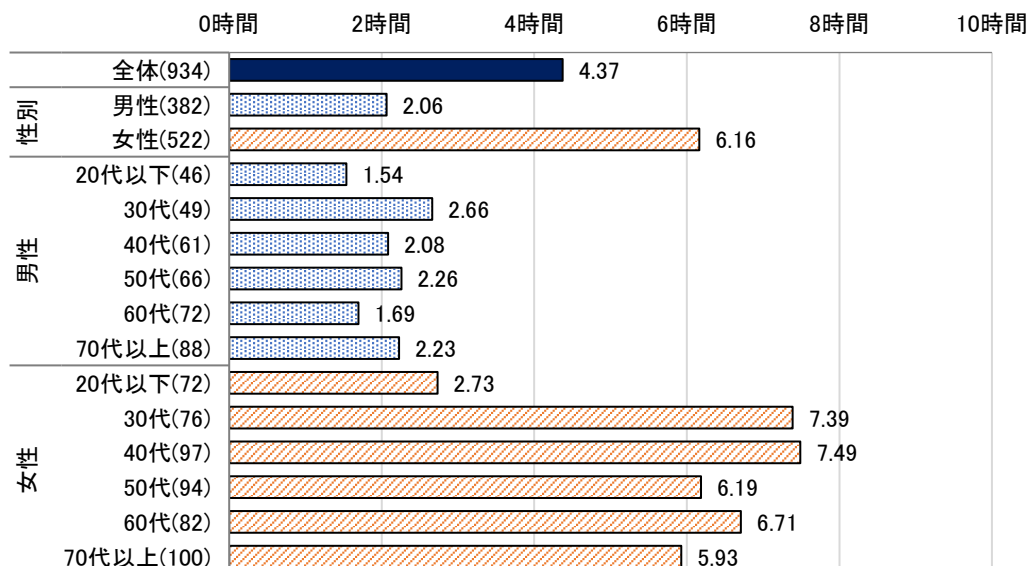
<性・年代別>

性・年代別で平均時間を比較すると、平日と同様に、いずれの年代も女性の方が長く、30代以上では男性の2.6～4倍弱となっている。なお男性の30～50代では、平日と比べると2倍前後長くなっているが、同年代の女性と比べれば1/3程度の時間に留まる。

■図表 休日の家事にかかる時間(全体・性別)



■図表 休日の家事にかかる時間(平均時間、性・年代別)



問16－5休日の育児にかかる時間

- ◎『休日の育児』にかかる時間は、全体で0時間が過半数で、平均時間は2.39時間と平日より長い。
- ◎性別でも男女ともに0時間が最も多いが、平均時間は女性が男性を約2時間上回る。
- ◎性・年代別には、女性の30～40代で長く、平均時間は男性の同年代の1.7～約3倍の長さ。

<全体・性別>

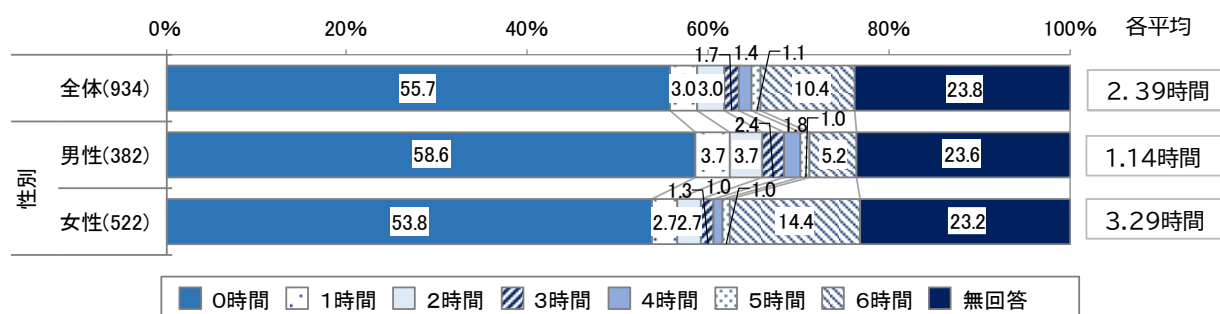
全体でみると、平日と同様に0時間の割合が最も多く過半数であり、平均時間は2.39時間となっている。

性別でも、男女ともに0時間の割合が最も高いが、平均時間は男性1.14時間、女性3.29時間と女性の方が約2時間長い。

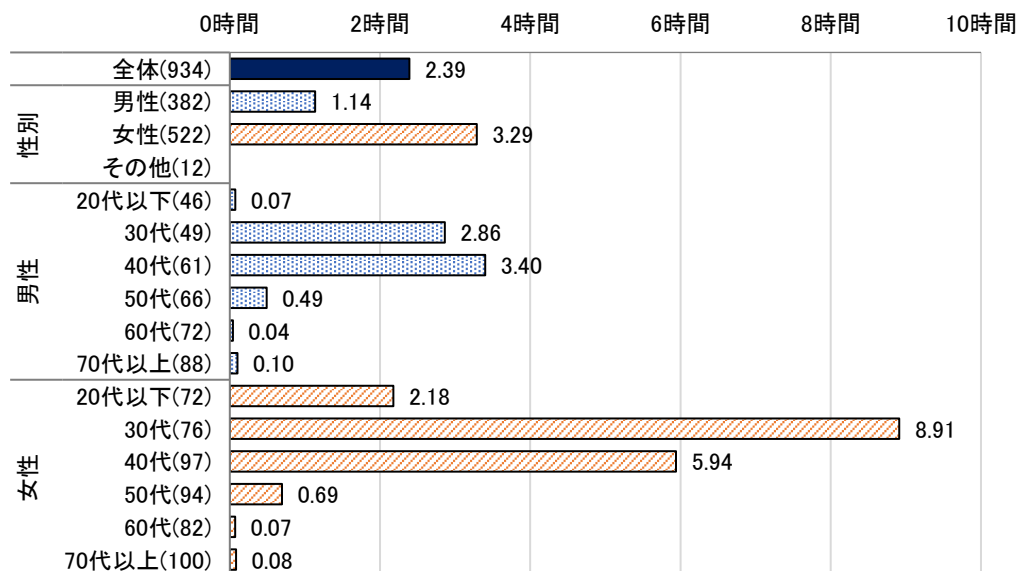
<性・年代別>

性・年代別に平均時間をみると、女性の30～40代で長いのは平日と同様だが、男性では平日はいずれの年代も1時間に満たなかった平均時間が、30代、40代ではそれぞれ2.86時間、3.40時間と長くなっている。しかし同年代を比べれば、30代では3.1倍、40代では1.7倍と女性の方が大幅に長い。

■図表 休日の育児にかかる時間(全体・性別)



■図表 休日の育児にかかる時間(平均時間、性・年代別)



問16－6休日の介護にかかる時間

- ◎『休日の介護』にかかる時間は、全体で0時間がほとんどを占め、平均時間は平日よりは長いが0.45時間。
性別にみても0時間が多く傾向に差異はない。
- ◎性・年代別では、女性50代以上を除いていずれの年代も1時間未満と短い

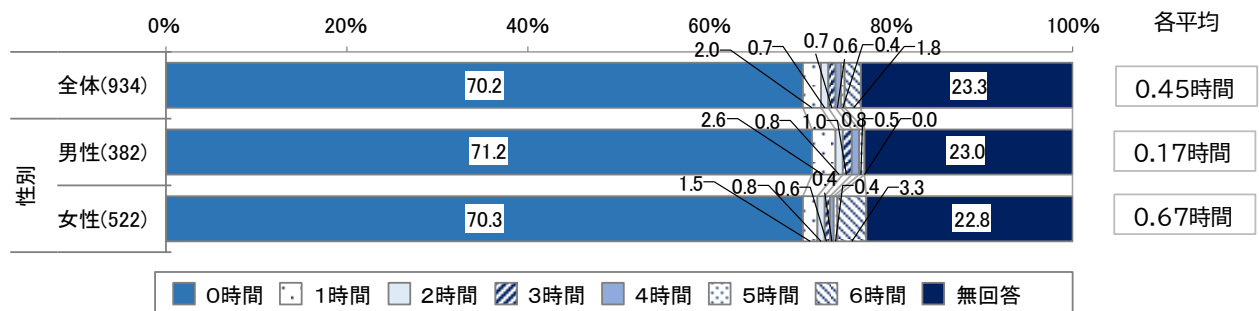
<全体・性別>

全体でみると、0時間の割合が最も多く70.2%、平均時間は0.45時間と、平日よりは長いが育児や家事に比べれば短い状況にある。性別でも、男女ともに0時間の割合が最も多く、平均時間も男性0.17時間、女性0.67時間と、顕著な差異はみられない。

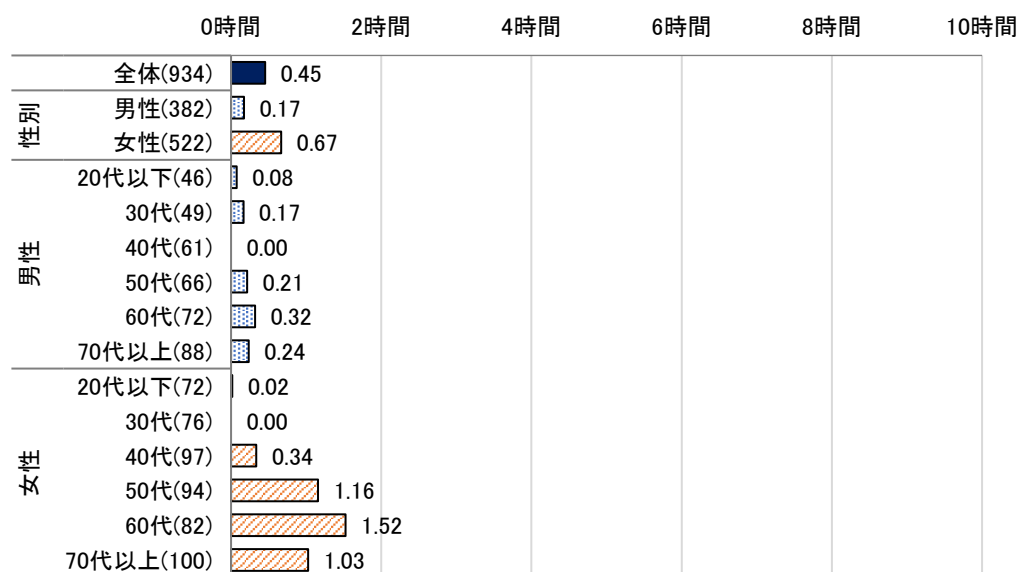
<性・年代別>

性・年代別でみると、女性50代以上を除くと平均時間はいずれの年代も1時間未満と短い。女性50代は1.16時間、女性60代は1.52時間となっている。

■図表 休日の介護にかかる時間(全体・性別)



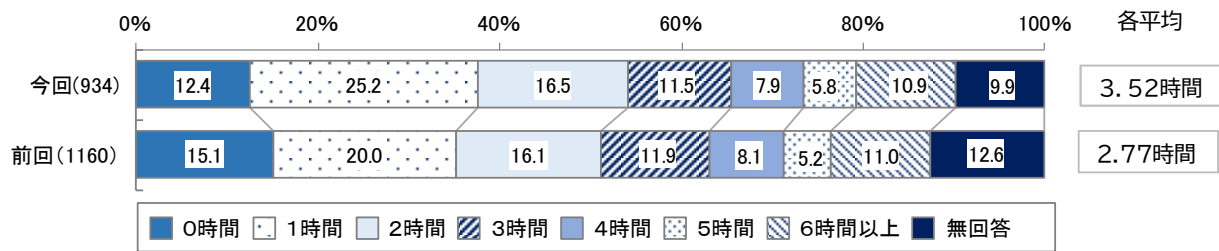
■図表 休日の介護にかかる時間(平均時間、性・年代別)



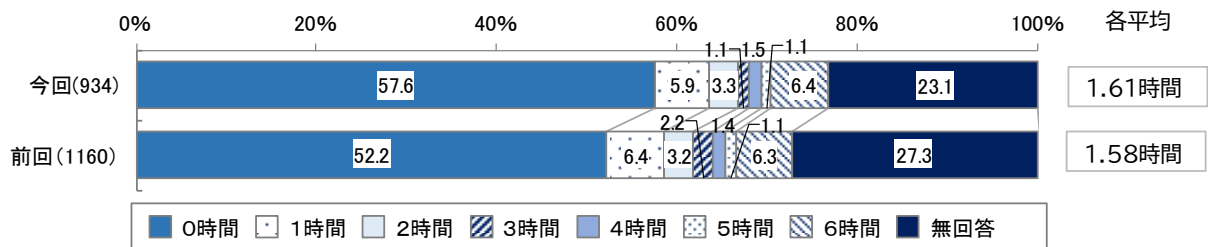
< 前回調査結果との比較 >

平日

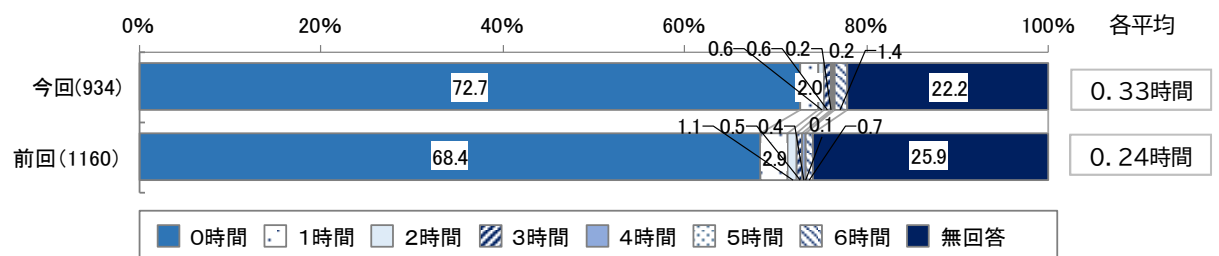
■図表 平日の家事にかかる時間 前回(平成29年度)



■図表 平日の育児にかかる時間 前回(平成29年度)

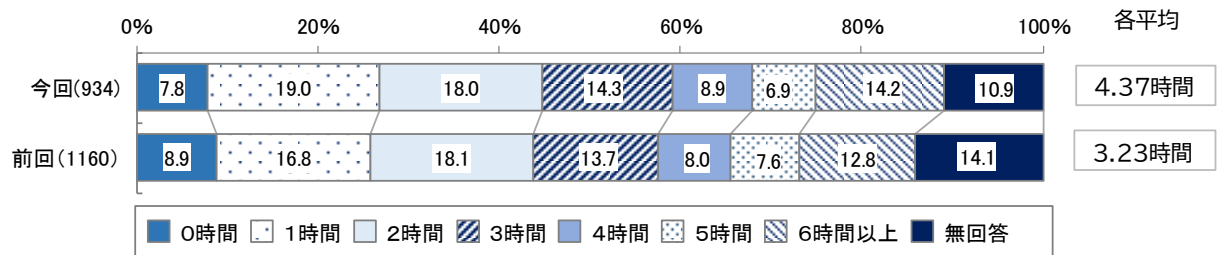


■図表 平日の介護にかかる時間 前回(平成29年度)

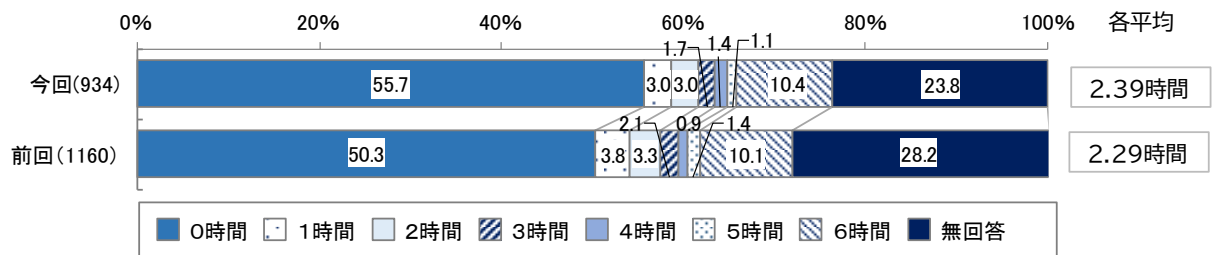


休日

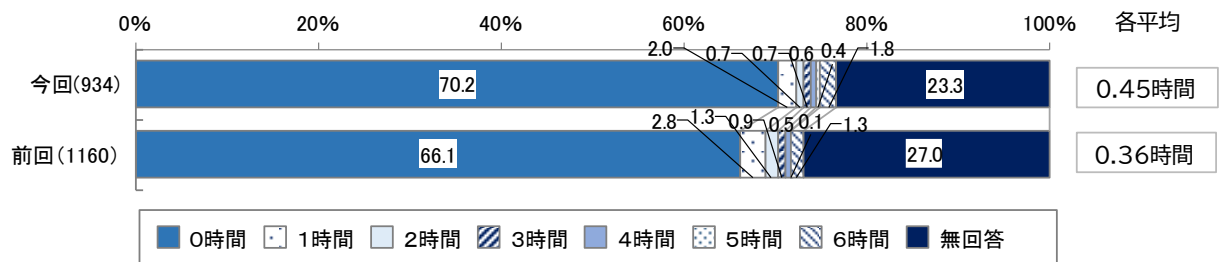
■図表 休日の家事にかかる時間 前回(平成29年度)



■図表 休日の育児にかかる時間 前回(平成29年度)



■図表 休日の介護にかかる時間 前回(平成29年度)



(5)男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なことについて(問17)

問17. 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

- ◎全体では、「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーション」の割合が最も多く6割近く。次いで「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が5割強、「男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」が4割台半ばと続く。
- ◎男性では「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーション」と「労働時間の短縮や休暇をとりやすく」が、女性では「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーション」と「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」に加え、「男性自身の抵抗感をなくす」が、高い傾向。
- ◎職業別では、従業員、事務職、専門職で「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」とする割合が特に高い。
- ◎ワーク・ライフ・バランスが“実現できていない”人は「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」の割合が最も高い。

<全体・性別>

全体でみると、「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要」とする割合が最も多く58.6%。次いで「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」51.2%、「男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要」で47.4%、と続く。

性別にみると、男性では「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要」と「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」がそれぞれ57.9%、51.3%と高いが、女性では「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要」の割合が59.6%と最も多く、次いで「男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要」が54.4%、「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」が52.5%と5割を超えている。

<性・年代別>

性・年代別でみると、男性30代～50代では「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」とする割合が最も高い。特に男性30代でその割合が高くなっている。男性20代以下と50代以上では「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要」とする割合が最も高い。特に男性20代以下でその割合が高くなっている。

女性50代では「男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要」、女性30代では「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」、その他の年代では「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要」とする割合が最も高い。

<職業別>

職業別でみると、従業員、事務職、専門職で「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」とする割合が特に高く、学生では「男性が家事などを行うことに対する職場の理解が進むことが必要」とする割合が特に高い。

その他の職業では「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要」とする割合が最も高い。

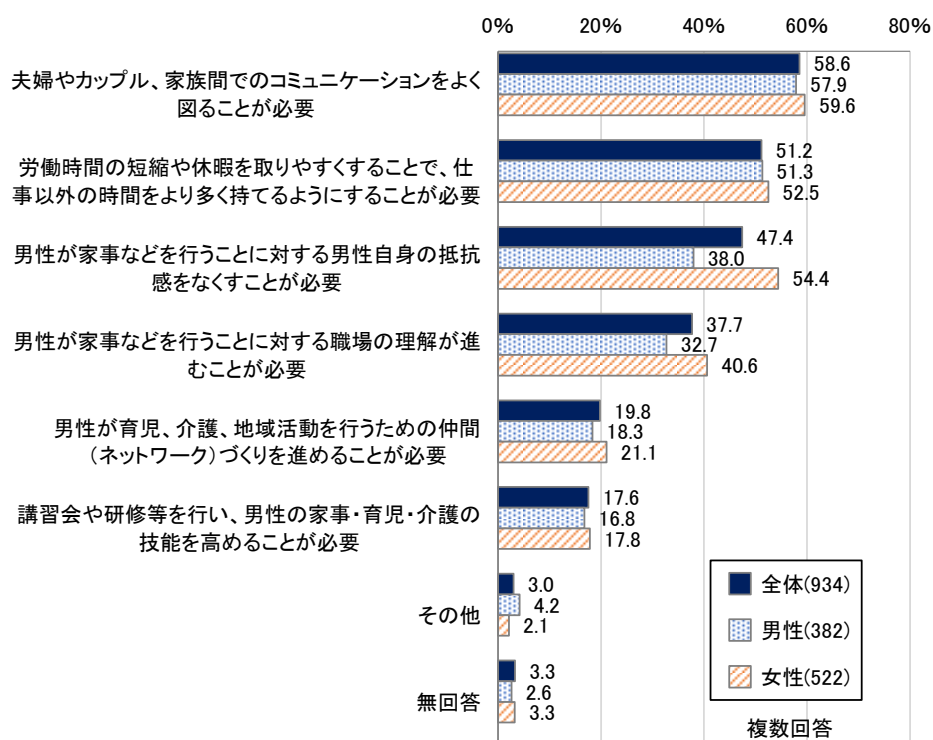
<婚姻の状況別>

婚姻の状況別でみると、未婚(事実婚を含む)で「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」、「男性が家事などを行うことに対する職場の理解が進むことが必要」の割合が特に高い。

<ワーク・ライフ・バランスの現状別>

ワーク・ライフ・バランスの現状別でみると、「実現できていない」人は「労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要」の割合が最も多く、それ以外の人は「夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要」が必要だと思っている割合が高い。

■図表 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なこと(全体・性別)



【主なその他回答】

・本人の考え方しだい／給料が上がらない限り休暇を取って、家事・育児・介護をするのは無理／家事をすること、できる人に対する敬意を夫婦間で持つ／男女のかせげる額の差をなくすなど

■図表 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なこと(性・年代別／職業別／婚姻の状況別)

		問17 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うこと								
		合計	男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要	夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要	男性が家事などを行うことに対する職場の理解が進むことが必要	労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要	講習会や研修等を行い、男性の家事・育児・介護の技能を高めることが必要	男性が育児、介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりを進めることが必要	その他	無回答
全体		934	47.4	58.6	37.7	51.2	17.6	19.8	3.0	3.3
性・年代別	男性20代以下	46	41.3	71.7	47.8	60.9	17.4	15.2	6.5	0.0
	30代	49	38.8	61.2	38.8	73.5	20.4	22.4	4.1	2.0
	40代	61	36.1	55.7	41.0	60.7	14.8	14.8	8.2	1.6
	50代	66	25.8	48.5	30.3	48.5	6.1	21.2	1.5	3.0
	60代	72	38.9	56.9	22.2	44.4	15.3	16.7	5.6	2.8
	70代以上	88	45.5	58.0	26.1	35.2	25.0	19.3	1.1	4.5
	女性20代以下	72	55.6	66.7	55.6	63.9	25.0	19.4	1.4	1.4
	30代	76	57.9	60.5	50.0	68.4	22.4	18.4	2.6	2.6
	40代	97	53.6	63.9	47.4	58.8	18.6	24.7	4.1	2.1
	50代	94	58.5	53.2	36.2	56.4	11.7	17.0	1.1	1.1
	60代	82	57.3	62.2	39.0	45.1	20.7	30.5	1.2	1.2
	70代以上	100	46.0	53.0	22.0	29.0	12.0	17.0	2.0	10.0
職業	経営者、管理職、	103	36.9	57.3	26.2	47.6	15.5	14.6	4.9	2.9
	従業員、事務職、専門職	292	43.8	63.0	42.5	63.0	15.4	20.5	3.1	1.4
	パート、アルバイト	175	53.7	61.1	40.0	53.7	16.0	22.9	2.3	2.3
	家事専業	129	51.2	51.9	30.2	49.6	16.3	19.4	3.1	3.9
	学生	42	54.8	54.8	57.1	50.0	26.2	14.3	4.8	2.4
	無職	153	47.7	55.6	33.3	36.6	20.3	18.3	1.3	5.9
婚姻の状況	既婚(配偶者がいる)	602	47.5	60.5	34.4	49.8	17.1	19.4	3.3	2.3
	既婚(離別・死別)	109	45.9	52.3	33.0	38.5	11.0	22.9	2.8	7.3
	未婚(事実婚を含む)	207	49.3	57.5	49.8	65.2	21.3	20.3	2.4	1.4

■図表 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なこと(ワーク・ライフ・バランスの現状別)

		問17 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うこと								
		合計	男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要	夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要	男性が家事などを行うことに対する職場の理解が進むことが必要	労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要	講習会や研修等を行い、男性の家事・育児・介護の技能を高めることが必要	男性が育児、介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりを進めることが必要	その他	無回答
全体		934	47.4	58.6	37.7	51.2	17.6	19.8	3.0	3.3
問14-1 あなたは仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を 実現できていると思うか	実現できている	107	48.6	66.4	37.4	53.3	17.8	20.6	1.9	0.9
	おおよそ実現できている	286	45.5	64.3	39.2	55.2	16.4	21.3	2.8	0.3
	あまり実現できていない	190	48.9	58.9	39.5	55.8	16.8	17.9	3.2	2.6
	実現できていない	100	51.0	51.0	31.0	60.0	23.0	26.0	5.0	2.0
	わからない	175	46.9	53.1	42.9	43.4	16.0	16.0	2.9	3.4
	その他	39	56.4	64.1	35.9	38.5	28.2	20.5	2.6	0.0
	無回答	37	35.1	29.7	13.5	16.2	10.8	16.2	2.7	43.2

(6)新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生活や行動の変化(問18)

問18. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたの生活や行動に変化はありましたか。

当てはまるものを、全て選んでください。(MA)

- ◎全体では、「家庭生活が少し変わった」が3割台半ば、次いで「変わらない」が3割弱。
- ◎女性では“家庭生活が変わった”とする割合が高く、男性では“働き方が変わった”とする割合が高い。
- ◎“就労者”では“働き方が変わった”とする割合が高く、“非就労者”では“家庭生活が変わった”とする割合が高い。

※“家庭生活が変わった”(「家庭生活が大きく変わった」+「家庭生活が少し変わった」)、“働き方が変わった”(「働き方が大きく変わった」+「働き方が少し変わった」)

※“就労者”(経営者、管理職+従業員、事務職、専門職+パート・アルバイト)、“非就労者”(家事専業+学生+無職)

<全体・性別>

全体でみると、「家庭生活が少し変わった」の割合が33.0%と最も多く、次いで「変わらない」29.2%、「働き方が少し変わった」22.4%、「家庭生活が大きく変わった」13.7%、「働き方が大きく変わった」13.2%となっている。

性別にみると、男性では「変わらない」の割合が最も高いのに対し、女性では「家庭生活が少し変わった」の割合が最も高い。

<性・年代別>

性・年代別でみると、男性の50代で「働き方が大きく変わった」、30代40代で「働き方が少し変わった」、20代以下と60代で「変わらない」、70代以上で「家庭生活が少し変わった」の割合が最も多く、40代50代で「働き方が大きく変わった」、「働き方が少し変わった」の割合が特に高くなっている。

女性では20代以下で「変わらない」の割合が最も多く、その他の年代では「家庭生活が少し変わった」の割合が最も高い。

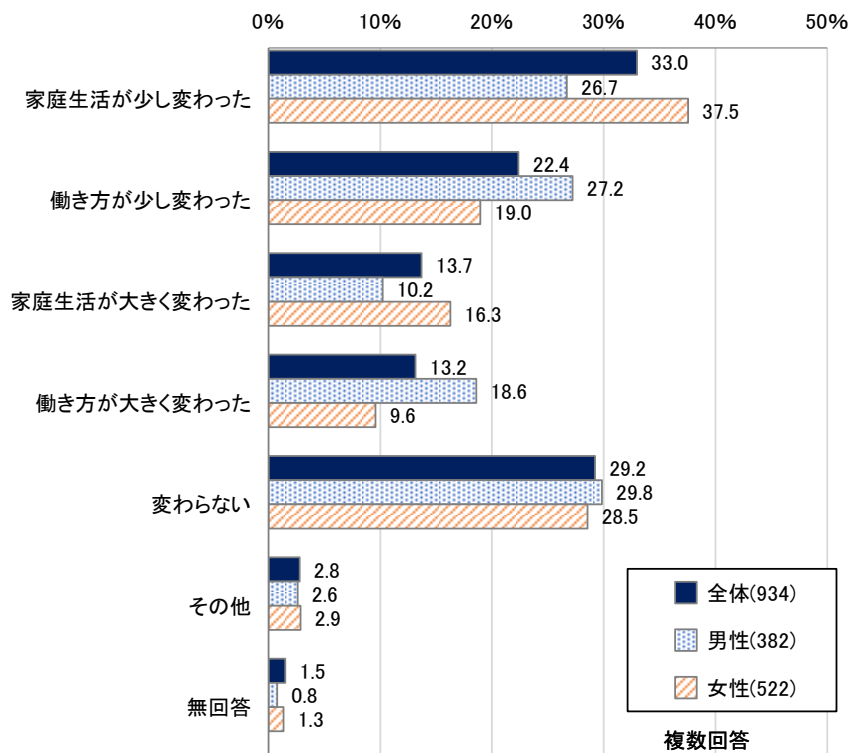
<職業別>

職業別でみると、経営者、管理職、従業員、事務職、専門職では「働き方が少し変わった」の割合が最も多く、それ以外の職業では、「家庭生活が少し変わった」の割合が最も多くなっている。

<婚姻の状況別>

婚姻の状況別でみると、「既婚(配偶者がいる)」で「家庭生活が少し変わった」の割合が最も多く、その他では「変わらない」の割合が最も高い。

■図表 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生活や行動の変化(全体・性別)



【主なその他回答】

・外出しなくなった／学校生活が変わった／社会への対応、つき合い方大きく変化／買い物等必要最少限になったなど

■図表 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生活や行動の変化

(性・年代別／職業別／婚姻の状況別)

		合計	問18 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたの生活や行動に変化はあったか					
			働き方が大きく変わった	家庭生活が大きく変わった	働き方が少し変わった	家庭生活が少し変わった	変わらない	その他
全体		934	13.2	13.7	22.4	33.0	29.2	2.8
性・年代別	男性20代以下	46	17.4	6.5	23.9	17.4	32.6	8.7
	30代	49	18.4	6.1	32.7	24.5	30.6	2.0
	40代	61	24.6	8.2	44.3	19.7	19.7	0.0
	50代	66	34.8	15.2	33.3	24.2	19.7	1.5
	60代	72	16.7	8.3	27.8	27.8	37.5	0.0
	70代以上	88	4.5	13.6	9.1	38.6	36.4	4.5
	女性20代以下	72	11.1	13.9	27.8	26.4	31.9	4.2
	30代	76	13.2	13.2	23.7	42.1	22.4	0.0
	40代	97	15.5	16.5	27.8	30.9	26.8	3.1
	50代	94	7.4	16.0	18.1	39.4	31.9	1.1
職業	60代	82	6.1	17.1	14.6	42.7	29.3	2.4
	70代以上	100	5.0	20.0	5.0	43.0	28.0	6.0
	経営者、管理職、	103	33.0	13.6	36.9	26.2	18.4	0.0
	従業員、事務職、専門職	292	20.2	11.3	34.6	19.9	29.8	1.7
	パート、アルバイト	175	8.0	12.0	28.0	36.6	36.0	1.1
	家事専業	129	0.0	15.5	3.1	55.8	24.0	3.9
婚姻の状況	学生	42	9.5	16.7	11.9	28.6	23.8	14.3
	無職	153	5.2	16.3	3.3	43.1	33.3	4.6
	既婚(配偶者がいる)	602	13.6	13.6	21.6	36.4	28.6	2.3
	既婚(離別・死別)	109	9.2	23.9	17.4	26.6	32.1	0.9
未婚(事実婚を含む)		207	14.5	9.7	27.5	26.6	30.0	4.3

(7)感染症拡大によるテレワークのワーク・ライフ・バランスにとっての意義(問19)

問19. 新型コロナウイルス感染症拡大による在宅勤務などのテレワークはワーク・ライフ・バランスにとって意義があることだと思いますか。あなたの考え方に近いものを全て選んでください。(MA)

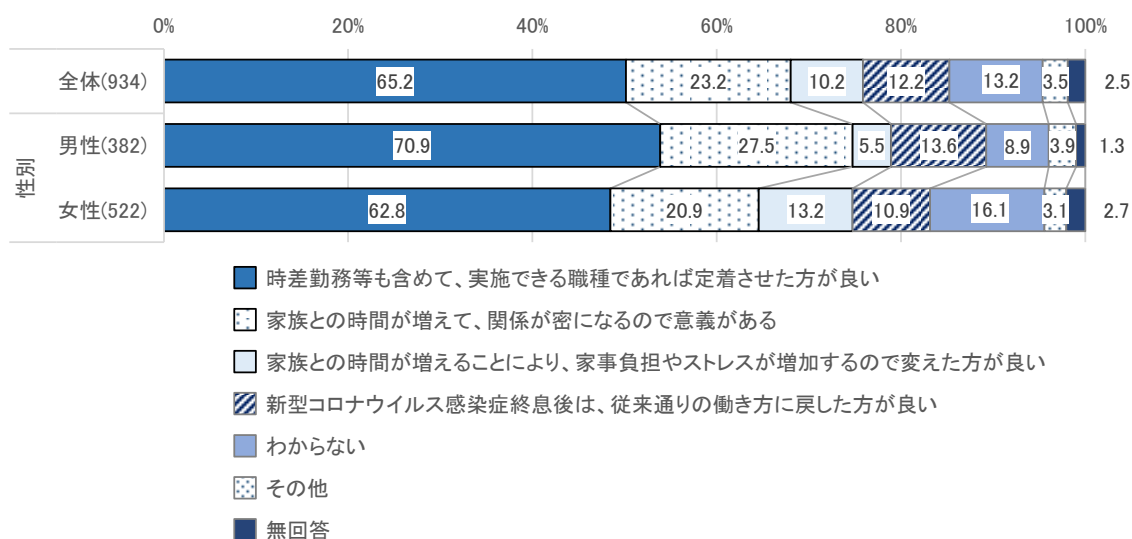
- ◎全体では、「時差勤務等も含めて、実施できる職種であれば定着させた方が良い」が6割台半ば。
 ◎性別では男女ともに「時差勤務等も含めて、実施できる職種であれば定着させた方が良い」の割合が高く、男性で約7割、女性で6割台半ば。

<全体・性別>

全体でみると、「時差勤務等も含めて、実施できる職種であれば定着させた方が良い」の割合が65.2%と最も多く、次いで「家族との時間が増えて、関係が密になるので意義がある」が23.2%である。「家族との時間が増えることにより、家事負担やストレスが増加するので変えた方が良い」は10.2%、「新型コロナウイルス感染症終息後は、従来通りの働き方に戻した方が良い」は12.2%とそれぞれ約1割から1割強である。

性別では、男女ともに「時差勤務等も含めて、実施できる職種であれば定着させた方が良い」の割合が高く、男性では70.9%、女性では62.8%となっている。

■図表 テレワークのワーク・ライフ・バランスにとっての意義(全体・性別)



【主な

その他回答】

- ・共同、共通意識・行動をすることが良い／好きな働き方を選択できるようにすべき／テレワークは一部の事務系の職場では有利／対面での活動は必要など

5. 学校教育について

(1) 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るために重要なこと(問20)

問20. 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るためには、どのようなことが重要だと思いますか。

あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

◎最も多い意見は「互いの性を尊重しあえる教育の充実が必要」で6割を超える。

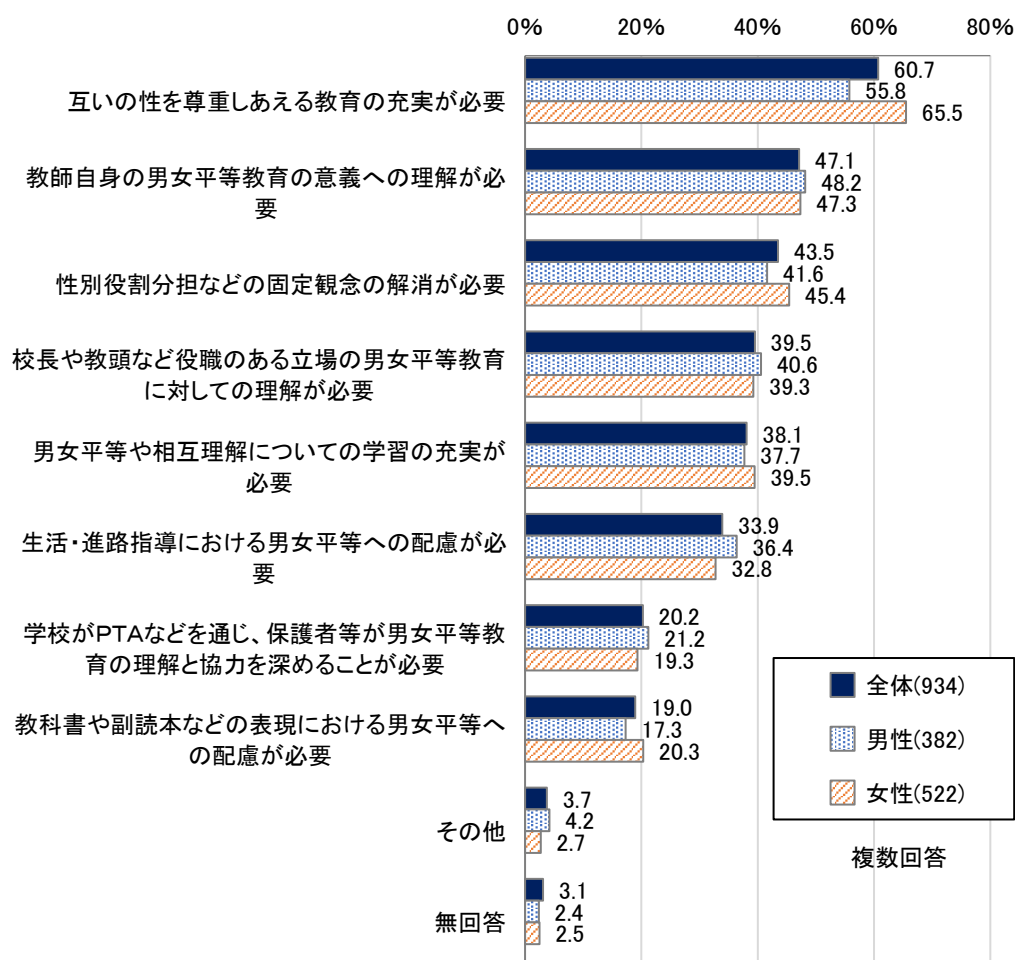
◎性別にみても、回答の傾向に男女の大きな差異はみられない。

<全体・性別>

全体でみると、「互いの性を尊重しあえる教育の充実が必要」の割合が最も多く60.7%、次いで「教師自身の男女平等教育の意義への理解が必要」47.1%、「性別役割分担などの固定観念の解消が必要」43.5%、「校長や教頭など役職のある立場の男女平等教育に対する理解が必要」39.5%、「男女平等や相互理解についての学習の充実が必要」38.1%が続く。

性別にみても、どの項目も男女で同様の値となっており、回答の傾向に大きな差異はみられない。

■図表 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るために重要なこと(全体・性別)



【主なその他回答】

・性教育について考えも含め詳しく教え互いの体について理解することが必要／平等は全て同じ事をする訳ではない。区別する所と平等を正しく分ける事が必要／学校では指導されている。もっと上の年代へ力を入れるべき、など

6. 社会参画について

(1) 女性がもっと就いた方がよいと思う役職や公職(問21)

問21. あなたがア)～オ)にあげる役職や公職に「女性がもっと就いた方がよい」と思いますか。

あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。(SA)

◎女性がもっと就いた方がよい職業として『市議会議員』、『市の審議会等の委員』、『職場の管理職』をあげる割合は5割台半ばから6割強。『PTA会長』や『自治会長』は3割台半ばにとどまり「わからない」と同程度。

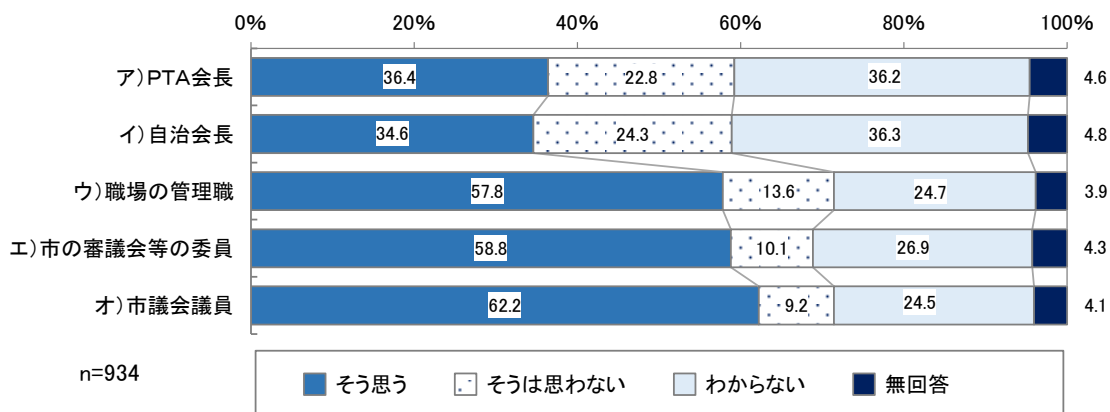
<全体>

全体でみると、最も「そう思う」割合が高かったのは『市議会議員』で、62.2%、次いで『市の審議会等の委員』で58.8%、『職場の管理職』で57.8%と続く。ほか『PTA会長』は36.4%、『自治会長』は34.6%と3割台半ばであり、「わからない」と同程度の割合となっている。

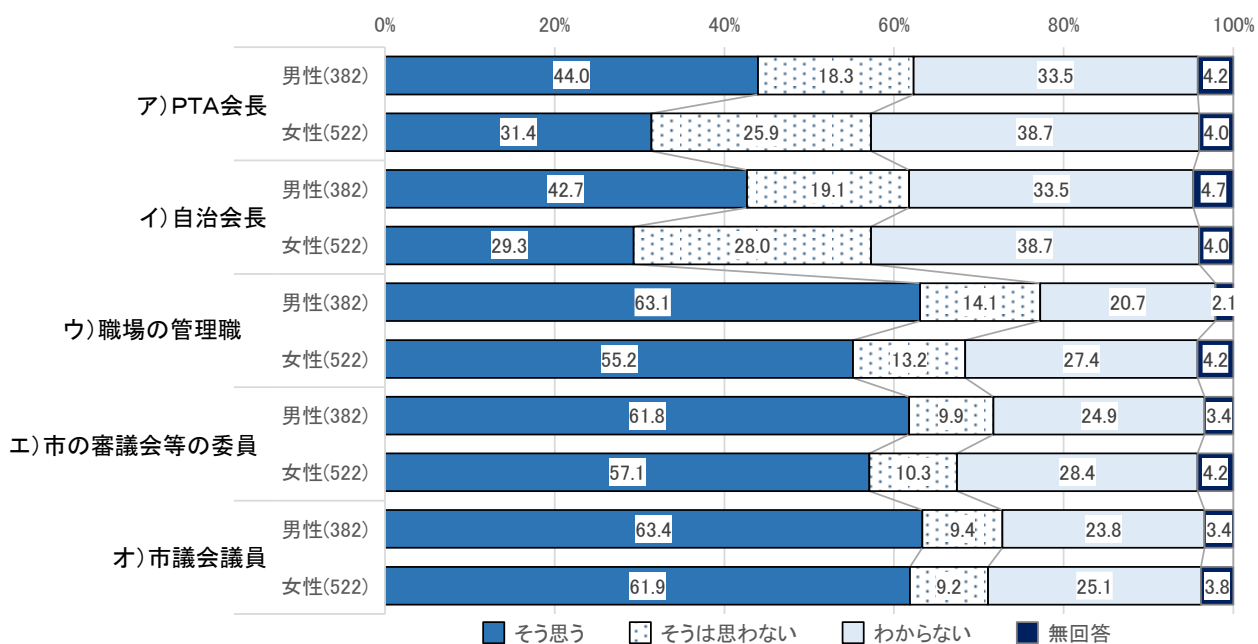
<性別>

「そう思う」の割合を性別にみると、男女ともに全体と同様に『市議会議員』、『職場の管理職』、『市の審議会等の委員』の割合が55.2～63.4%前後で高くなっているが、『自治会長』と『PTA会長』では男女で差異がみられ、『自治会長』では13.4ポイント、『PTA会長』では12.6ポイント、男性の方が「そう思う」の割合は高くなっている。

■図表 女性がもっと就いた方がよいと思う役職や公職(全体)



■図表 女性がもっと就いた方がよいと思う役職や公職(性別)



(2)女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと(問22)

問22. 役職等への就任や立候補を依頼された際に「承諾する」という女性が増えるなど、女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

◎全体として最も多い回答は「女性の役職等就任への意識改革」で4割台半ば。

◎性別にみると、男性では「女性の役職等就任への意識改革」が、女性では「家族の支援や協力」が多い。

<全体・性別>

全体でみると、「女性の役職等就任への意識改革」の割合が最も多く46.8%。次いで「家族の支援や協力」45.7%、「組織の運営体制の改善」が43.7%と続く。

性別にみると、男性では「女性の役職等就任への意識改革」が50.3%と高く、次いで「組織の運営体制の改善」が42.4%、「家族の支援や協力」が41.1%と続く。

女性では「家族の支援や協力」が50.6%と最も多く、次いで「組織の運営体制の改善」が46.0%、「女性の役職等就任への意識改革」が44.8%と続く。

なお、男女の乖離がみられるのは「家族の支援や協力」で、女性の方が男性よりも9.5ポイント高くなっている。

<性・年代別>

性・年代別でみると、男性では、20代以下、50代以上で「女性の役職等就任への意識改革」の割合が最も多く、特に60代の割合が高くなっている。30代では「家族の支援や協力」の割合が最も多く、40代では、「家族の支援や協力」と「組織の運営体制の改善」が同率で最も多くなっている。

女性では、20代以下、70代以上で「女性の役職等就任への意識改革」の割合が最も多く、30代、50代では「組織の運営体制の改善」が最も多く、30代でその割合が特に高い。40代、60代では「家族の支援や協力」が最も多く、その割合も特に高くなっている。

<職業別>

職業別でみると、経営者、管理職、従業員、事務職、専門職、学生、無職で「女性の役職等就任への意識改革」の割合が最も多く、パート・アルバイト、家事専業では「家族の支援や協力」の割合が最も高い。学生では「わからない」の割合が特に高くなっている。

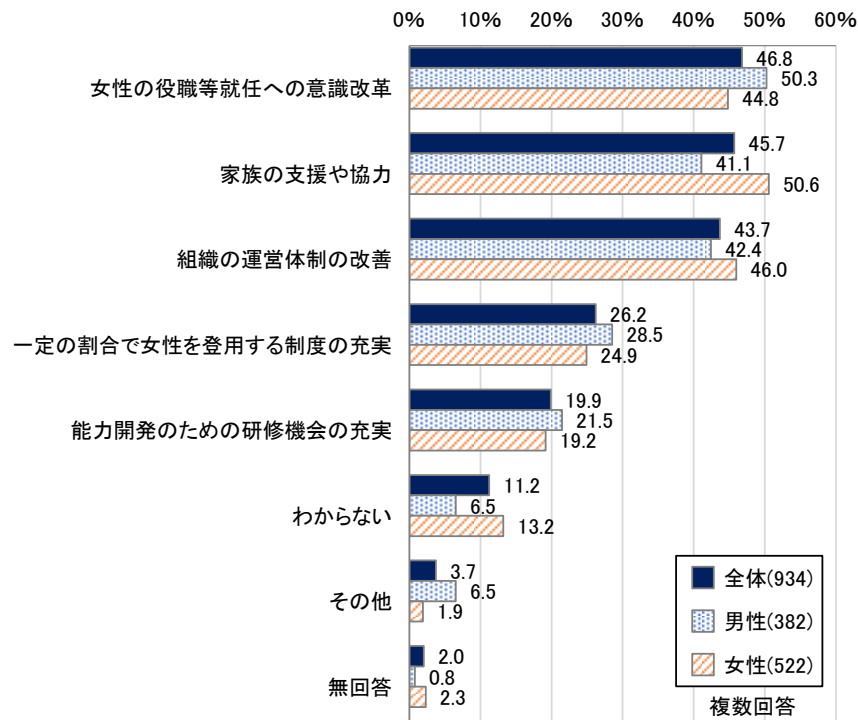
<婚姻の状況別>

婚姻の状況別でみると、“既婚”(「配偶者がいる」+「離婚・死別」)では「家族の支援や協力」の割合が最も多く、未婚(事実婚を含む)では「女性の役職等就任への意識改革」の割合が最も高い。

<働き方別>

働き方別でみると、二人とも働いているで「家族の支援や協力」の割合が最も多く、夫か妻のみ働いている、二人とも働いていないでは「女性の役職等就任への意識改革」の割合が最も多くなっている。

■図表 女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと(全体・性別)



【主なその他回答】

・裁量での採用／役職に就いた女性が、家庭と両立できるようにする職場の働き方改革／男性の女性軽視の解消など

■図表 女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと

(性・年代別／職業別／婚姻の状況別／働き方別)

		合計	問22 女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと						
			女性の役職等就任への意識改革	組織の運営体制の改善	能力開発のための研修機会の充実	家族の支援や協力	一定の割合で女性を登用する制度の充実	わからない	その他
全体		934	46.8	43.7	19.9	45.7	26.2	11.2	3.7
性・年代別	男性20代以下	46	52.2	45.7	26.1	34.8	6.5	15.2	8.7
	30代	49	44.9	38.8	14.3	46.9	28.6	4.1	8.2
	40代	61	41.0	42.6	24.6	42.6	18.0	6.6	16.4
	50代	66	53.0	37.9	12.1	39.4	31.8	3.0	6.1
	60代	72	59.7	45.8	23.6	38.9	33.3	5.6	4.2
	70代以上	88	48.9	43.2	26.1	43.2	40.9	6.8	0.0
	女性20代以下	72	48.6	45.8	16.7	38.9	25.0	16.7	1.4
	30代	76	44.7	64.5	21.1	60.5	26.3	10.5	1.3
	40代	97	47.4	44.3	24.7	62.9	19.6	9.3	7.2
	50代	94	43.6	52.1	13.8	48.9	21.3	13.8	0.0
職業	60代	82	45.1	47.6	25.6	56.1	32.9	6.1	1.2
	70代以上	100	41.0	27.0	14.0	37.0	26.0	21.0	0.0
	経営者、管理職	103	53.4	36.9	22.3	38.8	21.4	3.9	6.8
	従業員、事務職、専門職	292	51.4	49.7	19.5	49.0	25.0	7.2	6.2
	パート、アルバイト	175	38.3	44.0	21.1	52.6	29.1	13.7	1.7
	家事専業	129	45.7	43.4	18.6	49.6	24.8	13.2	1.6
婚姻の状況	学生	42	52.4	40.5	9.5	26.2	9.5	28.6	2.4
	無職	153	43.8	37.9	20.9	40.5	33.3	13.7	1.3
	既婚(配偶者がいる)	602	48.0	45.7	18.9	48.5	29.7	8.0	3.7
	既婚(離別・死別)	109	34.9	33.9	21.1	41.3	20.2	23.9	2.8
働き方	未婚(事実婚を含む)	207	50.7	45.9	22.7	42.0	20.3	12.6	4.8
	二人とも働いている	300	45.3	49.3	17.3	52.0	30.3	7.0	4.3
	夫か妻のみ働いている	182	51.6	42.9	23.1	48.9	25.8	8.2	4.9
	二人とも働いていない	114	50.0	42.1	17.5	40.4	35.1	8.8	0.0

7. 男女の人権について

(1) 女性の人権が侵害されていると思う度合い(問23)

問23. あなたはア)～サ)の各項目が「女性の人権が侵害されている」と思いますか。

あなたの考え方に近いものをそれぞれについて1つずつ選んでください。(SA)

◎全体として最も多い回答は『痴漢行為などの性犯罪』で7割台半ば。
 ◎性別では、『痴漢行為などの性犯罪』、『夫や恋人からの暴力』、『ストーカー行為』、『職場や学校、地域でのセクシャル・ハラスメント』に次いで、男性では『昇進や給与など職場における男女の待遇の違い』、女性では『買春・売春・援助交際』が多い。

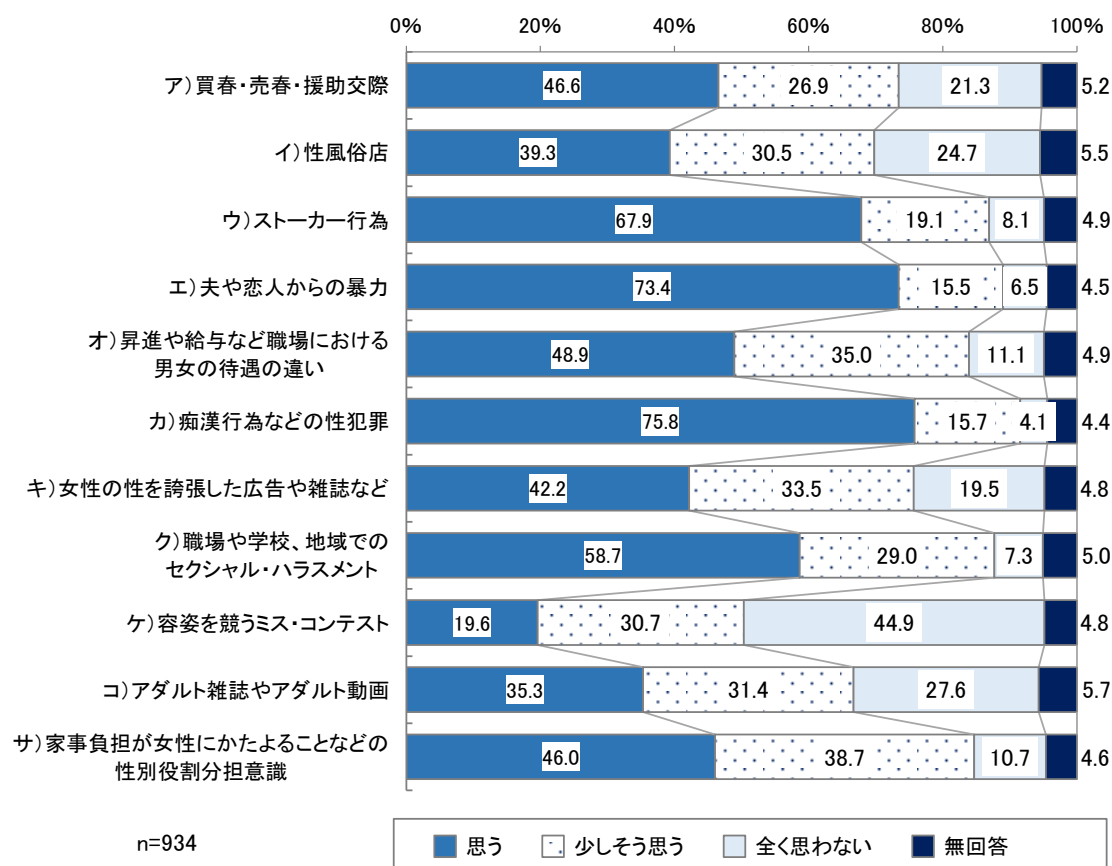
<全体>

全体でみると、最も「思う」割合が高かったのは『痴漢行為などの性犯罪』で75.8%、次いで『夫や恋人からの暴力』73.4%、『ストーカー行為』67.9%、『職場や学校、地域でのセクシャル・ハラスメント』58.7%と続く。

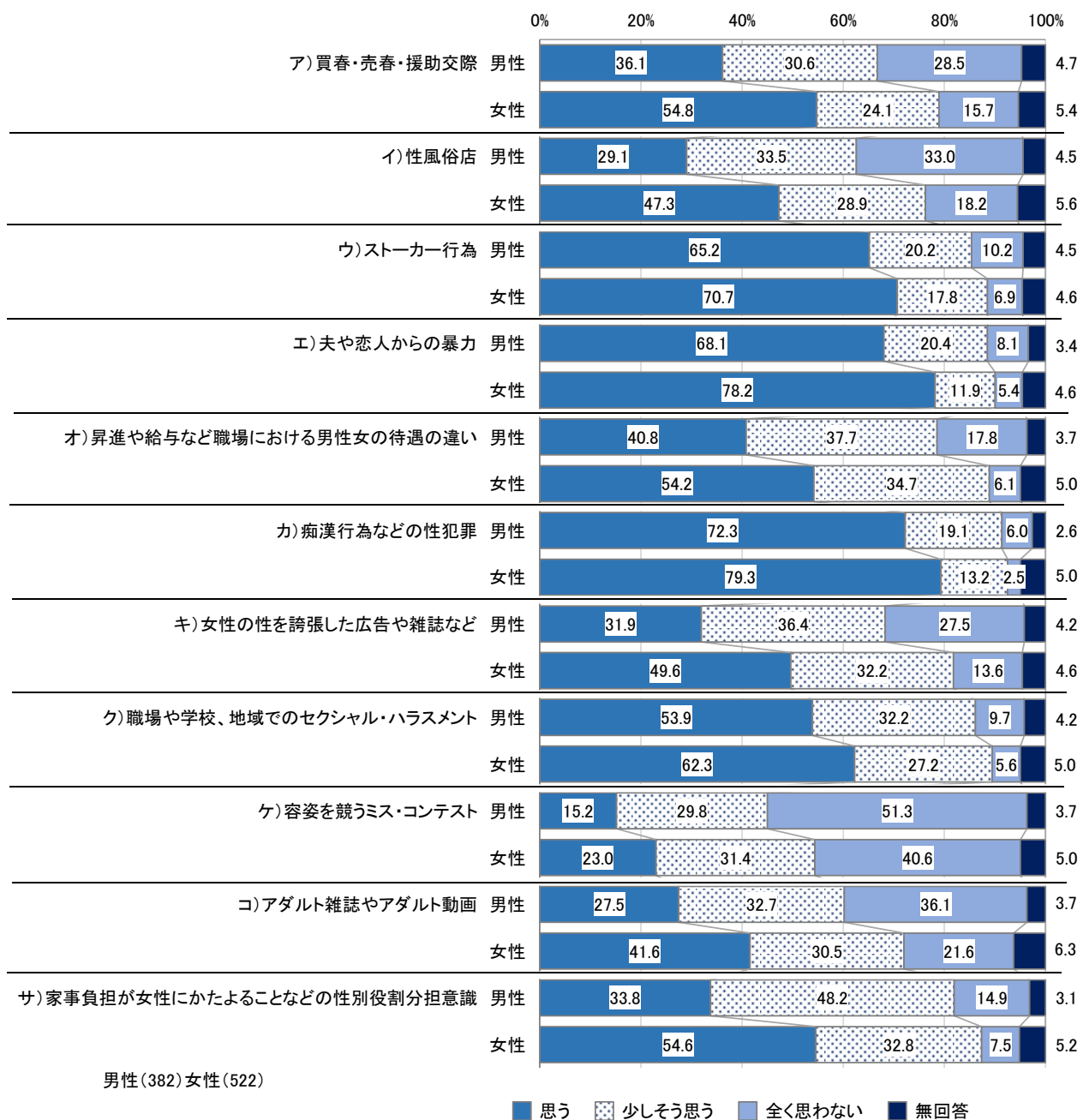
<性別>

性別にみると、男性、女性ともに「思う」割合が高い上位4位までは同じで、『痴漢行為などの性犯罪』、『夫や恋人からの暴力』、『ストーカー行為』、『職場や学校、地域でのセクシャル・ハラスメント』となっている。次いで男性では『昇進や給与など職場における男女の待遇の違い』が、女性では『買春・売春・援助交際』となっている。

■図表 女性の人権が侵害されていると思う度合い(全体)



■図表 女性の人権が侵害されていると思う度合い(性別)



<性・年代別>

特徴のある項目について性・年代別でみると、『買春・売春・援助交際』、『性風俗店』、『女性の性を誇張した広告や雑誌など』、『アダルト雑誌やアダルト動画』では女性に比べて男性の若い方ほど「思う」割合は少なく、男性40代以下は「全く思わない」割合が最も多くなっている。

■図表 女性の人権が侵害されていると思う度合い(性・年代別)・・・特徴のある項目のみ記載・・・

		合計	問23 ア)買春・売春・援助交際				問23 イ)性風俗店				問23 キ)女性の性を誇張した広告や雑誌など				問23 コ)アダルト雑誌やアダルト動画			
			思う	少し そう 思う	全く 思わ ない	無 回 答	思う	少し そう 思う	全く 思わ ない	無 回 答	思う	少し そう 思う	全く 思わ ない	無 回 答	思う	少し そう 思う	全く 思わ ない	無 回 答
全体		934	46.6	26.9	21.3	5.2	39.3	30.5	24.7	5.5	42.2	33.5	19.5	4.8	35.3	31.4	27.6	5.7
性・年代別	男性20代以下	46	30.4	28.3	39.1	2.2	15.2	28.3	54.3	2.2	13.0	30.4	54.3	2.2	4.3	23.9	69.6	2.2
	30代	49	16.3	34.7	49.0	0.0	12.2	34.7	53.1	0.0	16.3	36.7	46.9	0.0	12.2	24.5	63.3	0.0
	40代	61	24.6	26.2	44.3	4.9	13.1	32.8	49.2	4.9	14.8	34.4	45.9	4.9	16.4	29.5	50.8	3.3
	50代	66	30.3	43.9	22.7	3.0	22.7	50.0	24.2	3.0	22.7	51.5	22.7	3.0	24.2	40.9	31.8	3.0
	60代	72	43.1	34.7	20.8	1.4	41.7	30.6	26.4	1.4	52.8	36.1	9.7	1.4	38.9	43.1	16.7	1.4
	70代以上	88	56.8	19.3	11.4	12.5	51.1	26.1	11.4	11.4	52.3	29.5	8.0	10.2	48.9	29.5	12.5	9.1
	女性20代以下	72	54.2	20.8	23.6	1.4	38.9	26.4	33.3	1.4	41.7	33.3	25.0	0.0	30.6	31.9	37.5	0.0
	30代	76	38.2	35.5	22.4	3.9	28.9	40.8	26.3	3.9	40.8	27.6	26.3	5.3	26.3	31.6	36.8	5.3
	40代	97	59.8	21.6	16.5	2.1	53.6	27.8	16.5	2.1	55.7	30.9	12.4	1.0	40.2	35.1	21.6	3.1
	50代	94	52.1	26.6	20.2	1.1	46.8	27.7	24.5	1.1	33.0	46.8	18.1	2.1	43.6	26.6	27.7	2.1
	60代	82	62.2	24.4	8.5	4.9	56.1	30.5	7.3	6.1	64.6	29.3	2.4	3.7	54.9	28.0	8.5	8.5
	70代以上	100	59.0	18.0	6.0	17.0	54.0	23.0	6.0	17.0	59.0	25.0	2.0	14.0	50.0	30.0	4.0	16.0

		合計	問23 オ)昇進や給与など職場における男女の待遇の違い				問23 ケ)容姿を競うミス・コンテスト				問23 サ)家事負担が女性にかたよることなどの性別役割分担意識			
			思う	少し そう 思う	全く 思わ ない	無 回 答	思う	少し そう 思う	全く 思わ ない	無 回 答	思う	少し そう 思う	全く 思わ ない	無 回 答
全体		934	48.9	35.0	11.1	4.9	19.6	30.7	44.9	4.8	46.0	38.7	10.7	4.6
性・年代別	男性20代以下	46	41.3	37.0	19.6	2.2	0.0	17.4	80.4	2.2	41.3	41.3	15.2	2.2
	30代	49	42.9	38.8	18.4	0.0	10.2	10.2	79.6	0.0	36.7	40.8	22.4	0.0
	40代	61	41.0	27.9	29.5	1.6	9.8	19.7	68.9	1.6	32.8	37.7	26.2	3.3
	50代	66	33.3	39.4	24.2	3.0	12.1	36.4	48.5	3.0	27.3	57.6	12.1	3.0
	60代	72	44.4	38.9	15.3	1.4	25.0	37.5	36.1	1.4	34.7	56.9	6.9	1.4
	70代以上	88	42.0	42.0	5.7	10.2	23.9	43.2	22.7	10.2	33.0	48.9	11.4	6.8
	女性20代以下	72	65.3	22.2	12.5	0.0	22.2	27.8	50.0	0.0	68.1	22.2	8.3	1.4
	30代	76	57.9	32.9	5.3	3.9	17.1	25.0	53.9	3.9	60.5	27.6	7.9	3.9
	40代	97	57.7	35.1	6.2	1.0	28.9	27.8	41.2	2.1	67.0	22.7	7.2	3.1
	50代	94	51.1	40.4	7.4	1.1	13.8	38.3	47.9	0.0	44.7	48.9	6.4	0.0
	60代	82	59.8	30.5	2.4	7.3	34.1	30.5	29.3	6.1	56.1	34.1	3.7	6.1
	70代以上	100	38.0	43.0	4.0	15.0	22.0	36.0	26.0	16.0	36.0	38.0	11.0	15.0

(2)配偶者やパートナーなどとの精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の経験(問24-1)

問24-1A)被害の状況

問24-1. あなたは、配偶者やパートナーなどから(などに)、次のような精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス:DV)を受けたり、行ったりした経験はありますか。以下のア)~コ)について、当てはまるものをAとBそれぞれ1つずつ選んでください。(SA)

- ◎全体として「受けたことはない」が多いが、「受けたことがある」割合が比較的高いのは、『大声でどなる』で2割台半ば。
- ◎男女の差異としては、『生活費を渡さない、借金を重ねるといった経済的暴力』、『性的な行為の強要』、『「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う』で、女性の「受けたことがある」割合が男性より多い傾向。

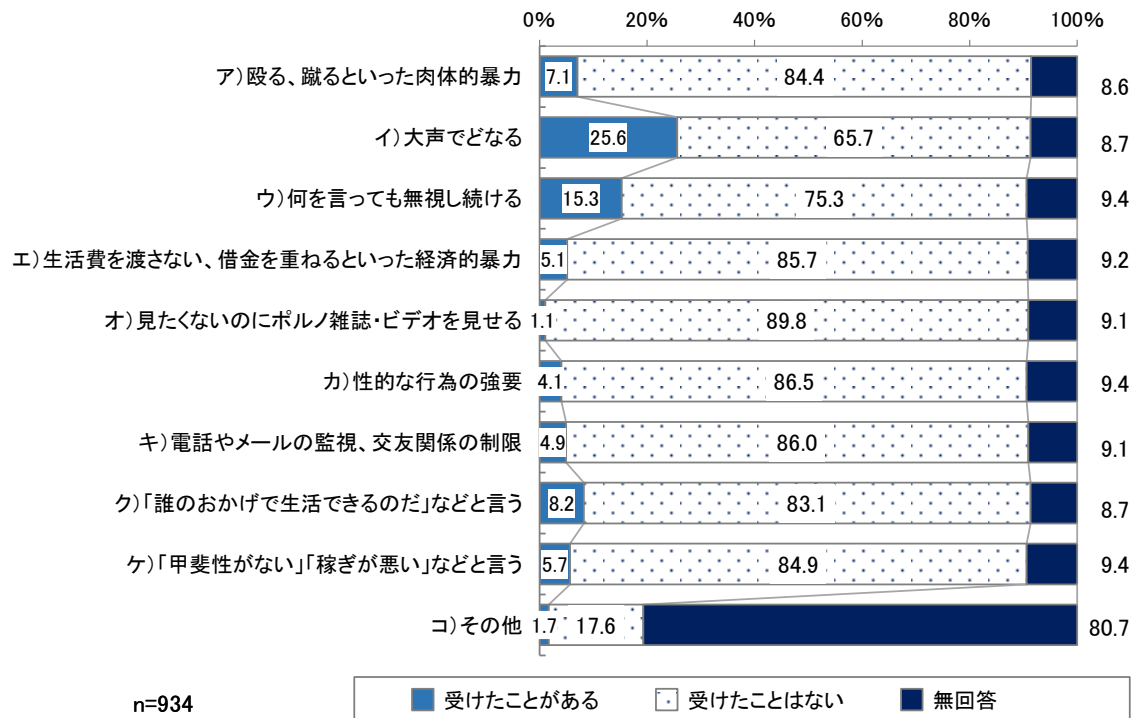
<全体・性別>

全体でみると、「受けたことはない」割合がいずれの項目でも高く65.7~89.8%を占めるが、「受けたことがある」割合が比較的高いのは、『大声でどなる』25.6%、『何を言っても無視し続ける』15.3%、『「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う』8.2%、『殴る、蹴るといった肉体的暴力』7.1%などとなっている。また、『その他』受けたことがある行為として、言葉の暴力、モラハラなどが挙げられている。

<性別>

性別にみても、「受けたことはない」の割合がいずれでも高いが、「受けたことがある」の中では、『大声でどなる』、『何を言っても無視し続ける』などの割合が比較的高くなっている。男女の差異としては、『生活費を渡さない、借金を重ねるといった経済的暴力』、『性的な行為の強要』、『「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う』で、女性の「受けたことがある」割合が男性より多い傾向を示している。

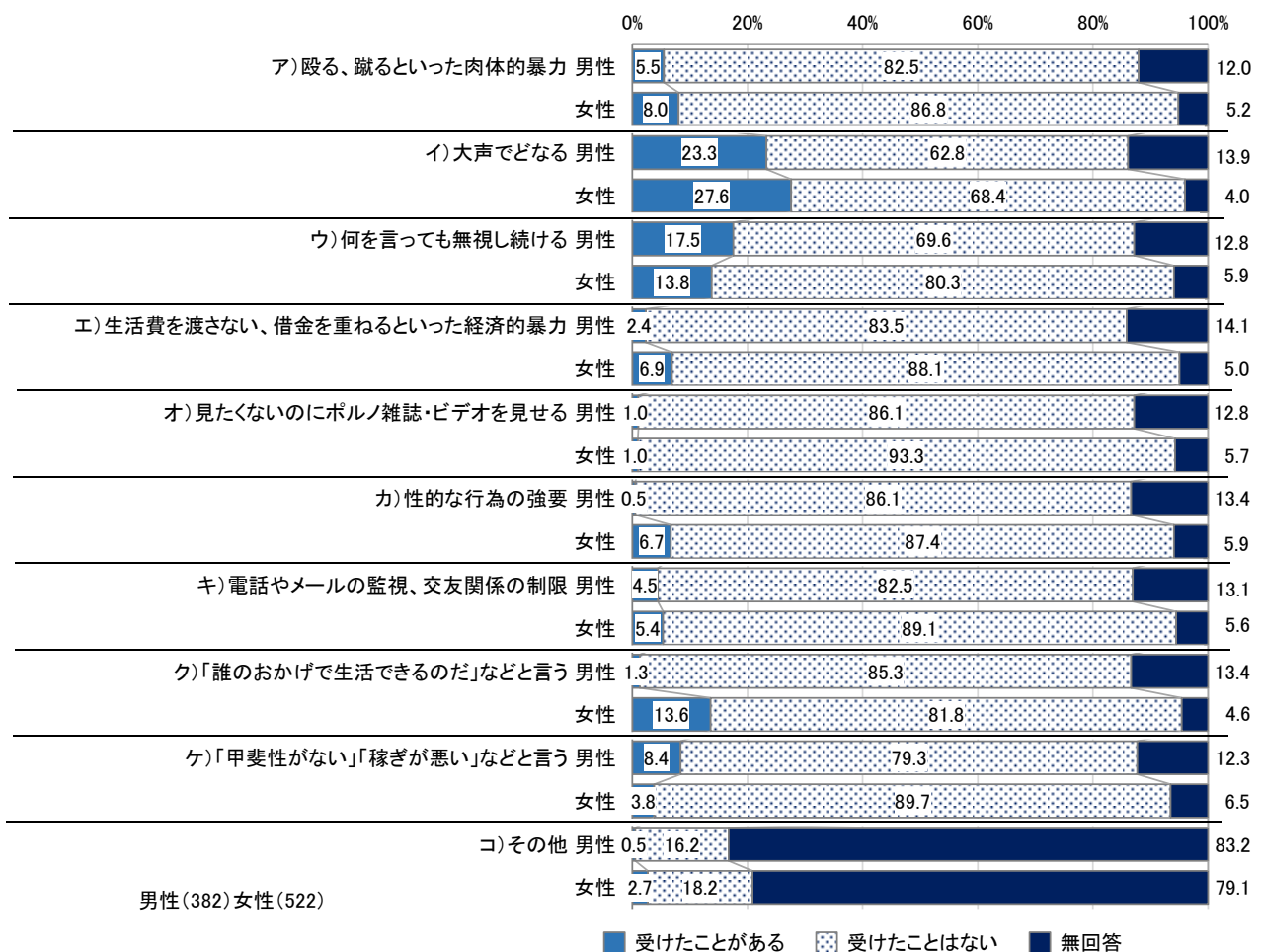
■図表 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力の経験・被害(全体)



【その他に『受けたことがある』主なこと】

・言葉の暴力／モラハラ／やきもち／当たられる、ちょっとしたことでおこられる／人権侵害／気分が落ち込んだ時理解してくれない／体をゆさぶられる／家事を手伝うなら同じだけかせげと言う／嫁と主人では、立場が違うという/など

■図表 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力の経験・被害(性別)



問24-1B)加害の状況

- ◎「したことがある」において比較的多いのは、『大声でどなる』と『何を言っても無視し続ける』。
◎性別では、女性より男性で『大声でどなる』の加害経験の割合が高い。

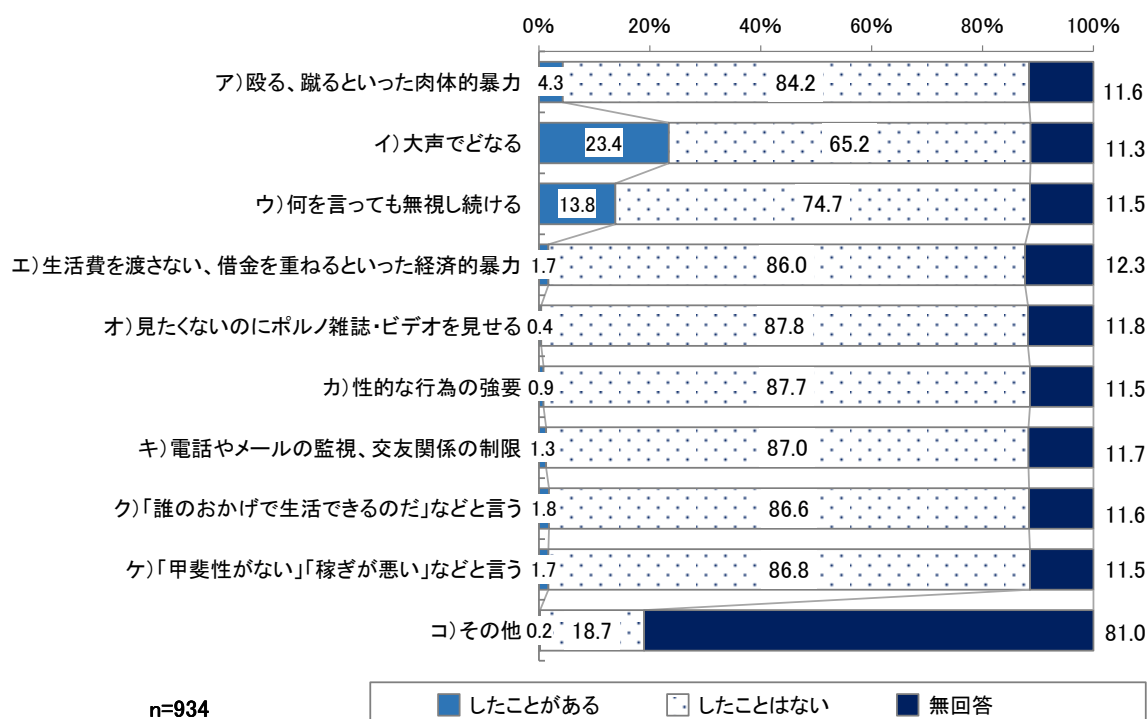
<全体・性別>

全体でみると、いずれの項目においても「したことはない」割合が高く65.2～87.8を占めるが、「したことがある」割合が比較的高いのは、被害の状況と同じく『大声でどなる』で23.4%。次いで『何を言っても無視し続ける』が13.8%となっている。また、『その他』に「したことがある」行為としては、物に当たりこわすなどがあげられている。

<職業別>

性別にみても全体と同様に「したことはない」割合がいずれも高いが、「したことがある」ものの中では、被害の状況と同じく『大声でどなる』や『何を言っても無視し続ける』の割合が比較的高い。また『大声でどなる』を「したことがある」割合は、男性が女性より16.8ポイント高くなっている。

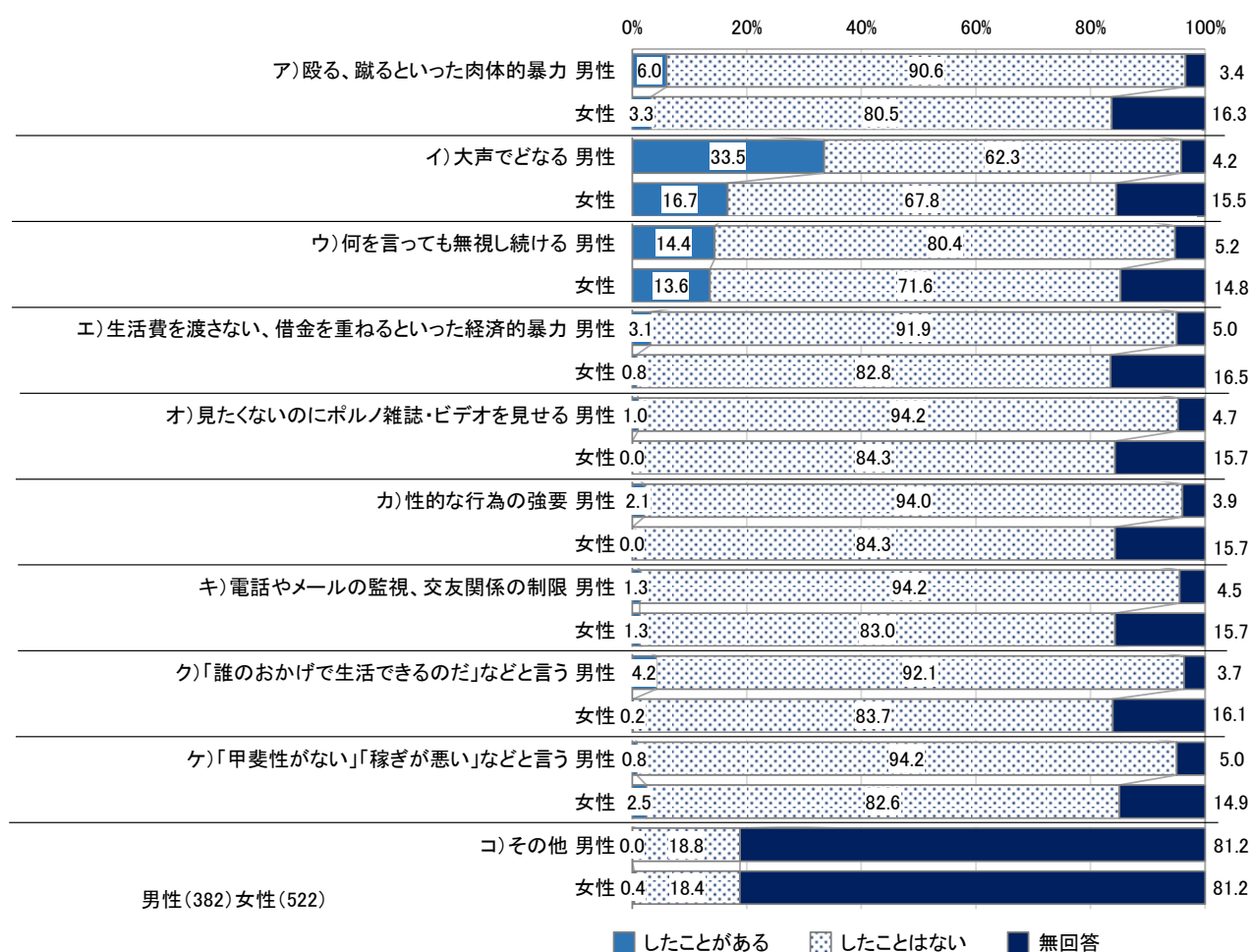
■図表 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力の経験・加害(全体)



【その他に「したことがある」主なこと】

・物に当たりこわす／言葉の暴力／人格否定／やきもち／家事・育児について不満を言うなど

■図表 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力の経験・加害(性別)



(3)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談(問24-2)

問24-2. 前問で1つでも「受けたことがある」と答えた方にお伺いします。あなたは、そのような暴力を受けたことを誰かに相談をしましたか。当てはまるものを1つ選んでください。(SA)

◎全体では「相談しなかった」が6割台半ばで、「相談した」が2割近く。

◎性別では、女性の方が男性よりも「相談した」と「相談できなかった」の割合が高い。

<全体・性別>

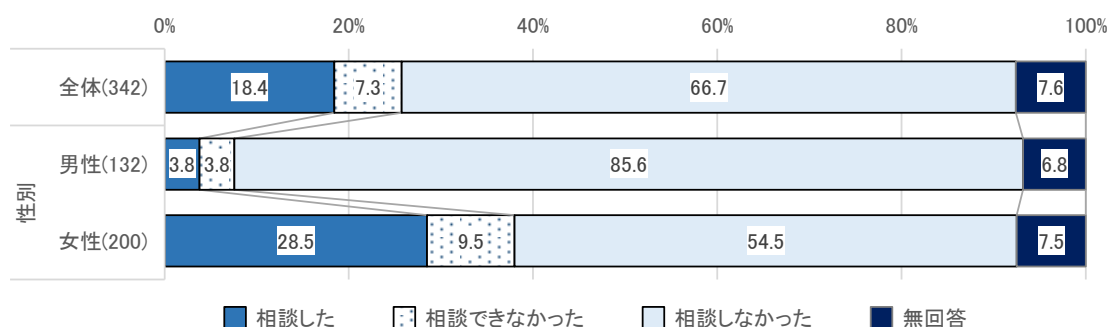
全体でみると、「相談しなかった」割合が高く66.7%で、「相談した」が18.4%、「相談できなかった」が7.3%となっている。

性別にみると、男女ともに全体と同じく「相談しなかった」割合が最も多く、次いで「相談した」が続くが、その割合は男女で異なる。男性では「相談しなかった」が85.6%で女性を31.1ポイント上回り、女性は「相談した」が28.5%で男性を24.7ポイント上回る。また「相談できなかった」は男性3.8%に対し女性9.5%で、女性が5.7ポイント上回る。

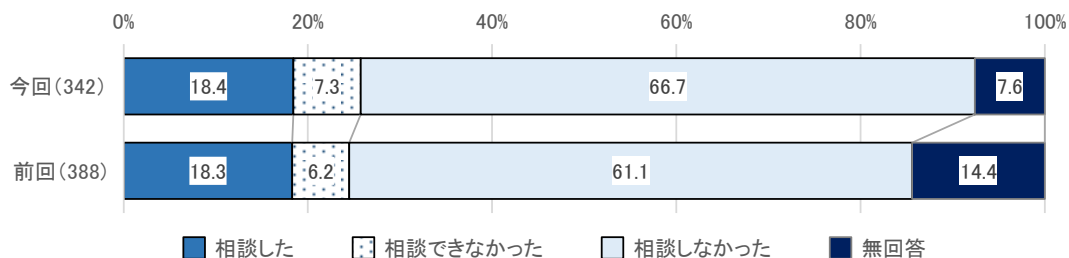
<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、「相談した」とする割合は、前回調査では18.3%、今回調査では18.4%とほぼ同様で、「相談できなかった」の割合も、前回調査で6.2%、今回調査で7.3%とほぼ同様である。

■図表 精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談(全体・性別)



■図表 精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談 前回(平成29年度)



(4)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の相談先(問24-3)

問24-3. 前問で「相談した」を選んだ方は、実際に、どこ(誰)に相談しましたか。当てはまるものを全てを選んでください。(MA)

◎全体では、「友人・知人」が6割台半ば、「家族」が約5割など身近な人への相談が多い。

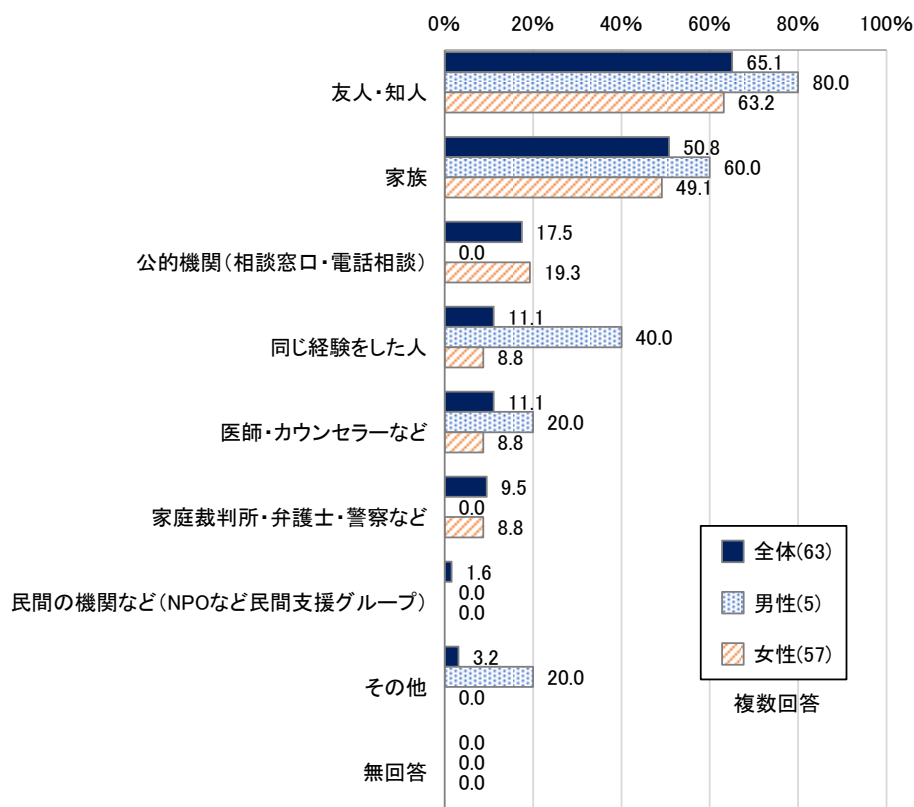
<全体・性別>

全体でみると、相談先として最も多いのは「友人・知人」で65.1%。次いで「家族」が50.8%と身近な人への相談割合が高く、「公的機関(相談窓口・電話相談)」や「家庭裁判所・弁護士・警察など」、「医師・カウンセラーなど」といった公の施設や専門家や、「同じ経験をした人」や「民間の機関など」はいずれも2割未満で少ない状況にある。

<前回調査結果との比較>

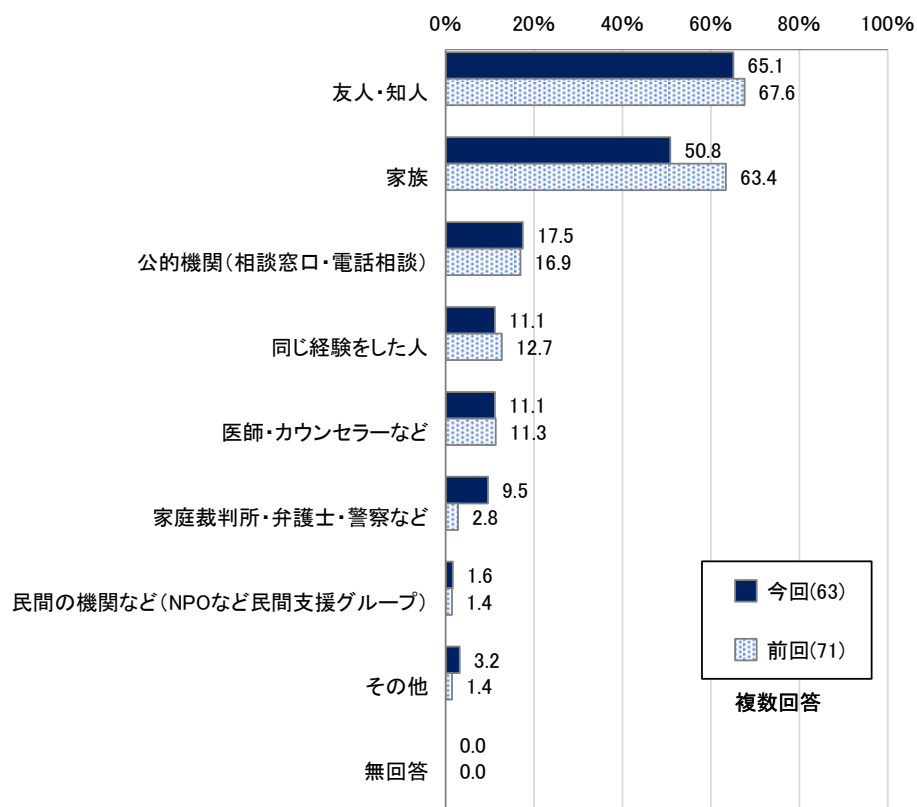
前回調査結果と比較すると、ともに回答の割合は「友人・知人」と「家族」が過半数と高く、「公的機関(相談窓口、電話相談)」などは低く、同様の傾向がみられる。

■図表 精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の相談先(全体・性別)



【その他回答】・教師

■図表 精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の相談先 前回(平成29年度)



(5)配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること(問25)

問25. 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して、知っていることを全て選んでください。

(MA)

- ◎全体では、「被害者の相談窓口がある」が約7割で最も多く、次いで「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる」、「加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる」を知っている割合が5割以上と高い。
- ◎性別では、概ね女性の方が“知っている”割合は高い傾向。
- ◎前回調査との比較では、“知っている”割合は今回の方が高い傾向。

<全体・性別>

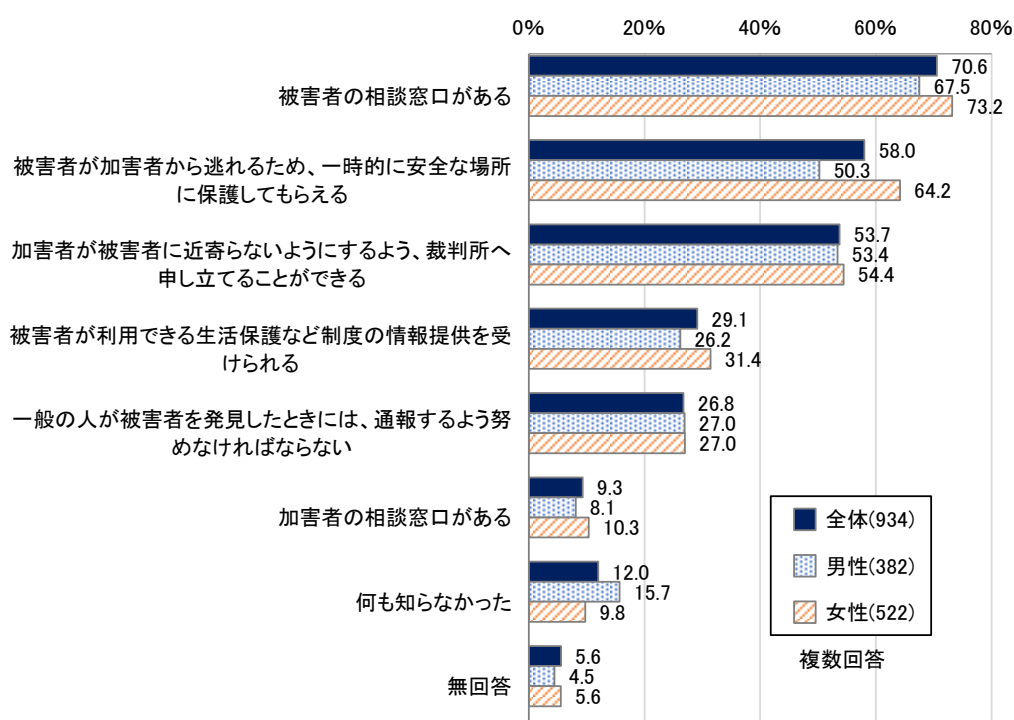
全体でみると、「被害者の相談窓口がある」の割合が最も多く70.6%、次いで「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる」が58.0%、「加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる」が53.7%と続く。ほか「被害者が利用できる生活保護など制度の情報提供を受けられる」は29.1%、「一般の人が被害者を発見したときには、通報するよう努めなければならない」は26.8%とともに20%台、「加害者の相談窓口がある」は9.3%と低い状況にある。

性別にみても割合の高い項目の順位は全体と同様だが、概ね女性の方が知っている割合は高い傾向にある。中でも「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる」を知っている割合は、女性が男性を13.9ポイント上回る。

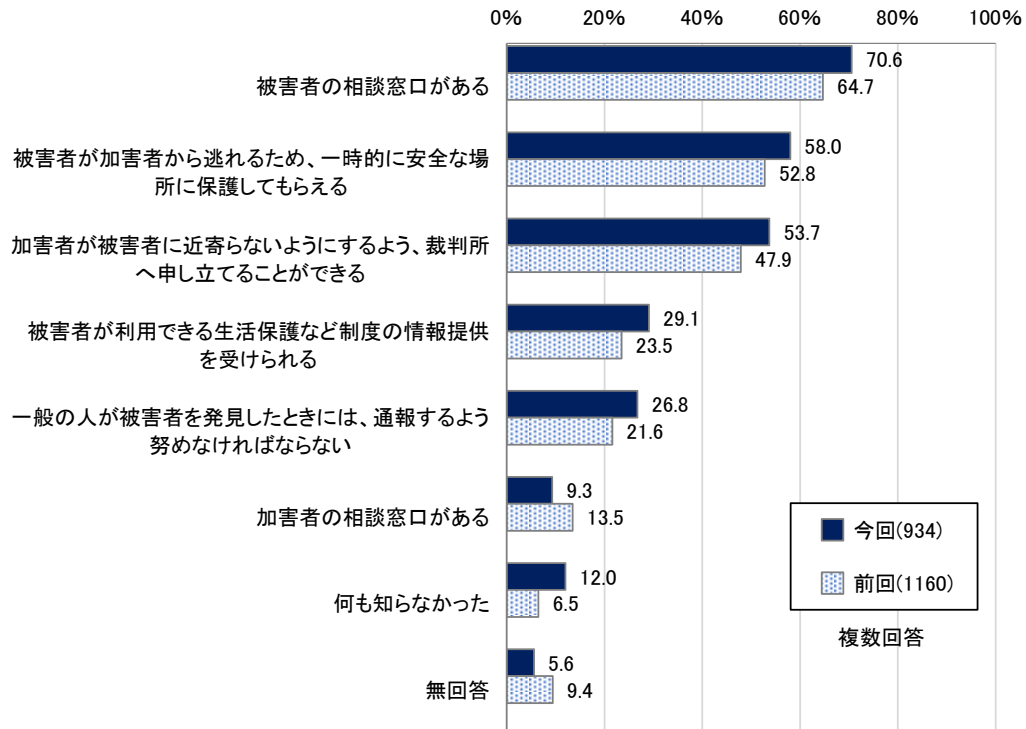
<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、前回今回ともに「被害者の相談窓口がある」の割合が最も多く、次いで「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる」、「加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる」と続いており、“知っている”割合が高い順位は同様であるが、いずれの項目でも今回調査の方が高くなっている。

■図表 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること(全体・性別)



■図表 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること 前回(平成29年度)



8. 性の多様性(LGBT等)について

(1) 自身や身近な方で、自分の身体・心の性または性的指向の悩みの有無(問26)

問26. あなたは、今までに自分の身体の性、心の性または性的指向(同性愛など)で悩んだり、あるいは身近で悩んでいたりする人がいますか。当てはまるものを全て選んでください。(MA)

※回答に複数回答はなかった

- ◎全体では、「ない」が約9割。
- ◎性別では、女性の方が「家族や知人が悩んでいる(悩んでいた)」の割合が男性より高い。

<全体・性別>

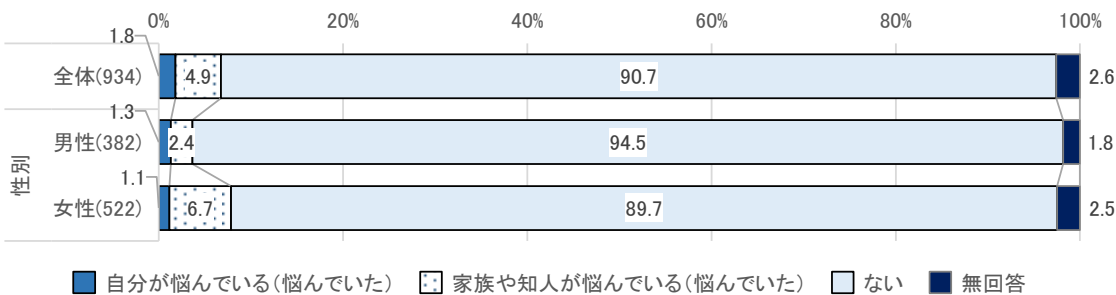
全体でみると、「ない」の割合が最も多く 90.7%と約9割を占めるが、「家族や知人が悩んでいる(悩んでいた)」も4.9%、「自分が悩んでいる(悩んでいた)」も1.8%の割合でみられる。

性別にみると、男性より女性の方が「家族や知人が悩んでいる(悩んでいた)」の割合が4.3ポイント高く、反対に女性より男性の方が「自分が悩んでいる(悩んでいた)」の割合が0.2ポイント高い。

<性・年代別>

性・年代別でみると、「ない」が8割以上の中、女性30代では78.9%と8割をきっている。また、「家族や知人が悩んでいる(悩んでいた)」の割合が女性20代以下で特に高くなっている。

■図表 自身や身近な方で、自分の身体・心の性または性的指向の悩みの有無 (全体・性別)



■図表 自身や身近な方で、自分の身体・心の性または性的指向の悩みの有無 (性・年代別)

		合計	問26 今までに自分の身体の性、心の性または性的指向(同性愛など)で悩んだり、あるいは身近で悩んでいたりする人がいるか			
			自分が悩んでいる(悩んでいた)	家族や知人が悩んでいる(悩んでいた)	ない	無回答
全体		934	1.8	4.9	90.7	2.6
性・年代別	男性20代以下	46	0.0	10.9	84.8	4.3
	30代	49	4.1	2.0	93.9	0.0
	40代	61	1.6	1.6	96.7	0.0
	50代	66	3.0	1.5	95.5	0.0
	60代	72	0.0	1.4	95.8	2.8
	70代以上	88	0.0	0.0	96.6	3.4
	女性20代以下	72	2.8	15.3	81.9	0.0
	30代	76	3.9	13.2	78.9	3.9
	40代	97	1.0	5.2	93.8	0.0
	50代	94	0.0	5.3	94.7	0.0
	60代	82	0.0	3.7	96.3	0.0
	70代以上	100	0.0	1.0	89.0	10.0

(2)性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題(問27)

問27. 性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題には、どのようなものがあると思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

◎全体では、「一般社会の偏見や差別的な言動」の割合が最も多く7割弱、次いで「家族や友人に相談できないことによる孤立感や、将来への不安」が6割近く、「性的マイノリティに関する理解や知識が足りないこと」が5割台半ば。

<全体・性別>

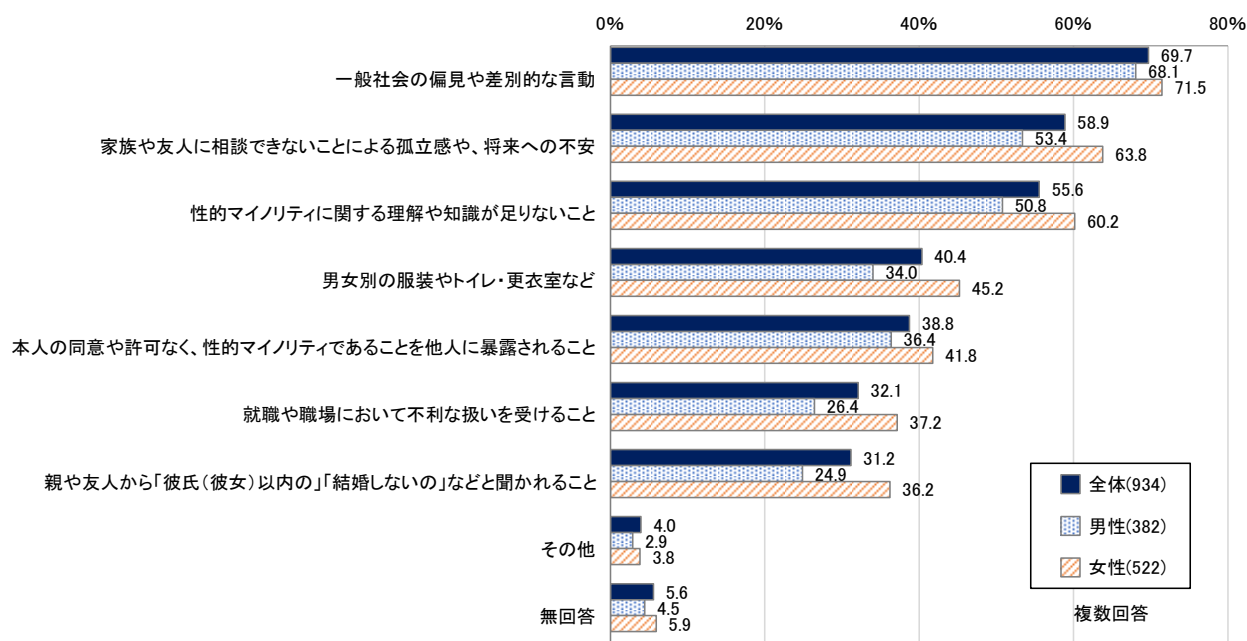
全体でみると、「一般社会の偏見や差別的な言動」の割合が最も多く69.7%、次いで「家族や友人に相談できないことによる孤立感や、将来への不安」が58.9%、「性的マイノリティに関する理解や知識が足りないこと」が55.6%と5割以上が挙げている。

性別にみても割合の高い項目の順位は全体と同様だが、全ての項目で女性の方が割合が高く、中でも「親や友人から「彼氏（彼女）以内の」「結婚しないの」などと聞かれること」、「男女別の服装やトイレ・更衣室など」、「就職や職場において不利な扱いを受けること」、「家族や友人に相談できないことによる孤立感や、将来への不安」の割合が男性より10ポイント以上高くなっている。

<性・年代別>

性・年代別でみると、全体的に「一般社会の偏見や差別的な言動」の割合が最も高い中、男性20代以下と女性30代では「家族や友人に相談できないことによる孤立感や、将来への不安」が最も多くなっている。また、女性60代で「一般社会の偏見や差別的な言動」の割合が特に高く、その他の項目でも女性40代以下で特に高い傾向がみられる。

■図表 性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題（全体・性別）



【主なその他回答】

・同性婚ができない／LGBTであることを隠すストレス／あらゆるものに性別の記入／少数派であるために勝てない多数決方式の意志決定／名前の変更など法律関係／差別反対運動などによりかえって一般社会に先入観や苦手意識を植えつけている など

■図表 性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題（性・年代別）

		合計	問27 性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題には、どのようなものがあると思うか								
			一般社会の偏見や差別的な言動	家族や友人に相談できないことによる孤立感や、将来への不安	本人の同意や許可なく、性的マイノリティであることを他人に暴露されること	親や友人から「彼氏(彼女)以内の」「結婚しないの」などと聞かれること	男女別の服装やトイレ・更衣室など	就職や職場において不利な扱いを受けること	性的マイノリティに関する理解や知識が足りないこと	その他	無回答
全体		934	69.7	58.9	38.8	31.2	40.4	32.1	55.6	4.0	5.6
性・年代別	男性20代以下	46	60.9	65.2	39.1	32.6	39.1	30.4	56.5	4.3	4.3
	30代	49	71.4	67.3	59.2	44.9	36.7	30.6	55.1	2.0	2.0
	40代	61	73.8	67.2	36.1	32.8	45.9	29.5	52.5	4.9	1.6
	50代	66	62.1	50.0	36.4	16.7	37.9	22.7	57.6	0.0	4.5
	60代	72	75.0	54.2	40.3	23.6	25.0	30.6	50.0	2.8	1.4
	70代以上	88	64.8	31.8	19.3	11.4	26.1	19.3	39.8	3.4	10.2
	女性20代以下	72	75.0	72.2	44.4	52.8	56.9	38.9	70.8	6.9	0.0
	30代	76	76.3	80.3	56.6	55.3	60.5	48.7	73.7	2.6	2.6
	40代	97	78.4	73.2	51.5	42.3	54.6	41.2	64.9	2.1	0.0
	50代	94	67.0	60.6	41.5	34.0	46.8	40.4	56.4	4.3	2.1
	60代	82	81.7	67.1	39.0	29.3	42.7	40.2	64.6	3.7	4.9
	70代以上	100	55.0	37.0	22.0	12.0	17.0	18.0	38.0	4.0	22.0

(3)性的マイノリティの方が生活しやすい社会にするための取組(問28)

問28. 性的マイノリティの方に対する差別や偏見をなくし、生活しやすい社会にするための取り組みとして、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

- ◎全体では、「学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する」が5割台半ば。
◎性別では、「性的マイノリティの人権を守るための啓発活動を推進する」のみ女性より男性の割合が高い。

<全体・性別>

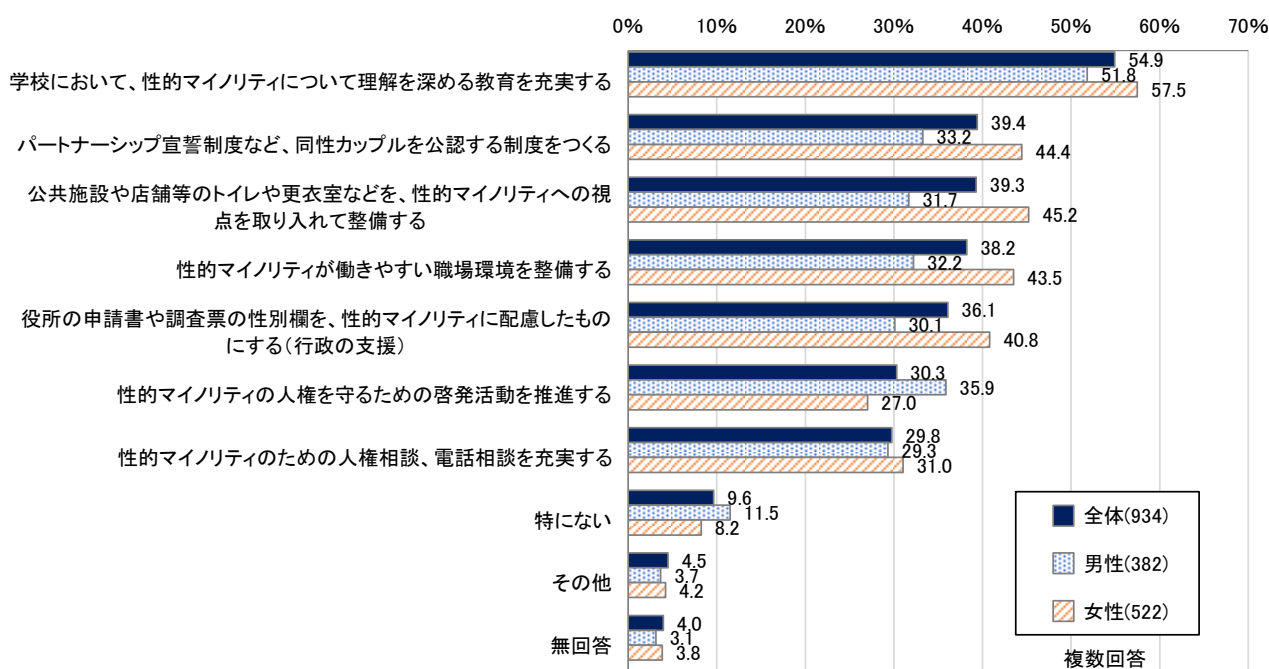
全体でみると、「学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する」の割合が最も多く54.9%、次いで「パートナーシップ宣誓制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」で39.4%、「公共施設や店舗等のトイレや更衣室などを、性的マイノリティへの視点を取り入れて整備する」で39.3%、「性的マイノリティが働きやすい職場環境を整備する」で38.2%、「役所の申請書や調査票の性別欄を、性的マイノリティに配慮したものにする（行政の支援）」で36.1%と3割台半ば以上で続いている。

性別にみても割合の高い項目の順位は全体とほぼ同様となっているが、「性的マイノリティの人権を守るための啓発活動を推進する」のみ女性より男性の割合が高い。

<年代別>

年代別でみると、20代以下では「パートナーシップ宣誓制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」の割合が高く、それ以外の年代は、「学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する」の割合が最も高い。

■図表 性的マイノリティの方が生活しやすい社会にするための取組（全体・性別）



【主なその他回答】

- ・学校こそ更衣室、お手洗い等一番に取り組むべき／干渉しすぎることをせず当たり前の世の中にする／法的な権利の拡充／安心して医療へのアクセスができる環境／同性婚を認める など

■図表 性的マイノリティの方が生活しやすい社会にするための取組（年代別）

			問28 性的マイノリティの方に対する差別や偏見をなくし、生活しやすい社会にするための取り組みとして、あなたの考えに近いもの									
		合計	性的マイノリティの人権を守るための啓発活動を推進する	性的マイノリティのための人権相談、電話相談を充実する	学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する	パートナーシップ宣誓制度など、同性カップルを公認する制度をつくる	性的マイノリティが働きやすい職場環境を整備する	公共施設や店舗等のトイレや更衣室などを、性的マイノリティへの視点を取り入れて整備する	役所の申請書や調査票の性別欄を、性的マイノリティに配慮したものにする（行政の支援）	特になし	その他	無回答
全体		934	30.3	29.8	54.9	39.4	38.2	39.3	36.1	9.6	4.5	4.0
年代	20代以下	125	19.2	20.8	62.4	64.0	40.0	45.6	52.8	6.4	4.8	0.8
	30代	126	28.6	27.8	72.2	57.1	49.2	53.2	41.3	4.8	4.0	0.8
	40代	161	29.8	29.8	64.0	45.3	42.2	46.6	39.1	11.8	5.6	0.6
	50代	164	33.5	25.0	50.6	29.3	40.2	36.6	29.3	8.5	2.4	1.2
	60代	154	41.6	42.2	61.0	39.0	42.9	38.3	42.2	7.8	1.9	2.6
	70代以上	190	28.9	31.6	32.1	17.4	23.2	24.2	21.6	15.3	6.8	11.6

9. 防災について

(1)防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために必要なことについて(問29)

問29. 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

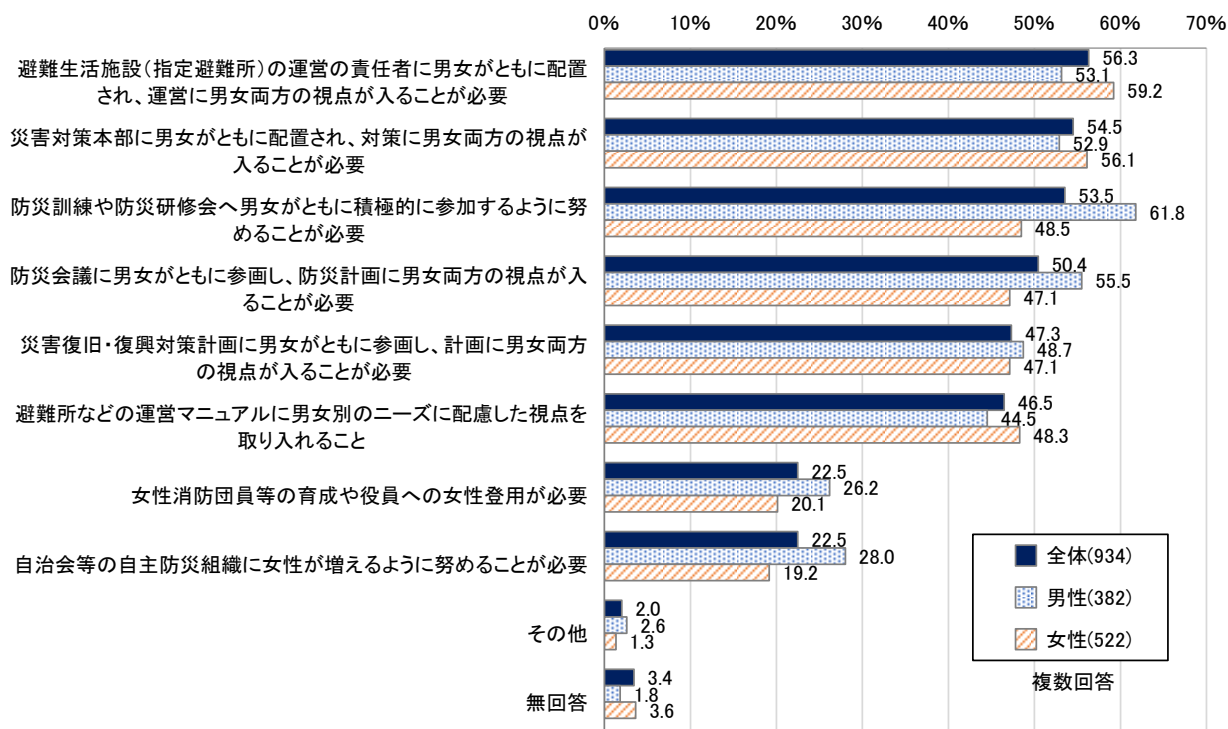
- ◎全体では「避難生活施設(指定避難所)の運営の責任者に男女がともに配置され、運営に男女両方の視点が入ることが必要」、「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ることが必要」、「防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要」、「防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要」が過半数を超え多い。
- ◎性別にみると、上位の項目のうち「防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要」、「防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要」で男性の割合が高い。

<全体・性別>

全体でみると、「避難生活施設（指定避難所）の運営の責任者に男女がともに配置され、運営に男女両方の視点が入ることが必要」が56.3%、「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ることが必要」が54.5%、「防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要」が53.5%、「防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要」が50.4%と過半数を超え高くなっている。次いで「災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ることが必要」が47.3%、「避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れること」が46.5%と概ね4割台半ばで続く。

性別にみると、「防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要」では男性の割合が女性より13.3ポイント高く、「防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要」では男性の割合が女性より8.4ポイント高い。また全体の回答割合は低いですが、「女性消防団員等の育成や役員への女性登用が必要」、「自治会等の自主防災組織に女性が増えるように努めることが必要」でも、男性の割合が女性よりそれぞれ6.1ポイント、8.8ポイント高くなっている。

■図表 防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために必要なこと(全体・性別)



【主なその他回答】

・適材適所で男女の登用必要／自治会等のレベルではすでに女性が参加している／男女平等、女性の優遇をやめるなど

(2)災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて(問30)

問30. 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて、あなたの考え方に近いものをすべて選んでください。(MA)

◎全体では、「日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくる必要がある」とする意見が多く8割近く。次いで「高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つ必要がある」と「子どもを地域で育てるという意識を持つ必要がある」と続く。

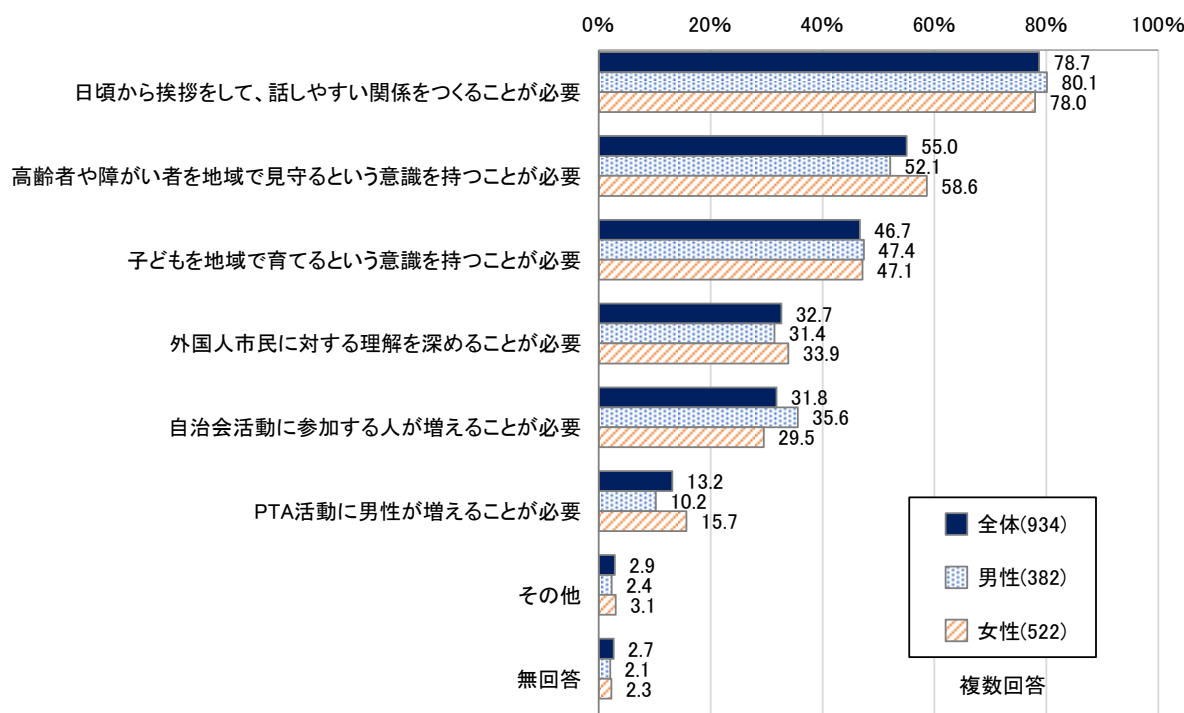
◎性別にみても、上位3項目の順位は全体と同じ。

<全体・性別>

全体でみると、「日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくる必要がある」の割合が最も多く78.7%。次いで「高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つ必要がある」が55.0%、「子どもを地域で育てるという意識を持つ必要がある」が46.7%、「外国人市民に対する理解を深める必要がある」が32.7%、「自治会活動に参加する人が増える必要がある」が31.8%と続く。

性別にみても、「日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくる必要がある」の割合が最も多く、上位3項目の順位は全体と同傾向である。

■図表 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なこと(全体・性別)



【主なその他回答】

・いざとなれば、多くの人々は、自然と助け合うと思う／学区や、企業、商業施設等まきこみ、地域コミュニティとしての意識を持つ人口を増やす／近くにどんな人が住んでいるか知らないし、助け合いをするビジョンが見えないなど

10. 男女共同参画施策について

(1) 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度について(問31)

問31. 男女共同参画に関する次の「ことば」や「事柄」を知っていますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。(SA)

- ◎全体で認識度が高いのは『ジェンダー』、『LGBT等(性的マイノリティ)』、『男女雇用機会均等法』と『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)』、低いのは『SOGI』、『アウティング』、『アンコンシャス・バイアス』、『クオータ制』、『リプロダクティブ・ヘルス/ライツ』、『イクボス宣言』、『男女共同参画情報誌「わくわく」』、『第3次やまと男女共同参画プラン』。この傾向は男女とも同様。
- ◎前回と比べると、『ジェンダー』、『LGBT等(性的マイノリティ)』の認識度がそれぞれ32.7ポイント、28.7ポイント上昇。

※認識度(「内容まで知っている」+「名前を聞いたことがある」)

<全体>

全体でみると、『ジェンダー』、『LGBT等(性的マイノリティ)』、『男女雇用機会均等法』と『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)』では、「内容まで知っている」と「名前を聞いたことがある」の割合を足すと(以下“知っている”と記す)、それぞれ87.0%、85.8%、85.7%、80.8%と8割を超え、認識度は高い状況にある。次いで高いのは『選択的夫婦別姓制度』、『ワーク・ライフ・バランス』、『パートナーシップ宣誓制度』、『デートDV(配偶者でなく交際関係にある人の間で起こる暴力)』、『ダイバーシティ』、『男女共同参画社会基本法』で過半数、次いで、『女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍法)』で43.9%が“知っている”状況にある。

逆に「知らない」割合が高いのは、『SOGI』、『アウティング』、『アンコンシャス・バイアス』、『クオータ制』、『リプロダクティブ・ヘルス/ライツ』、『イクボス宣言』、また大和市の事業である『男女共同参画情報誌「わくわく」』や『第3次やまと男女共同参画プラン』も知らない割合が8割を超え、認識度は低い状況にある。

<性別>

性別にみると、全体でも認識度が高かった項目は男女ともに高く、低かったものは同様に低い状況にあり、男女の傾向に顕著な差異はみられない。

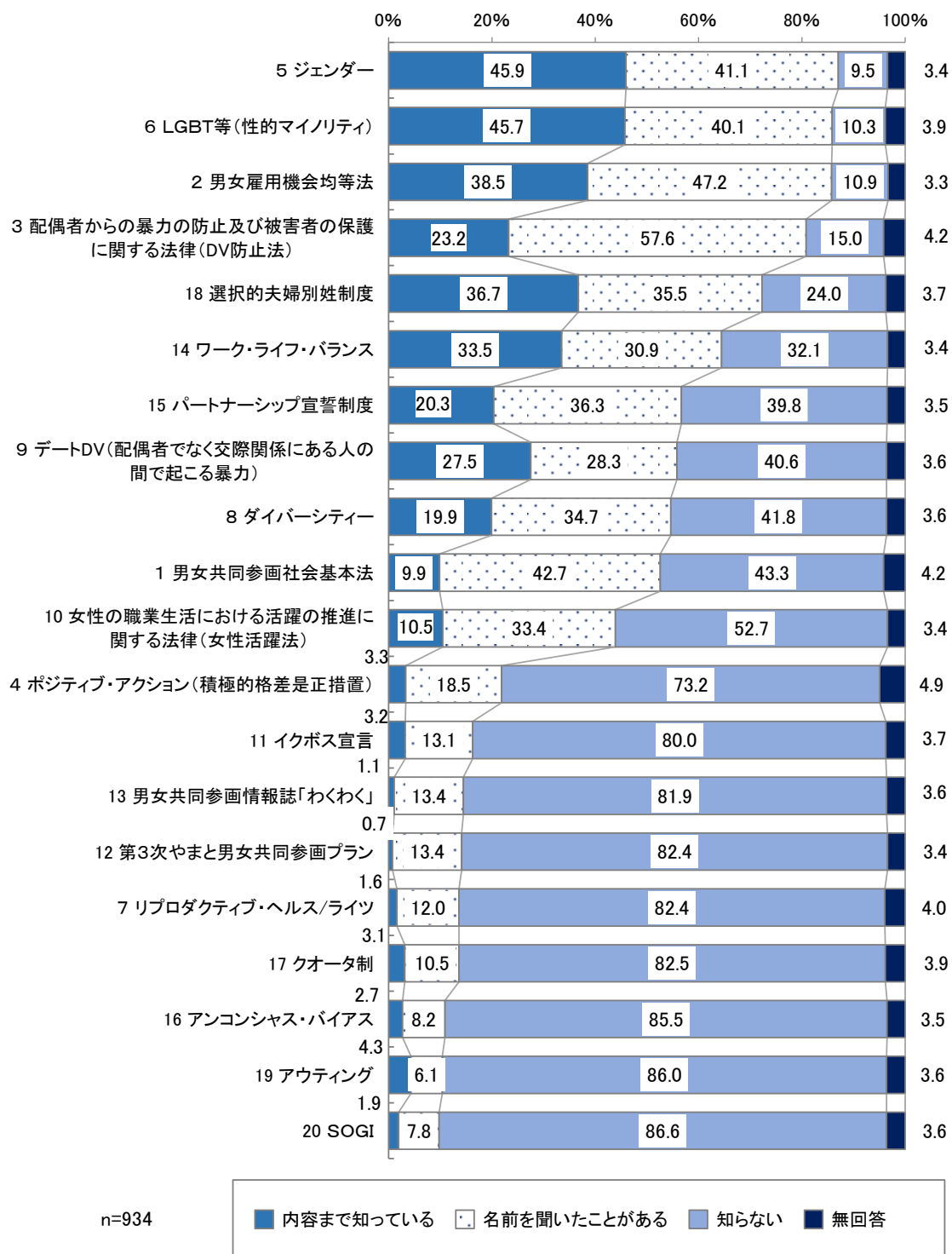
<前回調査結果との比較>

前回調査の結果を比べると、『ジェンダー』、『LGBT等(性的マイノリティ)』で、それぞれ32.7ポイント、28.7ポイント“知っている”の割合が高くなっている。ほかの項目においては、前回と今回で選択肢の文言が全く同じではないことを考慮すれば、ほぼ同様の結果と捉えられる。

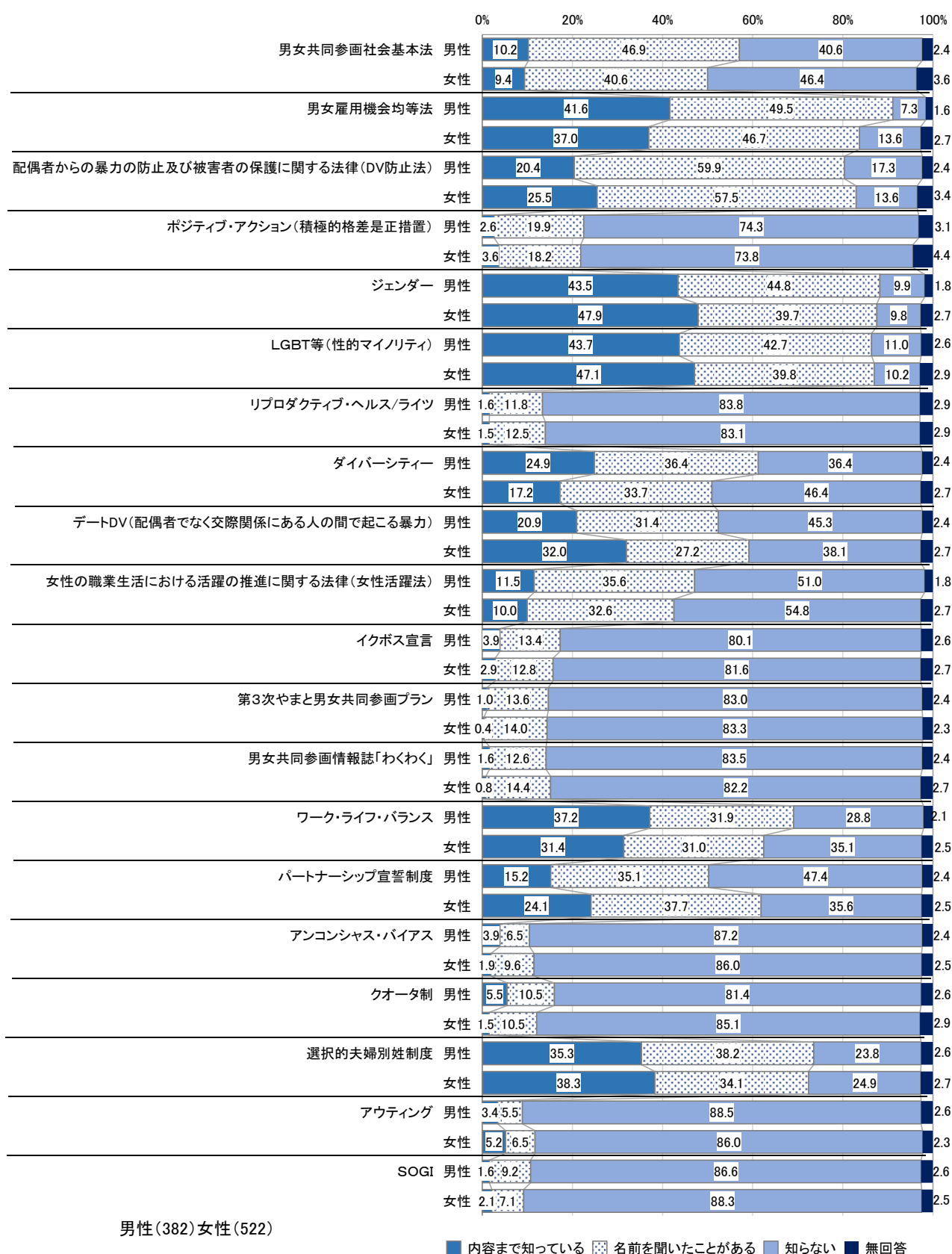
<全国調査結果との較>

『配偶者などからの暴力(DV)』、『女性活躍推進法』、『ポジティブ・アクション(積極的改善措置)』は概ね同水準であるが、『ジェンダー』の認識度では大和市で高く、『男女共同参画社会基本法』の認識度では大和市が低くなっている。

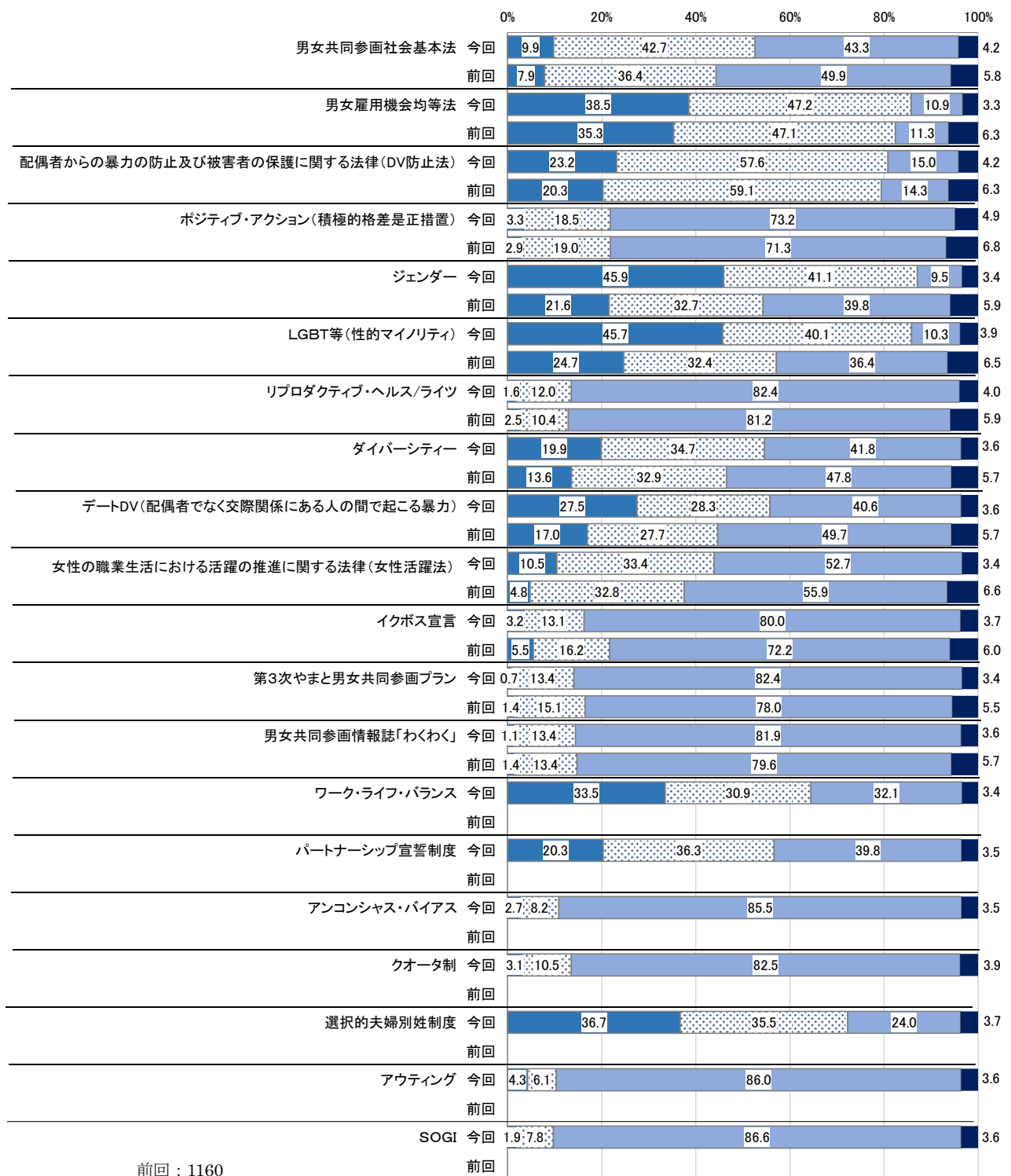
■図表 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度(全体)



■図表 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度(性別)



■図表 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度 前回(平成29年度)

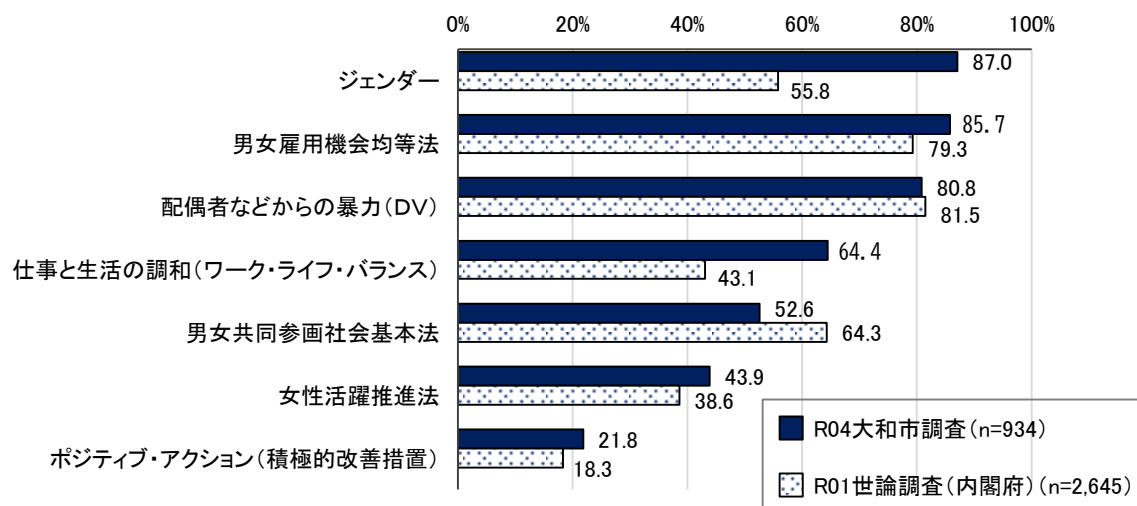


前回 : 1160

今回 : 934

■ 内容まで知っている ■ 名前を聞いたことがある ■ 知らない ■ 無回答

■図表 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度(全国調査)



※全国調査の「見たり聞いたりしたことがあるもの」の選択割合と、本調査の「知っている+聞いたことがある」割合を比較している。なお全国調査に選択肢がある項目のみ比較。

(2)男女共同参画社会の実現のためにできることについて(問32)

問32. 男性・女性を問わずに一人ひとりがそれぞれの個性や能力を活かす社会を実現するために、あなたができると思うことに近いものを全て選んでください。(MA)

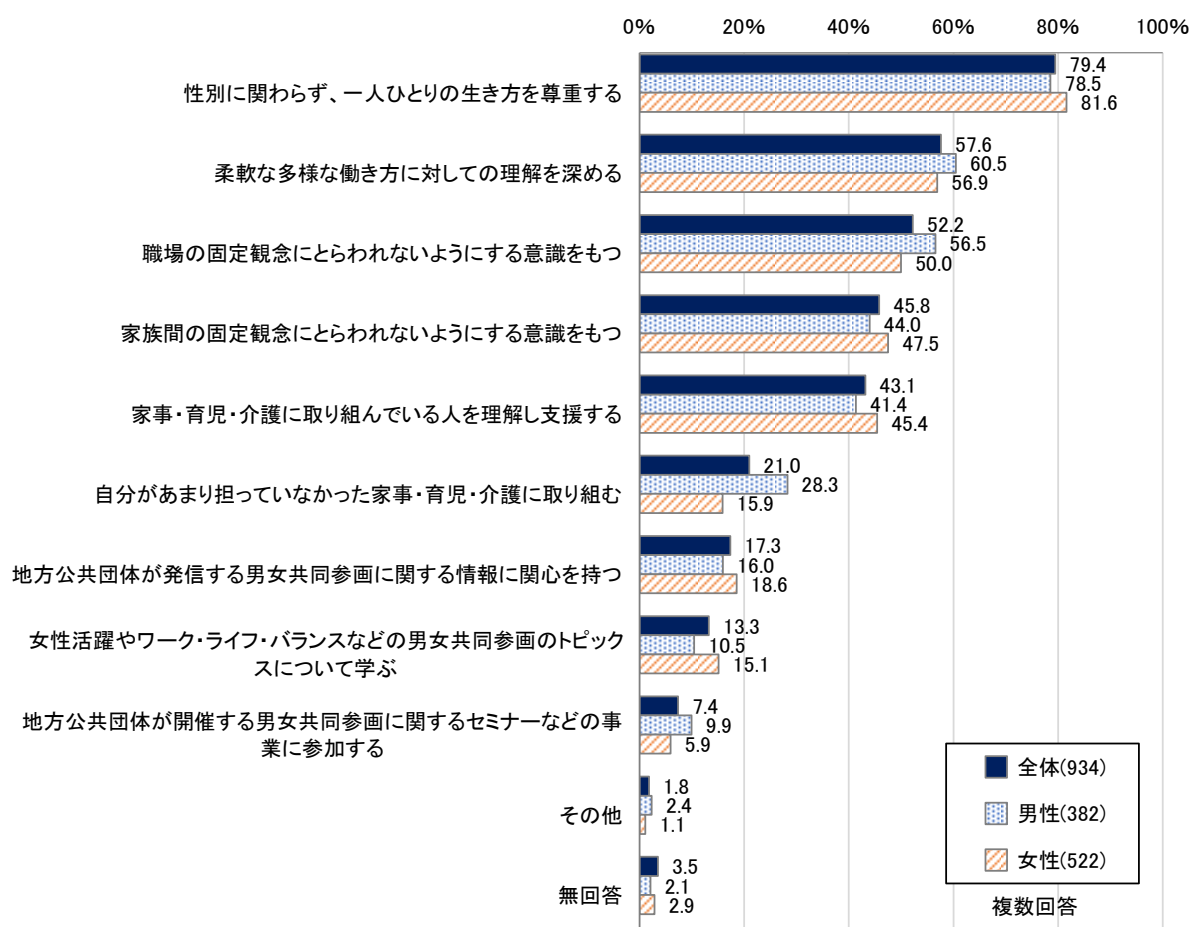
◎全体では「性別に関わらず、一人ひとりの生き方を尊重する」が最も多く8割弱、次いで「柔軟な多様な働き方に対する理解を深める」が6割近く。
◎性別では、上位5項目の順番は全体と同じ。

<全体・性別>

全体でみると、「性別に関わらず、一人ひとりの生き方を尊重する」の割合が最も多く79.4%、次いで「柔軟な多様な働き方に対する理解を深める」が57.6%、「職場の固定観念にとらわれないようにする意識をもつ」が52.2%で過半数であり、ほか「家族間の固定観念にとらわれないようにする意識をもつ」が45.8%「家事・育児・介護に取り組んでいる人を理解し支援する」が43.1%と40%台で続く。

性別にみると、男女ともに上位5項目の順番は全体と同じである。

■図表 男女共同参画社会の実現のためにできること(全体・性別)



【主なその他回答】

・男女問わず他人を理解する心をもつ／個性と能力が発揮できないことを性別のせいにならない／近自己肯定感高めるなど

◆男女共同参画についての意見・要望

男女共同参画について、意見や要望を自由回答方式で尋ねたところ、171人(289意見)の記入が得られた。

以下は、自由意見をその主旨によって「意見項目」として整理し、調査項目ごとに分類したものである。なお、件数は意見の件数を指す。また、一人が複数の意見を記入している場合は意見を分け、1件としてカウントしている。

■図表 男女共同参画についての意見・要望

男女共同参画についてご意見やご要望、市が力を入れるべきことなど、自由にご記入ください。

調査項目	意見項目	件数
男女平等に関する意識について (70件)	男女ではなく「個」を尊重すべき	16
	性差を認識し、相互理解役割分担補完することが重要	10
	性差への固定観念、男女の役割観念がある	8
	LGBTへの理解	8
	男女平等の押しつけはよくない	5
	女性優遇は平等でない	5
	男性、年配の人の意識改革が必要	4
	意識改革が必要	3
	同性婚を認める	3
	夫婦別姓を認める	2
	少子化を止め、若い世代が増えれば意識が変わる	2
	男女ではなく適材適所で活躍できるとよい	2
	意識の上で差別はすでにない	1
	組織の若返りと意識改革が必要	1
家庭生活について (23件)	子育て支援の充実	9
	女性に負担集中、意識改革が必要	7
	保育施設の充実	4
	男性の家事(料理等)の教育	2
	性差を認識し、相互理解、役割分担、補完することが重要	1
就労意識について (12件)	仕事と家事、育児の両立	5
	女性自身の意識改革	5
	パート、専業主婦、フリーランス等多様性を認める	2
ワーク・ライフ・バランスについて (41件)	労働時間の短縮や給与改善が必要	6
	パワハラ防止対策	5
	産休・育休時の欠員分のサポート	5
	産休後、子育て後の再就職支援	4
	育休・産休取得の推進（給与保障等）	3
	保育体制の充実（保育時間・保育料）	3
	職場の男女比率、仕事の量、質も平等にする	3
	その他働きやすい環境整備	3
	職場の理解・意識改革が必要	2
	介護や保育職員の待遇向上が必要	2

	法律、制度の整備	2
	男女で賃金、待遇に格差がある	2
	女性に負担集中、意識改革が必要	1
学校教育について (15件)	幼少期からの教育が重要	8
	人としての教育に原点をおく	3
	性教育が必要	3
	性差を踏まえた教育をすべき	1
社会参画について (7件)	男女ではなく能力で評価される社会に	2
	女性割合の数合わせは共同参画ではない	2
	議員の女性割合を高める	2
	男女が同等に参画すべき	1
男女の人権について (3件)	男性へのハラスメント、男性の権利対策も必要	3
男女共同参画施策に ついて (30件)	もっと認識度の向上、アピール、広報が必要	15
	推進する	4
	市が企業や団体とともに取りくむ	3
	若い人の声を聴く機会が必要	2
	行政が率先して意識改革する	2
	法律の強化、制度に強制力を持たせる	2
	過度な意識、対策は必要ない	1
	男女共同参画は性差を強調し、時代に逆行	1
その他 (88件)	今回調査について（対象・設問が不適切、意味がない）	11
	今回調査について（設問や用語が難しい）	5
	今回調査について（考える良い機会になった）	5
	今回調査について（答えるのが大変、手間がかかる、webがよい）	4
	今回調査について（施策に活かしてほしい）	2
	他の施策について	16
	集える場、話せる場、イベント等	6
	経済的支援が必要	5
	少子化対策	5
	市長のパワハラ疑惑	3
	相談窓口の充実	3
	他の差別、偏見等について	1
	その他	19
	特にない	3

V. 卷末資料1調査票

大和市 男女共同参画に関する市民意識調査 調査票

≪ 男女平等に関する意識について ≫

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア)～キ) のそれぞれについて、当てはまるものを1つずつ選んでください。

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
ア) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
イ) 職場では	1	2	3	4	5	6
ウ) 教育の場では	1	2	3	4	5	6
エ) 社会参加の場では	1	2	3	4	5	6
オ) 法律・制度上では	1	2	3	4	5	6
カ) しきたりや習慣などでは	1	2	3	4	5	6
キ) 全体として考えると	1	2	3	4	5	6

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考えについて、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。

1. 「男は仕事、女は家庭」が望ましい
2. 男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ
3. 男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい
4. 「女は仕事、男は家庭」が望ましい

問3. 子どもの育て方について、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。

1. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい
2. 「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい
3. 「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい
4. その他（ ）

問4. 男女がともに平等な関係を築き、生き生きと暮らす社会を実現するために必要なことについて、あなたの考え方に近いものを、全て選んでください。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 職場内の固定観念の意識改革が必要 | 5. 子どものころからの男女平等教育の徹底が必要 |
| 2. 家族間の固定観念の意識改革が必要 | 6. すでに実現しているため必要なことはない |
| 3. 法律や制度上の改正が必要 | 7. その他（ ） |
| 4. しきたりや慣習の改善が必要 | |

「家庭生活について」

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

	女性が主に担う	男女が協力し合っている	男性が主に担う	有料のサービスを利用する	わからない
ア) 家事	1	2	3	4	5
イ) 育児	1	2	3	4	5
ウ) 介護	1	2	3	4	5

問6. 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 子育て世帯に対する経済的支援が必要
2. 長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要
3. 保育施設の拡充が必要
4. 育児サークルなど親子の居場所の確保が必要
5. 児童クラブなど放課後に児童が過ごせる場所の整備が必要
6. 育児に対する社会の理解と協力が必要
7. 出産や育児に対する相談体制の充実が必要
8. 長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要
9. 防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要
10. その他 ()

「就労意識について」

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度（社内規定）を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。ア)～エ)について当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

	制度を知っている			制度を知らない
	利用した	利用していない		
		必要 だった	不必要 だった	
ア) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
イ) 子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4
ウ) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
エ) 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4

⇒問7-2. 前問で2を1つでも選んだ方にお伺いします。その主な理由に当てはまるものを全て選んでください。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 利用する期間中の収入が保障されていないから | 4. 取得申請が却下されたから |
| 2. 利用すると昇進・昇給などに差し支えるから | 5. 興味・関心がないから |
| 3. 制度を利用しにくい雰囲気が職場にあるから | 6. その他 () |

※問8は以前に働いたことがあるが現在無職の方、問9は一度も働いたことのない方に伺います。それ以外の方は問10に進んでください。

問8-1. 以前働いたことがあるが、現在無職の方に伺います。仕事を辞めた理由について当てはまるものを全て選んでください。

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 定年で | 7. 職場でパワハラ・セクハラ等のいやがらせを受けた |
| 2. 勤務先の都合で | 8. 保育園など、子どもの預け先が見つからなかった |
| 3. 健康上の問題等自身の都合で | 9. 仕事と家庭の両立が難しかった |
| 4. 子育てに専念したかった | 10. パートナーや親からの反対があった |
| 5. 転勤・介護など家庭の都合で | 11. その他 () |
| 6. 結婚・出産などで退職するのが慣習だった | |

問8-2. 今後適当な仕事があった場合、どのような働き方をしたいと考えていますか。当てはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. 常勤（フルタイム） | 5. 家業の手伝い |
| 2. パートタイム・アルバイト | 6. 派遣労働 |
| 3. 在宅勤務 | 7. 働くつもりはない |
| 4. 起業、自営 | 8. その他 () |

問9. 今まで働いたことのない方に伺います。どのようなきっかけがあれば働いてみたいと思いますか。あなたの考え方に近いものを全て選んでください。

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 経済的に必要になったら | 4. 家族が家事・育児・介護等を分担してくれたら |
| 2. 保育所に子どもを入れることができた | 5. 働きたい仕事に出会えたら |
| 3. 子どもが大きくなったら | 6. その他 () |

問10. 女性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- | |
|----------------------------------|
| 1. 働かずに家事に専念する方がよい |
| 2. 結婚するまでは働いた方がよい |
| 3. 子どもができるまでは、働いた方がよい |
| 4. 結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい |
| 5. 子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい |
| 6. 結婚せずに仕事に専念する方がよい |
| 7. その他 () |

問11. 男性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- | |
|----------------------------------|
| 1. 働かずに家事に専念する方がよい |
| 2. 結婚するまでは働いた方がよい |
| 3. 子どもができるまでは、働いた方がよい |
| 4. 結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい |
| 5. 子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい |
| 6. 結婚せずに仕事に専念する方がよい |
| 7. その他 () |

問12. 職場で男女平等ではないと思うこととして、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 賃金の金額
2. 昇進・昇任の速さ
3. 責任ある仕事の分担
4. 研修や様々な仕事の機会
5. 転勤や配属転換
6. 結婚や出産時後の職場の対応
7. 時間外勤務などの労働時間
8. 育児休業・介護休業の取得しやすさ
9. 指導的地位（注1）の就きやすさ
10. 仕事をしていないのでわからない
11. その他（ ）

(注1)(1) 議会議員、(2) 法人・団体等における課長相当職以上の者、(3) 専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する者。

問13. 女性が働き続けるためには職場や社会、家庭等においてどのような取り組みや支援が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 職場の上司・同僚が、仕事と子育て・家事等の両立に理解があることが必要
2. 育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気を作成することが必要
3. 職場で規定時間以上の勤務がないことが必要
4. フレックスタイムや在宅勤務など、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができることが必要
5. スキルアップに向けた講座やセミナーがあることが必要
6. 自治会などの地域活動参加への職場の理解促進が必要
7. 保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充が必要
8. 家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要
9. その他（ ）

《仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について》

問14-1. あなたは仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を実現できていると思いますか。
あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。

1. 実現できている 3. あまり実現できていない 5. わからない
2. おおよそ実現できている 4. 実現できていない 6. その他（ ）

問14-2. それでは、ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 仕事中心という社会全体の仕組みを改める
2. 育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気の形成
3. 育児や介護のために退職した人を再雇用する
4. 産休・育児休業を取得した人の職場復帰のための環境の整備
5. 保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充
6. 労働時間の短縮や各種休暇制度の普及、充実
7. 職業生活を続けていくうえでの相談窓口の整備
8. 家族間で家事・育児・介護の分担をすることに対する社会の評価を高める
9. 働くことに対する家族や周囲の理解と協力
10. その他（ ）

問15-1. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」のバランスについて伺います。無職の方は、「家庭生活」「地域・個人の生活」の関係についてお答えください。まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つ選んでください。

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのすべてを優先したい
8. わからない

問15-2. それでは、あなたの現状に最も近いものをこの中から1つ選んでください。

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している
8. わからない

問16. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1時間単位で数字をご記入ください。

	家事	育児	介護
記入例	2 (時間)	2 (時間)	0 (時間)
平日	(時間)	(時間)	(時間)
休日	(時間)	(時間)	(時間)

問17. 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要
2. 夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要
3. 男性が家事などを行うことに対する職場の理解が進むことが必要
4. 労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要
5. 講習会や研修等を行い、男性の家事・育児・介護の技能を高めることが必要
6. 男性が育児、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めることが必要
7. その他 ()

問18. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたの生活や行動に変化はありましたか。当てはまるものを、全て選んでください。

1. 働き方が大きく変わった 3. 働き方が少し変わった 5. 変わらない
2. 家庭生活が大きく変わった 4. 家庭生活が少し変わった 6. その他 ()

問19. 新型コロナウイルス感染症拡大による在宅勤務などのテレワークはワーク・ライフ・バランスにとって意義があることだと思いますか。あなたの考え方に近いものを全て選んでください。

1. 時差勤務等も含めて、実施できる職種であれば定着させた方がよい
2. 家族との時間が増えて、関係が密になるので意義がある
3. 家族との時間が増えることにより、家事負担やストレスが増加するので変えた方がよい
4. 新型コロナウイルス感染症終息後は、従来通りの働き方に戻した方がよい
5. わからない
6. その他（ ）

《学校教育について》

問20. 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るためには、どのようなことが重要であると思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 互いの性を尊重しあえる教育の充実が必要
2. 性別役割分担などの固定観念の解消が必要
3. 生活・進路指導における男女平等への配慮が必要
4. 教科書や副読本などの表現における男女平等への配慮が必要
5. 男女平等や相互理解についての学習の充実が必要
6. 教師自身の男女平等教育の意義への理解が必要
7. 校長や教頭など役職のある立場の男女平等教育に対する理解が必要
8. 学校がPTAなどを通じ、保護者等が男女平等教育の理解と協力を深めることが必要
9. その他（ ）

《社会参画について》

問21. あなたがア)～オ)にあげる役職や公職に「女性がもっと就いた方がよい」と思いますか。
あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。

	そう思う	そうは思わない	わからない
ア) ＰＴＡ会長	1	2	3
イ) 自治会長	1	2	3
ウ) 職場の管理職	1	2	3
エ) 市の審議会等の委員	1	2	3
オ) 市議会議員	1	2	3

1. 女性の役職等就任への意識改革 2. 組織の運営体制の改善 3. 能力開発のための研修機会の充実 4. 家族の支援や協力	5. 一定の割合で女性を登用する制度の充実 6. わからない 7. その他（ ）
---	--

問23. あなたはア)～サ)の各項目が「女性の人権が侵害されている」と思いますか。あなたの考え方に近いものをそれぞれについて1つずつ選んでください。

	思う	少しそう 思う	全く 思わない
ア) 買春・売春・援助交際	1	2	3
イ) 性風俗店	1	2	3
ウ) ストーカー行為	1	2	3
エ) 夫や恋人からの暴力	1	2	3
オ) 昇進や給与など職場における男女の待遇の違い	1	2	3
カ) 痴漢行為などの性犯罪	1	2	3
キ) 女性の性を誇張した広告や雑誌など	1	2	3
ク) 職場や学校、地域でのセクシャル・ハラスメント	1	2	3
ケ) 容姿を競うミス・コンテスト	1	2	3
コ) アダルト雑誌やアダルト動画	1	2	3
サ) 家事負担が女性にかたよることなどの性別役割分担意識	1	2	3

問24-1. あなたは、配偶者やパートナーなどから（などに）、次のような精神的・身体的暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）を受けたり、行ったりした経験はありますか。以下のア）～コ）について、当てはまるものをAとBそれぞれ1つずつ選んでください。

	A (1つに○)		B (1つに○)	
	受けたことがある	受けたことはない	したことがある	したことはない
ア) 殴る、蹴るといった肉体的暴力	1	2	3	4
イ) 大声でどなる	1	2	3	4
ウ) 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
エ) 生活費を渡さない、借金を重ねるといった経済的暴力	1	2	3	4
オ) 見たくないのにパルノ雑誌・ビデオを見せる	1	2	3	4
カ) 性的な行為の強要	1	2	3	4
キ) 電話やメールの監視、交友関係の制限	1	2	3	4
ク) 「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う	1	2	3	4
ケ) 「甲斐性がない」「稼ぎが悪い」などと言う	1	2	3	4
コ) その他 ()	1	2	3	4

⇒問24-2. 前問で1つでも「受けたことがある」と答えた方にお伺いします。
あなたは、そのような暴力を受けたことを誰かに相談をしましたか。
当てはまるものを1つ選んでください。

- | | | |
|---------|-------------|------------|
| 1. 相談した | 2. 相談できなかった | 3. 相談しなかった |
|---------|-------------|------------|

⇒問24-3. 前問で「相談した」を選んだ方は、実際に、どこ（誰）に相談しましたか。
当てはまるもの全てを選んでください。

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 家族 | 5. 公的機関（相談窓口・電話相談） |
| 2. 友人・知人 | 6. 医師・カウンセラーなど |
| 3. 同じ経験をした人 | 7. 民間の機関など（NPO など民間支援グループ） |
| 4. 家庭裁判所・弁護士・警察など | 8. その他（ ） |

問25. 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して、知っていることを全て選んでください。

- | |
|---|
| 1. 被害者の相談窓口がある |
| 2. 被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる |
| 3. 被害者が利用できる生活保護など制度の情報提供を受けられる |
| 4. 加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる |
| 5. 一般の人が被害者を発見したときには、通報するよう努めなければならない |
| 6. 加害者の相談窓口がある |
| 7. 何も知らなかった |

《性の多様性（LGBT等）について》

問26. あなたは、今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）で悩んだり、あるいは身近で悩んでいたりする人がいますか。当てはまるものを全て選んでください。

- | | | |
|--------------------|-----------------------|-------|
| 1. 自分が悩んでいる（悩んでいた） | 2. 家族や知人が悩んでいる（悩んでいた） | 3. ない |
|--------------------|-----------------------|-------|

問27. 性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題には、どのようなものがあると思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

- | |
|--|
| 1. 一般社会の偏見や差別的な言動 |
| 2. 家族や友人に相談できないことによる孤立感や、将来への不安 |
| 3. 本人の同意や許可なく、性的マイノリティであることを他人に暴露されること |
| 4. 親や友人から「彼氏（彼女）以内の」「結婚しないの」などと聞かれること |
| 5. 男女別の服装やトイレ・更衣室など |
| 6. 就職や職場において不利な扱いを受けること |
| 7. 性的マイノリティに関する理解や知識が足りないこと |
| 8. その他（ ） |

問28. 性的マイノリティの方に対する差別や偏見をなくし、生活しやすい社会にするための取り組みとして、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 性的マイノリティの人権を守るための啓発活動を推進する
2. 性的マイノリティのための人権相談、電話相談を充実する
3. 学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する
4. パートナースHIP宣誓制度など、同性カップルを公認する制度をつくる
5. 性的マイノリティが働きやすい職場環境を整備する
6. 公共施設や店舗等のトイレや更衣室などを、性的マイノリティへの視点を取り入れて整備する
7. 役所の申請書や調査票の性別欄を、性的マイノリティに配慮したものにする（行政の支援）
8. 特にない
9. その他（ ）

《防災について》

問29. 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要
2. 女性消防団員等の育成や役員への女性登用が必要
3. 自治会等の自主防災組織に女性が増えるように努めることが必要
4. 防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要
5. 避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れること
6. 避難生活施設（指定避難所）の運営の責任者に男女がともに配置され、運営に男女両方の視点が入ることが必要
7. 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ることが必要
8. 災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ることが必要
9. その他（ ）

問30. 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて、あなたの考え方に近いものをすべて選んでください。

1. 日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくることが必要
2. 自治会活動に参加する人が増えることが必要
3. PTA 活動に男性が増えることが必要
4. 子どもを地域で育てるという意識を持つことが必要
5. 高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つことが必要
6. 外国人市民に対する理解を深めることが必要
7. その他（

問31. 男女共同参画に関する次の「ことば」や「事柄」を知っていますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。

問32. 性別にとらわれず、だれもが、様々な場面で個性と能力を発揮することのできる社会を実現するために、あなたができると思うことに近いものを全て選んでください。

- 141

★ フェイスシート

皆さまからのご回答を統計的に分析するために、ご回答者様ご自身のことについて伺います。

F 1. あなたの性別は次のどちらですか。身体上・戸籍上の性別に関わらず、ご自身が自認される性別でお答えください。

- | | | | |
|-------|-------|---------|--------------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他（ | ）※答えたくない、回答しない等を含む |
|-------|-------|---------|--------------------|

F 2. あなたの年齢について当てはまるもの1つ選んでください。(令和4年11月1日時点)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 16～19歳 | 3. 30～39歳 | 5. 50～59歳 | 7. 70歳～79歳 |
| 2. 20～29歳 | 4. 40～49歳 | 6. 60～69歳 | 8. 80歳以上 |

F 3. あなたの職業について当てはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 農林水産業の自営主、家族従業者 | 6. パート、アルバイト、派遣社員 |
| 2. 商工業・サービス業の自営主、家族従業者 | 7. 家事専業 |
| 3. 自由業（医師、弁護士、作家、画家等） | 8. 学生 |
| 4. 会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職） | 9. 無職 |
| 5. 会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者） | 10. その他（ |

F 4-1. あなたの現在の状況について当てはまるものを1つ選んでください。

- | | | |
|---------------------|--------------|---------------|
| 1. 既婚（配偶者・パートナーがいる） | 2. 既婚（離別・死別） | 3. 未婚（事実婚を含む） |
|---------------------|--------------|---------------|

F 4-2. 前問で「1. 既婚（配偶者がいる）」と答えた方に伺います。あなたと配偶者・パートナーの働き方について、当てはまるものを1つ選んでください。
※働くとは、常勤やパートタイム等も含みます。

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 二人とも働いている | 2. 夫のみ働いている | 3. 妻のみ働いている |
| 4. 二人とも働いていない | | |

F 4-3. F 4-1で「1 既婚（配偶者・パートナーがいる）」と答えた方に伺います。主たる生計者を1つ選んでください。

- | | | |
|-------|--------------|--------|
| 1. 自分 | 2. 配偶者・パートナー | 3. その他 |
|-------|--------------|--------|

F 5. 現在のあなたの世帯状況について、当てはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 単身世帯（一人暮らし） | 4. 三世帯世帯（親と子と孫など） |
| 2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） | 5. その他（ |
| 3. 二世帯世帯（親と子） | ） |

F 6. あなたには次のお子さんがいらっしゃいますか。当てはまるものを全て選んでください。

- | | | | |
|-----------|-------------|-------------|------------|
| 1. 小学校入学前 | 3. 中学生 | 5. 学生以外の未成年 | 7. 子どもはいない |
| 2. 小学生 | 4. 高校生以上の学生 | 6. 学生以外の成人 | |

F 7. あなたには介護が必要なご家族がいらっしゃいますか。当てはまるものを全て選んでください。

- | | | | |
|-------------|--------------|------------|--------|
| 1. 自身の親（同居） | 3. 配偶者の親（同居） | 5. その他（同居） | 7. いない |
| 2. 自身の親（別居） | 4. 配偶者の親（別居） | 6. その他（別居） | |

■ 男女共同参画についてご意見やご要望、市が力を入れるべきことなど、自由にご記入ください。

**** 以上で質問は終わりです。長時間ご協力ありがとうございました。 ****
同封の返信用封筒に入れて令和4年（2022年）11月25日（金）までにご返送ください。

VI. 卷末資料2自由意見等

問3子どもの育て方について

- ・意識する必要は無い(男性/70代)
- ・今になると育てた方がまちがっていた。(不明/不明)
- ・男の子、女の子どちらで生きていくかは子ども本人に決めてもらい育てる(その他/20代)
- ・男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がいいと思うけど例えば男の子が女らしくしたいと言ったらその気持ちをくみとって育てる(女性/10代)
- ・基本1であるが子どもによる。(男性/60代)
- ・区別なく育てたいが、例えば女子ならスカートのときに足を開けて座らない等、特有のマナーについては教えたい。女の子だから、男の子だから、という言い方はしたくない。(女性/40代)
- ・区別なく育てた方がよいが、どうしても男の子なんだからなど言ってしまう(男性/30代)
- ・区別なく育てるが、性の違いは理解が必要(女性/50代)
- ・子どもによる(不明/不明)
- ・子供の個性をまず尊重して子供の人生なので、良い意味でやりたい事を、応援して行きたい。(女性/60代)
- ・子どもを、ひとりの人としてみる意識を持ち、個々人の配慮で育てた方がよい。(女性/60代)
- ・自分の考える「らしさ」と個々の「らしさ」は違うので、個性を大切にしたい方がよい。(女性/60代)
- ・自分のなりたいビジョンがあるなら強制はしないが、基盤はストレートであるべき(男性/20代)
- ・状況個人にあわせ必要な事をする(女性/40代)
- ・性差に配慮するべきだが、それを強制しない方がよい(女性/10代)
- ・その子自身の本当のジェンダーによる。(女性/30代)
- ・その子どもらしさを育てた方がよい(女性/40代)
- ・その子に合った育て方がいいと思うが難しい(女性/60代)
- ・その子に合った育て方をするのがよい(女性/40代)
- ・その子らしく育てられたらよい(男性/40代)
- ・別性への認知(女性/40代)
- ・本人の意思に従う(男性/50代)
- ・本人の意思を尊重するのがよい(女性/40代)
- ・本人の性的意向を汲むべき(男性/20代)
- ・まず人間一人ひとりにジェンダーがあることを理解するべき。(女性/10代)

問4男女がともに平等な関係を築き、生き生きと暮らす社会を実現するために必要なこと

- ・～ハラスメントが強くなり男性が気を遣いすぎ、女性は態度が大きくなっている。(男性/40代)
- ・「平等」という意識をなくすこと必要なのは「相手を思いやる気持ち」です。(男性/40代)
- ・「平等」という言葉にとらわれすぎずに性差に配慮してそれぞれの幸福を考えるべき(男性/40代)
- ・あまり意識しなくていいと思う(男性/30代)
- ・大木市長のパワハラが先(男性/60代)
- ・お金からスタート(男性/60代)
- ・各々が意見を存分に述べるができる関係性が必要。(女性/30代)
- ・学校で媚びを売る生徒の成績を上げないことが必要(男性/10代)
- ・完全な平等は難しいと思う。それぞれ個々が得意なことを活かせば良いと思う。(女性/30代)
- ・高齢者に残る固定観念の解消(男性/50代)
- ・個々の問題(男性/70代)
- ・個人が権利主張すること男女平等だと皆がより過ごしやすいという意識を持つこと(男性/40代)
- ・市、県、国のリーダーを女性にすることが必要(その他/20代)
- ・ジェンダーの理解に加えて男性や女性の尊重もすべき(男性/10代)
- ・全てにおいて固定観念が強すぎる(男性/30代)
- ・すべて必要(女性/40代)
- ・性差ではなく個々の尊重が必要(女性/40代)
- ・性差に配慮した制度や教育(女性/30代)
- ・性差による違い。たとえば力仕事などまで平等というのはいきすぎでしっかりケアしていく(男性/60代)
- ・性別を含め様々な多様性を踏まえると、何でもかんでも平等を求めるのは逆に不平等ではないか(男性/50代)
- ・そもそも男と女は各々異なる、良い所を伸ばすべき何も平等にはならない(男性/40代)
- ・それぞれの長所を生かすべき。(男性/50代)
- ・男女が平等でなくてもいい(女性/60代)
- ・男女間の貧富の差の改善(女性/30代)
- ・男女というのをあげている事がおかしいと思う。人間として人としてのくくりでいいのでは？(女性/60代)
- ・男女は平等ではあるが育児環境を整えないと女性の負担が重たくなる。共働きの平等性を国が確立していかないと、社会、職場の男女平等は困難だと思う。(男性/70代)
- ・地域社会での意識改革が必要自治会など(女性/40代)
- ・チャホヤするだけの女性社会は不要(男性/20代)
- ・時には男性のちから強さも大切。男に出来る事、女に出来る事もある(女性/80代以上)
- ・肉体的・精神的役割を教育する必要(男性/40代)

- ・平等でなきゃいけないという考えを見直した方がいい(男性/40代)
- ・平等よりも自分らしさが大切!(男性/20代)
- ・夫婦別姓を認める(男性/20代)
- ・本来男性、女性では、出産(生理含)等もあり同じではないし子供を育てる上でも、些細な事でも、子供の変化に気づく本能的な物を女性は、持っていると同じでした。しかし、男性でも、細やかで家事が得意な方もいるし、女性でも不得意な方もいるので色々勉強していく事も大切です、得意分野をお互い発揮して、職場でも家庭でも、生かせれば老若男女と問わず、生き生きと暮らせるのでは。(女性/60代)

問6子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なことについて

- ・50歳以上の理解と協力体制。(女性/30代)
- ・育児休業に対するマイナスイメージの払拭(男性/20代)
- ・いじめをなくす(女性/30代)
- ・今、現在子育てはしていませんが子育て世代に対する支援は今十分されていると思いますが(女性/70代)
- ・産む前からの支援、援助などの体制(女性/40代)
- ・運動できる広場が必要(スマホばかりでなく走りまわった方がよい)。(男性/40代)
- ・大木市長のパワハラが先(男性/60代)
- ・夫・家族の支援(女性/40代)
- ・学童に対し無料化をする事。(学業や病院など)(男性/60代)
- ・学校になじめない子ども達の受け入れ場所の体制や充実。(女性/60代)
- ・気軽に子どもを預けられる場所が欲しいです。たとえば親の急な体調不良時にすぐにも預かってもらえるような施設など。たいていの場合、事前予約が必要だったりするので。(女性/30代)
- ・現在の育児休業では不足!→せめて保育園を利用せず幼稚園に通わせられるようになって欲しい。2~3才はどうしても必要になるところを変えて欲しい。私は社会復帰よりもっと子どもと過ごしたい。(女性/30代)
- ・子育て世帯に支援を限るから、対策が進まない(なじまない)根本的な勤務の抑制・週休3日制の導入(男性/40代)
- ・子育て世帯に対する(所得)税の免除が必要(女性/30代)
- ・子供の視点で考える必要がある。子供が安心する事・社会が必要。例>帰宅して親がいないのは良くない(男性/40代)
- ・シッターなどもっと手軽に使える環境、価格が必要(女性/40代)
- ・社会的コンセプトを基本的に日本流から変更する必要有(男性/70代)
- ・出産費用負担、半額など(女性/60代)
- ・上記のものを支える労働者の待遇改善(女性/60代)
- ・上記のような事柄がメインとなるのは残念。昔の祖父母や兄弟やとなり近所でケアしていたことを思い出してみたい(男性/60代)
- ・少子化により子供が将来高齢世代から搾取される可能性を取り除くこと。(男性/40代)
- ・少子化を止め、子供がそもそも沢山いる環境づくり(男性/40代)
- ・職場で残業なしで帰れてもノルマが変らなかった。職種によっては改全が必要(女性/60代)
- ・職場の理解はマスト(男性/20代)
- ・男性の考え方、意識改革(その他/50代)
- ・長期出張の制限(1月に1度は帰られるようにする。)(男性/20代)
- ・長時間保育、病児を利用しないで済む社会の理解と体制づくりが必要(女性/40代)
- ・独身に対する経済的支援、生活に余裕がないと結婚を考えない。(男性/30代)
- ・どこに行っても、居ても周囲の温かい心。“静かに遊ぶ”(公園なのに)と注意されない環境。(女性/30代)
- ・母親が子育てに安心して専念できる為に、父親の給与と所得の充実(女性/50代)
- ・非正規雇用をなくし、賃金を上げ、将来に対する不安を取り除かないと、いくら支援を行っても、改善していかない。(男性/50代)
- ・不妊症の原因究明(女性/60代)
- ・古い考えの大人に理解される様、行政・メディアの積極的発信(女性/50代)
- ・保育施設の給料上げる(男性/40代)
- ・保育士の増加、またそのための待遇の強化(男性/30代)
- ・放課後の一時利用ができる預け先があると助かると思う。留守番は難しいが近くに頼れる親せきがおらず、頼める関係の友人もない場合、途方にくれることもある(子同伴が難しい場合)(女性/40代)
- ・元々の結婚をうながすため、男性の給与を増やす。(男性/20代)
- ・若い人の年収を上げる、税金等を下げる。(女性/60代)
- ・わからない(不明/不明)
- ・教育(学費無料)(男性/70代)
- ・子供にマスクさせるな!!! (その他/80代以上)
- ・子供の食と健康も考える。給食を無添加、無農薬、地産地消など。子供が通う幼稚園や学校の環境を整える事も大事。まずは大和市から子供を大切にしていれば出生率は増えると思う。(大和市の)(不明/不明)
- ・保育施設拡充や無償化等一時的なものではなく子供が居る人は全員、金銭面での長期的で絶対的なサポート体制が必要(女性/30代)

問7-2「制度を知っていて必要だったのに利用していない」主な理由

- ・育児する時期に制度がなかった(男性/60代)

- ・育児も介護もまだ行っていない為(女性/30代)
- ・育児を必要とする出産と介護を必要とする立場の未経験(女性/20代)
- ・今まで利用する機会がなかったから(男性/30代)
- ・家族の為に働いているから(男性/40代)
- ・急病の為に間にあわない(男性/40代)
- ・業務の都合上(男性/30代)
- ・経験なし(女性/30代)
- ・現職は〇〇関心なかった(男性/80代以上)
- ・子供を生まなかった(女性/50代)
- ・自営業だが夫の協力が得られなかった。(女性/60代)
- ・自営業だから(男性/30代)
- ・自営だった(女性/70代)
- ・自営の為(女性/60代)
- ・仕事をしたかったから(男性/40代)
- ・知ってはいるし、必要だと思うから。(女性/10代)
- ・自分の仕事という意識が強かったから(女性/60代)
- ・自分の時にはなかったと思われる(女性/70代)
- ・就業時にこのような制度がなかったため。(男性/60代)
- ・上記休業制度がなかった。(女性/50代)
- ・職場に割り振れる人員が少ない(男性/40代)
- ・申請手続きが難しい(女性/30代)
- ・制度が今ほど充実していなかった(女性/60代)
- ・制度がないため、妊娠と同時に退職するものだと上司から告げられた。2年後に復職するよう連絡が来た。(女性/40代)
- ・制度がなかった(男性/70代)
- ・制度がなかった(男性/70代)
- ・制度がなかった(女性/70代)
- ・制度がなかった(男性/30代)
- ・制度がなかった(男性/60代)
- ・制度が未整備だった(男性/60代)
- ・制度利用者が少ないので勇気が必要(男性/30代)
- ・制度を知っているが独身だから利用していない(男性/40代)
- ・専業主婦のため(女性/30代)
- ・その当時は制度がなかった。(女性/50代)
- ・対象外だったため(女性/30代)
- ・体調が悪く退職した為(女性/40代)
- ・なかったから(女性/80代以上)
- ・年次有休を利用(男性/30代)
- ・ノルマは減らない(女性/60代)
- ・パートだったから。(女性/40代)
- ・夫婦共働きあって(女性/70代)
- ・扶養範囲内のパートだった為、パートを辞めざるをえなかった。(女性/40代)
- ・まだ該当になったことはないが、利用申請する人がいると取りにくそう。(女性/40代)
- ・まだ制度がなかった。(男性/60代)
- ・まだ必要がない(男性/20代)
- ・休めないから。仕事が多まるから。自分(夫)しかできないから(女性/40代)
- ・有給休暇を利用せざるを得ないから(男性/40代)
- ・有休を先に使用(女性/60代)
- ・有休を使った(男性/30代)
- ・有給を優先に使用された(女性/40代)
- ・利用時間が短いと感じ結局利用をやめた。利用したとしても現実厳しいと感じたため(子どもの病気などで頻繁には休みをとれなさそう)(女性/40代)
- ・利用していないから(男性/30代)
- ・利用する相手がいない(男性/20代)
- ・利用するまでにならなかった。(男性/70代)
- ・市長のパワハラを先に(男性/60代)

問8-2今後適当な仕事があった場合、どのような働き方をしたいか

- ・77才まで仕事をしたので満足(男性/70代)
- ・B型就労支援(女性/50代)
- ・親の介護、孫の子守があるため外へは働きに行けない。(女性/60代)
- ・後期高齢者なので不可能(男性/80代以上)

- ・ 高齢で出来ないと思います(女性/70 代)
- ・ 子どもの持病のため、難しい。(女性/30 代)
- ・ 時短勤務、短期。(女性/40 代)
- ・ 趣味を通じボランティアを(男性/70 代)
- ・ 高令だから出来ない(男性/80 代以上)
- ・ 定年です。(不明/80 代以上)
- ・ ボランティア?日本語が苦手です(男性/60 代)
- ・ 定年後元の会社の関連仕事手伝い 5 年間(男性/70 代)

問9どのようなきっかけがあれば働いてみたいか

- ・ 大人になったら(女性/10 代)
- ・ 介護が終了したら(女性/50 代)
- ・ 学生なので卒業したら(女性/20 代)
- ・ 学校を卒業したら(その他/10 代)
- ・ 学校を卒業したら(男性/20 代)
- ・ 学校を卒業したら(男性/10 代)
- ・ 在学中だから(男性/10 代)
- ・ 大学卒業したら(男性/10 代)
- ・ 大学を卒業したら(女性/10 代)
- ・ 大学を卒業したら(男性/10 代)
- ・ 体力的に無理(女性/70 代)
- ・ 年令的に無理です。(女性/80 代以上)
- ・ 私は以前働いていた(女性/30 代)
- ・ 元の会社の関連仕事手伝い 5 年間(男性/70 代)

問10女性が社会で働くことについて

- ・ 選択肢に私が思う答えがない。(女性/60 代)
- ・ 2 人で相談する(男性/20 代)
- ・ 4 に近いが、子供に寄り添える時間のある仕事に移ったり、パートにしたり(女性/60 代)
- ・ 5.に近いが子育て中は、仕事の時間を減らすのがよい(女性/40 代)
- ・ 5 と近いが子どもに手がかからなくなってきたらできる範囲で働くのが良いと思う(女性/40 代)
- ・ お金に余裕があれば⑤、そうでなければ④(女性/40 代)
- ・ 夫の収入による(男性/30 代)
- ・ 各々の意見で決めればよい(男性/40 代)
- ・ 各家庭で決めるべきで一律に考えるべきではない(男性/50 代)
- ・ 各々の必要に応じて、また希望に応じて働くのがよい(女性/30 代)
- ・ 家事や育児に影響がない範囲で働いた方がよい(女性/30 代)
- ・ 強要はしない。(男性/30 代)
- ・ 経済的に余裕があれば家事に専念しても良いし、どれか 1 つという考えはない。(女性/50 代)
- ・ ケースバイケース。1～6 の選択肢すべてを当事者が選べられることが大切(男性/40 代)
- ・ ケースバイケースで自分に合うやり方がよい(女性/40 代)
- ・ 結婚、出産関係なく、働きたければ働いて、その人個人で選べればよい(女性/30 代)
- ・ 結婚や出産でその時に合った働き方ができるとよい。日本ではぜったい無理だと思うが(女性/40 代)
- ・ 結婚や出産に関わらず働き続けるが、子供が出来たら子育てが出来た環境で仕事してほしい(男性/40 代)
- ・ 結婚や出産に関わらず本人の希望に沿う働き方がよい(女性/30 代)
- ・ 個人次第(男性/40 代)
- ・ 個人に合った働き方が選択できるとよい(女性/20 代)
- ・ 個人の考え方と環境に対応した働き方が出来ると良いと思う。(女性/60 代)
- ・ 個人の自由。職場に戻りやすい制度や社員の意識がしっかりあればよい(女性/30 代)
- ・ 個人の自由なので、好きにしたらよいと思う(女性/40 代)
- ・ 個人の好きにしたらいい。(その他/10 代)
- ・ 子育ての間休めて元に戻れるとよい(女性/60 代)
- ・ 子育てや家事は女性の仕事という価値観にとらわれず、働きたい女性は働く、子育てに専念したい女性は専業主婦など、多様な生き方を尊重し、認め合っていきたい。(女性/30 代)
- ・ 子どもができたら仕事は「休み」、大きくなったら再び働く方がよい。就活したくない。(女性/30 代)
- ・ 子どもができたら仕事を休み、その後は家族で考える。(男性/50 代)
- ・ 子どもによって大変さが異なるので、その時の状況でどの選択でも良いと思う。(女性/30 代)
- ・ 仕事に専念するかどうかは人それぞれでよいと思う(女性/10 代)
- ・ 仕事は続けたい子育てにも時間を費やしたい!(女性/60 代)
- ・ 仕事を続けたい人は続けられればよい(男性/30 代)

- ・仕事を続けたかったらそのまま働き続け、自分が辞めたかったら辞めたらよい(女性/10代)
- ・自分がやりたいようにすればよい(女性/20代)
- ・自分自身で決めて心地よい生活になれば1つの考えに固執しなくてよいと思う(女性/50代)
- ・自分の意志で、働くか否か決める方がよい。(女性/30代)
- ・自由で良いのでは、人それぞれなので(男性/40代)
- ・自由に選択でき、それに理解ある偏見のない社会(女性/30代)
- ・出産前後から、しばらくは休みが取れ、子供が小さい時は時短などで仕事が継続出来る方がよい(女性/40代)
- ・上記のような概念にしばられることなく、フレキシブルで良いと思う。(男性/40代)
- ・状況に応じて(女性/40代)
- ・状況に応じて選択できる自由度が保たれていれば良いと思う。(男性/50代)
- ・状況によって判断する。(男性/70代)
- ・女性個人の考えだと思います(男性/30代)
- ・女性自身が望む働き方がよい(男性/40代)
- ・女性という一括りにせず、当人の意志を尊重する方がよい(男性/30代)
- ・女性は仕事だけに専念することは難しい。人によってライフイベントの時期が違うから理解が必要。(女性/40代)
- ・好きなようにやればよいと思っている(女性/20代)
- ・好きにしたいと思う。ただ、早く復帰してこいみたいな考えはなくした方がいい(その他/20代)
- ・好きにすればよい(男性/10代)
- ・好きにすればよい(男性/30代)
- ・生活環境による(女性/40代)
- ・性別にとらわれずに子育て、仕事好きな方、得意な方を選択する方がよい(その他/20代)
- ・世代によって異なりますので時代の流れによって決定する事は出来ません。その時代により人それぞれに考えが異なりますので決めかねます(女性/80代以上)
- ・その女性がどのように生きたいかを尊重した方がよい(男性/30代)
- ・その時の状況で決めればよい(女性/60代)
- ・その時の状況に応じて対応すればよい(女性/40代)
- ・その人が思うようにやったらいい(男性/10代)
- ・その人自身の希望に合わせる(男性/20代)
- ・それぞれ各個人の生き方で自由に選択するのがよい(女性/40代)
- ・それぞれ個人の考え方で決める(女性/60代)
- ・それぞれの考えや環境もあるので、本人が希望する道でよいと思う。いろんなパターンがあって良いと思う。(女性/40代)
- ・男性に経済力があれば、女性は家事・育児に専念できる。(女性/60代)
- ・就いている仕事による。一旦辞めてもスキルや立場が継続できない場合は④になる。(女性/70代)
- ・出来る間は仕事をして、育児などの両立が辛くなった時やめればよい(女性/30代)
- ・出来る仕事ならば働くことは良いと思います。(男性/40代)
- ・当然働くべきと思うが、結婚して働くかは夫婦が決めるべきもの。(男性/70代)
- ・どちらでも良い。(男性/50代)
- ・どの状況でも働きたい気持ちがあれば働いた方がよい(女性/10代)
- ・どれでもいい。各家庭の事情によりけり、もし子どもが元気なら4。(女性/30代)
- ・働き方についてパートナーと相談しベストな形を選べばよい。2人が良ければどんな形でもOK。(女性/40代)
- ・働き方は人それぞれ(女性/70代)
- ・働きたい人は働く、働きたくない人はやめる(女性/40代)
- ・働きたかったら働けばよい(不明/不明)
- ・働き続けたい、専業主婦やりたいなど個人の希望が通る社会になってほしい(女性/30代)
- ・働き続けたい人は続け、家事に専念したい人はそうすれば良いと思う(女性/40代)
- ・働きながら育児との両立(女性/60代)
- ・働く意欲がある場合に、働けばよい。(女性/50代)
- ・働く事が好きなら働けば良い。お金がないなら働けば良い。ただそれだけの事だと思う。男女関係ない。(女性/30代)
- ・働くことについては子育て中でも、子育てしていない人も自由だと思う。(女性/70代)
- ・働くことへの専念、子育てへの専念を選べるようなことが必要(男性/50代)
- ・働ける環境があるならば働いたほうが良い(男性/30代)
- ・否定はしない(男性/40代)
- ・人それぞれ(女性/60代)
- ・人それぞれ、働きたい人は働けばいい。(女性/40代)
- ・人それぞれに理想のかたちがある。「○○の方がよい」ということはない。(女性/10代)
- ・人それぞれの事情(家庭の)で働くも良いし働かなくても良いと思う(女性/50代)
- ・本人の意思で選択すればよい。(男性/60代)
- ・本人の意思に元づく(経済状況等)(男性/40代)
- ・本人の意思によって決めるべき(男性/20代)
- ・本人の意思によります(男性/40代)
- ・本人の意思を重視。働きたいのに働けない働きたくないのに働くのが困る。(男性/60代)
- ・本人の意思を尊重できる環境と経済状況(女性/20代)

- ・ 本人の自由(男性/30代)
- ・ 本人の自由ただし全ての環境が整っている事(男性/50代)
- ・ 本人の自由意志(男性/30代)
- ・ 本人の好きにすればいい(男性/40代)
- ・ むりに働く必要はないと思う。(男性/20代)
- ・ やりたい様にすればよい(男性/30代)
- ・ ライフスタイルに沿って柔軟な働き方にシフトする方がよい(男性/20代)
- ・ 若いうちに子供を産み、子供の自立後に働くのがよい(男性/40代)
- ・ 家事、出産、育児、仕事、すべて大事それを社会保障して暮らしやすくするために、税金を利用して整備していくことが大事。(女性/60代)
- ・ 個人の状況次第で決めればよい。一定の解なし(男性/40代)
- ・ 収入等で色々変わったりするので、夫婦だったら、お互い理解や助け合いした方がいいが、子供にも良い環境で育っていければ一番いいと思う。独身等なら個人の生活等を配慮してくれると良いと思う。(女性/30代)
- ・ 女性が「こうしたい」という意志を尊重したい(決めつけず、幅をもたせたい)(男性/30代)
- ・ 本人が働きたいときに働けば良い(働ける状況の中で)(男性/10代)

問11男性が社会で働くことについて

- ・ 個人の状況次第で決めればよい。一定の解なし(男性/40代)
- ・ 4に近い考えだが、家族に応じて休める環境を整えるがよい(女性/20代)
- ・ ケースバイケース。1～6のすべてを当事者が選べられることが大切(男性/40代)
- ・ その人が思うようにやったらいい(男性/10代)
- ・ その男性がどのように生きたいかを尊重した方がよい(男性/30代)
- ・ それぞれの考えや環境もあるので、本人が希望する道でよいと思う。いろんなパターンがあって良いと思う。(女性/40代)
- ・ それぞれ各個人の生き方で自由に選択するのがよい(女性/40代)
- ・ どの状況でも働きたい気持ちがあれば働いた方がよい(女性/10代)
- ・ どれでもよい。各家庭の自由(女性/30代)
- ・ ライフスタイルに沿って柔軟な働き方にシフトする方がよい(男性/20代)
- ・ 意味が分らない(男性/50代)
- ・ 育休など必要な時に休めるシステムが必要(女性/40代)
- ・ 育児もやりつつ働く(男性/10代)
- ・ 育児休暇や在宅勤務を駆使し経済安定をはかるべき(女性/40代)
- ・ 育児休業を利用してから働くのを再開するのがよい(女性/30代)
- ・ 一家の担い手として働くのが主となる考えだが相方と意見が揃えば家で”主夫”という考えなどもアリかと(男性/60代)
- ・ 家庭などの状態に合わせて、子育て、介護、病気などの時に働き方を選択出来る働き方が出来る職場が増えてほしい。女性の負担が減ると考える(女性/70代)
- ・ 家庭によって違うから答えはわかりません。ありません。(女性/40代)
- ・ 家庭状況による。どの選択でもよい(女性/30代)
- ・ 各々の必要に応じて、また希望に応じて働くのがよい(女性/30代)
- ・ 結婚しても働いて。普通に。(不明/30代)
- ・ 結婚や子どもができて配偶者と協力しながら働き続ける方がよい。(女性/10代)
- ・ 結婚や子どもと関係なく働くことが望ましい(男性/60代)
- ・ 結婚を前提にした質問に該当する答えがない(女性/50代)
- ・ 結婚後も変わらず働くべき。(男性/60代)
- ・ 個人に合った働き方が選択できるとよい(女性/20代)
- ・ 個人の好きにしたらいい。(その他/10代)
- ・ 個人の自由、同上(女性/30代)
- ・ 個人次第(男性/40代)
- ・ 好きにしたらいいと思う(女性/40代)
- ・ 好きにすればいい(男性/10代)
- ・ 仕事と家庭が両立できる社会、子供の成長時期に合わせて(男性/40代)
- ・ 仕事もして家事・育児もやるべき(男性/30代)
- ・ 仕事を続けたかったらそのまま働き続け、自分が辞めたかったら辞めたらよい(女性/10代)
- ・ 子どもができたなら、子どもとの関わり合いを!市民レクチャー!(男性/70代)
- ・ 死ぬまでに必要なお金が貯まったら、仕事をやめてよい(男性/30代)
- ・ 資産による(男性/30代)
- ・ 自分の意志で、働くか否か決める方がよい。(女性/30代)
- ・ 自由で良いのでは、人それぞれなので。(男性/40代)
- ・ 自分自身で決めて心地よい生活になれば1つの考えに固執しなくてよいと思う(女性/50代)
- ・ 自由に選択でき、それに理解ある偏見のない社会(女性/30代)
- ・ 状況に応じて(女性/40代)
- ・ 状況に応じて選択できる自由度が保たれていれば良いと思う。(男性/50代)

- ・状況をみて働いたり家のことに力を入れたり、その家族や個人で選べることであればいい。こうした方が良い、みたいなことは男女ともに縛りはない方がいいです…夫婦も男女、じゃないこともあっていいと思うのです…(女性/30代)
- ・人それぞれ(女性/40代)
- ・人それぞれだから、仕事を選ぶか主夫を選ぶかその他を選択するかは本人が決める事(女性/60代)
- ・人それぞれに理想のかたちがある。「〇〇の方がよい」ということはない。(女性/10代)
- ・人によって状況は変わるから一人一人のニーズを尊重したい(男性/30代)
- ・性別にとらわれずに子育て、仕事好きな方、得意な方を選択する方がよい(その他/20代)
- ・生活ができるのであれば仕事の有無はどちらでも良い(女性/40代)
- ・生活環境による(女性/40代)
- ・男女どちらにもいえるが、その人の持っているスキルが家事なのか仕事なのかにもよると思う。得意な方が得意な事を行えば良い。それは夫婦間の問題(女性/40代)
- ・男女関係なく、パートナーと相談して、そのファミリーのスタイルに合った働き方が出来れば良い(女性/40代)
- ・男性が働くことと規制すること自体おかしい。女性が働き男性が家事でも良い。(女性/60代)
- ・男性でも女性でもどちらかが主な働き手になっても良い。(女性/70代)
- ・男性自身が望む働き方がよい(男性/40代)
- ・定年までしっかり働く(女性/10代)
- ・定年まで働き家庭経済を守るべき(男性/80代以上)
- ・当然働くべきと思うが、結婚して働くかは夫婦が決めるべきもの。(男性/70代)
- ・働きたかったら働けばよい(不明/不明)
- ・働きながら家事もする(男性/30代)
- ・働き続けたい、専業主婦やりたいなど個人の希望が通る社会になってほしい(女性/30代)
- ・働き続ける(男性/30代)
- ・働き方についてパートナーと相談しベストな形を選べばよい。2人が良ければどんな形でもOK。(女性/40代)
- ・働くのが当たり前!(男性/60代)
- ・働くべき、勤労の義務(男性/40代)
- ・働く意欲がある場合に、働けばよい。(女性/50代)
- ・働く事は出来る限りやる方がよい。しかし、家庭内での協力も必要。(男性/60代)
- ・働ける間は働く(男性/70代)
- ・働ける内は働く(男性/50代)
- ・同じ(女性/50代)
- ・同上。一緒に育てられる社会にしてあげたらいいと思う(その他/20代)
- ・否定はしない(男性/40代)
- ・夫婦で話し合い、各家庭で決めれば良いと思う(女性/40代)
- ・夫婦なら、お互い理解や助け合い等して、必ず男性が外に出て働く以外の環境があっても良いと思う。(女性/30代)
- ・本人が決める(女性/70代)
- ・本人の意思で選択すれば良い。(男性/60代)
- ・本人の意思によって決めるべき(男性/20代)
- ・本人の意思に元づく(経済状況等)(男性/40代)
- ・本人の意思を尊重できる環境と経済状況(女性/20代)
- ・本人の好きにすればいい(男性/40代)
- ・本人の自由(男性/30代)
- ・無理なく働き続けられる方がよい(女性/20代)
- ・上記のような概念にしばられることなく、フレキシブルで良いと思う。(男性/40代)
- ・働く事が好きなら働けば良い。お金がないなら働けば良い。ただそれだけの事だと思う。男女関係ない。女性/30代)
- ・本人の自由ただし全ての環境が整っている事(男性/50代)
- ・各家庭で決めるべきで一律に考えるべきではない(男性/50代)
- ・個人の考え方と環境に対応した働き方が出来ると良いと思う。(女性/60代)
- ・本人が働きたいときに働けば良い(働ける状況の中で)(男性/10代)
- ・本人の自由意志(男性/30代)
- ・働くことへの専念、子育てへの専念を選べるようなことが必要(男性/50代)
- ・結婚や出産に関わらず働き続けるが、子供が出来たら子育てが出来た環境で仕事してほしい(男性/40代)
- ・選択肢に私が思う答えがない。(女性/60代)
- ・子育てや家事は女性の仕事という価値観にとらわれず、働きたい女性は働く、子育てに専念したい女性は専業主婦など、多様な生き方を尊重し、認め合っていきたい。(女性/30代)

問12職場で男女平等ではないと思うこと

- ・(2)ではない(女性/70代)
- ・「礼儀・わきまえ」とされる振舞の要求(女性/40代)
- ・意見の通りやすさ男性の根本的な意識の低さ(女性/30代)
- ・医療関係の仕事なのであまり気にならない(女性/50代)
- ・上の役職にいくにつれ、男性が多いとすごく感じる。(女性/20代)

- ・受付が全員女性(男性/20代)
- ・同じパートの男性が居ないのでわかりません(女性/40代)
- ・学生なので分からない(男性/10代)
- ・管理職登用に女性枠があり女性優遇している(男性/60代)
- ・議院、各組織の上層部の男性の多さが気になる。(女性/20代)
- ・業種によって男女平等でないと感じる(男性/30代)
- ・具体例の提示。(男性/70代)
- ・現在働いてないのでわからない。今は前から比べれば大分変っていると思う(女性/70代)
- ・現職場は平等と思っている(男性/50代)
- ・公務員だったので、よくわからない(男性/60代)
- ・公務員だったので男女差別は感じたことがない(男性/70代)
- ・採用数(男性/50代)
- ・差があるとは思わない(男性/50代)
- ・仕事場が家族経営なので良くわからない。(男性/50代)
- ・仕事をしているがわからない(男性/40代)
- ・仕事をしているがわからない(男性/10代)
- ・自分の職場はすべて平等だと思います。(男性/30代)
- ・出産、育児があることを考えると完全な平等は無理がある。(男性/30代)
- ・出産、授乳など女性でないとできない役割により職場復帰が遅れる(女性/50代)
- ・職場に女性がいないので不明(男性/40代)
- ・女性がいないからわからない(男性/70代)
- ・女性がサポート的仕事をするを女性自身も当然のように思っているのでは(男性/40代)
- ・女性の意識(男性/50代)
- ・女性の職場なので今はよくわからない(女性/40代)
- ・そもそもの社員の男女比(男性/40代)
- ・男女平等だと思う。介護職(女性/50代)
- ・男女平等ではないと感じることは特にない(女性/40代)
- ・男女平等の職場(外資系)(女性/20代)
- ・長時間労働前提の仕事内容(少なくとも週40時間が最低必要)(男性/40代)
- ・パートなのでよくわからない(女性/60代)
- ・パワハラ(男性/20代)
- ・平等である(男性/40代)
- ・労働環境の整備(男性/60代)
- ・わからない(女性/80代以上)
- ・わからない(男性/40代)
- ・わからない(女性/40代)
- ・市長のパワハラを先に(男性/60代)

問13女性が働き続けるためには職場や社会、家庭等においてどのような取り組みや支援が必要だと思うか

- ・休業された時、残りの従業員は大変になるので…。独身や、子供のいない家庭はその後のケアとかも含めた事が必要(男性/40代)
- ・家庭向けの有償サービス(男性/40代)
- ・育児都合での休暇を会社と調整する必要(→小学生、中学生など体調の安定や家で1人で過ごせるか、など。)がなくなるまで休める仕組み(女性/30代)
- ・育児をしながらでも問題がない会社の経営力をつける(男性/30代)
- ・夫のサポートが必要。うちは絶対無理ですが。(女性/40代)
- ・夫の転勤があると働き続ける事は大変です(女性/40代)
- ・金、経済(男性/20代)
- ・休暇後に戻りやすい職場の体制を整えることが必要(その他/20代)
- ・業務量の明確化と時間内に終わらせる分配。(男性/20代)
- ・キレイ事と言っても職場は各々の閉じたコミュニティ。密室で力のある者が行っている事は、何年も変わらない。外部の監査・罰則が必要。(女性/40代)
- ・国も働きやすい、子育てしやすい環境にする制度にもっと力を入れて欲しい(女性/30代)
- ・経済的な余裕が必要(男性/10代)
- ・結婚退職の段階から考慮必要。(男性/60代)
- ・子育て、家事等の両立への理解、育休・介護休暇を取りやすい状況というのは、当人への支援だけではない。大事なのは、その職場への人的支援。欠員状態で理解を示せと言われても不満が募るし、当人も心苦しい。(女性/50代)
- ・子どもが病気になった時、休暇が取りやすい男女とも。(女性/50代)
- ・自営業、フリーランスへの制度の充実(女性/30代)
- ・自治会が、働いている人への理解が必要。(男性/60代)
- ・女性というだけで優遇されているので、完全に平等にすべき(男性/40代)

- ・ 女性も男性と同じ扱いを受ける覚悟が必要(男性/50 代)
- ・ 人員の配置を増やす(男性/40 代)
- ・ 全て実現できれば素晴らしいことですが?(女性/70 代)
- ・ 全ては、にわとりと卵だと思うので、どちらかが変わらなければならないと思います(男性/40 代)
- ・ 責任感をもつ事が必要(男性/60 代)
- ・ 男女の賃金の差の改善(女性/40 代)
- ・ 男性の育休を義務にすればよい。(女性/30 代)
- ・ 中小企業等民間での意識改革か制度があっても、職場の空気が問題。(男性/70 代)
- ・ 妊娠中の働き方への上司の配慮(女性/40 代)
- ・ 旗振り、自治会班長、PTA などが仕事への配慮が欠けている(女性/30 代)
- ・ 働き続けさせることに意義を感じない。まずは出生率を上げるべき(男性/40 代)
- ・ 働き続けることが必要なのかを考えること(男性/40 代)
- ・ 復職しやすい、職場の受け入れ環境。(男性/60 代)
- ・ 法制度の確立、整備が不可欠(男性/50 代)
- ・ 法律の強化(男性/60 代)
- ・ まずこの時点で”女性が”になっていることが問題。男女ともに家事、育児を協力して行うことが前提となる問題であるべき。(女性/10 代)
- ・ わからない(男性/10 代)
- ・ わからない(不明/80 代以上)
- ・ わからない(男性/40 代)
- ・ わからない。子供ほしいが、いないのでわからない。考えたくない(女性/40 代)
- ・ 市長のパワハラを先に(男性/60 代)
- ・ 本人の好きにすればいい(男性/40 代)

問14-1あなたは仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現できていると思うか

- ・ 育休中は 1.できている育休終了したら 4.できていない(女性/30 代)
- ・ 今仕事をしていない(女性/70 代)
- ・ 親の介護をしているので考えてない。(女性/60 代)
- ・ 学生なので分からない(男性/10 代)
- ・ 学生の為仕事をしていない。(女性/10 代)
- ・ 学生の為分からない(女性/20 代)
- ・ 家事は仕事として考えるなら②です。(女性/70 代)
- ・ 現在仕事をしていない(女性/70 代)
- ・ 現在は仕事をしていません(女性/50 代)
- ・ 現在働いていない(女性/30 代)
- ・ 現在働いていない(女性/70 代)
- ・ 現在無職(女性/60 代)
- ・ 現在無職の為(女性/80 代以上)
- ・ 在宅勤務が可能となっておおよそ実現できている(男性/40 代)
- ・ 仕事をしていない(男性/70 代)
- ・ 仕事とは、私は家事の事なのでおおよそ実現できている(女性/80 代以上)
- ・ 仕事はしていない。(女性/50 代)
- ・ 仕事をしていない(女性/70 代)
- ・ 仕事をしていない(男性/70 代)
- ・ 仕事をしていない(男性/80 代以上)
- ・ 仕事をしていない(女性/60 代)
- ・ 仕事をしていない(男性/80 代以上)
- ・ 仕事をしていない(女性/60 代)
- ・ 仕事をしている時はできていなかった。(女性/60 代)
- ・ 専業主婦(女性/60 代)
- ・ 高令のため退職している(男性/80 代以上)
- ・ 定年(男性/80 代以上)
- ・ 定年になっているのでわからない(女性/70 代)
- ・ 働いていない(女性/60 代)
- ・ 働いていないので答えられません(女性/70 代)
- ・ 別にワークワークでも良いし、個人の自由。家族がいるなら、家族で話し合うどちらかが仕事中心でもかまわない。(女性/30 代)
- ・ 無職(女性/80 代以上)
- ・ 無職である(女性/30 代)
- ・ 無職なので答えられない(女性/60 代)
- ・ 現在は無職(無就労)(男性/70 代)

問14-2ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思うか

- ・（育事、介が無い人も含め）全ての人が平等にワークライフバランスを実現できる人的支援、業務効率化。（女性/50代）
- ・1人に任せられる仕事は独身の私は多すぎる結婚しているから子供がいるからで優遇されるのも違うと思う（女性/40代）
- ・3について、退職しなくても良い環境作り（男性/60代）
- ・余りわからない（女性/80代以上）
- ・今のままで良い（男性/60代）
- ・休業時の収入源の確保、育児・介護に当たることへのインセンティブ。（男性/50代）
- ・給与水準を倍にする!!最低賃金のup↑現に豪州は実現している!!（男性/60代）
- ・経済的に安定した生活環境（インフレ、物価等）（男性/50代）
- ・個人の所得（給料）が上がらない限り、どんな対策をしても無理です。（女性/50代）
- ・自営業、フリーランスへの制度の充実（女性/30代）
- ・実質賃金の向上（給料の向上か税金の削減）（男性/20代）
- ・自分や子どもが病気になった時に休暇が取りやすいといい（女性/50代）
- ・職場からの急な呼び出しを減らす。休みは休みとして全うできる働き方。（女性/40代）
- ・職場の人員体制を充実するための法律が必要例）残業させない為、業務量に対して必要な人員数を定める（男性/40代）
- ・人員・人材不足の解消（男性/40代）
- ・生活不安（経済的）の解消（男性/50代）
- ・そもそも正社員8時間×5日間労働って長すぎると思いませんか…法改正してほしい…それに通勤時間…（女性/20代）
- ・男性の方が収入が得られる社会の改善。（女性/40代）
- ・賃金体系の改善（パート、派遣、正規などの差別）（男性/60代）
- ・賃金の上昇（女性/30代）
- ・なるべく早く女性が職場へ戻れるように、という動きだけを進めるのをやめて欲しい。戻りたい人が戻れるのは素敵ですが、私はもっと子どもと過ごしたいです。男女ともに会社と期間調整した上で好きなだけ休めるようになって欲しい。（女性/30代）
- ・日本独特のサービス精神を改める事（男性/50代）
- ・パートの扶養内の103万円の壁をなんとかして欲しい。扶養内の金額を上げて欲しい。（女性/40代）
- ・働く気がないのでわからない（不明/30代）
- ・働くことに対する熱意を作ること。（男性/50代）
- ・働くスキルを強化して、コントロールできるようにする（男性/40代）
- ・働く人自身の意識の持ち方（男性/30代）
- ・1人1人がバランスを取る。（男性/30代）
- ・ブラック企業の監視と是正の強化により、従業員がストレスなく働ける環境づくりが重要。（男性/40代）
- ・フレックスタイムなど勤務時間を柔軟に決められること（男性/30代）
- ・法を強化具体化して行く事。それに対し会社へ金を与える事！（男性/60代）
- ・もっとゆとりに働ける環境が必要。役所の方も一度、海外で研修など、働いてみるとよいと思う。どうして子育て中の女性が働けるかわかるはずですよ。日本では無理ですよ。（女性/40代）
- ・わからない（男性/10代）
- ・わからない（女性/40代）
- ・わかりません（不明/80代以上）
- ・私の周りではすでに行われていると思います。夫婦共稼ぎが当たり前になり、会社依存型から脱しているように思います。（男性/60代）
- ・市長のパワハラを先に（男性/60代）
- ・別にワークワークでも良いし、個人の自由。家族がいるなら、家族で話し合うどちらかが仕事中心でもかまわない。（女性/30代）

問17男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うこと

- ・50歳以上の理解と協力（女性/30代）
- ・親の世代、義父母の考えも変える（女性/40代）
- ・学生の内から、あたり前に協力し合い行うべきこととして、意識づけられるよう精神学を学ぶべき。（女性/40代）
- ・家事をすること、できる人に対する敬意を夫婦間で持つ、当たり前だと思わないこと。（男性/30代）
- ・給料が上がらない限り休暇を取って、家事・育児・介護をするのは無理です。（女性/50代）
- ・経済的支援（男性/50代）
- ・経済をよくしろ（男性/20代）
- ・高齢化の抑制。（男性/40代）
- ・子供の頃から家事に男性が参加する環境が必要で、それをみて育てているから親になって、自然に出来る様になると思われる。そのような学校生活、家で体験をする必要がある。（女性/70代）
- ・コミュニケーション（他人、知り合いとの）。家事についての知識を色々知ってもらう必要（女性/40代）
- ・女性も家計の維持を担う意識を持つこと（男性/40代）
- ・男女の稼げる額の差をなくす。男性の方が収入が得られるとなるから、男性が家事を女性に当り前に任せる（女性/40代）
- ・男性が家事・育児・介護に関わる時点でただ資格を取れば良いとかではなく、女性にも言える事だとは思いますが自身の

性格などを総合的に適合するかを判断できるように、辛い仕事の内容を知っておく事が必要だと思います。(女性/60代) ・小さいうち子どもの頃から教育で、男女関係なく、家事、育児、介護は平等に行うものであるという事を学んでいてほしい。大人になってから意識を変えるのは、難しいので…。(女性/20代) ・配偶者への思いやりの中でそれぞれ役割分担決めていくべきもの(男性/70代) ・人手不足の解消(男性/40代) ・1人1人がバランスを取る。(男性/30代) ・不要(男性/40代) ・法の強化(男性/60代) ・本人の考え次第だと思う(男性/60代) ・本人のやる気(男性/60代) ・本人のやる気(男性/10代) ・やる気の問題(男性/60代) ・わからない(女性/80代以上) ・わからない(男性/10代) ・わからない(不明/80代以上) ・本人の好きにすればいい(男性/40代)
--

問18新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたの生活や行動に変化はあったか
・1人暮らしの姉が認知症になった。(女性/70代) ・2022年5月に会社をクビになった。(男性/30代) ・一時的に働き方が少し変わった。(女性/40代) ・色々(男性/10代) ・外出が少なくなった(男性/70代) ・外出が減った(女性/70代) ・外出しなくなった(女性/70代) ・外出しなくなった。(女性/80代以上) ・買い物等が必要最少限になった。←病院含む(男性/70代) ・学生生活が大きく変わった。(男性/10代) ・学校生活が変わった(男性/10代) ・学校生活が変わった(女性/10代) ・学校生活が変わった(女性/10代) ・こどもや孫達との交流が少なくなった(女性/70代) ・最初は変った。(女性/60代) ・仕事が見つからなかったり、人とのコミュニケーションをとりづらくなったようだ。(女性/40代) ・実家との行き来が減った(男性/50代) ・社会への対応、付き合い方が大きく変化(男性/70代) ・政治に興味が出た。(不明/不明) ・外に出られず残念でした(女性/70代) ・他人との接触が減った(男性/80代以上) ・友達と会う機会が減った。(女性/40代) ・マスク生活(女性/20代) ・周りとの距離感が変わった(男性/10代)

問19新型コロナウイルス感染症拡大による在宅勤務などのテレワークはワーク・ライフ・バランスにとって意義があることだと思うか
・1+4(男性/50代) ・81才、79才夫婦なのでテレワーク等には関係ない。(女性/70代) ・家庭環境・事情に合わせて対応していくべきだと思う(女性/20代) ・共同、共通意識・行動をすることが良い(男性/60代) ・個々の性格に合わせる。人によっては、外に出た方が気晴らしになる(女性/50代) ・個人が選択できる環境が良い。(女性/40代) ・コロナにより、人それぞれの考え方がわかり、自分と合う人がわかった。(女性/60代) ・在宅勤務が出来る仕事をしていない(その他/50代) ・仕事内容上テレワークは不可能なので上記のものに該当しない(女性/50代) ・好きな働き方を選択できるようにすべき(男性/20代) ・選択肢の1つとして取り入れられるといい(女性/40代) ・対価が少なくなり、仕事の良い面のムダがなくなり、変に効率的になっている(男性/40代) ・退職し無職なので特に何も感じない(男性/80代以上) ・知人でノイローゼになり、通院している人がいる。(女性/60代) ・通学の時間が減り、好きなことができる時間が増えるので意義がある。(男性/10代) ・通勤時間短縮にもなるので定着してほしい電車が多少は空くので、要出社の人にもプラスになると思う(女性/30代)

- ・ 定年後、仕事をしていないので答えられない。(男性/70 代)
- ・ テレワーク時間を育児・家事時間と見なすのは宜しくない。仕事には集中させろ。家族との時間が増えるという計算には、あくまで通勤時間分などだけにして。(女性/30 代)
- ・ テレワーク等についてはまさに社会のステータスの高い人が圧倒的に多い。その環境にいない人の方が多いことを認識しないとイケない。(男性/70 代)
- ・ テレワークは一部の事務系の職場では有利。実際に物を生産する現場、工場のラインでは不可。実際に現場で対面によって見えてくるもの、それを必要とする職種もあり全てが有意義とは思えない。(男性/60 代)
- ・ テレワークは仕事を選ぶ、かつ効率が悪い、人間関係が欠落する(男性/60 代)
- ・ テレワークは続けたい一方、家事増加ストレスもある(女性/50 代)
- ・ テレワークをしたくない人は会社でも働ける、という選択ができると良いと思う(女性/40 代)
- ・ 人によって負担になる人とよい人がいるので選択できると良い(女性/50 代)
- ・ フレックスタイム制を実施したほうがよい(その他/20 代)
- ・ 皆が在宅勤務の職種ではない。(女性/60 代)
- ・ 無駄な仕事を減らした方がよいが、対面での活動は必要である(男性/50 代)
- ・ 料理するのが面倒になって惣菜で済ませる事が多くなった。(物価高のため)(女性/70 代)
- ・ 在宅勤務と言って仕事をさぼる人が増えているので意義があると思えない。(女性/40 代)
- ・ 本人の好きにすればいい(男性/40 代)

問20学校教育の場で男女平等意識の推進を図るためには、どのようなことが重要であると思うか

- ・ 「男はこういうもの」「女はこういうもの」という話し方をやめる(男性/30 代)
- ・ 今は、男女とかかかげる事か？(女性/60 代)
- ・ 学校では指導されている。もっと上の年代へ力を入れるべき(女性/10 代)
- ・ 考えた事がない(男性/10 代)
- ・ 教育は平等であるべきと思いますが体力的なことは平等ではないと思います。(女性/50 代)
- ・ 教師の労働環境のホワイト化による男女教師の平等化(男性/40 代)
- ・ 現状の教育の場はよくできていると思うので、今の学生の意識は高い様だ。(女性/40 代)
- ・ 個人の気持ち優先が大事。(女性/50 代)
- ・ 子供・学校が最も良く平等を達成できている。古い人がNG(男性/40 代)
- ・ 子供にマスクさせるな!!(その他/80 代以上)
- ・ 根本的に体のつくりが男女違うので平等である必要はない。少なからず差別はあるもの。そもそも男女と言っている時点でジェンダーレスの考えを差別しているのでは？(男性/40 代)
- ・ 災害の時(女性/60 代)
- ・ 市長のパワハラが先(男性/60 代)
- ・ 性教育についてもっと詳しく教え互いの体について理解することが必要、考えも含め。(その他/20 代)
- ・ 性差というものは必ずあるので、男女平等よりそちらを教えるべき。(不明/不明)
- ・ 制服をもっと自由にしてあげた方がいいと思う。自分もそれで苦しんだので(その他/20 代)
- ・ そもそも男女で分ける必要はない。制服もいらない。(男用、女用とか)(女性/40 代)
- ・ そもそも平等は難しいかも、性別も異なる。特徴を伸ばす事が必要。(男性/40 代)
- ・ 男女権利の平等と男女役割の分担の教育と互いの性の(役割)尊重する教育が必要(男性/40 代)
- ・ 男女は、役割が違うと考えているので、すべて平等というのは無理？(女性/60 代)
- ・ 男女は基本的に平等であるべき、女性の役割男性の役割、性差ありと認めて平等だと思う。(男性/70 代)
- ・ 男女平等は、理解している人が多いと感じるため、特別なことはしなくていいと思う(男性/10 代)
- ・ 男女平等でなくてもいい(女性/60 代)
- ・ 特に 7 が重要、次に 6 が必要(男性/70 代)
- ・ 必要なし(男性/30 代)
- ・ 必要なかどうかを含めて分からない(男性/60 代)
- ・ 平等は全て同じ事をする訳ではない。区別する所と平等を正しく分ける事が必要(男性/50 代)
- ・ 平等を意識しすぎて生きづらくなるので、やりすぎは良くない。(男性/30 代)
- ・ レイプされた時などに女だけの判断で子どもをおろすことができることの教育が必要。肉体的に発生する、弱い立場を乗り越える知識は教育するべき。(女性/30 代)
- ・ わからない(女性/80 代以上)
- ・ わからない(女性/80 代以上)
- ・ わからない(女性/40 代)
- ・ 本人の好きにすればいい(男性/40 代)

問22女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なことについて

- ・ あらゆる局面における男女比の一定化(男性/40 代)
- ・ 育児支援、環境整備(女性/40 代)
- ・ 一定の割合とか気にせず女性も登用する(女性/40 代)
- ・ 過度の期待や仕事量、事務量、拘束時間を減らすことが必要(男性/50 代)
- ・ 強制力を持つ 5 は絶対にすべきではない(男性/50 代)

- ・ 現行の異常さの洗い出し(女性/40 代)
- ・ 裁量での採用(男性/20 代)
- ・ 市長のパワハラが先(男性/60 代)
- ・ 女性が増えすぎても、いらない見栄や嫉妬でまともならない場も多いので、能力と実力、人間性が重要だと思う。(女性/40 代)
- ・ 女性だからと言う理由ではなく適任かどうか重要(男性/40 代)
- ・ 女性用スペースの拡充(職場の)仮泊所や更衣室等。(男性/20 代)
- ・ 性差関係なく、能力のある者が指導的地位に立てる様に、組織だけではなく社会全体の意識を変えなければダメ(女性/30 代)
- ・ 性別云々でなく、能力がある人が上に立つ事が好ましい。(男性/40 代)
- ・ 性別ではなく、本人の能力、実力によるべき。(男性/50 代)
- ・ 男女別ではなく優秀な人がなれば良い(男性/60 代)
- ・ 男性の女性軽視の解消(女性/40 代)
- ・ 適材適所であり、その役職で必要な事を指導する必要あり(男性/40 代)
- ・ なぜ女性の指導的地位に占める割合を増やす必要があるのか分からない。(男性/10 代)
- ・ なりたい人はやれば良い(女性/40 代)
- ・ 能力ないのに女だから…は無意味(女性/40 代)
- ・ 能力に元づいて専任されるので男女は…。(男性/40 代)
- ・ 能力のある人を選べばいいのでこだわらない。(男性/40 代)
- ・ 必要なし(男性/30 代)
- ・ 本人が努力してもらえるもの、周りがどうこうではなく本人次第(男性/40 代)
- ・ 本人によるやる気など(男性/50 代)
- ・ 本人の自由(男性/40 代)
- ・ 本人の責任感(男性/60 代)
- ・ 面倒くさいタイプのお局様ではなく、男女の違いを理解出来ている人を上に立てる。(男性/20 代)
- ・ 役職等に就任したい女性がそもそも少ない印象。ただ増やすのもどうか(男性/30 代)
- ・ 役職に就いたからといって過度に仕事量が増えない環境づくり。(女性/20 代)
- ・ 役職に就いた女性が、家庭と両立できるようにする職場の働き方改革(男性/30 代)
- ・ 役職のメリットを増やす女性管理職に抵抗しない部下の教育(男性/30 代)
- ・ わざわざ増やす必要はない。やりたい人が自然にやれば良い(男性/40 代)
- ・ 割合を増やすことが必要かわからない(男性/40 代)

問24-1DVを受けたことがある	したことがある
・ 当たられる、ちょっとしたことで怒られる(女性/40代) ・ 嘘をつく、だます等の精神的暴力(女性/60代) ・ 家事・育児について不満を言う。(女性/40代) ・ 家事を手伝うなら同じだけ稼げ(女性/60代) ・ 体をゆさぶられる(女性/40代) ・ 気分が落ち込んだ時、理解してくれない(女性/70代) ・ けんかで、声が大きくなる(女性/40代) ・ 言葉の暴力(女性/50代) ・ 子供を作らないなら結婚なんかするなと言われた(女性/50代) ・ 人格否定?(女性/60代) ・ 人権侵害(女性/30代) ・ 昔のはなし(不明/30代) ・ 物に当たり壊す、暴走運転(女性/20代) ・ モラハラ(男性/40代) ・ やきもち(女性/70代) ・ 嫁と主人では、立場が違うという(女性/50代)	・ 家事・育児について不満を言う。(女性/40代) ・ 気分が落ち込んだ時、理解してくれない(女性/70代) ・ けんかで、声が大きくなる(女性/40代) ・ 言葉の暴力(女性/50代) ・ 人権侵害(女性/30代) ・ 昔のはなし(不明/30代) ・ 物に当たり壊す、暴走運転(女性/20代) ・ やきもち(女性/70代)

問24-1実際に、どこ(誰)に相談したか
・ 教師(男性/10代) ・ 昔のはなしですが(今の配偶者ではない)(不明/30代)

問27性的マイノリティの方が日常生活で直面している困難や課題には、どのようなものがあると思うか
・ LGBTであることを隠すストレスかな?(男性/60代) ・ LGBTを「特別なもの」「理解出来ないもの」と思われ遠ざけられたりしていること(女性/30代) ・ あらゆるものに性別の記入(女性/40代) ・ 今は少し社会の理解があると思います(女性/60代) ・ 少数派であるために勝てない多数決方式の意志決定。(男性/20代) ・ 書類、アプリなどその他日常的に男女どちらかの性別を答えなくてはいけない場面が多い(その他/20代) ・ 性的マイノリティが分からない(女性/10代) ・ 制服、女らしくしなさいとか。男の子がピンク好きとか人形好きとかを恥しいという考え(女性/40代) ・ そもそも性的マイノリティという言葉を知らないということ(女性/20代) ・ トイレが一番気まずい(その他/20代) ・ 当事者による差別反対運動などによってかえって一般社会に先入観や苦手意識を植えつけていること。(女性/20代) ・ 同性婚ができない(男性/40代) ・ 気にしすぎ(不明/30代) ・ 名前の変更など法律関係(女性/50代) ・ 日用品の化学物質が奇形の原因!!(その他/80代以上) ・ 配慮されすぎによる差別や孤立、偏見(女性/10代) ・ 周りにいないので、わからない(男性/70代) ・ 身近にそのような方が居ないので分からない、又は分かりにくい(女性/70代) ・ 昔に比べたら理解できる人も増えたと思う(女性/50代) ・ わからない(女性/80代以上) ・ わからない(女性/80代以上) ・ わからない(男性/40代) ・ わからない(女性/70代) ・ わからない(不明/80代以上) ・ わからない(男性/40代) ・ わからない(男性/70代) ・ わからない(女性/60代) ・ 分からない(女性/50代) ・ 分らない(男性/60代) ・ わからないよ(男性/10代)

問28性的マイノリティの方に対する差別や偏見をなくし、生活しやすい社会にするための取り組みとして、あなたの考えに近いもの
・ 身近にそのような方が居ないので分からない、又は分かりにくい(女性/70代) ・ 4には特に反対。7も性別欄は残すべきで、その上で考えた方がよい。(不明/不明) ・ おかま、レズ、どれも個性と教える。(女性/40代) ・ 学校こそ一番に取り組みしなければならない所だと思う(更衣室、お手洗いなど(女性/60代)

- ・干渉しすぎることをせず当たり前の世の中にしていく(女性/20代)
- ・気にしすぎ、他人に過干渉しすぎる個性を大事にすること(男性/40代)
- ・基本的人権を尊重しているのだから、すべての人権が守られなければならない。(男性/70代)
- ・教員や、政治家等、地位のある者が未だ差別の言動をしてゆるされている事がおかしい。その役職に不適切な人物として解任される制度があるべき。(女性/40代)
- ・国の法制度の整備と教育現場での指導(男性/70代)
- ・現在はまだ進んでいないと思うが諸々に理解出来る様になると思う。(女性/70代)
- ・個人の理解?!(女性/50代)
- ・子どもだけでなく大人も性の多様性について理解をし、偏見、差別を無くす(その他/20代)
- ・差別や偏見をなくすと表現している事がすでに差別だと思うので、この質問がおかしいと思う(女性/30代)
- ・市長のパワハラを先に(男性/60代)
- ・性的マイノリティという言葉がすでに差別的。個人の主観や感じ方が違うだけなのに、特別視するから、差別になる。トイレや、性別欄など、配慮は必要だが、性別ととらえるより人間としてとらえる社会にならないと何も変わらない。(女性/40代)
- ・性的マイノリティと区分することをそもそもやめる(男性/30代)
- ・性別での区別を一切なくした社会にしていく(女性/20代)
- ・生理的に無理。(男性/50代)
- ・そっとしておく(男性/40代)
- ・そもそも、マイノリティに対して否定的な考えになりがちなことを冷静に考えられるような教育多数派が正義ではない。(女性/30代)
- ・他人のプライバシーに踏み込むことはマナー違反であるという健全な常識を持つこと(男性/40代)
- ・同性婚を可能にする(男性/40代)
- ・同性婚を認める(男性/20代)
- ・同性婚を認める。(男性/10代)
- ・なれていないのでとまどってしまいそう!(女性/70代)
- ・法的な権利の拡充/安心して医療へのアクセスができる環境(女性/30代)
- ・放っておく(不明/30代)
- ・まわりにいないので、わからない(男性/70代)
- ・まわりの人が理解し、普通に接することが一番だと思う(女性/50代)
- ・理解・教育は必要だが、どこまで理解すればと思うこともある。私も1人の人間、理解しながらもできないこともある。とても難しい…。(女性/40代)
- ・わからない(女性/80代以上)
- ・わからない(女性/80代以上)
- ・わからない(女性/80代以上)
- ・わからない(女性/70代)
- ・わからない(不明/80代以上)
- ・わからない(男性/70代)
- ・分からない(女性/50代)
- ・わからないことだらけかも(女性/40代)
- ・石油系化学物質入りの日用品の販売禁止!!(その他/80代以上)
- ・他人と関わらない。極力な。(男性/20代)

問29防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために必要なことについて

- ・たいへん重要なポイント有り(男性/70代)
- ・自治会等のレベルではすでに女性が参加している気もする。(男性/60代)
- ・消防など体が大切なのは、男の人が行う。(男性/20代)
- ・男女平等、女性の優遇をやめる(男性/40代)
- ・男女平等ですからね(男性/40代)
- ・男性、女性の長所をそれぞれ生かす様にすべき。平等である必要は無いのでは?(男性/50代)
- ・だんだん年を重ねてくると出掛けて行き行動をとともにすることが大変な事がわかりました(女性/70代)
- ・適材適所が男女の登用に必要(女性/40代)
- ・人任せが一番駄目。(女性/50代)
- ・防災訓練は主に自治会活動の主体的役割になっているが、自治会の退会が現状多くなっていると聞く。自治会運営の問題多くの今後発生する問題大。(男性/70代)
- ・まさに災害時は男女の役割が明確に違う時だと思う(男性/40代)
- ・わからない(男性/40代)
- ・わからない(不明/80代以上)
- ・わからない(女性/40代)

問30災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて

- ・たいへん重要なポイント有り(男性/70代)
- ・いざとなれば、多くの人々は、自然と助け合うと思う!(男性/60代)

・ おまつりなどのイベントがあるとよいのでは。(女性/60代) ・ 会合や集会に参加したいと思うが体が不自由で家にこもりがちになる。(男性/80代以上) ・ 教育(男性/20代) ・ 結局防災訓練等は参加する人が限られている。学区や、企業、商業施設等を巻き込み、地域コミュニティとしての意識を持つ人口を増やす。(女性/40代) ・ 子供も大人もマスクをしていると表情が分からない。マスク外せ!!話はそれからです。(その他/80代以上) ・ 災害時、助けが必要になることを事前にわかる仕組み?この家、施設に手が足りない、という情報がわからないので。(女性/30代) ・ 自己中心にならないこと(男性/40代) ・ 時代に合わせたスタイルの確立が必要(女性/40代) ・ 自治会を解散させないよう国行政等仕事を国民が納得するよう実行せよ。国会議員・地方行政議員の定員減・報酬の大幅減(男性/70代) ・ 自治体・地元企業の協力(女性/20代) ・ 情報発進(男性/20代) ・ 知らない(男性/10代) ・ 体育館に畳がひけるように準備する。毛布などを用意(女性/50代) ・ 問13 回答6の様に、地域社会活動参加で取る休暇が申請しやすくなっていないと、「会社を休んでまで取り組むことではない」→「専業主婦の人に任せっぱなし」という流れになり、いざという時に困るかもしれない。専業主婦も減っていると思うので、地域社会を良くするための集会などで長い時間を設定するのは望ましいことではない。(女性/40代) ・ 日頃から、自治会等で出来る事からの訓練が必要と考える。(女性/60代) ・ 日頃から感謝の気持ちを持ち、それを人に伝えること(男性/30代) ・ 問題点を精査する事が必要(女性/60代) ・ わからない(不明/80代以上) ・ わからない(女性/40代) ・ 分からない(女性/50代) ・ わからない。自治会など関わりたくない。仕事で忙しい。そういう人もいると思う。(女性/40代) ・ わからない。そもそも、近くにどんな人が住んでいるか知らないし、助け合いをするビジョンが見えない。(女性/30代)

問32性別にとらわれず、だれもが、様々な場面で個性と能力を発揮することのできる社会を実現するために、あなたができると思うこと
・ 育児・介護の必要な人には休暇を、その人達のために働いている人に保障を(給与面等)(男性/40代) ・ 個性と能力が発揮できないことを性別のせいにしすぎない(男性/40代) ・ 退職し、高令となった今、各種集会や会合に参加することが出来ない。腰痛、歩行困難、等(男性/80代以上) ・ 他人(男女問わず)を理解する心をもつ(男性/20代) ・ 必要なし(男性/30代) ・ 無敵の人になれ。自己肯定感高める。日本人に納まるな(男性/20代) ・ 余裕のある生活を実現する(男性/30代) ・ ルールづくりや、法の整備(男性/60代) ・ ロクに仕事してない市議会議員の全辞職!!ゴミの出し方も知らない!!(その他/80代以上) ・ わからない(女性/80代以上) ・ わからない(女性/40代) ・ 分からない(女性/50代) ・ 今ある弊害(差別や性犯罪を自覚していない人)は排除すべき(女性/40代)

F1性別
・ Ally アライ(その他/20代) ・ 答えたくありません(その他/10代) ・ 真ん中(その他/20代) ・ わからない(その他/10代)

F3職業
・ B 型就労支援(女性/50 代) ・ 医療(女性/50 代) ・ 会社員(男性/60 代) ・ 会社員育休中(女性/40 代) ・ 看護師(女性/70 代) ・ 業務委託(女性/20 代) ・ 警備業(男性/40 代) ・ 建設業(男性/30 代) ・ 建築業(男性/60 代) ・ 個人事業(女性/40 代) ・ 個人事業主(男性/70 代) ・ 個人事業主、web 関係(女性/20 代) ・ 自営業(女性/40 代) ・ 自営業(女性/70 代) ・ 自営業(男性/30 代) ・ シルバー人材センター植木職人(男性/70 代) ・ 接客、サービス(その他/20 代) ・ 専従者(女性/30 代) ・ 年金生活(男性/80 代以上) ・ はじまったばかり(女性/30 代) ・ 不動産貸付個人事業主(女性/50 代) ・ 放課後デイサービス職員(男性/20 代) ・ 無職(男性/70 代) ・ リタイア(男性/70 代)

F5現在のあなたの世帯状況
・ おいと同居(男性/70 代) ・ 夫が単身赴任で子どもと暮らしています(女性/50 代) ・ 男孫と 2 人暮らし(男性/80 代以上) ・ 世帯主・子・孫(女性/50 代) ・ 同棲(女性/20 代) ・ 同棲(男性/40 代) ・ 同棲(男性/20 代) ・ 同棲(男性/20 代) ・ 同棲(男性/30 代) ・ 同棲中(女性/20 代) ・ 二世代世帯母を家で看護している(女性/60 代) ・ パートナーと同棲(女性/40 代) ・ パートナーと同棲(女性/20 代) ・ 一人暮らし(女性/80 代以上) ・ 私と孫(女性/70 代)

・171名の方から289件のご意見をいただきました。(1人が複数の項目に意見している場合は再掲で記載)

男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(FA)		
分類	意見項目	意見
男女平等に関する意識について (70件)	男女ではなく「個」を尊重すべき (16件)	・ 男だからとか、女だからとかではなく、能力の高い方を選ぶべきだと思います。(男性/20代) ・ 男はこう、女はこうであれという考えをやめてほしい。特に考えの古い方はそういうことを平気で言うので。時代は変わるし、生きている人も生活もかわるので自分たちの当たり前が皆に当てはまることを前提に話されたりするのがとても悲しいです。(その他/20代) ・ 女性が活躍できる機会が増えることは良いと思うが、無理に女性を取り入れようとする(女性枠を作る等)逆に差別になると思うので、性別に関係なくやる気や実力のある人が活躍できる社会になって欲しい。(女性/30代) ・ 女性を強制的に参加させる、枠を設けるのではなく、個人個人が考え、参加できる機会を作る事が重要。又、利益を受ける立場の人(性別)は「優位である事は不平等」との声は上がらないので注意が必要である。(男性/50代) ・ 性的マイノリティという人たちの存在が社会的に認識されるようになり、「男女参画」という文言に時代のずれを感じます。すべての人が、人としてしあわせに、自立して生きていくためにはどうしたらいいかが課題だと思います。(女性/60代) ・ 性別や性的指向に関わらず、1人1人が、自分の好きなように生きれる社会が重要であり、男女共同参画といったことさらに性差を強調するところみは、時代に逆行している。(男性/40代) ・ そもそも男女と使うことが減っていけばいいのでは。(女性/40代) ・ 男女、及び年齢を問わず経験、知識の豊富な人がもっと活躍出来る社会の仕組みを構築する事が望ましい!! (男性/70代) ・ 男女同じに能力を発揮して活躍できる社会をめざす意識は、教育の中で十分に子どもたちの中には定着していると思う。それが、就職の時点でうちくたかれることは、今も続いているのかもしれないと感じることがある。大学生は皆、ホワイト企業、プラチナ企業と呼ばれる、女性が産、育休を取りやすい会社に入りたがっているものの、まだその数は少ないらしい。(女性/40代) ・ 男女が平等であることが真に正しい事ですか?性別にこだわりすぎでは?個々人の長所を生かせる社会に生まれ変わると良いですね。(男性/50代) ・ 平等とは何か?何が平等か?何をもって平等と呼ぶのか?何を目指しているのか?男性・女性の違いだけでなく、個々個人がそれぞれ違いがあるのに、平等は?不可能な議論は不要。平等を求めることが、かえって差別を産む。平等を求めるのではなく、個人を尊重、互いを理解し合える、思いやりのある社会を目指していただきたい(男性/40代) ・ 物理的に決まっている身体の性と、個人の認識により異なる見解が生まれる内面の性や役割り、あり方について一括りにして考えている限り実現しない。この2つは分けて考えるべき別の問題。性を基準にカテゴライズした平等のあり方は古い慣習などの差別や偏見、人権侵害から抜け出せていない。身体の性を要因とした出産・育児、トイレなどに対しての設備・制度を整えることに加え、内面の性の平等や人権保護の為、カテゴライズしない個人の尊重を進めていくことが男女共同参画への近道だと考える。(女性/20代) ・ 平等にしようとする意識は大切だと思う。ただ人命救助の現場(肉体的に体力が必要となるような)等では男性が多いと思う。適材適所という考えや、現場の要求も無視することはできないと思う。なんでも平等にしようとするのが、逆に無理な要求をすることにならないよう配慮することも必要だ。(男性/40代) ・ 平等を目指すあまり、男女を意識しすぎるのではなく、それぞれが個々として、自身の得意な部分を活かせば良いですね。(女性/30代) ・ 個人を尊重することは大事ですが、それは性別だけの話ではないと思います。議論はまだすべきだと思いますし、実行を検討するさいはきちんと市民の同意を得ていただきたいです。(不明/不明) ・ 幼い頃から「女性らしく、楚楚としなさい」と言われ、女性は女性らしく、男性は男性らしく、との考えの中で生きてきたように思います。子供は女性しか産めませんが、育てていく事は男性と女性が共同出来る事です。そして女性の人生も男性の人生も子供を産み育てる事だけではありません。夢や希

		望を持ち、個、としての人生を豊かに送る事の方が大切で重要だと思います (女性/40代)
性差を認識し、相互理解役割分担補完することが重要 (10件)	・ 男と女の脳のメカニズムというか根本的に違うところがある。互いに認め合う事も必要。(女性/60代) ・ 学校の運動会など行事でのお手伝いしている親や、登校班の送りや旗振り等、とにかく女性ばかりでいつも憤りを感じます。そういう事態をもっと世の男性に知ってほしい。体力も力も女性の方が劣っていて、そこは男性にどうしても追いつけない部分なのに、体力、時間ともに多くを使っているのが女性、なのにDVなど受けるのは女性が多い、そういうことをもっと知ってほしいです。(女性/20代) ・ 性別が異なるということは、身体能力に差が生じる。男女平等というが、適当な仕事や場は発生する。(女性/40代) ・ 男尊女卑はダメですが、男女は平等ではないと思います。男女も老人も子供も公平なら賛同できますが、男性、女性役割が違うと思います。(女性/50代) ・ 男女はそれぞれ特性があるので、なんでもかんでも全て平等という風潮はどうかなと思う。(男性/60代) ・ 男女平等という考えを否定はしないが、性別による違いがある以上何か上手く共存すべく、色々な取り組みが必要。互いのメリット、デメリットを理解し合う事が大切だと思う。男は、子供が産めない。女は産める。体力にも違いがある。～以上～(男性/50代) ・ 男女平等は理想ですが、なんでもかんでも同じように、平等に・・・というのではなく、身体面での違いは考慮されるべきだと思います。(女性/70代) ・ 男性の”かっこいいところ”、女性の”優しいところ”、互いの”すてきなところ”を自由に認め合える自分になろうと思いました。(女性/30代) ・ 平等にしようとする意識は大切だと思う。ただ人命救助の現場(肉体的に体力が必要となるような)等では男性が多いと思う。適材適所という考えや、現場の要求も無視することはできないと思う。なんでも平等しようとするのが、逆に無理な要求をすることにならないよう配慮することもある必要だ。(男性/40代) ・ 男女共同とあっても、男性、女性、本質的に違うことがあるのに、無理に共にするのは?各人の性格で共同できる様にと考えます。(女性/70代)	
性差への固定観念、男女の役割観念がある (8件)	・ 一部だが、年配の方の方が、男女の役割観念へのこだわりが強い様に思われます。男女平等もそうだが、まずは、人としての教育に原点をもう一度おいた方が良くと思います。これからの高齢化社会にむけて、年配の方の活躍も視野に入れなくては日本の運営は難しくなると思います。(女性/50代) ・ 男はこう、女はこうであれという考えをやめてほしい。特に考えの古い方はそういうことを平気で言うので。時代は変わるし、生きている人も生活も変わるので自分たちの当たり前が皆にあってはまることを前提に話されたりするのがとても悲しいです。(その他/20代) ・ 昭和世代の頭でっかちさんの意識をなんとかしないとダメかも知れないですね。(女性/50代) ・ 本当はやりたいことがあるのに、自身や社会の性差に対する固定観念等で諦めざるを得ないという状況を解消することが良い形ではないでしょうか。(男性/30代) ・ 歳が上の方の人だと、男女平等について理解していても、根本的にすりこまれている男尊女卑のような発言を聞く事が多いので、たまに話すのが苦痛。そういった人達に、もっと理解してもらえる様な取り組みがあるといいなと思った。(女性/20代) ・ 能力のある女性はたくさんいるにも関わらず上層部などで活躍できないのは残念なことだと思う。やはり女性は家事を担うものとして長年の固定観念があったり制度や理解が十分でないためと考える。年齢が少し上の世代の方たちは(上層部に多い?)今の時代に於いて柔軟な思考や視点を持った方が良い。(女性/20代) ・ 物理的に決まっている身体の性と、個人の認識により異なる見解が生まれる内面の性や役割、あり方についてを一括りにして考えている限り実現しない。この2つは分けて考えるべき別の問題。性を基準にカテゴライズした平等のあり方は古い慣習などの差別や偏見、人権侵害から抜け出せていない。(女性/20代)	

		・ 私個人の意見として、男女平等は難しいものであり、意識しすぎる必要もないことだと思っています。ただ、「男はこうあるべき、女はこうあるべき」という固定概念は、それにより苦しむ人もいるため、そういった考えが改められつつあることは良いことだとも思います。(女性/30代)
	LGBTへの理解 (8件)	・ 自分は体は女性として産まれてしまいましたが、男性として生きています。「女性はこちらです。」等と分けられるときがあるとあー。となります。少しでも僕のような人間もいるのだと。頭のどこかに入れていただけると幸いです。年々増えているので、今学生生活すごしている子とかで同じ悩みをもつ子が少しでも生きやすいようにしてあげて下さい。(その他/20代) ・ 性教育が必要であると思います。ジェンダーについてはもちろん、性行為についての正しい知識等も教える場を準備するべきと考えています。(女性/10代) ・ 性的マイノリティという人たちの存在が社会的に認識されるようになり、「男女参画」という文言に時代のずれを感じます。すべての人が、人としてしあわせに、自立して生きていくためにはどうしたらいいかが課題だと思います。(女性/60代) ・ LGBTQは差別は良くないけれども、なんでもかんでも配慮するのは違うと思います。やりたいなら勝手にどうぞ、押し付けないでいただきたい。と思います。(女性/50代) ・ 男女の制服は、性別をこえて自由に選択できるようにした方がよい。(女性/50代) ・ トランスジェンダーの方を認めること(受け入れる)同性愛を受け入れること(女性/50代) ・ 日本は性的マイノリティに関する知識と性教育が遅れていると思う。親の世代、自分達の世代は考え方が古い。そんな親が育てている今の子どもも、教育がしきれていない。もっと、オープンな、男女平等、ジェンダーも含め、古い考えを改める教育をしていった方が良いと思う。(女性/40代) ・ 物理的に決まっている身体の性と、個人の認識により異なる見解が生まれる内面の性や役割、あり方についてを一括りにして考えている限り実現しない。この2つは分けて考えるべき別の問題。性を基準にカテゴライズした平等のあり方は古い慣習などの差別や偏見、人権侵害から抜け出せていない。(女性/20代)
	男女平等の押しつけはよくない (5件)	・ そもそも、この調査票では、男女平等、LGBTQを受け入れなければいけないような前提の感じにとても違和感がありました。男尊女卑はダメですが、男女は平等ではないと思います。男女も老人も子供も公平なら賛同できますが、男性、女性役割が違うと思います。(女性/50代) ・ 平等とは何か?何が平等か?何ををもって平等と呼ぶのか?何を目標しているのか?男性・女性の違いだけでなく、個々個人がそれぞれ違いがあるのに、平等は?不可能な議論は不要。平等を求めることが、かえって差別を産む。平等を求めるのではなく、個人を尊重、互いを理解し合える、思いやりのある社会を目指していただきたい(男性/40代) ・ 無理に同じにしないでよいと思う(不明/30代) ・ 私個人の意見として、男女平等は難しいものであり、意識しすぎる必要もないことだと思っています。平等を目指すあまり、男女を意識しすぎるのではなく、それぞれが個々として、自身の得意な部分を活かせば良いですね。家庭間における役割も例え、どちらかにかたよっていたとしても本人たちが良いならそれで良いのかと思います。(女性/30代) ・ 生物学的には男と女2つしかないの、子供には必要以上に「男女平等」を押しつけるような事はしないでほしい。(不明/不明)
	女性優遇は平等でない (5件)	・ 女性が活躍できる機会が増えることは良いと思うが、無理に女性を取り入れようとする(女性枠を作る等)逆に差別になると思うので、性別に関係なくやる気や実力のある人が活躍できる社会になって欲しい。(女性/30代) ・ 女性が強くなっている印象です。逆に、男性はハラスメントを恐れているおかしな職場のイメージです。性別に関係なく仕事の量、質も平等に与えることが必要不可欠です。仕事が出来ない(やらない。)中で、女性の管理職昇進があれば、組織が崩れます。(男性/40代) ・ 男女共同参画、男女平等とうたいながら、現代は女性の優遇が多々みられます。本当の意味での男女平等にすべきです。この冊子の質問も、結局は女性優位にしようとしていると感じられます。(男性/40代) ・ 男女平等といいながら、女性に有利な法も多い。各個人の問題なので、各々好きに生きたら良いと思う(女性/40代)

		男女平等を謳っている割には、女性を優遇することばかりに目が行っているように思える。今の日本では、男性差別のほうが問題なのでそちらについても考えてほしい。(男性/30代)
男性、年配の人の意識改革が必 (4件)		- 自治会の廃止→高齢者の偏見、固定観念が強い為、働く女性への理解が得られていない。→地域との関わり減少している悪循環。(女性/30代) - シニア世代は凝り固まった考え方を和らげるような活動を投げかける(女性/70代) - 終戦後77年。戦前の男性中心社会から男女平等社会になり、女性の参政権も確立したが、まだまだ女性の社会参加への意識も低い。やはり、教育の場において、男女共同参画のすべてにおいての意識をきちんと高める必要があり、個人個人が自然に自覚できると思う。戦前教育された男性中心の人々がようやく、第一線から引退した、現在、遅すぎた位の平等教育をしてもらいたい。戦後すぐに生まれた私も、男性有意な発言の先生方が大勢いたし、社会の空気もそうであったし、ようやく女性が平等なスタートに立てる時代がやってきたと思うが女性自身の意識も低い。(女性/70代) - 能力のある女性がたくさんいるにも関わらず上層部などで活躍できないのは残念なことだと思う。やはり女性は家事を任うものとして長年の固定観念があったり、制度や理解が十分でないためと考える。年齢が少し上の世代の方たちは(上層部に多い?)今の時代に応じて柔軟な思考や視点を持った方が良い。(女性/20代)
意識改革が必要 (3件)		- 数合わせをすることには反対。意識改革の結果として女性の社会進出が進めば良いと思う。マイノリティーの方がいるのは理解できるが、多様すぎるため、法律等を対応させるのは困難ではないかと思う。(男性/60代) - 個人的な意見ではあるが、社会的問題のほとんどが、時間の余裕が無い、慣習となってしまっているかの2つによって起こっていると思う。ワークライフバランスを推すことはとても良いと思う。時間的占有のみならず、頭の中での優先度に注視するべきであると思う。時間の流れの中で一人一人が気付くしかない。柔軟な働き方を認める社会を作ることが最重要である。(男性/10代) - 日本は男女平等に関する意識が低く、世界と比べてとても遅れている。先進国と言われているが、考え方や視野が狭いのがとても残念。国内外からの情報をもっと取り入れるべきだと思う。(女性/40代)
同性婚を認める (3件)		- 同性婚を認める(男性/20代) - LGBTの問題は、同性婚を認めることが重要。(男性/40代) - パートナーシップ(できれば同性婚)は、現行の制度が良い人には何の影響もないと思うので、力を入れて欲しい。好きな人と結婚する権利が欲しい。(同性愛者なので)(女性/20代)
夫婦別姓を認める (2件)		- 夫婦別姓を認める。(男性/20代) - 選択性夫婦別姓は、現行の制度が良い人には何の影響もないと思うので、力を入れて欲しい。好きな人と結婚する権利が欲しい。(同性愛者なので)(女性/20代)
少子化を止め、若い世代が増えれば意識が変わる (2件)		- 少子化を喰い止め、若い世代、血が増えれば自ずと世の中の考えなども変わり、そもそもこうしたアンケートの必要性もなくなってゆくと思います。(男性/40代) - 女性の労働時間を増やすより出生率を上げるべき。(男性/40代)
男女ではなく適材適所で活躍できるとよい (2件)		- 男性も女性も仕事、家事、育児が自然に平等に参加できる社会の実現に向けて、他の市町村に先がけた改革を大和市から行ってほしいです。子供が熱を出した等、何かあった時、母親が早退し、迎えに行くのがあたり前では困ります。男女等ではなく、人が適任適所で活躍できる社会であるよう子供達が大きくなった時に変わっているよう実現してほしい。(女性/40代) - 平等にしようとする意識は大切だと思う。ただ人命救助の現場(肉体的に体力が必要となるような)等では男性が多いと思う。適材適所という考えや、現場の要求も無視することはできないと思う。なんでも平等しようとするのが、逆に無理な要求をすることにならないよう配慮することも必要だ。(男性/40代)
意識の上で差別はすでにない (1件)		男女差別を思った事がなかったので(今までの生活の中で)このアンケートに困った。子供がいないのですが、このアンケートが差別に感じた。男女差別よりも差別を感じるアンケートに感じた。(女性/50代)

	組織の若返りと意識改革が必要 (1件)	政治、地域の自治会など全てにおいて、長や重役を努める人たちの若返りと意識改革が必要ではないかと思います(女性/50代)
家庭生活について (23件)	子育て支援の充実 (9件)	- 上京などで親戚がいない夫婦に対する子育て支援があると、復職に対する不安を間接的に少しやわらげることができる。(男性/20代) - 育児等の支援が充実すれば男女の差別はほとんど無いのではと考えます。(男性/60代) - 高所得者への子育て支援の制限を改めてほしい。高所得ゆえに長時間労働となることが多いが、子どもの面倒をみるために、妻が仕事を早退したり休んだりしないとならなくなると考えてます。(私が主たる生計者のため、私が休むと所得が減り、生活が苦しくなる)子育て支援の制限がなくなれば、私が休んで妻が働くという選択もとれる。結果、男女共同参画につながると考えている。(男性/20代) - 子育て世帯の支援をお願いしたい。(オムツ・おしりふきの配布等。)(女性/30代) - 子どもがもっと自由に遊べる環境をつくっていただきたいです。(女性/20代) - 男女共同参画は大事なことで、今後も推進していただきたいが、現実問題として、共同参画することにより、「家庭」の比重が減り、育児への乱雑さが目立ってきたように感じる。共同参画は大切だが、その前に、一人の人間としての成長に、市は力を入れてほしい(子育ての充実を)。(女性/60代) - 子育てしている世帯に対し税の免除があっても良いのではないかと思います。所得制限のある支援制度について、所得に関わらずすべての子どもに対して支援するべきだと感じています。(女性/30代) - 能力のある女性はたくさんいるにも関わらず上層部などで活躍できないのは残念なことだと思う。やはり女性は家事を任うものとして長年の固定観念があったり、制度や理解が十分でないためと考える。少子化問題もある中金銭面への負担から子を数人もつことを諦める人も少なくない。そういった面でのサポートをぜひ！私は大和市に生まれ育ち今後も住み続ける所存ですので、よろしく願い申し上げます。70歳を高齢と言わない町より、子育て世代に優しい町でお願いします。(女性/20代) - 私自身、妻が長期入院して子供を育てましたが、当時保育園には入れることができませんでした。(その後離婚)3才～シングルファザーとして子を育てましたが、男女ともにシングルに対しては制度が十分ではないのでしょうか？性的マイノリティとシングルとどちらが重要なのでしょうか？子供を総合的に育てるという視点で考えて欲しい。(男性/50代)
	女性に負担集中、意識改革が必要 (7件)	- 保育園入園が難しい。・妊娠後の女性の負担が大きい(出産準備・保活・職場への対応)(女性/30代) - ほぼ女性が育児、家事、(育休などをとって)を任っている現状がある。保育園だけでなく、女性が子どもを預けられるようサポートすべき。補助金など。ベビーシッターやファミサポに預けるにも、お金がない場合、むずかしい。我が家の場合、子どもに持病があり、通院する頻度が高く、保育園や幼稚園を休む場合が多い。仕事もたくさんはできないけど、子どもを一定時間預ってもらえないと、家事や病院の付きそいなど難しい場合がある。(市立病院の入院面会など。)(女性/30代) - 介護について今だに「女性がやるもの」「女性が行った方が望ましい」ものとされている。確かに介護される側との関係性(男女の性等)で女性がよいとされているのは仕方ないのかもしれないが、正直分担になっていない。男女共に限ったことではないが、多くの人が短時間労働をし、社会全体の利益を上げ家庭や個人活動の充実をはかっていければいいと思う。(女性/40代) - 学校の運動会など行事でのお手伝いしている親や、登校班の送りや旗振り等、とにかく女性ばかりでいつも憤りを感じます。そういう事態をもっと世の男性に知ってほしい。体力も力も女性の方が劣っていて、そこは男性にどうしても追いつけない部分なのに、体力、時間ともに多くを使っているのが女性。(女性/20代) - 子供の学校、幼稚園行事や懇談会など、来るのはほぼ母親なので、男性に頼みにくく、少しムリをしても母親である私が行くことが多いです。このあたりの意識が変わってほしいと切に思います。幼稚園ではありがちな母親のクラスLINEグループも負担です。なぜ母親だけののでしょうか。子育てではやはり母親の負担が大きいと思うし、幼稚園・学校の先生、保護者子育てに関わる人みな意識改革が必要であると感じます。(女性/30代)

		- 自分の子(女)が就職する時には、地域活動、PTA、子育ては女性が主担当だから仕事を続けるのが難しいという状況はなくなっていることを望み、自分もできる努力はしてゆきたいと思う。(女性/40代) - 私も30年前、仕事、家事、育児、PTA役員、自治会役員が重なった時は、体調を崩しました。最近は認知症の実母の介護でデイサービス利用しても家族が協力してくれても、更年期障害で仕事を辞めました。自治会は、お年寄が多い為にすぐに回ってきます。コロナ禍で自治会活動が少なくなったことは、正直なところ、ありがたく思えました。「地域は地域で」の言葉は理解しますが、自治会の活動は、必要最小限にして、女性の負担を楽にしてくれる専門職が増える事を願います。(女性/50代)
	保育施設の充実 (4件)	- 大和市は、保育施設も多いので、子どもを持つ親が、仕事を続けやすい環境にあるのだろうなと感じています(女性/50代) - 保育園入園が難しい。(女性/30代) - ほぼ女性が育児、家事、(育休などをとって)を任っている現状がある。保育園だけでなく、女性が子どもを預けられるようサポートすべき。補助金など。ベビーシッターやファミサポに預けるにも、お金がない場合は難しい。我が家の場合、子どもに持病があり、通院する頻度が高く、保育園や幼稚園を休む場合が多い。仕事もたくさんはできないけど、子どもを一定時間預けてもらえないと、家事や病院の付き添いなど難しい場合がある。(市立病院の入院面会など。)(女性/30代) - 私自身の両親はすでに他界しており、近くに気軽に頼れる人がいない中で子育てをしてきて、気軽に子供を預けられず困ったことも多くあります。たいていは事前予約が必要で急な預かりができないことがほとんど…。実家の親に預けるように、気軽に預けられるところが欲しいと思いました。(女性/30代)
	男性の家事(料理等)の教育 (2件)	- 成年男性の家事(料理等)の教育。(女性/60代) - 私の夫は母(夫の)に家事をすべてやってもらっていたので一人暮らしでできるように努力したり私(妻)が教えました。家事の中でも料理とそうじが苦手そうでしたが、やらせれば何でもできるようになると思いました。夫は仕事が忙しいので育児・家事はほとんどできません。(残業が多い)(休みが週1日)夫の仕事が忙しいと私も育児、家事を夫に頼みづらいので(とても疲れているので)休みがなくて疲れてしまいます。(女性/30代)
	性差を認識し、相互理解、役割分担、補完することが重要 (1件)	男性も女性も仕事、家事、育児が自然に平等に参加できる社会の実現に向けて、他の市町村に先がけた改革を大和市から行ってほしいです。子供が熱を出した等、何かあった時、母親が早退し、迎えに行くのがあたり前では困ります。男女等ではなく、人が適任適所で活躍できる社会であるよう子供達が大きくなった時にかわっているよう実現してほしい。(女性/40代)
就労意識について (12件)	仕事と家事、育児の両立 (5件)	- 小学校の土曜参観日があってもよいと思います。(仕事をしていても参加しやすい)・育児は大変ですが、担う者の特権を感じる部分もあると思います。未就学の間は、働かなくてもすむような経済的支援、あるいは、短時間勤務ができるような、職場や、時間制の保育施設等が増えると良いなと思います。(女性/50代) - すでに子供は大学生ですがずっと仕事を持っていたのもっと子育てに時間をかけたかったと思います。今後の世代の方達のためにも仕事をしながらも充実した子育てができるような社会にしてもらいたいです。(女性/60代) - 私自身、妻が長期入院して子供を育てましたが、当時保育園には入れることができませんでした。(その後離婚)3才〜シングルファザーとして子を育てましたが、男女ともにシングルに対しては制度が十分ではないのでしょうか？性的マイノリティとシングルとどちらが重要なのでしょう？子供を総合的に育てるという視点で考えて欲しい。当社では多くのシングルマザーがいますが、私は私の苦勞をさせたくないと思っています。①本人の覚悟②同僚の理解と支援がまずあってからのことだと思います。(男性/50代) - 夫は仕事が忙しいので育児・家事はほとんどできません。(残業が多い)(休みが週1日)夫の仕事が忙しいと私も育児、家事を夫に頼みづらいので(とても疲れているので)休みがなくて疲れてしまいます。(女性/30代) - 男性は家事は女性へと仕事にかけられる時間も多いのでは・・・というのが今思います。子どもがいるから結婚してるから・・・の女性は優遇されていく傾向ですが、家事とプライベートと仕事、ワークライフバランスを大切にしたい増えていく独身女性でも生きやすい社会を望みます。(女性/40代)

	女性自身の意識改革 (5件)	・ 女性の中に男に頼って生きていこうとする人もいますのでそういう人達の割合が高ければ役職につく人の割合も男が多くなると思います。(男性/60代) ・ 戦前の男性中心社会から男女平等社会になり、女性の参政権も確立したが、まだまだ女性の社会参加への意識も低い。やはり、教育の場において、男女共同参画のすべてにおいての意識をきちんと高める必要があり、個人個人が自然に自覚できると思う。戦前教育された男性中心の人々がようやく、第一線から引退した現在、遅すぎた位の平等教育をしてもらいたい。戦後すぐに生まれた私も、男性有意な発言の先生方が大勢いたし、社会の空気もそうであつたし、ようやく女性が平等なスタートに立てる時代がやってきたと思うが女性自身の意識も低い。(女性/70代) ・ 当社で女性に管理職になってもらえないかと事前に聞いたが断られたことがあった。女性にも、自覚等の必要があるのではないかと、まだ当社には、女性管理職は不在です。(男性/60代) ・ 男性が女性への理解をすることも大事だと思うが、女性も、自立する(自分たちも様々なことができる)ということを実感することも大切だと思います。女性が逆に女性への偏見や固定概念を持っていたりすると思うので女性の意識改革も重要だと思います。(女性/10代) ・ 男性は理解を女性に積極的にこの2つがバランス良く実践されないと男女平等は実現しない。個人的には女性自身が皆、前に出ないと…。頑張ってもらいたい。(男性/50代)
	パート、専業主婦、フリーランス等多様性を認める (2件)	・ 我が家の場合、子どもに持病があり、通院する頻度が高く、保育園や幼稚園を休む場合が多い。仕事もたくさんはできないけど、子どもを一定時間預ってもらえないと家事や病院の付き添いなど難しい場合がある。(市立病院の入院面会など。)(女性/30代) ・ 小学生のいる家庭では、まだまだ子ども一人で留守番をまかせるのは難しく夫婦どちらかは、5時～6時(夕方)までには帰れるようにしています。私も一度仕事(フルタイム)をやめ、現在パートをしています。扶養内で働くとも103万円の壁があり、思うように働けません。時給の最低賃金が上がっても、なぜ103万円の枠は変わらないのでしょうか?パートでももう少し自由に働けるように考えて欲しいです。(女性/40代)
ワーク・ライフ・バランスについて (41件)	労働時間の短縮や給与改善が必要 (6件)	・ 育児は大変ですが、担う者の特権を感じる部分もあると思います。未就学の間は、働かなくても済むような経済的支援、あるいは、短時間勤務ができるような、職場や、時間制の保育施設等が増えると良いと思います。(女性/50代) ・ 労働時間短縮が必要(空いた時間を家事や育児に使う)(男性/40代) ・ 育児も介護も共働きでもシングルマザーでも金銭的にも職場の環境も休みやすいようになればいいと思う。(女性/50代) ・ 男女共同に限ったことではないが、多くの人が短時間労働をし、社会全体の利益を上げ家庭や個人活動の充実をはかっていけばいいと思う。(女性/40代) ・ 性別や年齢、立場に関わらず、仕事が休みやすい社会になると良いと思います。産休、育休、時短に対する支援をするのは大切だと思いますが、休んでいる人の分の仕事をする人が必要になることに対する支援がないことが気になります。新しく人を雇うのも大変ですし、時短の人がフルタイムの人と同じ「1人」として扱われている職場がたくさんあります。残っている人の負担が少なくなるといいと思います。(女性/30代) ・ まず、女性の給料を上げることが重要です。男性と同じような仕事をしていても格差が存在していると思います。また昇格試験などへの受験機会も男性と差別されていると思います。まず給料アップですかね。人間お金の面での生活安定が基盤になると思います。(男性/60代)
	パワハラ防止対策 (5件)	・ 市長や上に立つ人の意識を変えるべきだと思う。(パワハラ等)(女性/40代) ・ 国や市が会社の働きやすい法令や条約を作してほしい。パワハラが多い職場が多く働きにくい会社が多いから結婚に踏み出せないことが自身の経験上多かった。パワハラ防止法などを作ったりもっと会社に従わせる決まりを作してほしい。(男性/30代) ・ 市長のパワハラ疑惑について、適切な情報開示や説明等が第一ではないかと考えます。(女性/20代) ・ 市長のパワハラ対策!(男性/70代) ・ 私はパワハラを受け病気になる、55才で仕事を辞めました。その後、母が脳梗塞にかかり、同居する事になり、一人で看護しております。外出する事も自分の時間を持つ事もできません。(女性/60代)

産休・育休時の 欠員分のサポ ート (5件)	・ 育休・産休時の欠員分の補充サポート、派遣など。(女性/30代) ・ 自分も子育て、介助で制度を使わせていただけたけれど、心から思う事は、残された職場の人達を守る、具体的な制度を作ってほしいです。フレキシブルな人的支援を望みます。制度を使う側も、職場も苦しめない制度を！(女性/50代) ・ 性別や年齢、立場に関わらず、仕事が休みやすい社会になると良いと思います。産休、育休、時短に対する支援をするのは大切だと思いますが、休んでいる人の分の仕事をする人が必要になることに対する支援がないことが気になります。新しく人を雇うのも大変ですし、時短の人がフルタイムの人と同じ「1人」として扱われている職場がたくさんあります。残っている人の負担が少なくなると思います。(女性/30代) ・ 私の会社でも育児休暇を取得できるようになった。しかしながらこうした休暇が取得できるのは、大きな会社で休業中のフォローが出来るような人員、体制が必要であり、こうしたことの可能な会社は1万人の一部だと思う。したがって、休みたくても休めない会社に忖度して休めないというのが現状、現実ではないか。この点をクリアーしていかないと社会全体で浸透していくには問題があり、制度のみでなく、何か強制力を有した(罪則制度等を含む)仕組みが必要でないか。(男性/60代) ・ 育児休業した人の同僚へのケア、給付金。休日。→休まれて長時間・長期間、働く事になる。(男性/40代)
産休後、子育て 後の再就職支援 (4件)	・ 子育てに一段落して社会復帰(パートなど含め)しようとする際の支援や補助する制度、体制に力を入れて頂けると助かります。(男性/40代) ・ 出産・育児等で休職している女性の再就職支援・雇用促進(女性/40代) ・ 出産後に一度退職しても再び同じ役職や賃金で復帰できるような制度があったら嬉しいですね(女性/30代) ・ 育児休暇や復職制度は外圧をかけて押し進めていただきたい。上京などで親戚がいない夫婦に対する子育て支援があると、復職に対する不安を間接的に少しやわらげることができる。(男性/20代)
育休・産休取得 の推進(給与保 障等) (3件)	・ 育休・産休取得時に、会社・個人にメリットがある助成などが整えば取得率が上がる可能性がある。中・小企業など旧体制が続いていそうな環境へ定期カウンセリング、講習会などの整備。(女性/30代) ・ 育児休暇や復職制度は外圧をかけて押し進めていただきたい。育児休業中は時間外労働分の見込み賃金が無いため、休むに踏み込めない場合がある(介護休業も同様)。その間の免税措置や、保証制度を望みたい。(男性/20代) ・ 私の会社でも育児休暇を取得できるようになったが、こうした休暇が取得できるのは、大きな会社で休業中のフォローが出来るような人員、体制が必要であり、こうしたことの可能な会社は1万人の一部だと思う。したがって、休みたくても休めない会社に忖度して休めないというのが現状、現実ではないか。この点をクリアーしていかないと社会全体で浸透していくには問題があり、制度のみでなく、何か強制力を有した(罪則制度等を含む)仕組みが必要でないか。(男性/60代)
保育体制の充実 (保育時間・保 育料) (3件)	・ 小学校の土曜参観日があってもよいと思います。(仕事をしていても参加しやすい)・育児は大変ですが、担う者の特権を感じる部分もあると思います。未就学の間は、働かなくてもすむような経済的支援、あるいは、短時間勤務ができるような、職場や、時間制の保育施設等が増えるといいなと思います。(女性/50代) ・ 子が2人(幼稚園児)いるが、放課後の預り保育料が高く、パートしても意味のない状況になる。働きたいが、保育時間も短く、働き口が見つからない。他県にいた時は保育時間や預り料ともに安く、働きやすかった。大和市も女性の働ける環境をもう少し考えていただけると嬉しいですね。(女性/30代) ・ これから子育てをする世代としては、長時間保育や病児保育等の支援があるとキャリアを捨てずに働くことができるので助かります。(女性/30代)
職場の男女比 率、仕事の量、 質も平等にする (3件)	・ 職場の男女比率を平等にする。(女性/40代) ・ 女性が活躍できる機会が増えることは良いと思うが、無理に女性を取り入れようすると(女性枠を作る等)逆に差別になると思うので、性別に関係なくやる気や実力のある人が活躍できる社会になって欲しい。(女性/30代) ・ 女性が強くなっている印象です。逆に、男性はハラスメントを恐れているおかしな職場のイメージです。性別に関係なく仕事の量、質も平等に与えることが必要不可欠です。仕事が出来ない(やらない。)中で、女性の管理職昇進があれば、組織が崩れます。(男性/40代)
その他働きやす	・ 働く世代には支援をし、認めていく(女性/70代)

	い環境整備 (3件)	・ 個人的な意見ではあるが、社会的問題のほとんどが、時間の余裕が無いが、慣習となってしまうかの2つによって起こっていると思う。ワークライフバランスを推すことはとても良いと思う。時間的占有のみならず、頭の中での優先度に注視するべきであると思う。時間の流れの中で一人一人が気付くしかない。柔軟な働き方を認める社会を作ることが最重要である。(男性/10代) ・ 仕事が好きで、働きたいお母さんには、働きやすくしてあげた方がいいですが、家で自分で子育てしたいお母さんも働かなくては生活ができないような社会は間違いだと思います(女性/50代)
	職場の理解・意識改革が必要 (2件)	・ 企業には、一定の年齢になったら介護に向けてのセミナーを受講しなくてはならない等制度を設けない限り職場間における偏見(休暇制度を知っていても取りづらい)等はなくならないと思う。(女性/40代) ・ 男性と同じような仕事をしていても格差が存在していると思います。また昇格試験などへの受験機会も男性と差別されていると思います。まず給料アップですかね。(男性/60代)
	介護や保育職員の待遇向上が必要 (2件)	・ 少子高齢化に向かう中、保育士・介護士の施設や仕組み(監査の同時制度も)の投資における充実化。・平均給与が低いとされる介護士・保育士への手当等で、そもそもの雇用数を増大させる仕組み。(男性/50代) ・ 介護などはとても大切なこと。助け合える様賃金を高くして興味を持ったり、出来る様になると、男女ともに働きやすくなる。(男性/20代)
	法律、制度の整備 (2件)	・ 国や市が会社の働きやすい法令や条約を作ってほしい。パワハラが多い職場が多く働きにくい会社が多いから結婚に踏み出せないことが自身の経験上多かった。パワハラ防止法などを作ったりもっと会社に従わせる決まりを作ってほしい。(男性/30代) ・ 自分も子育て、介助で制度を使わせていただけたけれど、心から思う事は、残された職場の人達を守る、具体的な制度を作ってほしいです。フレキシブルな人的支援を望みます。制度を使う側も、職場も苦しめない制度を!(女性/50代)
	男女で賃金、待遇に格差がある (2件)	・ まず、女性の給料を上げることが重要です。男性と同じような仕事をしていても格差が存在していると思います。また昇格試験などへの受験機会も男性と差別されていると思います。(男性/60代) ・ 正社員だけど男性の方が賃金も良く待遇も良い会社も沢山あり、女性が生き生きと働き、社会貢献の場を奪っていると思います。古い考えは捨て、1人1人の能力や個性が輝く人生にする為に雇用、賃金UPの改革を早急にして頂きたいと思います。(女性/40代)
	女性に負担集中、意識改革が必要 (1件)	・ 自分の子(女)が就職する時には、地域活動、PTA、子育ては女性が主担当だから仕事を続けるのが難しいという状況はなくなっていることを望み、自分もできる努力はしてゆきたいと思う。(女性/40代)
学校教育について (15件)	幼少期からの教育が重要 (8件)	・ 色々な考え方があると思うので、子どもの頃から、自分と違った考えを知ることは大切だと思います。学校での教育(市で講演会を行うなど)、お祭りなど、参加しやすい場を作ることを行ってほしいと考えます。(女性/30代) ・ 子どもたちには教育の中で広げる(女性/70代) ・ 性教育について。きちんと義務教育のうちに、正しい知識を大人が学生に教えること。「恥ずかしい」ではなく、男女同じ教室でぜひ教えてほしい。自分が中学生・高校生のころはなかったので、今後の若い人たちにはぜひ早い段階で知識を身につけてから社会に出てほしい。(女性/20代) ・ 学校教育を高める(男性/50代) ・ 男尊女卑の流れは子供の頃から教育(学校、家庭)が肝要かと思います。(男性/80代以上) ・ やはり、教育の場において、男女共同参画のすべてにおいての意識をきちんと高める必要があり、個人個人が自然に自覚できると思う。戦前教育された男性中心の人々がようやく、第一線から引退した現在、遅すぎた位の平等教育をしてもらいたい。戦後すぐに生まれた私も、男性有意な発言の先生方が大勢いたし、社会の空気もそうであったし、ようやく女性が平等なスタートに立てる時代がやってきたと思うが女性自身の意識も低い(女性/70代) ・ まず性教育・道徳を教えるべきと考えます。道徳を男女に関係なく必要と考えます。女だけが弱い時代ではないと思う。男も弱い子は弱いし、家でしつけができていない子も多く、親ですらひどいです。まず男とか女とか言う前に、社会的礼儀、犯罪等初歩教育が必須と考えます。(女性/50代)

		日本は性的マイノリティに関する知識と性教育が遅れていると思う。親の世代、自分達の世代は考え方が古い。そんな親が育てている今の子どもも、教育がしきれていない。もっと、オープンな、男女平等、ジェンダーも含め、古い考えを改める教育をしていった方が良いと思う。(女性/40代)
	人としての教育に原点をおく (3件)	- 男女平等もそうだが、まずは、人としての教育に原点をもう1度おいた方が良いと思います。(女性/50代) - まず性教育・道徳を教えるべきと考えます。道徳を男女に関係なく必要と考えます。女だけが弱い時代ではないと思う。男も弱い子は弱いし、家でしつけができてない子も多く、親ですらひどいです。まず男とか女とか言う前に、社会的礼儀、犯罪等初步教育が必須と考えます。(女性/50代) - 生物学的には男と女2つしかないの、子供には必要以上に「男女平等」を押しつけるような事はしないほしい。男の子と女の子は体の作りも内面的にも必ず違いが出ます。思春期に『生まれもった性別』に対して疑問を持つような教育等には絶対反対です。個人を尊重することは大事ですが、それは性別だけの話ではないと思います。議論はまだすべきだと思いますし、実行を検討するさいはきちんと市民の同意を得ていただきたいです。(不明/不明)
	性教育が必要 (3件)	- まず性教育・道徳を教えるべきと考えます。(女性/50代) - 性教育が必要であると思います。ジェンダーについてはもちろん、性行為についての正しい知識等も教える場を準備するべきと考えています。(女性/10代) - 日本は性的マイノリティに関する知識と性教育が遅れていると思う。親の世代、自分達の世代は考え方が古い。そんな親が育てている今の子どもも、教育がしきれていない。もっとオープンな男女平等、ジェンダーも含め、古い考えを改める教育をしていった方が良いと思う。(女性/40代)
	性差を踏まえた教育をすべき (1件)	教育現場での思想教育(男女平等)は良いが、身体的性差や、性的弱者、体力差など、社会の現状も踏まえ、きれい事だけでは済まない点も伝える必要がある。(女性/30代)
社会参画について (7件)	男女ではなく能力で評価される社会に (2件)	- 男女同じに能力を発揮して活躍できる社会をめざす意識は、教育の中で十分に子どもたちの中には定着していると思う。それが、就職の時点で打ち碎かれることは、今も続いているのかもしれないと感じることがある。大学生は皆、ホワイト企業、プラチナ企業と呼ばれる、女性が産、育休を取りやすい会社に入りたがっているものの、まだその数は少ないらしい。(女性/40代) - 男性、女性問わず、能力で判断すべき「女性を・・・」「女性だから・・・」という見かたが差別、地域や社会において各個人が各家庭の条件を考慮し、できるならやるといふ社会を実現しなければ、男性の立場が弱くなる一方だと思う。(男性/20代)
	女性割合の数合わせは共同参画ではない (2件)	- 数合わせをすることには反対。意識改革の結果として女性の社会進出が進めば良いと思う。(男性/60代) - 例えば政治家に一定数は女性を入れるということをルール化するような共同参画の実現は好ましくありません。(不自然で、本当の意味での共同参画でないと感じます。)(男性/30代)
	議員の女性割合を高める (2件)	- まず市議会議員が女性割合を決め、女性も最低でも1/3～1/2の平等な議員数にして、市民が政治に参加しやすくしてほしい。暮らしやすい世の中の基本は政治から始まると思う。できれば市議会、県議会、国会議員に広がってほしいです。(女性/70代) - 女性の市議と男性の市議の割合を半分半分にすること。(男性/40代)
	男女が同等に参画すべき (1件)	男女に偏ることなく女性に参加出来る機会を増やしていくことだと思います。(たぶん男性が多いと思いますので)女性が参加するためには、(子育て、家事等を考えて)参加しやすい条件が必要になると思います男女ともに働いている人も多い時代に、色々と考えて男女ともに参画出来る様関わっていくことが必要と考えます。参加することが増える事が男女の共同参画につながると思います。(女性/70代)
男女の人権について (3件)	男性へのハラスメント、男性の権利対策も必要 (3件)	- 男卑女尊。家内が虚偽申出をしても、私のほうで行政に相談しても相手にしてもらえなかった。行政には不審感しかない。ただ窓口を設け、人を配置すればいいというものでは無い。(男性/40代) - 女の権利ばかりに集中しすぎず、男の権利も大事にしてほしい。(男性/10代)

		男女平等を謳っている割には、女性を優遇することばかりに目が行っているように思える。今の日本では、男性差別のほうが問題なのでそちらについても考えてほしい。(男性/30代)
男女共同参画施策について (30件)	もっと認識度の向上、アピール、広報が必要 (15件)	- 共同参画のことばに「カタカナ言葉」が多く意味不明もあり注釈は必要。全ての世代に平易で分かり易くするのも広報の務め。(男性/60代) - これまで具体的に何をやったのか記載して欲しい。全面的に見直しが必要。男女共同参画課の半分以上の人を入れ替えて下さい。(男性/50代) - 情報をもっと発信する※ただ発信するのではなく、より効果的な方法を考える(男性/40代) - 今までどのような取り組みをしてきたのか、どのような成果を出し、何の課題が残っているのか市民に伝えるべきです。私は小学校、中学校、高校、その後今までずっと同じ課題に取り組んでいるように思います。約10年でここまで進歩が遅いとこの先が不安です。男性、女性、その他どの性で生きても差別を受けることなく、自分らしく生きることができるよう体制をしっかりと整えてほしいです。(その他/20代) - どこからがDVか、もっと周知してほしい(女性/30代) - 男女共同参画については大賛成であり、より必要といえる。民間企業においては当たり前前に実施している事ですが、市・行政機関においても部内の部門間(文書部・市経部・健福部・福祉事務所等)の連携がより重要となっている様に思える。意見交換・交流をもっと市民に解る様に実施し、アンケート等での市民意見も加え行政に反映出来る内容を絞り出す事を望みます。結果として「方向決めの主体は行政」市民は市からのPR内容を理解し協力する事が必要となります。(男性/70代) - アンケートの実施や、計画書の策定では、市民の意識改革は達成できないと考える。プッシュ的に市民に知らせる、理解を得る、新しい気付きを与えるなど、きちんと働きかけないと、意識改革は時間がかかるし進まないと考えます。(男性/40代) - 長期的に補助やサービスのわかりやすさ。たとえばアプリで自分の状況を入力するとこんなサービスがあるとかわかると思う。今はコロナでまわりとのコミュニケーションがとりにくくなっているのも、同じ状況の人とつながりやすく消極的にしか加われない人も多少関わられるような環境があると思う(女性/50代) - 共同参画フェス等の多人数の集まる場(市民大会)とかを更に活気良く実施する企画があれば、男女(高校以上)、子供(小・中学)、外国人(入国管理を通過している人)全てで共有出来る(共有する)事を実施する方が具体的に認知出来るかと思います。(男性/60代) - 広報の強化(女性/70代) - 弱者を救う仕組みや情報は回覧板などでみられるといいですね。調べなくても知ることができる仕組みがあると良いなあと思います。(女性/30代) - 相談できる窓口がまだまだ知られていないのもっとPR活動に力を入れてほしい。(DVや介護、子育てに関してのいろいろある制度等)(男性/40代) - 男女共同参画に関して、それぞれの性(この言い方がすでに差別的ととらえる向きもあるかも知れません)への差別を行ってはならない、ということが少しずつ若い世代には浸透しつつある時代であると感じています。この流れをいっそう強くするため、市(公務員)の方には、男女共同参画に関係する考え、ことばなどを一般に分かりやすく(厳密さより分かりやすさが特に大切であると思います)伝えていただくことを期待いたします。伝え方も含めて、ご検討のほどをお願いするものです。(男性/30代) - 常に話題として扱う。(男性/70代) - 問31の「ことば」について知らないものが沢山あった。市の広報誌などで解説してくれたら良いと思いました。(女性/30代)
	推進 (4件)	- 男性、女性、その他どの性で生きても差別を受けることなく、自分らしく生きることができるよう体制をしっかりと整えてほしいです。よろしくお願いします。(その他/20代) - 社会に活力を与え万人が過ごしやすくなる重要な政策であり十分に力を入れてほしい。(男性/40代) - 男女共同参画は大事なことで、今後も推進していただきたいが、現実問題として、共同参画することにより、「家庭」の比重が減り、育児への乱雑さが目立ってきたように感じる。共同参画は大切だが、その前に、一人の人間としての成長に、市は力を入れてほしい(子育ての充実を)。(女性/60代)

		男女共同参画への積極的な取り組みを通して、満たされた安心感に守られながら希望を抱き、健康都市やまとで豊かな心を大切に歳を重ねていきたい。(女性/40代)
	市が企業や団体とともに取り組む (3件)	- 中・小企業など旧体制が続いていそうな環境へ定期カウンセリング、講習会などの整備。(女性/30代) - 育児等の支援が充実すれば男女の差別はほとんど無いのでは考えます。優秀な人は大きな会社では役職につけるし、役員にもなれます。小さな会社は分かりませんがもし小さな会社が差別的だったらそれを直すのは行政かなと思います(男性/60代) - 大和市が関わる企業や団体とパートナーシップを組み男女平等の社会に向けて取りくんでほしい。(女性/30代)
	若い人の声を聴く機会が必要 (2件)	- 自治会、PTA などの場を除いて若い世代(20代~30代)が男女共同参画について話し合える場を設けてほしい。大学を卒業以来、周囲がどのように考えているか気になる。(女性/20代) - 年齢が少し上の世代の方たちは(上層部に多い?)今の時代に応じて柔軟な思考や視点を持った方が良い。様々な夫婦の在り方やケースがあることを知ってもらふ。若い人たちの意見をどんどんとり入れる。(女性/20代)
	行政が率先して意識改革する (2件)	- 共同参画の音頭取りである市役所の意識改革も必要。役所の管理職や重要なポストに女性を多く登用させることも、眼に見える形で発信させることが大切。(男性/60代) - 男女共同参画の声は充分叫ばれていますが、無関心の人がやっぱり多い感じです。市の上層部も男性ですから行政が率先して改める必要があるでしょう。(男性/80代以上)
	法律の強化、制度に強制力を持たせる (2件)	- 法律を強化しないと会社は守らないし、個人も守らない。法を整備し〇〇して行く事でルールが平等となります。口先だけで平等と言っても、現実には守られていません。法の強化のみです！(男性/60代) - 私の会社でも育児休暇を取得できるようになった。しかしながらこうした休暇が取得できるのは、大きな会社で休業中のフォローが出来るような人員、体制が必要であり、こうしたことの可能な会社は1万人の一部だと思う。したがって、休みたいくても休めない会社に忖度して休めないというのが現状、現実ではないか。この点をクリアーしていかないと社会全体で浸透していくには問題があり、制度のみでなく、何か強制力を有した(罪則制度等を含む)仕組みが必要でないか。(男性/60代)
	過度な意識、対策は必要ない (1件)	オリンピックの森会長辞任の原因になった「女性蔑視」とされる発言へのパッシングは「行きすぎ」との思いがあります。「女性は話が長い」と発言しただけで魔女狩りのように追放されるのでは、男女共同参画に向けた素直な意見交換など不可能です。(男性/60代)
	男女共同参画は性差を強調し、時代に逆行 (1件)	性別や性的指向に関わらず、1人1人が、自分の好きなように生きれる社会が重要であり、男女共同参画といったことさらに性差を強調するところみは、時代に逆行している。(男性/40代)
その他 (88件)	今回調査について(対象・設問が不適切 意味がない) (11件)	- これまで具体的に何をやったのか記載して欲しい・アンケートのピントがずれている。量が多いだけで、意味がない。(男性/50代) - 女性は男性とはという質問の仕方があまり好ましくありません。あなたはどうかで充分です。(その他/20代) - 調査対象は無作為ではなく25歳~55歳とする。(それでないとは推測や過去の経験からの判断とならざるを得ないため)。(男性/60代) - アンケートを作成するにあたって、広く女性からの意見は入っていますか？(質問内容等)(男性/40代) - このアンケート、意味あるのか？！(男性/50代) - 質問の内容がわかりづらい。もっと、理解しやすい内容にしてほしい。☆特に問1の男性が優遇、女性が優遇されているについてなにを基準に決めているのかわからない。(男性/60代) - 問23の質問は、女性人権侵害とは言えないものばかりで、違和感があった。ストーカ行為や暴力(物理的でも精神的でも)は、女性から男性もありうる。性的な問題は、人権侵害とは違う。結局、アンケートを作る時点で意識が男女平等ではないのでは？(女性/40代) - そもそも、この調査票では、男女平等、LGBTQを受け入れなければいけないような前提の感じにとっても違和感がありました。男尊女卑はダメですが、男女は平等ではないと思います。男女も老人も子供も公平なら賛同できますが、男性、女性役割が違うと思います。(女性/50代)

		・ 男女共同参画、男女平等とうたいながら、現代は女性の優遇が多々みられます。本当の意味での男女平等にすべきです。この冊子の質問も、結局は女性優位にしようとしていると感じられます。(男性/40代) ・ 男女差別を思った事がなかったので(今までの生活の中で)このアンケートに困った。子供がいないのですが、このアンケートが差別に感じた。男女差別よりも差別を感じるアンケートに感じた。(女性/50代) ・ 問10、問11の質問をすること自体がどうなのか。固定観念がある人が作っているように感じた。(女性/40代)
今回調査について(設問や用語が難しい) (5件)		・ 高齢者にとってはカタカナ語やローマ字(頭文字での省略語)など増加で理解しにくい。※印等での説明があれば読む気持ちも沸く。(ことばに関する意識ももつのでは…?) 馴染みのない言葉が多すぎて…(女性/60代) ・ 質問が多く、難しい内容もあり、次回は改善してほしい。(男性/50代) ・ 質問が多すぎて頭が混乱しました。1度に回答出来ず前と後の回答に差が出てしまったようです。(女性/70代) ・ 問31の「ことば」について知らないものが沢山あった。市の広報誌などで解説してくれたら良いと思いました。(女性/30代) ・ 難しい単語が多いと思った。(男性/10代)
今回調査について(考える良い機会になった) (5件)		・ アンケートが届くまで「男女共同参画」という存在を知らなかったの、これを機に一読しておこうと思いました。(男性/40代) ・ アンケートを受けたことで、今までなんとなくしか意識していなかったが、以前より意識するようになった。(男性/30代) ・ 今回のアンケートで男女共同参画を初めて知りました。(女性/50代) ・ 知らない事(言葉も)が多くあり考えさせられました子供達が笑ってくらせる街になって行けば良いと思います。(女性/60代) ・ 男女共同参画という言葉を知りました。市民意識調査を通して知る事が出来ました。(女性/40代)
今回調査について(答えるのが大変、手間がかかる、webがよい) (4件)		・ アンケートはwebで回答できるようにしてほしい(女性/40代) ・ アンケートをデジタル化した方が集計等が楽になるのではと思う。調査の重要性は理解しているので、調査そのものを効率化して、より有意義な業務に時間を割いて下さい。(男性/20代) ・ 記入する方も集計される方も大変かと思うので、本アンケートにQRコードをつけ、市HPに入ってアンケートに答えられる仕組みがあれば市役所職員様方の省力化もでき、回答率も上がるのではないかと感じました。(男性/30代) ・ 男女平等とは、とても難しい問題。答えるのもだいぶ考えました。全ての事には、無理があると思う。(女性/50代)
今回調査について(施策に活かしてほしい) (2件)		・ このアンケートに回答したものが今後どのような制度に生かされるのかもっと具体的に知りたいです。(その他/20代) ・ アンケート等での市民意見も加え行政に反映出来る内容を絞り出す事を望みます。(男性/70代)
他の施策について (16件)		・ 子育て世代への取り組みは多くなされていると思う。ただ1人ですごしている人達への何の援助がなく、身体をこわしても生きるために働かなくてはいけないのが現状である。何のために働いて何のために生きているのが分からず、自殺者が増えるのもあたりまえだと思う。(女性/40代) ・ 大和市民病院の受信設備を最新改革。有料ゴミ袋の廃止。シリウスの利用は市民外の有料制。もう箱物の建屋は不要。市民の負担増である。(男性/70代) ・ 防災について、小さい単位(マンションの階段)での訓練、助けが必要な人は誰か…とかそれを手伝う人は…とか、日頃から練習していくことが大事では…。昼、夜の際はどうか…やっている団体の例をまとめる→参考にするとか。(女性/60代) ・ 1人で子育てをしてきて、今介護の問題が出ている人間としては、困っている時に安く、迅速に対応してくれる行政の助けが欲しいと思っています。(女性/50代) ・ 子供の教育、外国語、プログラミング必須だと思う。介護者のケア-老老介護者の支援。(女性/50代) ・ 最近、自転車、バイク等の交通違反者が多くこわくて歩けなくなって来ました。警察署と市でなんとか出来ないでしょうか?(例)一方通行の逆走、一時停止をしない。自転車の乗り捨て、軽車両の取り締まり見た事ありません。(男性/70代)

	・ 自治会の会員は、自由であるが出来ればコミュニケーションの必要性を考えるならば、すべての世帯が自治会員になれるよう自治連で検討してほしい。お互いが助けあうという精神になるならば必要と考えます。(男性/70代) ・ 自治会の役員を永い間続けていますがもっと女性が関心をもってくれるよう市も啓蒙して下さい。特に災害お一人さまになった場合、自治会の助けがあると宜しいのです。歌声サークルの会長やっていますが女性が8割位参加しています。逆に男性の参加が随分少ないのです。何か世の中片寄っています。(男性/80代以上) ・ ひきこもりの方と1人暮らしの高齢者がコミュニケーションスキップ、関わりを持てる機会があればお互いに相手の役に立てるという気持ちになれるのでは、と思っています。(女性/40代) ・ 大和市が見本となる様な街づくりを是非、推進していただきたいです。頑張ってください。女性市長の実現が良いと思います。(男性/60代) ・ 大和市に新しい施設を増やすことは、とても良いことだと思うが、交通機関(自転車、自動車など)の見直しを検討してほしいです。交通事故や、事件など多発していることから、道路を少しでも広くするなどの工夫を検討して頂きたいです。よろしくお願いします。(女性/20代) ・ 30年前、仕事、家事、育児、PTA役員、自治会役員が重なった時は、体調を崩しました。最近、認知症の実母の介護でデイサービス利用しても家族が協力してくれても、更年期障害で仕事を辞めました。自治会は、お年寄が多い為にすぐに回ってきます。義父母も、88歳、86歳でヘルパー利用していますが、主人もエルダー社員と介護の両立は体力的に限界で退職しました。「地域は地域で」の言葉は理解しますが、自治会の活動は必要最小限にして女性の負担を減らしてくれる専門職が増える事を願います。もう1つ、レンタサイクルのように、レンタ車椅子があるとたすかります。(女性/50代) ・ 私はパワハラを受け病気になる、55才で仕事を辞めました。その後、母が脳梗塞にかかり、同居する事になり、一人で看護しております。外出する事も自分の時間を持つ事もできません。(女性/60代) ・ 思いやりマスク条例止める!!コロナワクチン推進止める!!世界的に見たら、マスクしてる方が少数派です。コロナ対策辞めろ!!石油系化学物質配合の日用品の販売を早く辞めろ!!(その他/80代以上) ・ 少子高齢化社会、円安、経済面をしっかりとろ。国、無駄な仕事をさせるな、日本。(男性/20代) ・ コロナワクチンの健康被害が数多く出てきている中でも市民にワクチンを推奨したり、乳幼児に問答無用で接種券を送りつけたり、大和市の対応は非常に残念でした。マスクについても半ば強制指導が行われていると大和市の学校がインターネット上で公表されていました。他の市では柔軟に対応されている所もあります。男女共同参画でどのような構想をえがいているのかわかりませんが、ワクチンの時のように無駄なものに税金をつかうような事はしないで下さい。(不明/不明)
集える場、話せる場、イベント等 (6件)	・ 色々な考え方があると思うので、子どもの頃から、自分と違った考えを知ることが大切だと思います。学校での教育(市で講演会を行うなど)、お祭りなど、参加しやすい場を作る、を行ってほしいと考えます。(女性/30代) ・ コミュニティを作る仕掛けマンション住まいなので、自治会に入っていない。そのため、地域とのつながりを感じる事が少ないです。自治会以外で地域の人と関わる機会を市で企画していただけたらいいと思います。(男性/40代) ・ 今はコロナでまわりとのコミュニケーションがとりにくくなっているの、同じ状況の人とつながりやすく消極的にしか加われない人も多少かわれるような環境があるといいと思う(女性/50代) ・ 共同参画フェス等の多人数の集まる場(市民大会)とかを更に活気良く実施する企画があれば、男女(高校以上)、子供(小・中学)、外国人(入国管理を通過している人)全てで共有出来る(共有する)事を実施する方が具体的に認知出来るかと思います。(男性/60代) ・ 男性、女性がともに参加できる料理講習会の月1回開催。(参加者にて材料費は負担する。)(男性/50代) ・ もう少し女性や男性たちがともに無理せずに話し合ったり、できるような環境を創っていただければいいと思います。(男性/10代)

経済的支援が必要 (5件)	・ 育児は大変ですが、担う者の特権を感じる部分もあると思います。未就学の間は、働かなくてもすむような経済的支援があると良いと思います。(女性/50代) ・ 女性の労働時間を増やすより出生率を上げるべき。金銭的な不安を取り除くなど(男性/40代) ・ 家で自分で子育てしたいお母さんも働かなくては生活ができないような社会は間違いだと思います。(女性/50代) ・ 出産費用(補助)、産婦人科、小児科の確保、大学費用(補助)(学生ローン返済も大変です!!)リタイアしても、なんとか生活出来ます様お願いします。大病したら働けず、もう終わりです!!(女性/60代) ・ 少子化問題もある中金銭面への負担から子を数人もつことを諦める人も少ない。そういった面でのサポートをぜひ!70歳を高齢と言わない町より、子育て世代に優しい町でお願いしまーす。(女性/20代)
少子化対策 (5件)	・ 大和市に限らず、将来に渡って、地域社会を維持していくためには、子供の数の増加(出生率の増加)が、必要です。そのための施策を重視してほしい。(男性/40代) ・ 少子化を喰い止め、若い世代、血が増えれば自ずと世の中の考えなども変わり、そもそもこうしたアンケートの必要性もなくなってゆくと思います。この国の根底にある不安要素だと思います。(男性/40代) ・ 女性の労働時間を増やすより出生率を上げるべき。(男性/40代) ・ 少子化問題もある中金銭面への負担から子を数人もつことを諦める人も少ない。そういった面でのサポートをぜひ!(女性/20代) ・ 少子高齢化社会、円安、経済面をしっかりとしろ。国、無駄な仕事をさせるな、日本。(男性/20代)
市長のパワハラ疑惑 (3件)	・ 大木市長のパワハラ問題を先にアンケートを取っても市長から問題有り!市長に見せて下さい。(男性/60代) ・ 市長のパワハラ疑惑について、適切な情報開示や説明等が第一ではないかと考えます。(女性/20代) ・ 市長のパワハラ対策!(男性/70代)
相談窓口の充実 (3件)	・ 専門課の相談 TEL 番号(直通)の常態化!(男性/60代) ・ 相談できる窓口がまだまだ知られていないのもっと PR 活動に力を入れてほしい。(DV や介護、子育てに関してのいろいろある制度等)(男性/40代) ・ 大部前に友人が女性相談に行った時、とても否定的で冷たく、寄りそってくれずに、話せば話すほど落ち込んで、行かなければよかったと言っていました。精神的な病気をもちつらかった時なので自分が甘いのか。自分を責め相談に行った一週間後、どうしてよいかわからなくなり自殺未遂をしました。もう少し相手の気持を理解して寄りそってほしいと思いました。(女性/60代)
他の差別、偏見等について (1件)	・ 生活保護や障害(精神、身体、知的や高齢者に対する受け入れ体制)偏見なく安心して暮らせる住宅が欲しい(受け入れ体制)(女性/50代)
その他 (19件)	・ 家庭や地域で責任を持つ事も大切ですが、「わたらしさ」は人それぞれだと思います。何をどの様に必要かはそれぞれ違うと思いますのでその地道な対応が救われる方につながるのではと私は、思います。(女性/60代) ・ これまで具体的に何をやったのか記載して欲しい・アンケートのピントがずれている。量が多いだけで、意味がない。全面的に見直しが必要。男女共同参画課の半分以上の人を入れ替えて下さい。(男性/50代) ・ シリウスでの様々な取り組み、とてもよいと思っています。・5 年位前に、大和市に戻った際(20 年位他県で生活)特に感じたことです。老若男女が集える場所、足を運べる空間があることは、希望をもてることです。大和市は、保育施設も多いので、子どもを持つ親が、仕事を続けやすい環境にあるのだらうなと感じています。介護を必要とする高齢人口が増える今後、どう協力しあって生きていけるか…大和市で孤独死という事例がないような工夫ができたならと期待しています。(女性/50代) ・ 税金の使用しているグラフを情報誌にのせてほしい。・朝 5 時すぎに飛行機が飛んでるのは迷惑なので見直ししてほしいです。(男性/30代) ・ 同性婚を認める・夫婦別姓を認める。・職場の女性(男性)設備の拡充に補助金を出す(男性/20代) ・ 保育園入園が難しい。・妊娠後の女性の負担が大きい(出産準備・保活・職場への対応)・出産後に一度退職しても再び同じ役職や賃金で復帰できるような制度

		があったら嬉しいです・申請を中央林間で出来るようにして欲しい。車がないので、つまに行かないと行けないのは大変。(女性/30代) ・男女共同参画を進めることにより、国力、国益の増進ができればよいと考える。・平等を目指すかゆえ、税金やリソースが充当され過ぎてしまい外国と比較して、日本の力が落ちることは避けるべき。・要するに、「日本の国益」を目的として、男女共同参画を進めなければ、何のためにやっているかわからなくなる。(男性/40代) ・DEI 社会が、実現されることを、望んでいます(多様性、公平性、インクルージョン)。(男性/50代) ・言うは易く行うは難し。当方少々の認知症有、悪しからず。(男性/80代以上) ・がんばれ！(女性/10代) ・個人の自由(女性/70代) ・子供の教育、外国語、プログラミング必須だと思う。介護者のケア-老老介護者の支援。(女性/50代) ・これから興味を深めていきたいと思う。(女性/60代) ・主人とは、今年病気で死別していますが、以前、地域包括支援センターの方々や、市役所の方々、介護施設の方々、病院等の方々に助けていただいた事を本当にありがたく感謝しています。皆様のおかげで今日の私がいます。(女性/70代) ・少子の為子育てを支援することはわかるが、子供を持たない家庭にもいろいろな事情があるし、女性も働けというが、それによって、離婚やヤングケアラーで苦しい思いをするのも子供達。一番重要なのは？昔のように子供会があり、ご近所の皆様が、自分の子同様に他の子供もあたたかく見守る風習も悪くないのでは…。(女性/50代) ・男女共同参画も大事だが、今は未婚の男女が多数います。家族を持つ意味も考えての男女共同では？(男性/40代) ・電車でのちかん防止を徹底してほしい(女性/40代) ・同性愛、ジェンダー、夫婦別姓などについては個人の意思を尊重し、大切にしないといけないと思っているが正直、心の底からとまではいってない。差別や偏見はしたくないが子供への影響を考えると複雑だ。(女性/70代) ・共働きで子どもを幼いうちから保育園で育てる支援だけではなく、親が自分である程度大きくなるまで安心して育てられる社会になってほしいのが本音です。共働きで子育てする、両親が基本育てる、母親が育てる(昼間)、父親が育てる…など各家庭の考えのもと、たくさんの子育ての選択ができる社会になってほしいと願っています。介護もそうです。在宅介護、施設へあずける、たまにショートステイを利用する…各家庭が無理なく自由に選択できる世の中になってほしいです。具体的にどうすれば良いのかは分からないのですが、そう願っています。(女性/40代)
	特にない (3件)	・2022.11.10 記入致しました。特にございません。(男性/70代) ・送付が遅くなりもうしわけありません。(男性/30代) ・高令だから余り書くことはありません。(男性/80代以上)

令和4年度
大和市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

令和5年3月

大和市役所
文化スポーツ部 国際・男女共同参画課
〒242-8601 大和市下鶴間一丁目1番1号
T E L: (046)260-5164
F A X: (046)263-2080